

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ

下 卷

平成24年3月

茨 城 県
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第360集

しまなくまやま
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ

下 卷

平成24年3月

茨 城 県
財団法人茨城県教育財団

目 次

- 下 卷 -

4 中世・近世の遺構と遺物	263
(1) 墓穴遺構	263
(2) 掘立柱建物跡	264
(3) 井戸跡	280
(4) 地下式坑	295
(5) 火葬土坑	300
(6) 墓坑	302
(7) 土坑	305
(8) 道路跡	319
(9) 溝跡	321
(10) 杭列跡	360
5 その他の遺構と遺物	370
(1) 墓穴住居跡	370
(2) 掘立柱建物跡	372
(3) 土坑	380
(4) 溝跡	394
(5) ピット群	398
6 遺構外出土遺物	420
第5節 まとめ	429
付 章 1 島名熊の山遺跡第160号井戸跡出土木製品の樹種同定	441
付 章 2 島名熊の山遺跡第3008号住居跡出土炭化材の樹種同定	443
付 章 3 島名熊の山遺跡出土の動物遺存体について	445
写真図版	PL 1 ~ PL86
抄録	
付 図 1 島名熊の山遺跡12・15区遺構全体図	
付 図 2 島名熊の山遺跡15区その他の土坑全体図	
付 図 3 島名熊の山遺跡遺構全体図	

第4節 15区の遺構と遺物

4 中世・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴遺構1基、掘立柱建物跡13棟、井戸跡31基、地下式坑5基、火葬土坑2基、墓坑7基、土坑31基、道路跡2条、溝跡24条、杭列跡22列を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 堅穴遺構

第6号堅穴遺構（第234・235図）

位置 調査区南西部のL3a4区、標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第511号掘立柱建物跡、第405号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.30m、短軸3.32mの長方形で、長軸方向はN-13°-Eである。壁高は4~14cmで、外傾して立ち上がっている。

底面 凹凸があり、硬化面は確認できなかった。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

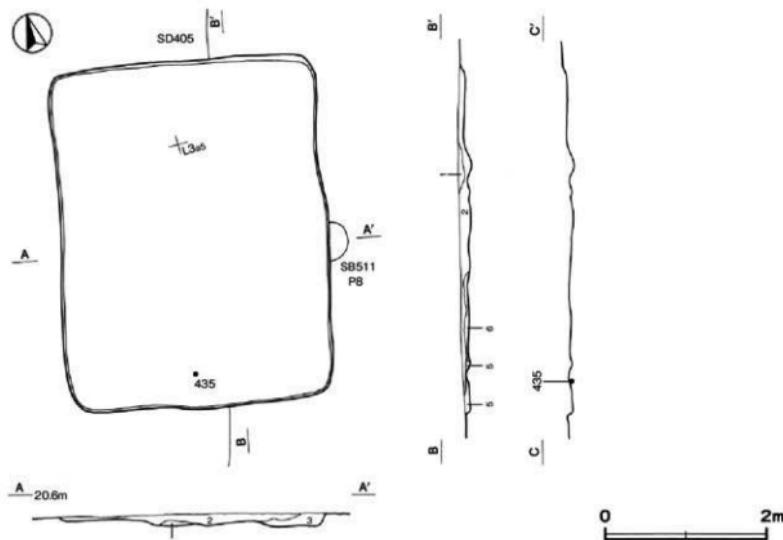
4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

5 黒褐色 ロームブロック微量

3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

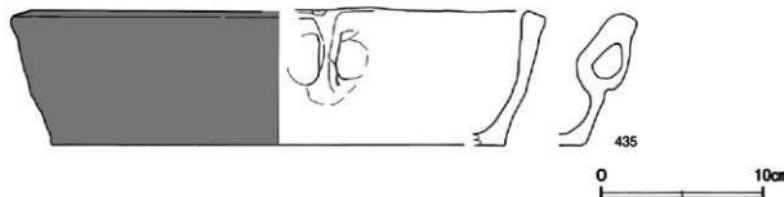
6 暗褐色 ロームブロック中量



第234図 第6号堅穴遺構実測図

遺物出土状況 土師器片3点（小皿1、甕2）、須恵器片1点（甕）、土師質土器片24点（小皿2、内耳鍋20、擂鉢2）、陶器片1点（碗）、磁器片3点（碗2、瓶1）が出土している。435は南部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から17世紀代と考えられる。性格については不明である。



第235図 第6号竪穴遺構出土遺物実測図

第6号竪穴遺構出土遺物観察表（第235図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
435	土師質土器	内耳鍋	[30.5]	83	[28.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子・細繊	明赤褐色	普通	口縁部外・内面糊ナデ 体部外・内面糊ナデ 底部ハラ崩り	底面	10% 外面保有着

(2) 挖立柱建物跡

第510号掘立柱建物跡（第236・237図）

位置 調査区南西部のL3c5～L3d6区、標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第404号溝跡を掘り込んでいる。第513号掘立柱建物跡、第5637・5661・5666・5667号土坑、第60・61号杭列跡、第52・53号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 衍行3間、梁行2間の側柱建物跡で、衍行方向がN-11°-Eの南北棟である。規模は、衍行5.4m、梁行3.9mで、面積は21.06m²である。柱間寸法は、衍行が1.8m、梁行が西平から1.8m・2.2mである。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 9か所。平面形は円形または梢円形で、長径22～63cm、短径19～41cmである。深さは18～55cmである。

柱のあたりが、P1・P4・P8の底面で確認できる。

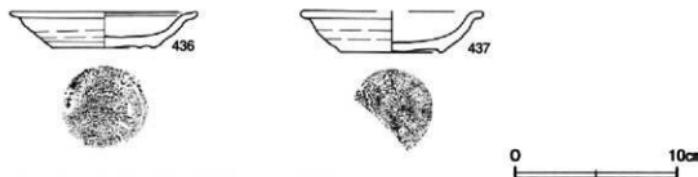
土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ローム粒子微量
2 黒褐色 炭化粒子微量

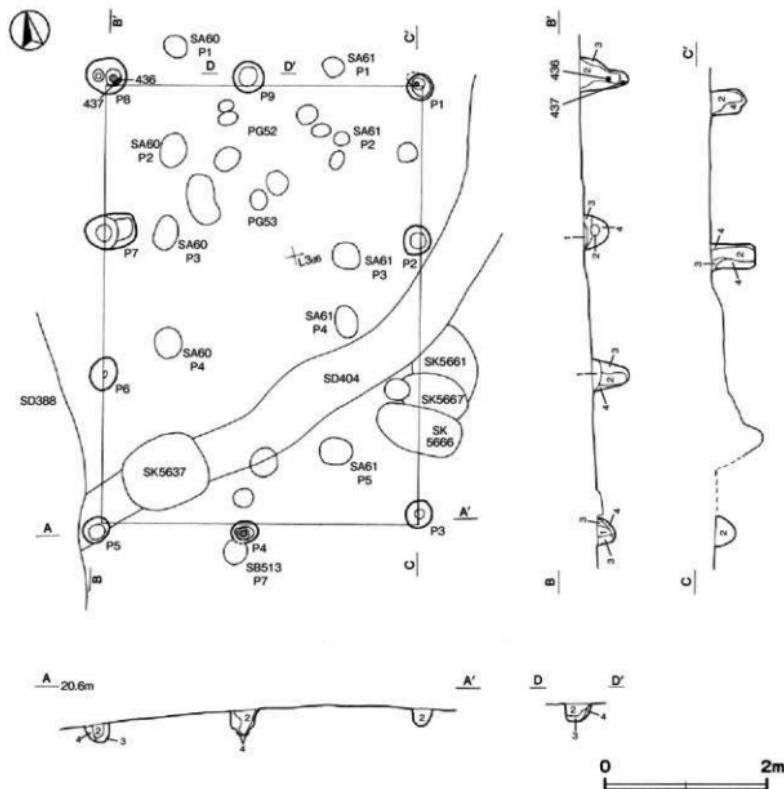
3 黒褐色 ローム粒子少量
4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 陶器片2点（皿）が出土している。437はP8の底面から、436はP8の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から17世紀前半と考えられる。



第236図 第510号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第237図 第510号掘立柱建物跡実測図

第510号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
436	陶器	瓶	11.5	22	6.4	精良	灰釉	淡黄	良好 ロクロ成形 底部外・内面トチソ痕	P 8中層	70% 窓戸・美濃系
437	陶器	瓶	[11.2]	25	6.2	精良	灰釉	灰白	良好 ロクロ成形	P 8底面	40% 窓戸・美濃系

第511号掘立柱建物跡（第238図）

位置 調査区南西部のL 3a5～L 3b6区。標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号竪穴造構、第5630号土坑に掘り込まれている。第512号掘立柱建物跡、第404号溝跡、第52号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 衍行は西平で3間、東平で2間、梁行2間の側柱建物跡で、衍行方向がN-26°-Wの南北棟である。規模は、衍行6.3m、梁行4.2mで、面積は26.46m²である。柱間寸法は、衍行が1.8～3.6m、梁行が1.5

~ 24 m でばらつきがある。P 2 ~ P 4 を除き柱筋はほぼ描っている。

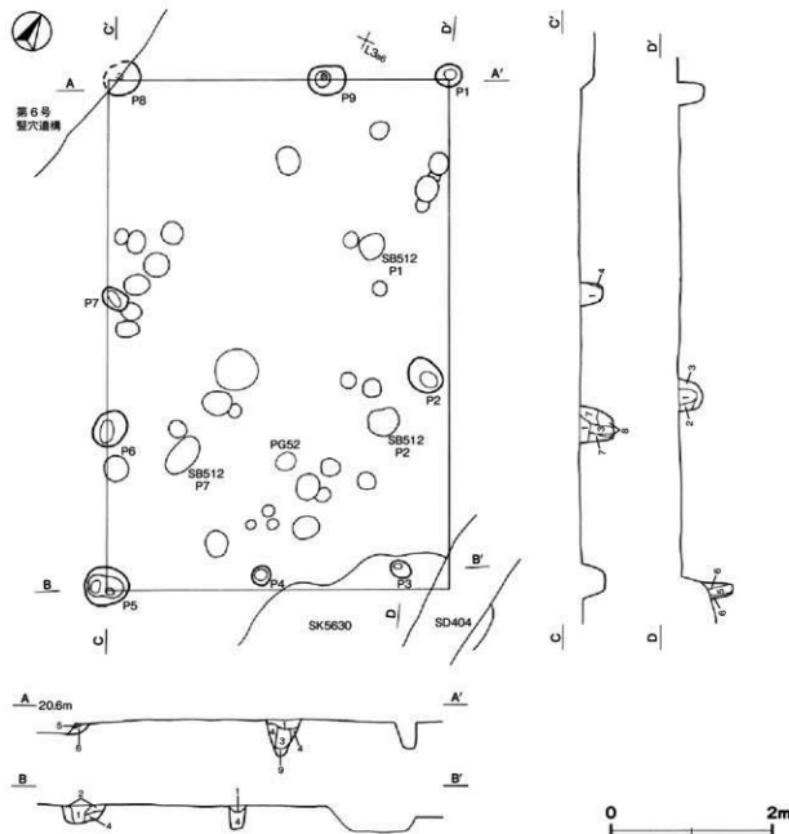
柱穴 9か所。平面形は円形または梢円形で、長径 25 ~ 54cm、短径 22 ~ 44cm である。深さは 14 ~ 46cm で、掘方の断面形は U 字状である。柱のあたりが、P 9 の底面で確認できる。

土層解説 (各柱穴共通)

1 暗褐色	ロームブロック少量	6 棕褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量	7 にぶい褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量	8 黒褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量	9 黑褐色	ロームブロック小量
5 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片 1 点 (甕) が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から 17 世紀以前と考えられる。



第238図 第511号掘立柱建物跡実測図

第 513 号掘立柱建物跡（第 239 図）

位置 調査区南西部の L 3 d5 ~ L 3 f6 区、標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

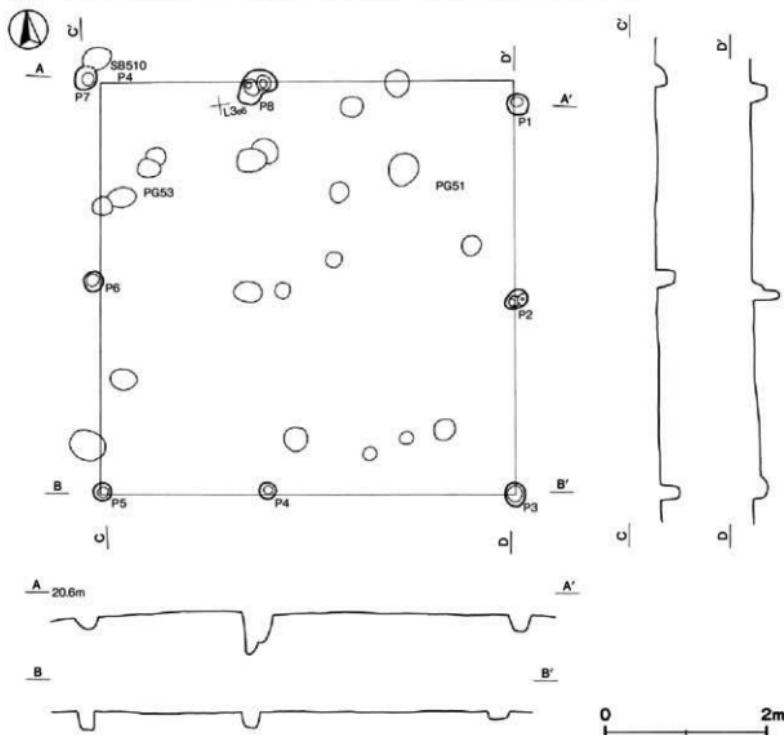
重複関係 第 510 号掘立柱建物跡、第 51・53 号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 10° - E の東西棟である。規模は、桁行・梁行ともに 5.1 m で、面積は 26.01m² である。柱間寸法は、桁行が西妻から 1.8 m・3.3 m、梁行が北平から 2.4 m・2.7 m でばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8 か所。平面形は円形または不整梢円形で、長径 22 ~ 30 cm、短径 21 ~ 27 cm である。深さは 8 ~ 52 cm である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（内耳鍋）が出土しているが、細片のため図示できない。

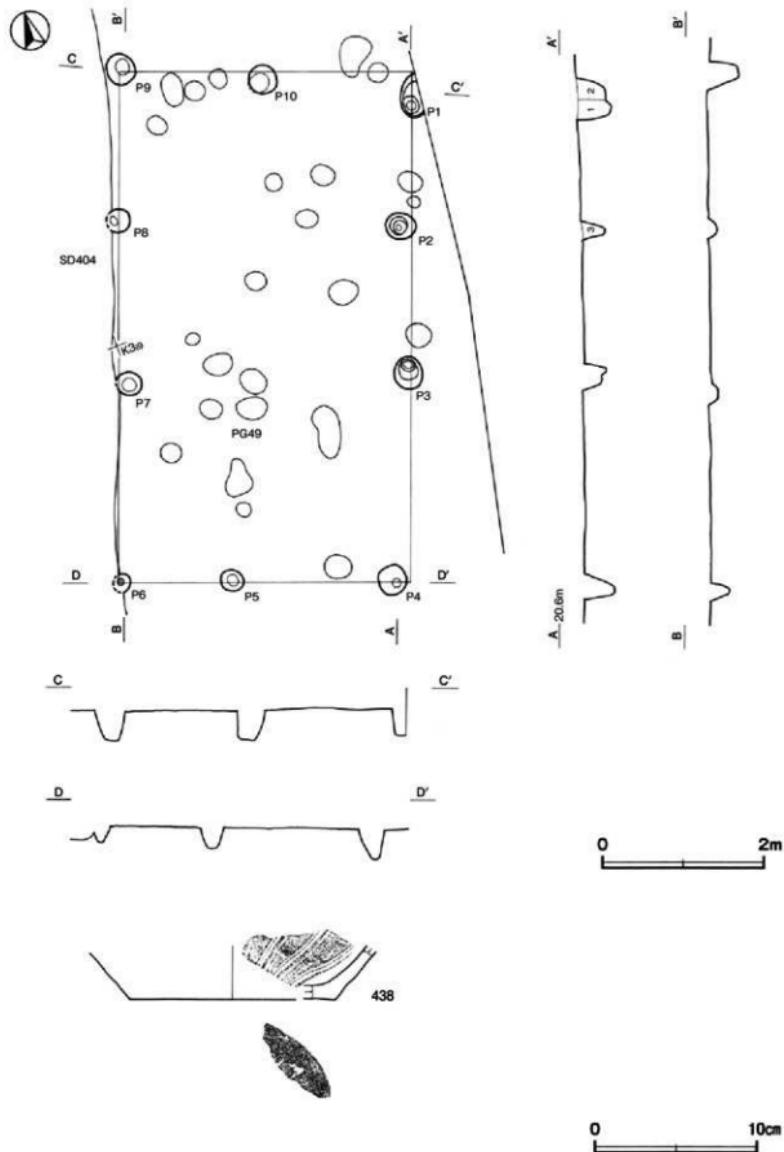
所見 時期は、重複関係から 16 世紀代から 17 世紀前半には機能を終えたと考えられる。



第 239 図 第 513 号掘立柱建物跡実測図

第 516 号掘立柱建物跡（第 240 図）

位置 調査区南西部の K 3 h9 ~ K 3 i9 区、標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第240図 第516号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第404号溝跡、第49号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-23°-Eの南北棟である。規模は、桁行6.3m、梁行3.6mで、面積は22.68m²である。柱間寸法は、桁行が1.5~2.6m、梁行は北妻が1.8mで、南妻が西平から1.4m・2.1mである。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形または梢円形で、長径22~53cm、短径21~35cmである。深さは11~37cmである。柱のあたりが、P6の底面で確認できる。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
2 細褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量

3 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片1点（擂鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から中世後半と考えられる。

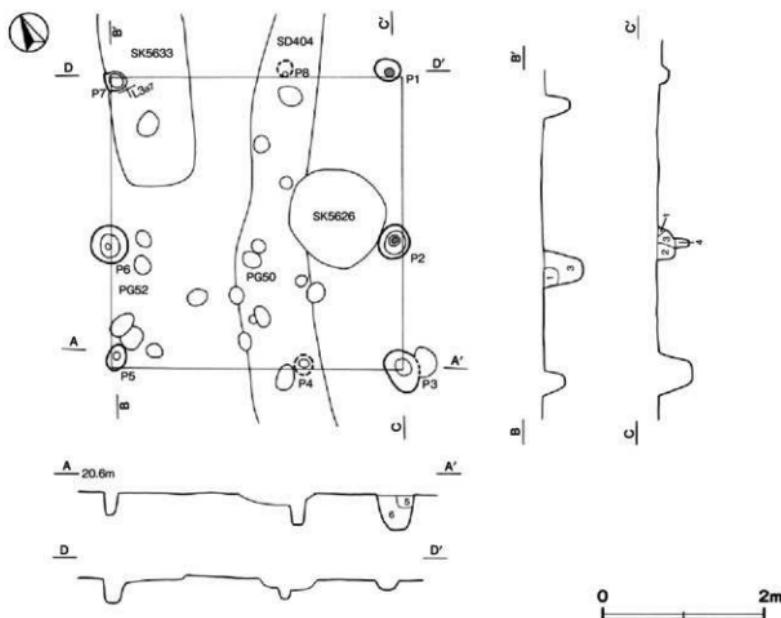
第516号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底様	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
438	土師質土器	擂鉢	-	(33)	[128]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外周ナメ 内面4条1単位の撻り目 底部へ？削り	覆土中	5%

第517号掘立柱建物跡（第241図）

位置 調査区南西部のK3j6~L3b7区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第5633号土坑に掘り込まれている。第5626号土坑、第404号溝跡、第50・52号ピット群と重複



第241図 第517号掘立柱建物跡実測図

しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-61°-Wの東西棟である。規模は、桁行・梁行ともに36mで、面積は1296m²である。柱間寸法は、桁行が西妻から21m・13m、梁行が北平から21m・13mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または梢円形で、長径24~55cm、短径21~40cmである。深さは13~52cmである。柱のあたりが、P1・P2の底面で確認できる。

土層解説（各柱穴共通）

1 黑褐 色 ローム粒子少量	4 黒褐 色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ロームブロック少量	5 褐色 ロームブロック少量
3 黒褐色 ロームブロック中量	6 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片1点（内耳鍋）が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係と柱穴の規模や形状から、中世後半と考えられる。

第518号掘立柱建物跡（第242図）

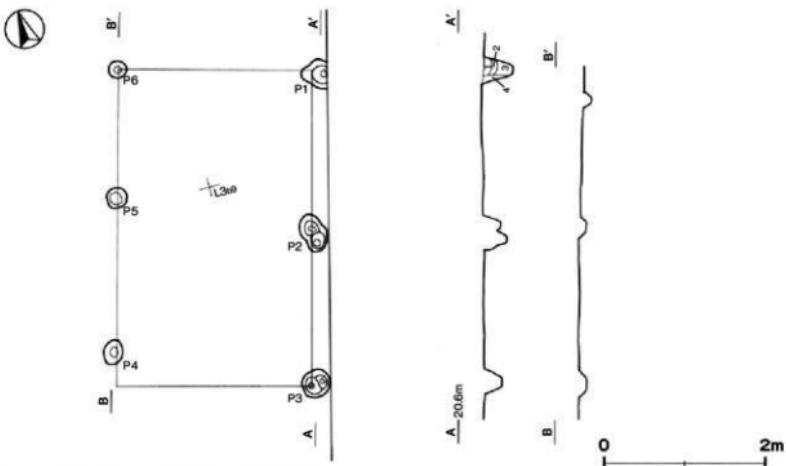
位置 調査区南西部のL3a8~L3b9区。標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-18°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.8m、梁行2.5mで、面積は9.50m²である。柱間寸法は、桁行の西平が北妻から1.6m・1.9mで、東平が1.9mである。梁行は2.5mである。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。平面形は円形または不整梢円形で、長径21~46cm、短径18~31cmである。深さは9~37cmである。柱のあたりが、P3の底面で確認できる。

土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色 ロームブロック少量	3 暗褐色 粘土ブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量	4 褐色 ロームブロック少量



第242図 第518号掘立柱建物跡実測図

所見 時期は、第510号掘立柱建物跡と桁行方向が類似していることから、中世後半から近世にかけて機能していたと考えられる。

第527号掘立柱建物跡（第243図）

位置 調査区南西部のJ 4f0～J 5g1区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第281号溝に掘り込まれている。第48号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の単柱建物跡で、桁行方向がN-6°-Eの南北棟である。規模は、桁行・梁行ともに3.6mで、面積は12.96m²である。柱間寸法は、1.8mで等間に配置されており、柱筋は描っている。

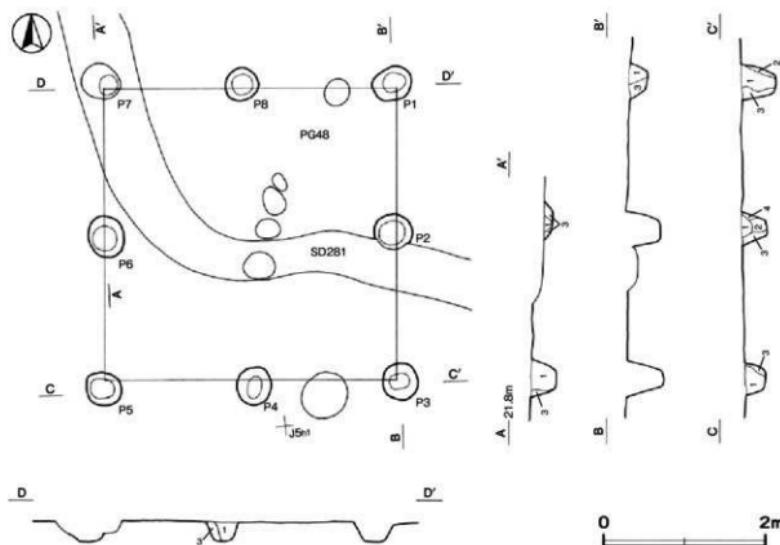
柱穴 8か所。平面形は円形または梢円形で、長径40～50cm、短径38～44cmである。深さは14～46cmである。

土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
2 略褐色 ロームブロック少量

- 3 單褐色 ロームブロック中量
4 褐色 ローム粒子中量

所見 時期は、第510号掘立柱建物跡と桁行方向が類似していることから、中世後半から近世にかけて機能していたと考えられる。



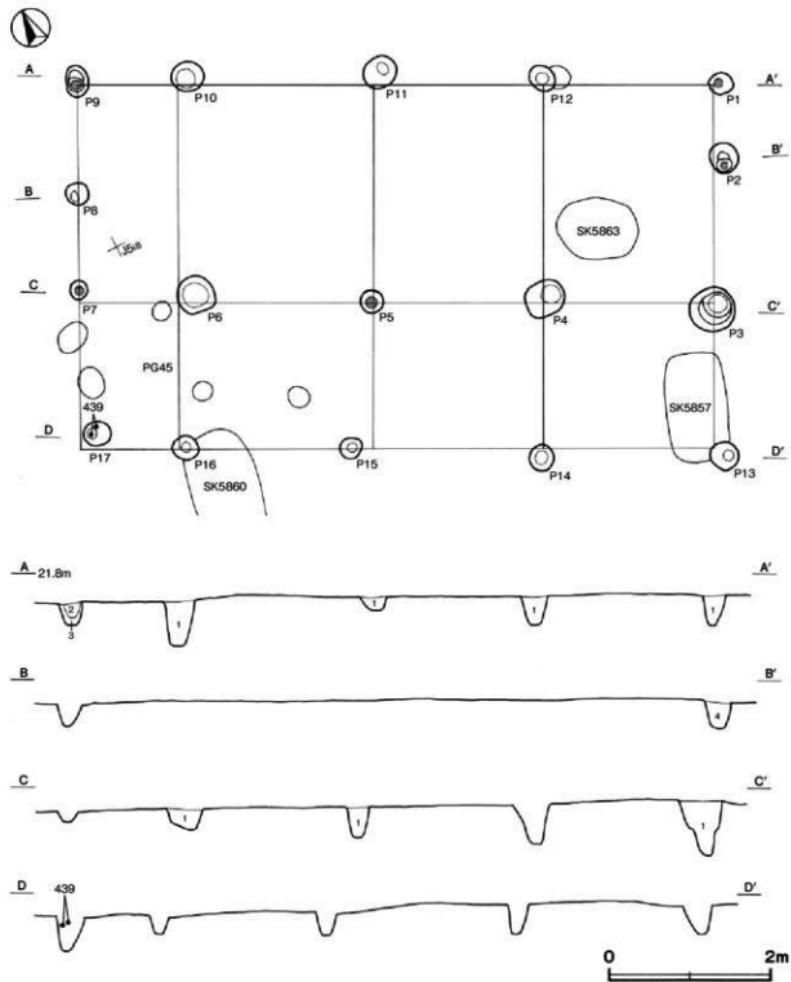
第243図 第527号掘立柱建物跡実測図

第531号掘立柱建物跡（第244・245図）

位置 調査区南西部のJ 5h7～J 5j9区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第45号ピット群に掘り込まれている。第5857・5860・5863号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 柱行4間、梁行2間の身舎に、南面に庇が付く側柱建物跡で、柱行方向がN-60°-Wの東西棟である。規模は、身舎が柱行7.8 m、梁行2.7 mで、面積は21.06m²である。庇の出は1.8 mで、庇を含めた柱行は7.8 m、梁行は4.5 mで、面積は35.10m²である。身舎の柱間寸法は、柱行が1.2~2.4 m、梁行が0.9~1.8 mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。庇の柱間寸法は、1.1~2.3 mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。



第244図 第531号掘立柱建物跡実測図

柱穴 17か所。P 1～P 12は身舎の柱穴である。平面形は円形または梢円形で、長径23～55cm、短径20～53cmである。深さは13～68cmである。柱のあたりが、P 1・P 2・P 5・P 7・P 9の底面で確認できる。P 13～P 17は庭の柱穴である。平面形は円形または梢円形で、長径27～34cm、短径22～32cmである。深さは13～68cmである。

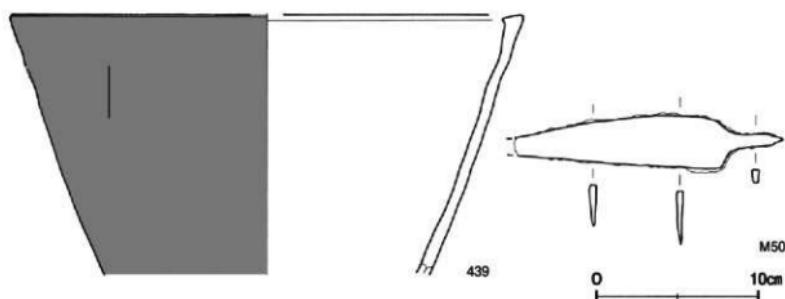
土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色	ローム粒子少量
2 にい青褐色	ロームブロック中量

3 暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片5点（壺1、甕4）、土師質土器片1点（内耳鍋）、鉄製品1点（刀子）が出土している。439はP 17の覆土上層から出土した破片が接合したものである。M 50はP 6の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀代と考えられる。



第245図 第531号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第531号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第245図）

番号	種別	器種	口径	器高	底様	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
439 土師質土器	片	壺	(30.6)	(16.1)	一	块石・石灰・泥炭・細繩	棕	普通	口縁部外・内面横ナギ 体部外・内面ナギ	P 17 上層	20% 外周縁付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	等微	出土位置	備考
M 50 刀子	刀子	(166)	34	0.1～ 0.4	(45.5)	鉄	切先部欠損 断面三角形	P 6 覆土中	PL79

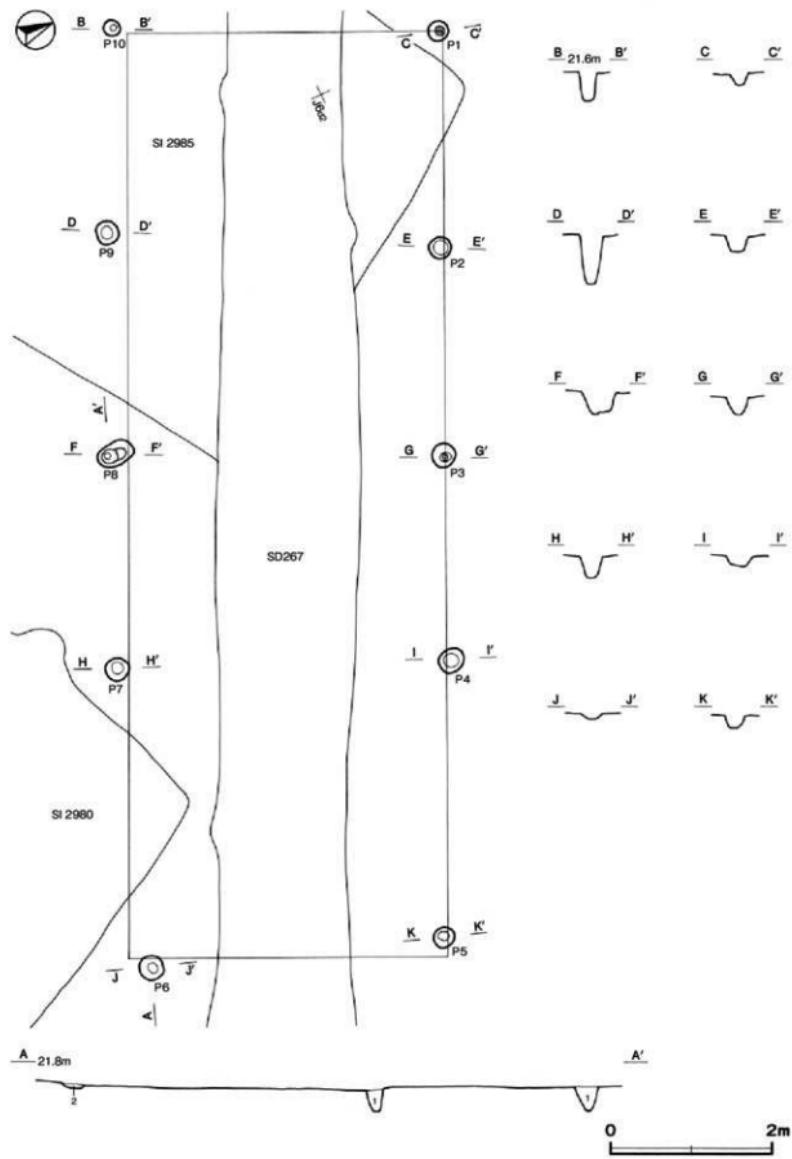
第533号掘立柱建物跡（第246図）

位置 調査区南部のJ 6e1～J 6e4区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2985号住居跡を掘り込んでいる。第267号溝跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。第2980号住居跡は平面上で重複関係にあるが、古墳時代後期に比定されており、本跡が新しい。

規模と構造 衍行4間、梁行1間の側柱建物跡で、衍行方向がN-67°-Wの東西棟である。規模は、衍行11.4m、梁行3.9mで、面積は44.46m²である。柱間寸法は、衍行が2.4～3.6m、梁行が3.9mで等間に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形または梢円形で、長径18～42cm、短径15～27cmである。深さは6～56cmである。柱のあたりが、P 1・P 3の底面で確認できる。



第 246 図 第 533 号掘立柱建物跡実測図

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ロームブロック少量

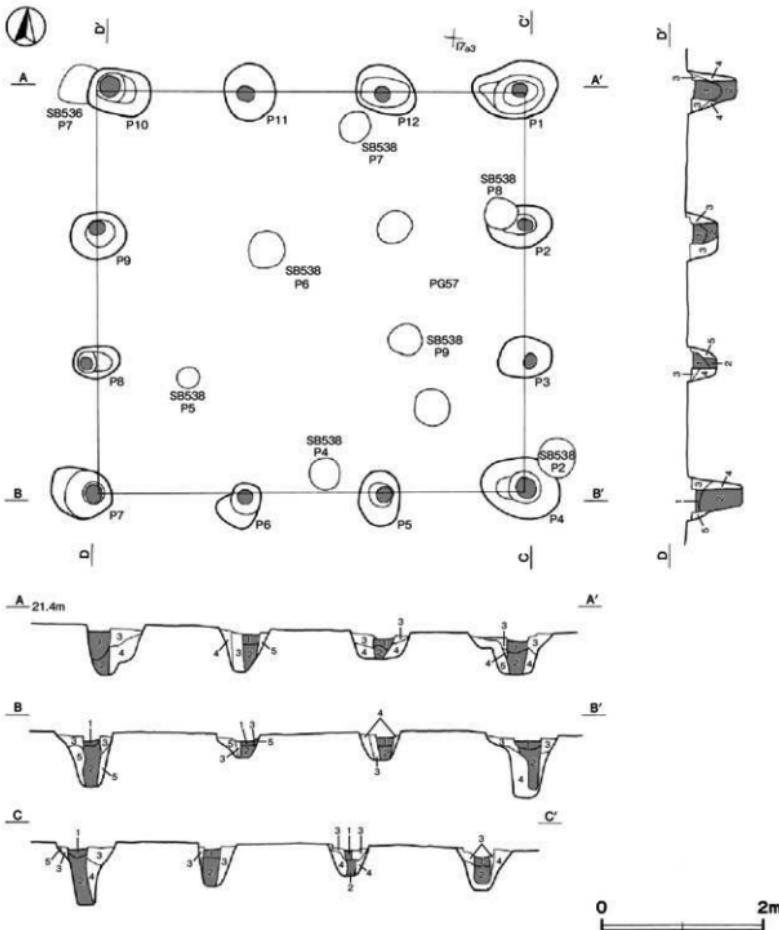
2 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土器片3点（坏、高台付坏、甕）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、第531号掘立柱建物跡と平行方向が類似していることから、15世紀代と考えられる。

第535号掘立柱建物跡（第247図）

位置 調査区北部のI 7a1～I 7b3区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。



第247図 第535号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第536号掘立柱建物跡を掘り込み、第538号掘立柱建物に掘り込まれている。また、第57号ピット群と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向がN-84°-Eの東西棟である。規模は、桁行5.3m、梁行5.0mで、面積は26.50m²である。柱間寸法は、桁行が1.80m、梁行が1.65mを基調とし、均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 12か所。平面形は円形または不整梢円形で、長径56~103cm、短径38~74cmである。深さは27~76cmである。土層は、第1・2層が柱痕跡で、柱の痕跡が残っている。第3~5層が埋土である。柱のあたりが、各柱穴の底面で確認できる。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量	4 楊 暗 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量	5 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量	

遺物出土状況 土師器片46点（坏1、甕類45）、須恵器片4点（坏）がP2~P12から出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器が細片のため詳細は不明であるが、柱穴の規模や形状から中世以降と考えられる。

第536号掘立柱建物跡（第248図）

位置 調査区北部のH6i0~I7a1区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2368・3028号住居跡を掘り込んでおり、第535・537号掘立柱建物に掘り込まれている。また、第56号ピット群とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行6間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-6°-Eの南北棟である。規模は、桁行8.9m、梁行4.4mで、面積は39.16m²である。柱間寸法は、桁行が0.7~1.7m、梁行が2.1~2.3mで、間尺は異なる。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 16か所。平面形は円形または梢円形で、長径31~106cm、短径21~64cmである。深さは18~61cmである。第1~3層が柱痕跡で、第4~5層が埋土であり、突き固められている。柱のあたりが、P1・P4・P5・P9~P13・P15の底面で確認できる。

土層解説（各柱穴共通）

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量	6 暗 褐 色 ロームブロック少量
2 楊 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量	7 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量、炭化物微量	8 暗 褐 色 ロームブロック微量
4 黒 褐 色 ローム粒子中量、粘土粒子微量	9 暗 褐 色 ロームブロック少量
5 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	10 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

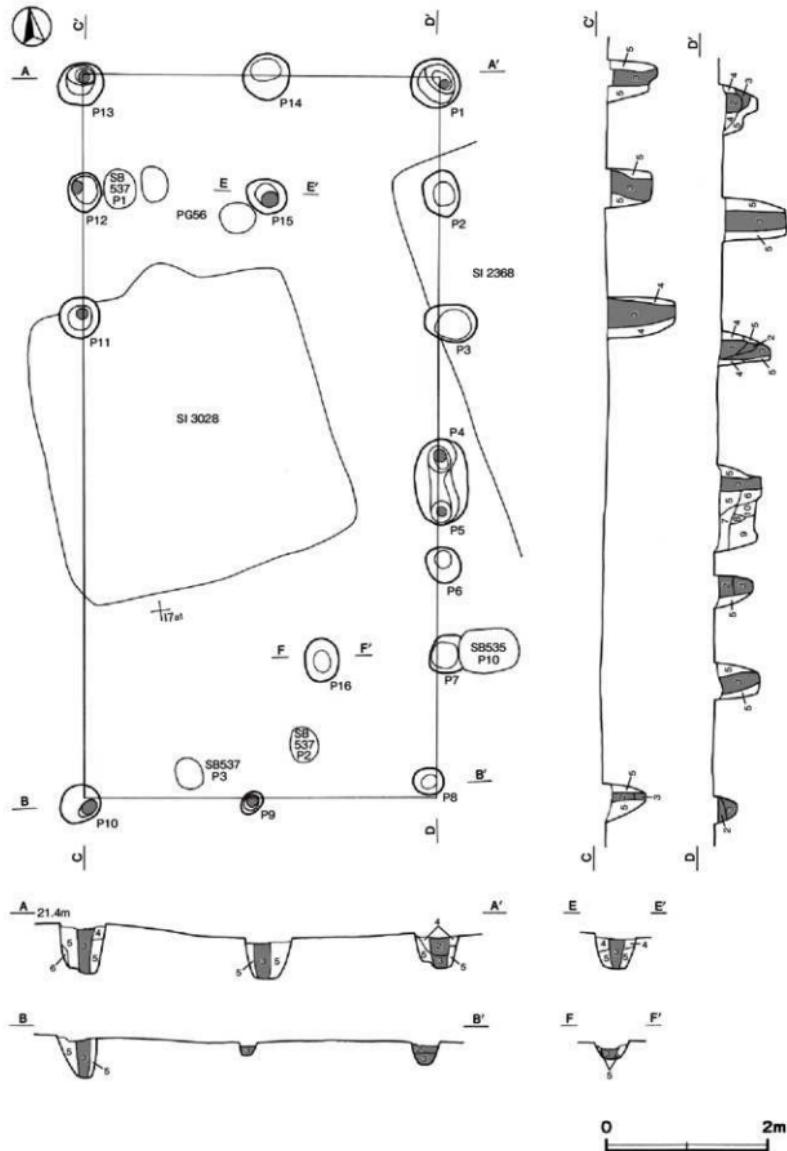
遺物出土状況 土師器片38点（坏8、甕類30）がP1・P2・P4・P6・P12~P16から出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係と柱穴の規模や形状から中世前半と考えられる。

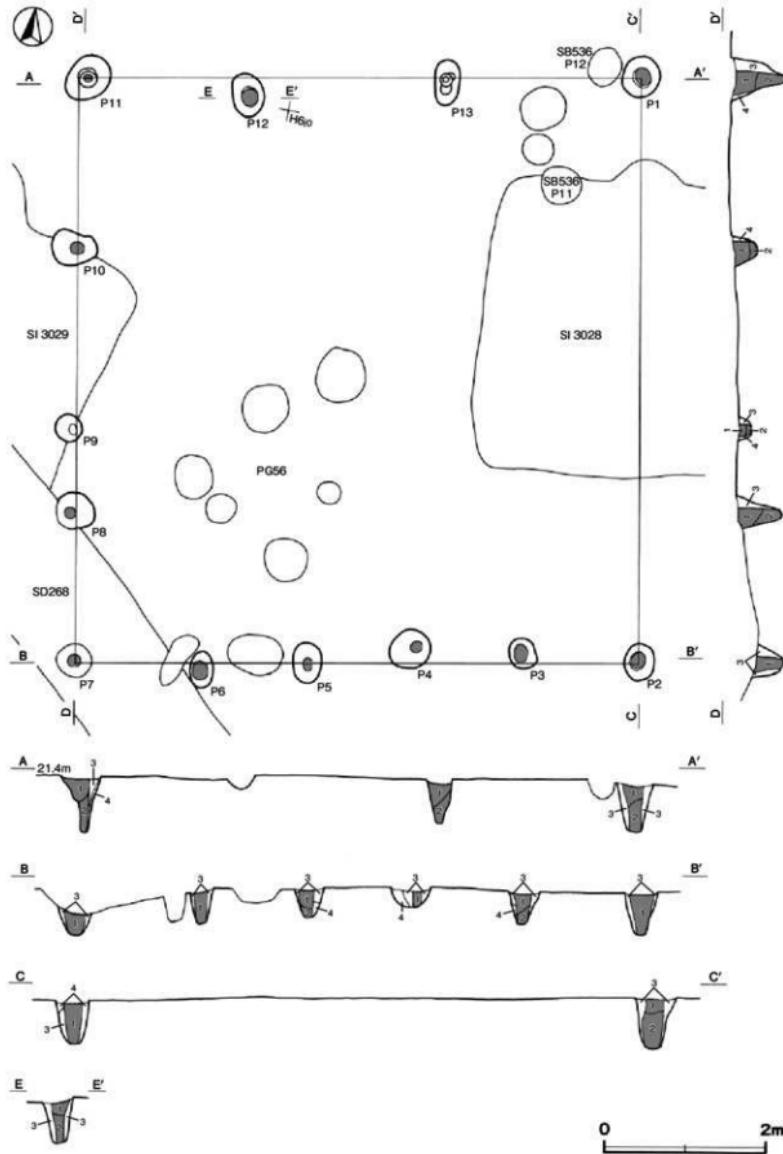
第537号掘立柱建物跡（第249図）

位置 調査区北部のH6i9~I7a1区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3028・3029号住居跡、第536号掘立柱建物跡を掘り込み、第268号溝に掘り込まれている。また、第56号ピット群とも重複しているが新旧関係は不明である。



第248図 第536号掘立柱建物跡実測図



第249図 第537号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行4間、梁行5間の側柱建物跡で、桁行方向がN-80°-Eの東西棟である。規模は、桁行6.9m、梁行7.2mで、面積は49.68m²である。柱間寸法は、桁行は北平が2.1~2.4mで、南平が1.3~1.4m、梁行は西妻が1.0~2.3mで、間尺は異なっている。柱筋はほぼ揃っている。東妻の柱穴は確認できなかった。

柱穴 13か所。平面形は円形または橢円形で、長径35~62cm、短径28~48cmである。深さは14~69cmである。第1・2層が柱痕跡、第3・4層は埋土であり、突き固められている。柱のあたりが、P1~P8・P10~P12の底面で確認できる。

土層解説 (各柱穴共通)

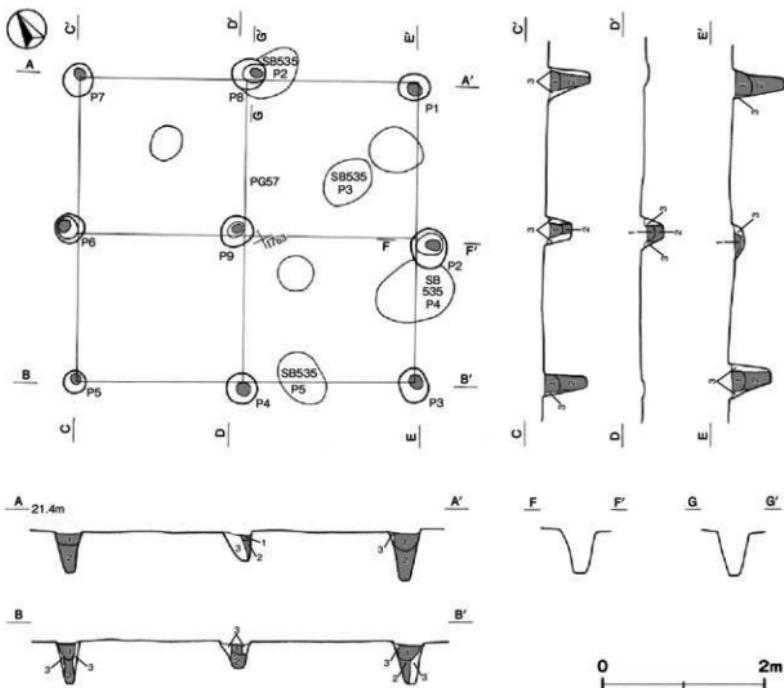
1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	3 暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック微量	4 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片3点(壺、小形甕、瓶)がP1・P3・P7から出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係から第536号掘立柱建物廃絶の中世後半以降と考えられる。

第538号掘立柱建物跡 (第250図)

位置 調査区北部のI7a2~I7b3区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。



第250図 第538号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第535号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。また、第57号ピット群とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向がN-60°-Wの東西棟である。規模は、桁行4.2m、梁行3.7mで、面積は15.54m²である。柱間寸法は、桁行が2.1m、梁行が1.9mで、均等に配置されている。柱筋はほぼ描っている。

柱穴 9か所。平面形は円形または楕円形で、長径28~48cm、短径27~46cmで、深さは18~64cmである。第1・2層が柱痕跡、第3層は埋土であり、突き固められている。柱のあたりが、それぞれのピットの底面で確認できる。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒 裸 色 ロームブロック・炭化物・燒土粒子微量	3 暗 裸 色 ロームブロック少量
2 暗 裸 色 ロームブロック微量	

遺物出土状況 土師器片3点（壺、小形甕、瓶）がP1・P3・P7から出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器が細片のため詳細は不明であるが、重複関係から第535号掘立柱建物廃絶後の中世後半以降と考えられる。

表16 中世・近世掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁間	規 格 幅×梁間	面 積 m ²	柱間寸法 桁間(m) 梁間(m)		柱 穴			主な出土遺物	時 期	備 考	
						柱造	柱穴数	平面形	深さ(cm)					
510	L3e5-L3d6	N-11°-E	3×2	5.4×3.9	21.06	1.8	18~22	椭柱	9	円形 楕円形	18~55	陶器片	17世紀 前半	重複関係(古→新) SD004→新・S003 S037-S061-S066-S067-S074 0-1-PG51-B10-A10-C10
511	L3e5-L3d6	N-26°-W	2-3×2	6.3×4.2	26.46	1.8~3.6	15~24	椭柱	9	円形 楕円形	14~46	土師器片	17世紀 後半	SD004→新・S037 S038-S040-S041-S042-S043 S044-S045-S046-S047-S048
513	L3e5-L3d6	N-10°-E	2×2	5.1×3.1	26.01	1.8~3.3	24~27	椭柱	8	不整椭円形	8~52	土師質土器片	16世紀 後半	SD003-S010-S011-S012-S013 S014-S015-S016-S017-S018
516	K3g9-K3g9	N-23°-E	3×2	6.3×3.6	22.68	1.5~26	14~23	椭柱	10	円形 楕円形	11~37	土師質土器片	中世後半 前半不明	SD104-PG49 S045-S046
517	K3g6-L3d7	N-61°-W	2×2	3.6×3.6	12.96	2.1~13	21~13	椭柱	8	円形 楕円形	13~52	土師質土器片	中世後半	SD004-S023-S024-S025-S026 S027-PG6 宮跡付近
518	L3e8-L3g9	N-18°-E	2×1	3.8×2.5	9.50	1.6~1.9	25	椭柱	6	円形	9~37	土師器片 ～瓦	中世後半 ～瓦	SD004-S005-S006-S007-S008 S009-S010-S011-S012-S013
522	J4g9-J4g9	N-6°-E	2×2	3.6×3.6	12.96	1.8	椭柱	8	不整椭円形	14~46	土師器片 ～瓦	中世後半 ～瓦	SD004-S005-S006-S007-S008 S009-S010-S011-S012-S013	
531	J5g7-J5g9	N-60°-W	4×2	7.8×4.5	35.10	1.2~24	09~18	椭柱	17	円形 楕円形	13~68	土師器片・土師質 土器片・瓦・鉢・瓶	15世紀後 半	SD004-S005-S006-S007-S008 S009-S010-S011-S012-S013 S014-S015-S016-S017-S018
533	J6c1-J6c1	N-67°-W	4×1	11.4×3.9	44.46	2.4~36	39	椭柱	10	円形	6~56	土師器片	15世紀後 半	SD280-S285-本路 S0281-S0282-S0283-S0284-S0285
538	J7a1-J7b3	N-84°-E	3×3	5.3×5.0	26.50	1.8	165	椭柱	12	円形 楕円形	27~76	土師器片・瓦・瓶	中世後半	SD038-S039-S040-S041-S042 S043-S044-S045-S046-S047
539	H6g1-H6g1	N-6°-E	6×2	8.9×4.4	39.16	0.7~17	21~23	椭柱	16	楕円形	18~61	土師器片	中世後半	SD290-S291-S292-S293-S294 S295-S296-S297-S298-S299
537	H6g2-J7a1	N-80°-E	4×5	6.9×7.2	49.68	2.1~24	10~23	椭柱	13	円形 楕円形	14~69	土師器片	中世後半 ～瓦	SD039-S040-S041-S042-S043 S044-S045-S046-S047-S048
538	J7b2-J7b3	N-60°-W	2×2	4.2×3.7	15.54	21	19	矩柱	9	円形 楕円形	18~64	土師器片	中世後半 ～瓦	SD035-S036-S037-S038-S039 S040-S041-S042-S043-S044

(3) 井戸跡

今回の調査で、中世以降と考えられる井戸跡を31基確認した。そのうち遺物の出土している6基について記述する。その他の25基については、掘方の形状から2種類に分類でき、形状別に実測図と土層解説で紹介する。

第153号井戸跡（第251図）

位置 調査区南西部のK3e9区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第404号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は長径174m、短径152mの楕円形で、長径方向はN-7°-Wである。北部及び西部は確認面から1.15~1.46mまで漏斗状に掘り込み、下部は径0.9mのほぼ円筒状に掘り下げている。1.92mまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

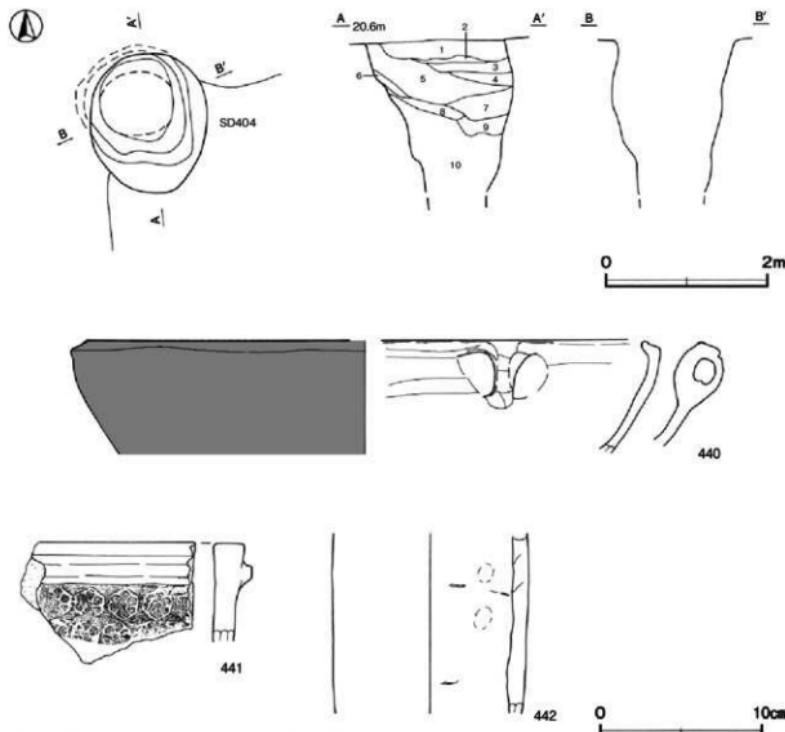
覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量	6 黄灰色 粘土ブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子少量	7 暗灰黄色 粘土粒子少量
3 黄灰色 ローム粒子少量	8 黄灰色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量
4 黑褐色 粘土粒子少量	9 黄灰色 粘土ブロック中量
5 黑褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量	10 黑褐色 粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師器片5点（坏1、皿1、甕3）、土師質土器片22点（内耳鍋13、擂鉢3、火鉢1、甕5）、陶器片1点（花瓶カ）のほか、混入した石器1点（磨石）が出土している。440~442はいずれも覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器や重複関係から中世後半と考えられる。



第251図 第153号井跡・出土遺物実測図

第153号井戸跡出土遺物観察表（第251図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
440	土師質土器	内耳鍋	[34.5]	(7.0)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	5% 外周部付着
441	土師質土器	火鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面ナデ 外面模帯粘付 花文押捺	覆土中	5%
442	陶器	花瓶	-	(11.2)	-	長石・石英	灰褐色	普通	ロクロナデ 外面施釉	覆土中	10%

第157号井戸跡（第252図）

位置 調査区分南西部のK3h6区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 確認面は長径14.5m、短径14.0mの円形である。確認面から0.18~0.37mまで漏斗状に掘り込み、下部は径1.0mの円筒状に掘り下げている。1.20mまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

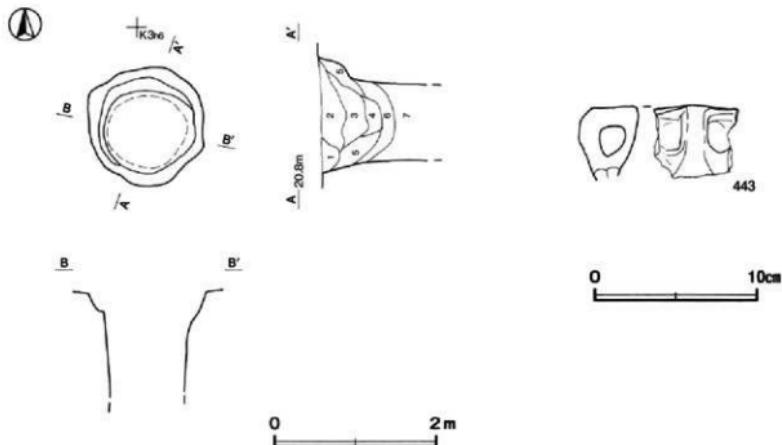
覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 7 黒褐色 | ローム粒子多量、粘土粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子多量、粘土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片12点（小皿1、内耳鍋11）が出土している。443は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第252図 第157号井戸跡・出土遺物実測図

第157号井戸跡出土遺物観察表（第252図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
443	土師質土器	内耳鍋	-	(4.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	5%

第 160 号井戸跡（第 253 図）

位置 調査区南西部の K 3 15 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 確認面は長径 1.05 m、短径 0.97 m の円形で、ほぼ円筒状に掘り下げている。1.05 m まで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

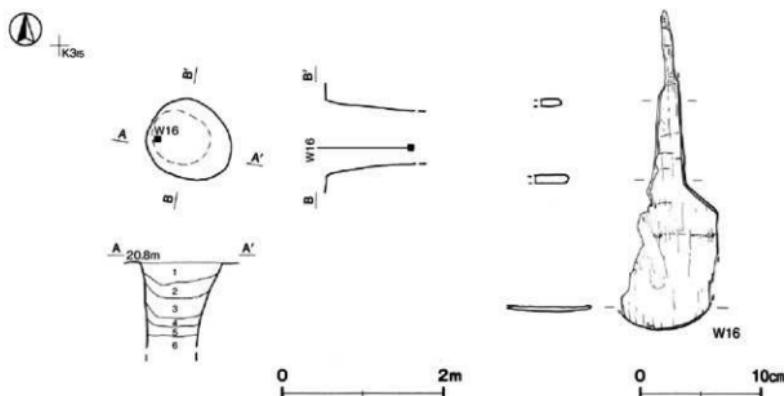
土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック微量
2	黒	褐	色	ローム粒子少量
3	無	暗	褐色	ロームブロック微量

4	黒	褐	色	ローム粒子微量
5	板	暗	褐色	ローム粒子微量
6	黒	無	色	ローム粒子微量

遺物出土状況 士師器片 13 点（环 2、甕 11）、木製品 1 点（杓子）が出土している。W 16 は覆土下層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土遺物から中世と考えられる。



第 253 図 第 160 号井戸跡・出土遺物実測図

第 160 号井戸跡出土遺物観察表（第 253 図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
W 16	木製品	杓子	(264)	(7.9)	0.7	ブナ科コナラ	扁平な板状で、柄部は細く成形 一部欠損	下層	PL83

第 161 号井戸跡（第 254 図）

位置 調査区南西部の L 3 17 区、標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 確認面は長径 2.08 m、短径 2.00 m の円形である。確認面から 0.60 ~ 0.63 m まで漏斗状に掘り込み、下部は径 1.1 m の円筒状に掘り下げている。1.68 m まで掘り下げた時点でおそれがあることから、下部の調査を断念した。

覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

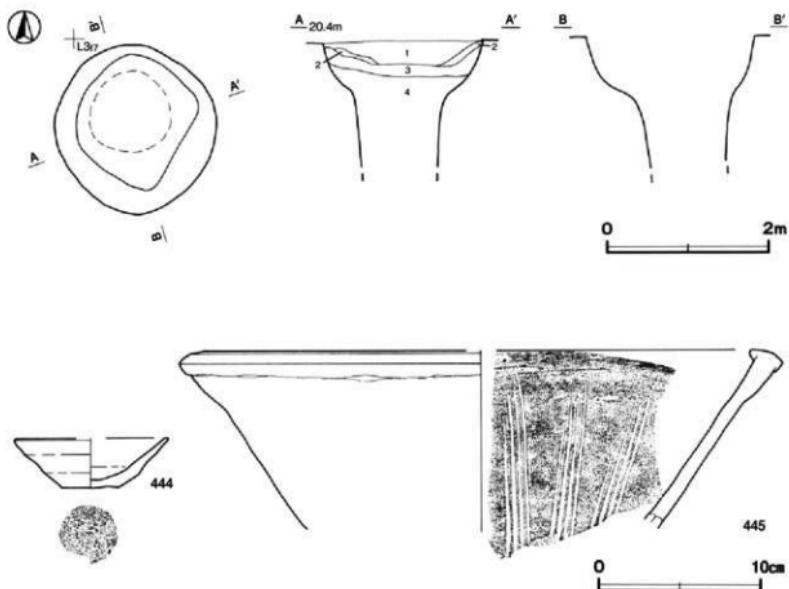
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック少量

3 黒褐色 ローム粒子少量
4 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片9点(甕), 須恵器片2点(甕), 土師質土器片36点(小皿4, 内耳鉢15, 掘鉢17). 碪2点が出土している。444・445はいずれも覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から15世紀代と考えられる。



第254図 第161号井戸跡・出土遺物実測図

第161号井戸跡出土遺物観察表(第254図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
444	土師質土器	小皿	[94]	31	35	長石・石英	褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	40%
445	土師質土器	掘鉢	[340]	[11.0]	-	長石・石英・雲母・褐色粒子	にぶい褐	普通	外面ナデ 内面4条1単位の掘り目	覆土中	20%

第170号井戸跡(第255図)

位置 調査区南西部のJ4g9区。標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第274号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は長径2.98m, 短径2.82mの円形である。確認面から1.10~1.30mまで漏斗状に掘り込み、下部は径1.2mの円筒状に掘り下げている。2.43mまで掘り下げた時点では崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

覆土 8層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

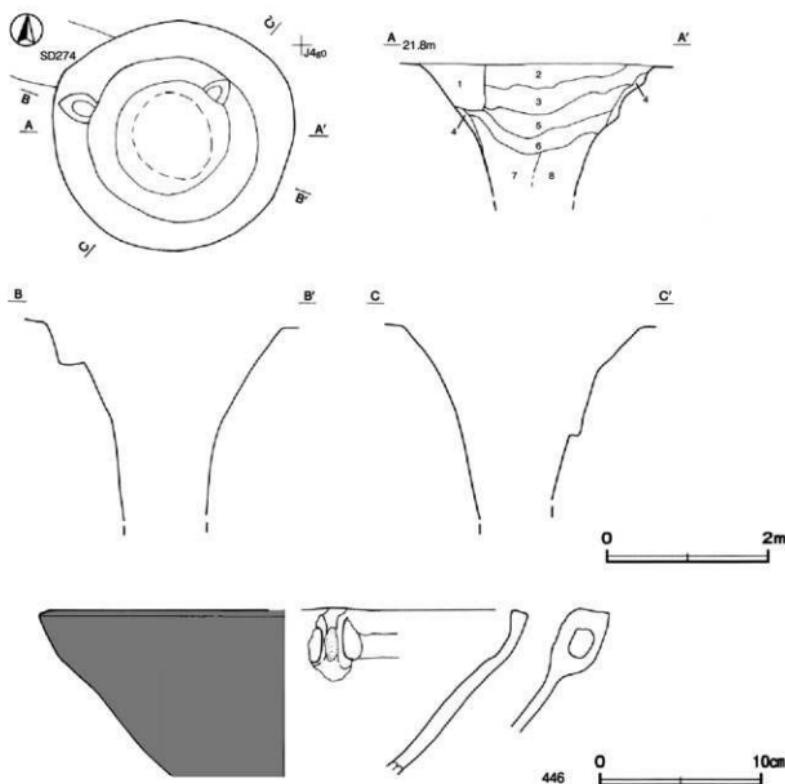
土層解説

1	褐	色	ロームブロック少量	5	暗	褐	色	ロームブロック少量、炭化物微量	
2	黒	褐	色	ロームブロック・砂粒少量	6	暗	褐	色	ロームブロック少量
3	褐	色	ロームブロック少量、砂粒微量	7	暗	褐	色	ローム粒子少量	
4	暗	褐	色	ローム粒子中量	8	褐	色	ロームブロック中量	

遺物出土状況 土師器片 26 点（壺 3、甕 23）、須恵器片 5 点（甕）、土師質土器片 15 点（小皿 2、内耳鍋 12、

擂鉢 1）が出土している。446 は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から 15 世紀代と考えられる。



第 255 図 第 170 号井戸跡・出土遺物実測図

第 170 号井戸跡出土遺物観察表 (第 255 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
446	土師質土器	内耳鍋	[28.5]	(10.4)	—	長石・石英・霰結	黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	10% 外面運付着	

第 171 号井戸跡（第 256 図）

位置 調査区南西部の J 5 i2 区、標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 確認面は長径 235 m、短径 222 m の円形である。確認面から 0.87 ~ 0.93 m まで漏斗状に掘り込み、下部は径 13 m の円筒状に掘り下げている。2.10 m まで掘り下げた時点では崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

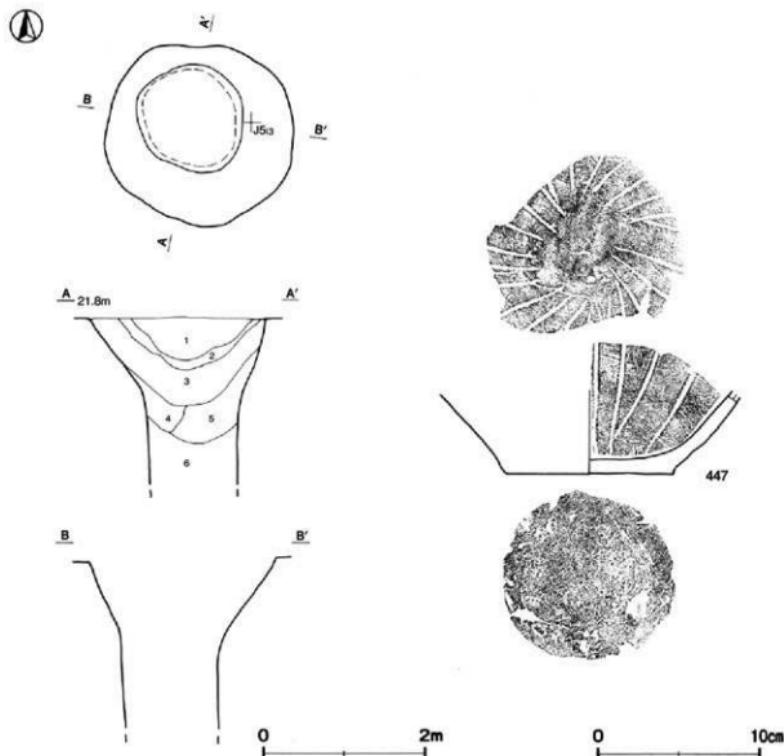
覆土 6 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量	4 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量	5 暗褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ローム粒子少量	6 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 23 点（壺 1、甕 22）、須恵器片 5 点（蓋 2、甕 3）、土師質土器片 37 点（内耳鉢 36、擂鉢 1）が出土している。447 は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



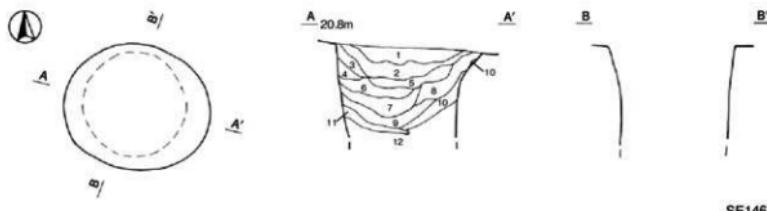
第 256 図 第 171 号井戸跡・出土遺物実測図

第171号井戸跡出土遺物観察表（第256図）

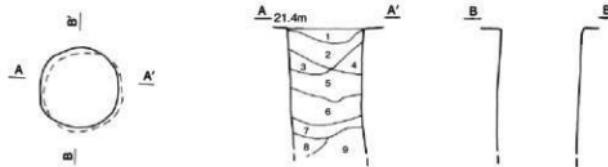
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
447	土器	壺	-	(5.2)	104	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部外表面ナメ 内面1条1單位の掘り目 底部へ?削り	覆土中	10%

ア 円筒状の井戸跡（第257～259図）

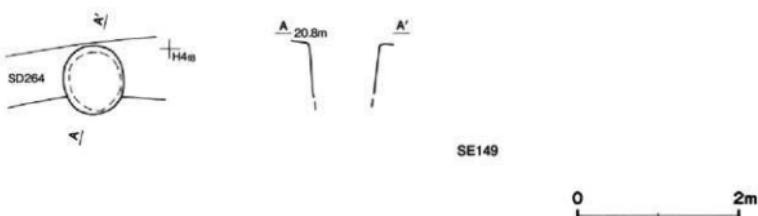
調査区中央部の標高21mほどの台地上に2基、西部の標高21mほどの台地縁辺部に1基、南部の標高22mほどの台地上に1基、南西部の標高20～21mほどの台地縁辺部に6基の計10基が確認されている。平面形は円形または梢円形で、壁はほぼ垂直な円筒状であり、素掘りの井戸と推定できる。覆土はロームブロックや粘土ブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。出土遺物が極めて少なく、いずれも細片のため時期を特定することはできないが、重複関係などから漏斗状の井戸跡よりも古いと思われる。



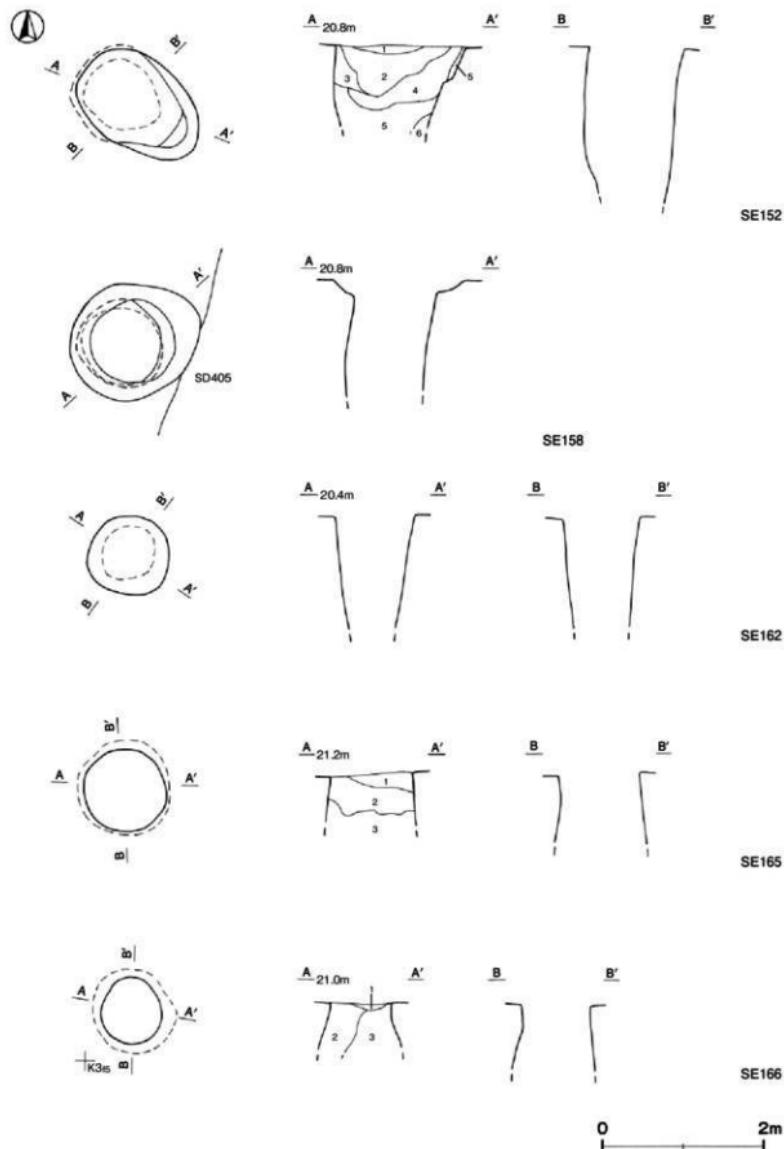
SE146



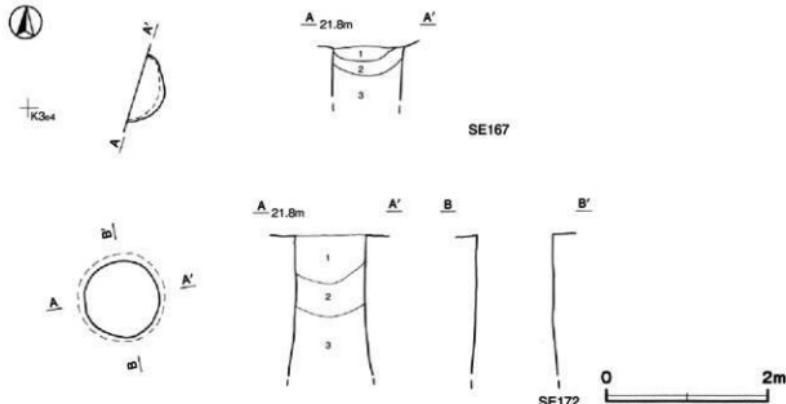
SE147



第257図 円筒状井戸跡実測図（1）



第258図 円筒状井戸跡実測図(2)



第259図 円筒状井戸跡実測図（3）

第146号井戸跡土層解説

- 1 黒 色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 暗色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 黒 暗色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 暗 暗色 ロームブロック微量
- 5 暗 暗色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 6 黒 暗色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 7 暗 暗色 ロームブロック少量
- 8 暗 暗色 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 9 黒 暗色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 10 暗 暗色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 11 暗 暗色 ロームブロック中量
- 12 黒 暗色 粘土ブロック・ローム粒子微量

第147号井戸跡土層解説

- 1 黒 暗色 ロームブロック少量
- 2 黒 暗色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 黒 暗色 炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 4 暗 暗色 ロームブロック少量
- 5 暗 暗色 炭化粒子中量、粘土ブロック少量
- 6 暗 暗色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 7 黒 暗色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 8 黒 暗色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- 9 暗 暗色 ロームブロック少量

第152号井戸跡土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 黒 暗色 粘土ブロック少量
- 3 黒 暗色 ローム粒子少量
- 4 黒 暗色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 5 黒 暗色 ロームブロック少量
- 6 黒 暗色 ローム粒子少量

第165号井戸跡土層解説

- 1 暗 暗色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 暗 暗色 ロームブロック少量、粘土ブロック中量
- 3 黒 暗色 ローム粒子中量

第166号井戸跡土層解説

- 1 黒 暗色 粘土ブロック少量
- 2 黒 暗色 粘土ブロック少量
- 3 黒 暗色 粘土ブロック中量

第167号井戸跡土層解説

- 1 黒 暗色 ローム粒子少量
- 2 黒 暗色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 黒 暗色 ロームブロック・粘土ブロック少量

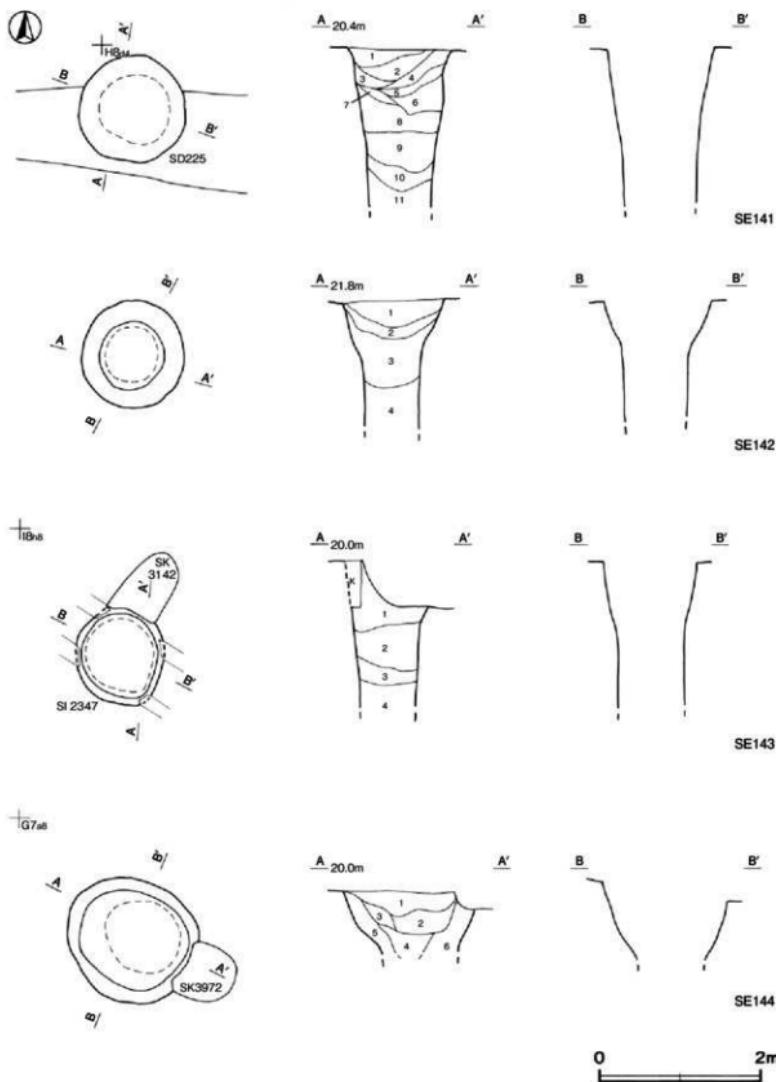
第172号井戸跡土層解説

- 1 暗 暗色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量
- 2 暗 暗色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 3 黒 暗色 ロームブロック・粘土ブロック中量

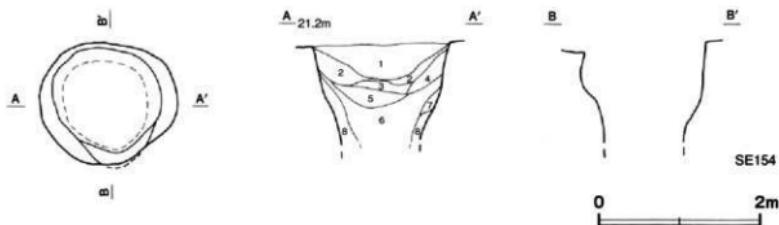
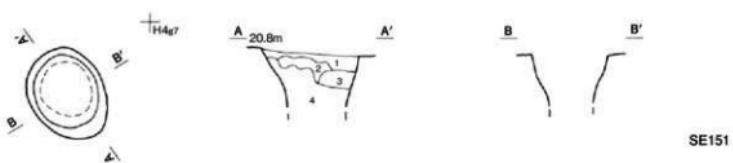
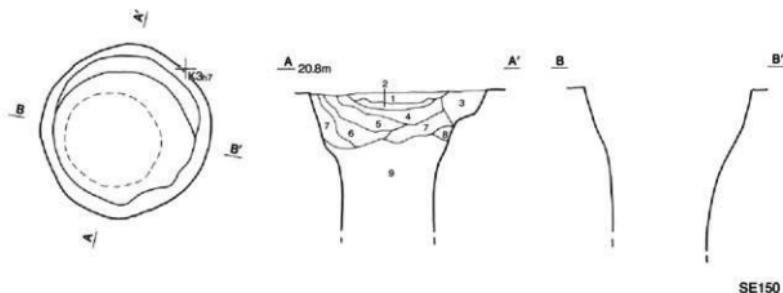
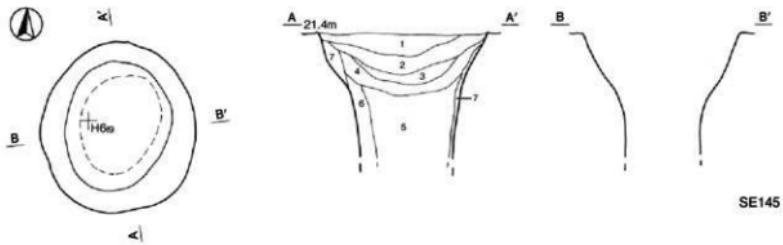
イ 漏斗状の井戸跡（第260～263図）

調査区北部の標高20mほどの台地縁辺部に2基、中央部の標高21mほどの台地上に1基。西部の標高21mほどの台地縁辺部に4基、東部の標高22mほどの台地上に2基、南西部の標高20～21mほどの台地縁辺部に6基の計15基が確認されている。平面形は円形または楕円形で、断面は漏斗状である。井戸枠の抜き取り痕等は認められないことから、素掘りの井戸と推定される。覆土はロームブロックや粘土ブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。出土遺物は少なく、いずれも細片のため時期を特定することはできな

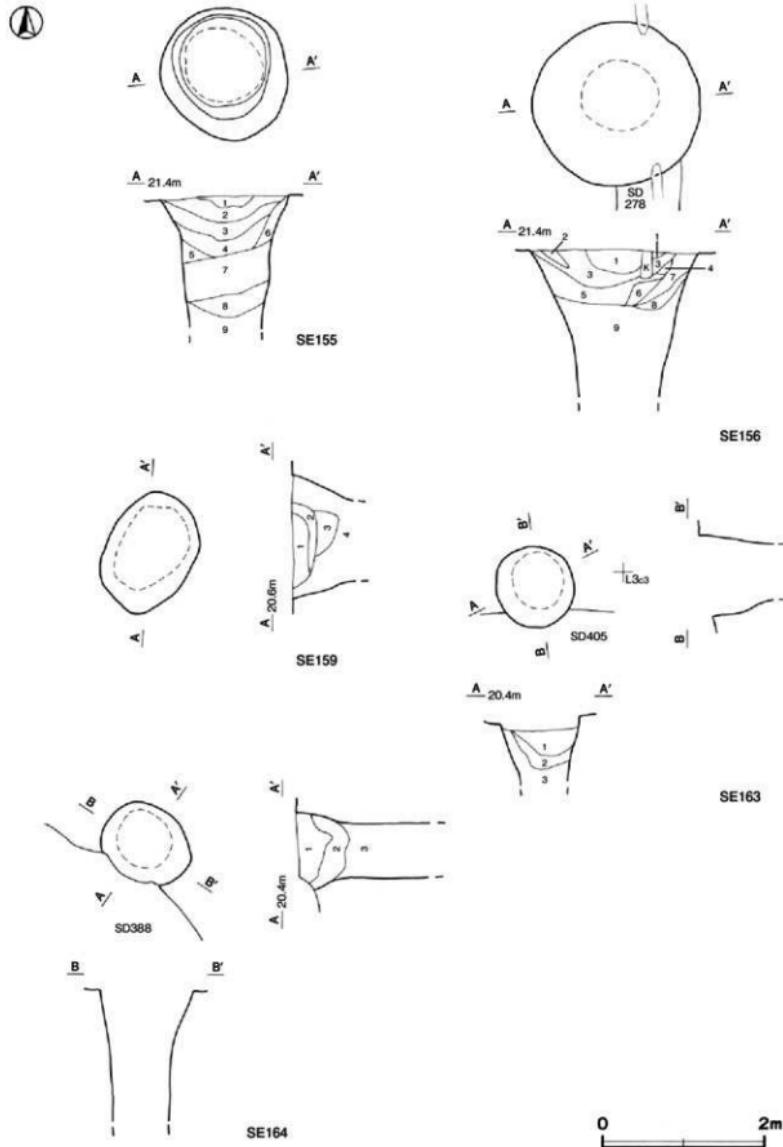
いが、土師質土器片や陶器片がみられることから、中世後半から近世前半にかけてのものと考えられる。



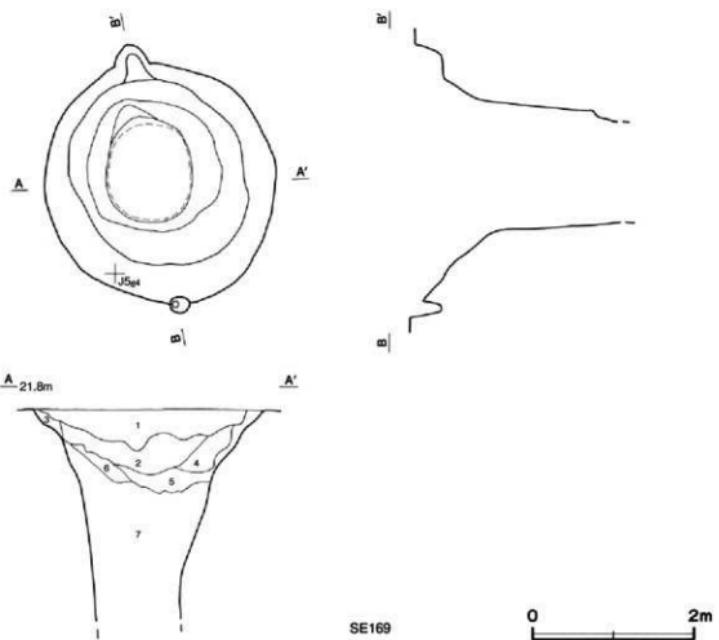
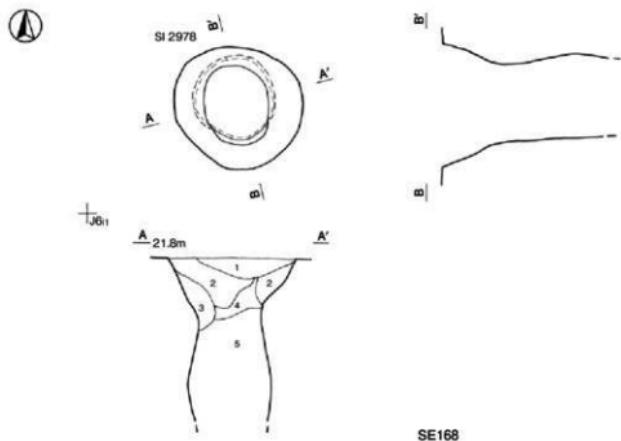
第260図 漏斗状井戸跡実測図（1）



第261図 漏斗状井戸跡実測図(2)



第262図 漏斗状井戸跡実測図（3）



第263図 漏斗状井戸跡実測図(4)

第 141 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量
- 7 黑 褐 色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- 8 灰 褐 色 粘土ブロック多量、ロームブロック微量
- 9 黑 褐 色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量
- 10 黑 暗 褐 色 粘土粒子中量、ローム粒子微量
- 11 暗 暗 褐 色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量

第 142 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子中量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量

第 143 号井戸跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 4 黑 褐 色 ローム粒子微量、粘土ブロック微量

第 144 号井戸跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黑 褐 色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 5 黑 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 6 黑 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量

第 145 号井戸跡土層解説

- 1 黑 褐 色 炭化粒子・焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 5 暗 暗 褐 色 ローム粒子中量、ロームブロック微量
- 6 黑 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 7 黑 褐 色 ローム粒子微量

第 150 号井戸跡土層解説

- 1 黑 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 2 にぶい褐色 粘土ブロック微量
- 3 明 褐 色 ローム粒子多量
- 4 黑 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 5 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 6 暗 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 7 黑 褐 色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
- 8 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 9 にぶい橙色 粘土ブロック多量

第 151 号井戸跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 黑 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量

第 154 号井戸跡土層解説

- 1 暗 暗 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 暗 褐 色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 黑 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 6 暗 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 7 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック多量

第 155 号井戸跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 7 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 156 号井戸跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 2 灰 褐 色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量
- 3 黑 褐 色 粘土ブロック少量
- 4 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 5 暗 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量、粘土粒子少量
- 7 暗 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 8 黑 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 159 号井戸跡土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子少量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 3 黑 褐 色 粘土粒子中量、ローム粒子微量
- 4 黑 色 ローム粒子中量、粘土粒子少量

第 163 号井戸跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック・粘土粒子中量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 3 暗 褐 色 粘土粒子中量、ローム粒子少量

第 164 号井戸跡土層解説

- 1 黑 褐 色 粘土粒子少量
- 2 黑 褐 色 粘土ブロック中量
- 3 黑 褐 色 粘土ブロック少量

第 168 号井戸跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 黑 褐 色 ロームブロック少量

第 169 号井戸跡土層解説

- 1 黑 色 ロームブロック少量、焼土粒子・砂粒微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック少量、砂粒微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 6 灰 褐 色 砂粒中量、ロームブロック少量
- 7 黑 褐 色 ロームブロック少量

表17 中世・近世井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	概 細		断面	底面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
141	H8d4	-	円形	132×132	(192)	漏斗状	-	人為		SD025→本跡
142	I8g4	N - 2° - W	円形	134×126	(150)	漏斗状	-	自然		
143	I8h8	N - 18° - W	橢円形	128×110	(184)	漏斗状	-	人為		SE2347→本跡 →SK3142
144	G7s8	N - 60° - W	[円形]	[166]×154	(91)	漏斗状	-	人為		本跡・SK2972
145	H6f9	N - 1° - W	橢円形	210×190	(156)	漏斗状	-	自然		SE206→Z906-2397 →本跡
146	H7e8	N - 75° - W	橢円形	184×128	(120)	円筒状	-	人為		
147	H6e9	N - 5° - W	円形	102×096	(152)	円筒状	-	人為		
149	H4f7	N - 5° - E	橢円形	084×076	(64)	円筒状	-	-		SD264→本跡
150	K3b6	-	円形	217×208	(175)	漏斗状	-	人為	土師器片、土師質土器片、五輪帯	
151	H4g6	N - 37° - W	橢円形	119×093	(58)	漏斗状	-	人為	土師器片	
152	K3g6	N - 51° - W	橢円形	166×113	(198)	円筒状	-	人為	土師器片、須恵器片、鉄製品	
153	K3e9	N - 7° - W	橢円形	174×152	(192)	漏斗状	-	人為	土師器片、土師質土器片、陶器片	SD404→本跡
154	J4g1	N - 86° - W	橢円形	170×151	(94)	漏斗状	-	人為	土師器片、須恵器片	
155	J4c1	-	円形	164×154	(50)	漏斗状	-	人為	土師器片、須恵器片	
156	J4c4	-	円形	206×200	(172)	漏斗状	-	人為	土師質土器片	SD278→本跡
157	K3b6	-	円形	145×140	(120)	漏斗状	-	人為	土師質土器片	
158	K3d5	N - 60° - E	橢円形	165×142	(150)	円筒状	-	-		SD405 新旧不明
159	L3b8	N - 35° - E	橢円形	145×105	(68)	漏斗状	-	人為	土師器片	
160	K3f5	-	円形	105×097	(105)	円筒状	-	人為	土師器片、木製品	
161	L3f7	-	円形	208×200	(168)	漏斗状	-	人為	土師器片、須恵器片、 土師質土器片	
162	L3g6	-	円形	100×100	(140)	円筒状	-	-	土師質土器片	
163	L3b2	-	円形	100×100	(85)	漏斗状	-	人為		SD405 新旧不明
164	L3e4	N - 57° - W	橢円形	112×093	(156)	漏斗状	-	人為	土師質土器片、陶器片	本跡→ SD388
165	J3c9	-	円形	100×100	(86)	円筒状	-	人為		
166	K3e5	N - 0°	橢円形	092×076	(84)	円筒状	-	人為	土師質土器片	
167	K3d4	N - 18° - E	橢円形	084×036	(65)	円筒状	-	人為		
168	J6h1	-	円形	160×148	205	漏斗状	-	人為	土師器片	SE2978→本跡
169	J5f4	-	円形	300×285	254	漏斗状	-	人為	土師器片、須恵器片、鉄錐	
170	J4g9	-	円形	298×282	(243)	漏斗状	-	人為	土師器片、須恵器片、 土師質土器片	SD274→本跡
171	J5i2	-	円形	235×222	(210)	漏斗状	-	人為	土師器片、須恵器片、 土師質土器片	
172	J5d4	-	円形	091×090	(170)	円筒状	-	人為		

(4) 地下式坑

第74号地下式坑（第264図）

位置 調査区北部のG 7 b8 区、標高 20 m ほどの斜面部上段に位置している。

軸長・軸方向 軸長は 2.14 m で、主軸方向は N - 145° - E である。

豊坑 主室の北西壁中央部に位置し、奥行 0.80 m、横幅 1.10 m の長方形である。深さは 54cm で、壁はほぼ直立してしている。底面は緩やかに傾斜し、主室の底面とは 34cm の段差をなしている。

主室 奥行 1.34 m、横幅 1.66 m の隅丸長方形である。天井部は崩落している。底面は平坦で、確認面からの深さは 88cm で、四周の壁は北西側以外はほぼ直立している。

覆土 10 層に分層できる。第 3・4 層は天井部の崩落土に相当し、それより下層は豊坑側から流入した堆積

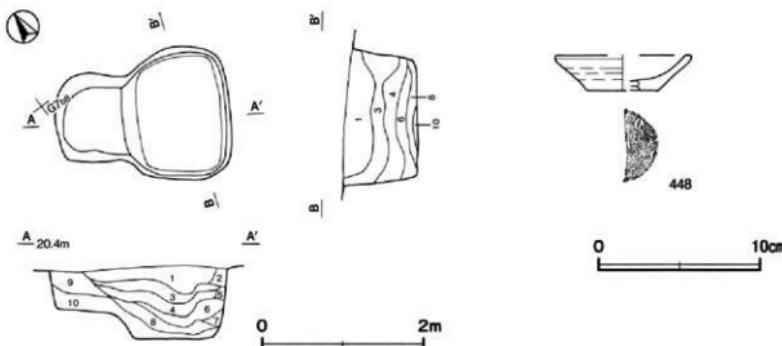
状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック微量	7	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子微量
2	褐	色	ロームブロック少量	8	黒	褐	色	ロームブロック微量	
3	褐	色	ロームブロック中量	9	暗	褐	色	ロームブロック中量	
4	黒	褐	色	ロームブロック・粘土ブロック微量	10	暗	褐	色	ロームブロック・粘土ブロック少量・焼土粒子微量
5	褐	色	ロームブロック少量						
6	黒	褐	色	ロームブロック微量					

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（小皿）が出土しているほか、流れ込んだ土師器片 32 点（壺 1、甕 31）、須恵器片 25 点（壺 21、鉢 1、甕 3）が出土している。448 は覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の形状と出土土器から中世後半と考えられる。



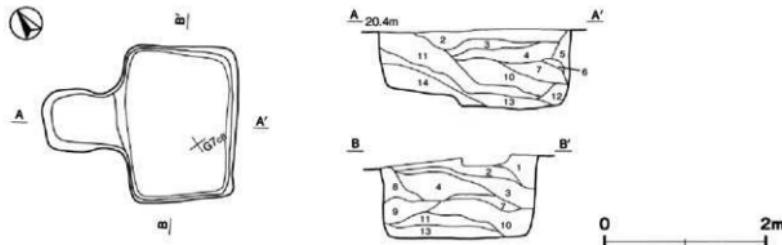
第 264 図 第 74 号地下式坑・出土遺物実測図

第 74 号地下式坑出土遺物観察表（第 264 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	断土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
448	土師質土器	小皿	[8.2]	2.2	[4.4]	長石・石英・雲母	浅黄褐	普通	クロナデ	覆土中	40%

第 75 号地下式坑（第 265 図）

位置 調査区北部の G 7 b7 区、標高 20 m ほどの斜面部上段に位置している。



第 265 図 第 75 号地下式坑実測図

軸長・軸方向 軸長は2.37 mで、主軸方向はN - 144° - Eである。

豊坑 主室の北西壁中央部に位置し、奥行0.90 m、横幅0.77 mの長方形である。深さは70cmで、壁はほぼ直立してしている。底面は緩やかに傾斜し、主室の底面とは10cmの段差をなしている。

主室 奥行1.47 m、横幅1.90 mの長方形である。天井部は崩落している。底面は平坦で、確認面からの深さは94cmで、四周の壁は北西側以外は直立して立ち上がっている。

覆土 14層に分層できる。第3・4・10層は天井部の崩落土に相当し、それより下層は豊坑側から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

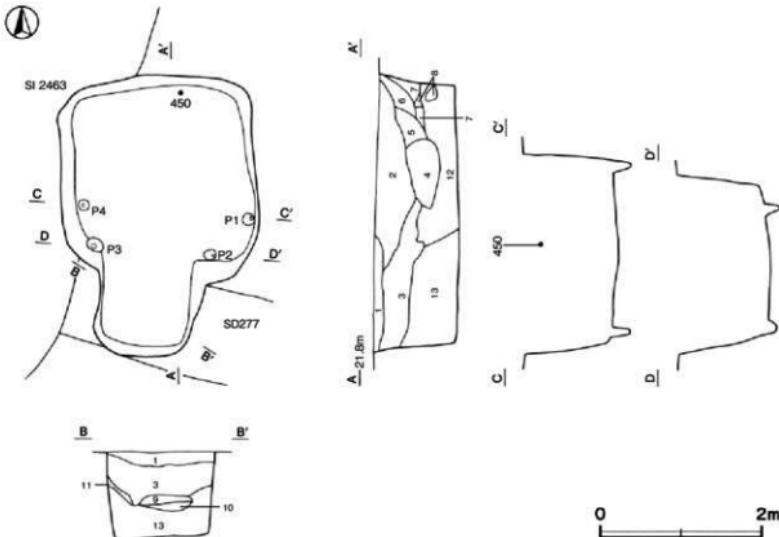
1	暗	褐色	ロームブロック少量	8	黒	褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
2	黒	褐色	ロームブロック微量	9	褐	褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
3	褐	褐色	ロームブロック中量	10	黒	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	黒	褐色	ローム粒子微量	11	暗	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、燒土粒子微量
5	褐	褐色	ロームブロック少量	12	暗	褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
6	黒	褐色	ロームブロック少量	13	黒	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量
7	黒	褐色	ロームブロック微量	14	褐	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量

遺物出土状況 鉄滓1点が出土しているほか、流れ込んだ土師器片27点（壺5、甕22）、須恵器片5点（壺3、蓋1、甕1）が出土している。

所見 時期は、隣接する第74号地下式坑と規模、形状、主軸方向がほぼ同じであることから、中世後半と考えられる。

第76号地下式坑（第266・267図）

位置 調査区西部のI 4j9区、標高22 mほどの平坦な台地上に位置している。



第266図 第76号地下式坑実測図

重複関係 第2463号住居跡、第277号溝跡を掘り込んでいる。

軸長・軸方向 軸長は3.47mで、主軸方向はN-3°-Eである。

豊坑 主室の南壁中央部に位置し、奥行1.02m、横幅1.20mの長方形である。深さは104cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦で、そのまま主室に至っている。

主室 奥行2.27m、横幅2.41mの隅丸方形である。天井部は崩落している。底面は平坦で、確認面からの深さは115cmで、四周の壁は南側以外は外傾して立ち上がっている。

ピット 4か所。P1-P4は深さ13~28cmで、柱穴と考えられる。

覆土 13層に分層できる。第4層は天井部の崩落土に相当し、ほかは不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック中量	9 暗褐色	ロームブロック多量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子微量
4 褐色	ロームブロック多量	11 暗褐色	ローム粒子中量
5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	12 暗褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ロームブロック中量	13 暗褐色	ロームブロック中量
7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片75点(坏17、壺58)、須恵器片10点(坏5、壺5)、土師質土器片34点(香炉1、内耳鍋33)が出土している。450は北部の覆土上層から出土している。449は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第267図 第76号地下式坑出土遺物実測図

第76号地下式坑出土遺物観察表(第267図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
449	土師質土器	香炉	-	(3.1)	(8.5)	長石・石英・赤色粒子・細織	暗	普通	クロナデ	脚貼台(残存1)	覆土中	10%
450	土師質土器	内耳鍋	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぼい模	普通	口縁部外・内面模ナデ	内耳1か所残存	上層	5% 外周環付着

第77号地下式坑(第268図)

位置 調査区分西南部のJ5c7区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2486号住居跡を掘り込んでいる。

軸長・軸方向 軸長は4.98mで、軸方向はN-30°-Eである。

豊坑 主室の南側に位置し、奥行1.72m、横幅0.62mの不整長方形である。深さは140~165cmで、壁はほぼ直立している。底面は緩やかに傾斜して主室に至っている。主室の底面とは25cmの段差をなしている。

主室 奥行1.70m、横幅3.26mの隅丸長方形である。天井部は崩落しており、底面は豊坑側へ向ってやや傾斜している。確認面からの深さは152cmで、豊坑側を除く三方の壁はほぼ直立している。

覆土 7層に分層できる。第6・7層は天井部の崩落土に相当し、各層にロームブロックが含まれていること

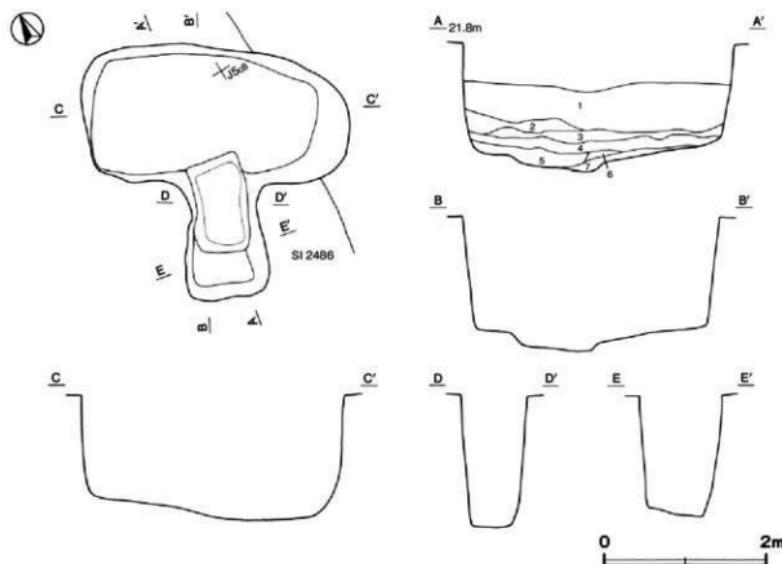
から埋め戻されている。

土層解説

- | | | |
|---------|-----------|-----------|
| 1 細褐色 | 砂粒少量 | ロームブロック微量 |
| 2 細褐色 | 色 | ロームブロック少量 |
| 3 黄褐色 | ロームブロック中量 | |
| 4 黒褐色 | 色 | ロームブロック少量 |
| 5 黄褐色 | 色 | ロームブロック微量 |
| 6 にほい褐色 | ロームブロック中量 | |
| 7 にほい褐色 | ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片 69 点 (坏 13, 壺 56), 須恵器片 2 点 (壺), 土師質土器片 6 点 (内耳鉢) が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から中世後半と考えられる。



第 268 図 第 77 号地下式坑実測図

第 78 号地下式坑 (第 269 図)

位置 調査区分南西部の J 5 a4 区、標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

軸長・軸方向 軸長は 4.16 m で、軸方向は N - 27° - E である。

豊坑 主室の南側に位置し、奥行 1.65 m、横幅 1.85 m の不整長方形である。深さは 110cm で、壁は外傾して立ち上っている。底面はほぼ平坦で主室に至っている。主室の底面との段差はほとんどない。

主室 奥行 1.90 m、横幅 2.35 m の不整長方形である。天井部は崩落しており、底面は豊坑部へ向ってやや傾斜している。確認面からの深さは 116cm で、北・西壁は外傾して、東壁は内傾して立ち上っている。

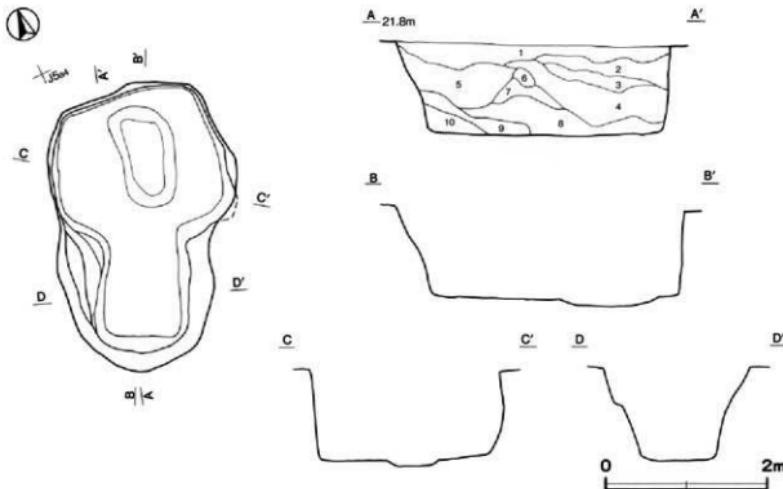
覆土 10 層に分層できる。第 9・10 層は豊坑から流れ込んだ層である。第 6～8 層は天井部の崩落層と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	6	褐色	ロームブロック多量
2	暗褐色	ロームブロック中量	7	暗褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック少量	8	褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	9	褐色	ローム粒子少量
5	黒褐色	ローム粒子少量	10	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 11 点 (坏 4, 壺 7), 須恵器片 1 点 (壺), 土師質土器片 10 点 (内耳鉢), 陶器片 1 点 (不明) が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第 269 図 第 78 号地下式坑実測図

表 18 中世・近世地下式坑一覧表

番号	位置	平面形		軸方向	軸長 (m)	主京規格			整坑規格			覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
		主室	壁坑			奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)			
74	G7b8	椭丸	長方形	N - 145° - E	2.14	1.34	1.66	88	0.80	1.10	54	自然	土師質土器片	
75	G7b7	長方形	長方形	N - 144° - E	2.37	1.47	1.90	94	0.90	0.77	70	自然	鉄滓	
76	14J9	椭丸	長方形	N - 3° - E	3.47	2.27	2.41	115	1.02	1.20	104	人為	土師器片、須恵器片、土師質土器片	SII463SD0277 → 本跡
77	J5c7	椭丸	不整	N - 30° - E	4.98	1.70	3.35	152	1.72	0.62	140 ~ 165	人為	土師器片、須恵器片、土師質土器片	SII486 → 本跡
78	J5a4	不整	長方形	N - 27° - E	4.16	1.90	2.35	116	1.65	1.85	110	人為	土師器片、須恵器片、土師質土器片、陶器片	

(5) 火葬土坑

第 3211 号土坑 (第 270 図)

位置 調査区北部の G 7 e6 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 246 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた全長15mの呂字状で、主軸方向はN-35°-Eである。北東部に主軸方向と直交する推定横幅0.95m、奥行0.83mで隅丸長方形の焚口部がある。確認できた深さは15cmである。0.18m離れた南西部に、主軸方向と直交する横幅0.8m、奥行0.4mで楕円形の燃焼部が存在する。深さは8cmで、底面は平坦である。焚口部と燃焼部を連結するように長さ1.12mで、上幅0.28m、下幅0.15m、深さ15cmの通気溝が存在する。通気溝の底面は、焚口部から燃焼部にかけて緩やかに傾斜している。通気溝では焼土が確認されている。

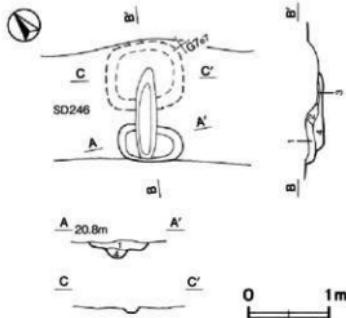
覆土 4層に分層できる。第4層に骨片が確認されることから、遺体を火葬した後の堆積土と考えられる。火葬後、ロームブロックを含む土で埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黄褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黄褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 燃焼部から通気溝にかけて、骨片や骨粉が出土している。

所見 時期は、遺構の形態から中世後半と考えられるが、詳細については不明である。



第270図 第3211号土坑実測図

第3212号土坑 (3212 Numbered Pit)

位置 調査区北部のG7d6区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第246号溝に掘り込まれている。

規模と形状 全長15mの呂字状で、主軸方向はN-52°-Wである。北西部に主軸方向と直交する推定横幅0.95m、奥行0.86mで隅丸長方形の焚口部がある。確認できた深さは12cmである。0.18m離れた南東部に、主軸方向と直交する横幅0.82m、奥行0.58mの楕円形の燃焼部が存在する。通気溝の底面は、焚口部から燃焼部にかけて緩やかに傾斜している。通気溝では焼土が確認されている。

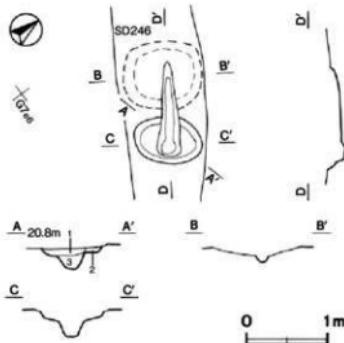
覆土 3層に分層できる。第1・3層に骨片が確認されていることから、遺体を火葬した後の堆積土と考えられる。火葬後、ロームブロックを含む土で埋め戻されている。

土層解説

- 1 黄褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黄褐色 焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黄褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 燃焼部と通気溝にかけて、骨片と骨粉が出土している。

所見 時期は、遺構の形態から中世後半と考えられるが、詳細については不明である。



第271図 第3212号土坑実測図

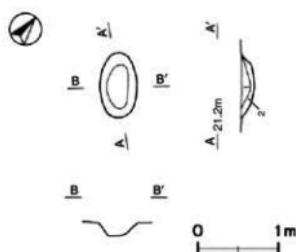
表19 中世・近世火葬土坑一覧表

番号	位置	平面形	軸方向	焚口部			燃焼部			通気溝			主な出土遺物	備考			
				全長(m)	奥行(m)	横幅(m)	奥S(cm)	底面(m)	横幅(m)	深さ(cm)	底面(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)			
3211	G7e6	円柱状	N - 35° - E	1.5	[0.83]	[0.95]	15	平坦	0.40	0.80	8	平坦	0.28	0.15	15	人骨 骨片、骨粉	本跡 → SD246
3212	G7e6	円柱状	N - 52° - W	1.5	[0.86]	[0.95]	12	平坦	0.58	0.82	12	平坦	0.3	0.15	18	人骨 骨片、骨粉	本跡 → SD246

(6) 墓坑

第3220号土坑(第272図)

位置 調査区中央部のG7e5区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。



規模と形状 長径0.78m、短径0.46mの楕円形で、長径方向はN - 43° - Wである。深さは18cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 楊樹葉色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック中量

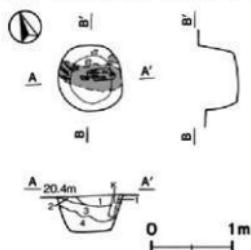
遺物出土状況 覆土下層から人骨片が出土している。覆土中から土器片1点(甕)が出土しているが、細片のため図示できない。

第272図 第3220号土坑実測図

所見 人骨片が出土していることから、墓坑と推測できる。時期は、伴う土器が出土していないため明確でないが、規模や形状から中世から近世と考えられる。

第3252号土坑(第273図)

位置 調査区中央部のH7c0区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。



規模と形状 長径0.82m、短径0.79mの円形である。深さは45cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。第3・4層はレンズ状に堆積しているが、上層の第1・2層は炭化物とロームブロックがやや多く含まれている土が堆積しており、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量、焼土ブロック・骨片少量、ローム粒子微量
2 黑褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
3 黑褐色 ロームブロック微量
4 黑褐色 ローム粒子微量

第273図 第3252号土坑実測図

遺物出土状況 覆土上層から炭化材と焼土、人骨片が出土している。

所見 覆土の堆積状況から、土坑が自然に埋没したあとくぼみで焼成行為がなされたものと推測でき、火葬土坑あるいは埋葬にかかわる施設の可能性がある。時期は、土器が出土していないため明確ではないが、規模や形状から中世から近世と考えられる。

第3270号土坑（第274図）

位置 調査区中央部のI 6 a7区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2551号住居跡を掘り込んでいる。第20号道路跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長径0.88m、短径0.63mの楕円形で、長径方向はN-55°-Wである。深さは30cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上っている。

覆土 2層に分層できる。骨片・ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | 骨片少量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 南東部の底面から人骨の頭蓋骨及び上腕骨

の一部、北西部の底面から大腿骨の一部が出土している。

所見 人骨が出土していることから、墓坑と推測できる。時期は、土器が出土していないため明確ではないが、規模や形状から中世から近世と考えられる。

第3277号土坑（第275図）

位置 調査区西部のJ 4 b7区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

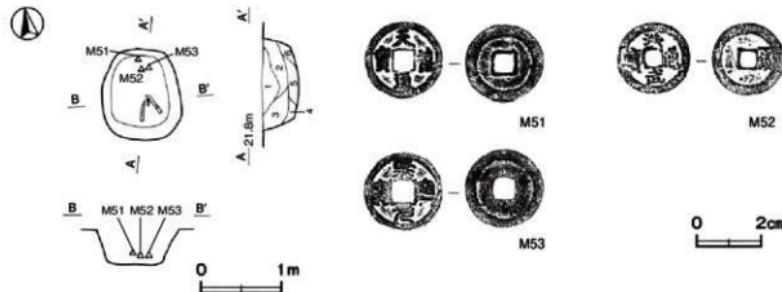
規模と形状 長径1.13m、短径0.97mの楕円形で、長径方向はN-8°-Eである。深さは43cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上っている。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれ、各層がブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------|------|--------------|
| 1 褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ローム粒子少量、骨粉微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 底面から人骨片が、覆土下層から銭貨3点（天祐通寶、洪武通寶、熙寧元寶）がそれぞれ出土している。覆土中から混入した土師器片9点（壺2、甕7）、須恵器片2点（壺）、陶器片1点（擂鉢）が出土している。M51～M53は、北部の覆土下層から出土している。



第275図 第3277号土坑・出土遺物実測図

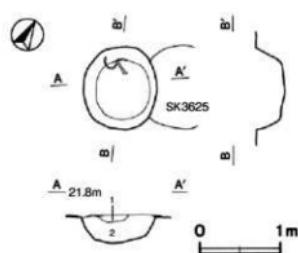
所見 人骨片や銭貨が出土していることから、墓坑と推測できる。時期は、出土遺物から中世後半と考えられる。

第3277号土坑出土遺物観察表（第275図）

番号	形種	径	孔深	厚さ	重量	材質	手法の特徴ほか	出土位置	備考
M 51	銭貨	2.5	0.55	0.1	34	銅	天祐通寶 初鈔 1077年	下層	PL82
M 52	銭貨	2.3	0.45	0.1	35	銅	洪武通寶 初鈔 1368年	下層	PL82
M 53	銭貨	2.5	0.65	0.1	29	銅	熙寧元寶 初鈔 1068年	下層	PL82

第3624号土坑（第276図）

位置 調査区西部のJ 4 d5区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。



第276図 第3624号土坑実測図

重複関係 第3625号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.02m、短径0.91mの椭円形で、長径方向はN - 40° - Wである。深さは34cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

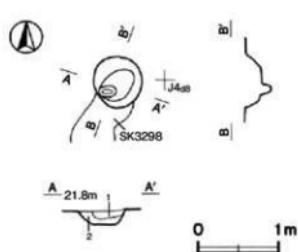
2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 覆土下層から人骨片が出土している。覆土中から混入した土器片2点(甕)が出土している。

所見 人骨が出土していることから、墓坑と推測できる。時期は、伴う土器が出土していないため明確ではないが、規模や形状から中世から近世と考えられる。

第3658号土坑（第277図）

位置 調査区西部のJ 4 d7区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。



第277図 第3658号土坑実測図

重複関係 第3298号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.64m、短径0.60mの円形である。深さは18cmで、底面は皿状であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 骨粉少量、ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 人骨片が出土している。

所見 人骨が出土していることから、墓坑と推測できる。時期は、土器が出土していないため明確ではないが、規模や形状から中世から近世と考えられる。

第 5856 号土坑 (第 278 図)

位置 調査区南部の J 6 区、標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.16 m、短径 0.79 m の橢円形で、長径方向は N - 23° - E である。深さは 25 cm で、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

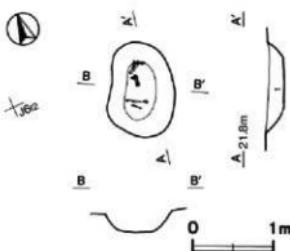
覆土 単一層であり、ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 細 黄褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 人骨の右側上腕骨及び下頸骨が底面から出土している (付章参照)。

所見 人骨が出土していることから、墓坑と推測できる。時期は、土器が出土していないため明確ではないが、規模や形状から近世と考えられる。



第 278 図 第 5856 号土坑実測図

表 20 中世・近世墓坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)					
3220	G 7 e5	N - 43° - W	橢円形	0.78 × 0.46	18	外傾	平坦	人骨	土器器片、人骨片	
3252	H 7 c0	-	円形	0.82 × 0.79	45	外傾	平坦	人骨	人骨片、炭化材	
3270	I 6 a7	N - 55° - W	橢円形	0.88 × 0.63	30	傾斜	平坦	人骨	人骨片	SZ2551 → 本跡 SF20 新田不明
3277	J 4 b7	N - 8° - E	橢円形	1.13 × 0.97	43	外傾	平坦	人骨	鐵貨、人骨片	
3624	J 4 d5	N - 40° - W	橢円形	1.02 × 0.91	34	外傾	盤状	人骨	人骨片	SK3625 → 本跡
3658	J 4 d7	-	円形	0.64 × 0.60	18	傾斜	盤状	人骨	人骨片	SK3298 → 本跡
5856	J 6 f2	N - 23° - E	橢円形	1.16 × 0.79	25	外傾	平坦	人骨	人骨片	

(7) 土坑

今回の調査で確認できた中世・近世の土坑 31 基のうち、遺物が出土した土坑 11 基と馬骨を伴う土坑 2 基について、文章で解説し、火を用いた痕跡のある土坑 18 基については実測図と土層解説、一覧表で掲載する。

ア 土坑

第 3078 号土坑 (第 279 図)

位置 調査区北西部の F 9 i8 区、標高 19 m ほどの平坦な台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 218 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 1.36 m、短軸 1.08 m の不定形で、長軸方向は N - 76° - E である。深さは 51 cm で、底面には凹凸があり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5 層に分層できる。多くの層に粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 にい黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量

2 細 黄褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

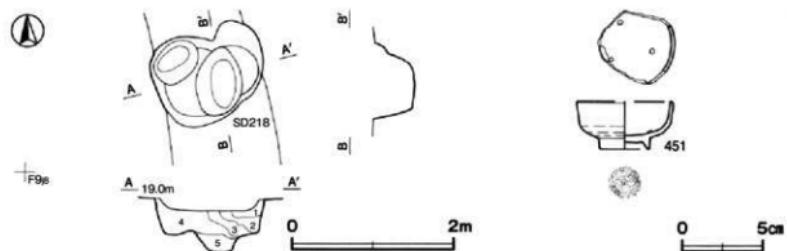
3 にい黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量

4 細 黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量

5 にい黄褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量

遺物出土状況 陶器片 1 点（小杯）が出土している。また、土師器片 3 点（甕）も出土している。451 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 17 世紀後半と考えられる。性格については不明である。



第 279 図 第 3078 号土坑・出土遺物実測図

第 3078 号土坑出土遺物観察表（第 279 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
451	陶器	小杯	[58]	29	30	緻密	浅黄	良好	ロクロナデ 底部内面トシ痕	覆土中	40% PL68

第 3240 号土坑（第 280 図）

位置 調査区中央部の G 7 j9 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.76 m、短径 0.72 m の円形である。深さは 12cm で、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がりっている。

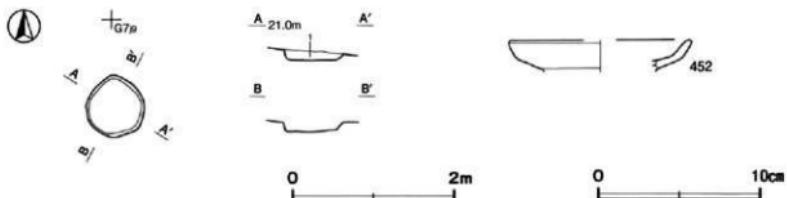
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 陶器片 1 点（小皿）が出土している。また、土師器片 1 点（甕）、須恵器片 1 点（壺）も出土している。452 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から近世後半と考えられる。性格については不明である。



第 280 図 第 3240 号土坑・出土遺物実測図

第3240号土坑出土遺物観察表（第280図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
452	陶器	小皿	[11.0]	[20]	-	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ	覆土中	5%

第3612号土坑（第281・282図）

位置 調査区南西部のJ 4 a9区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸138m、短軸122mの不定形で、長軸方向はN-56°Wである。深さは94cmで、底面は凹凸があり、壁は外傾して立ち上がっている。

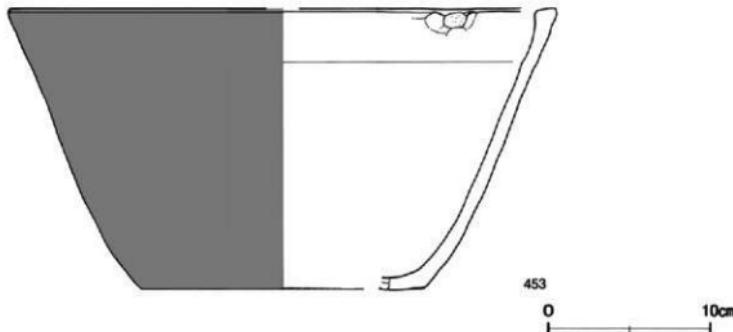
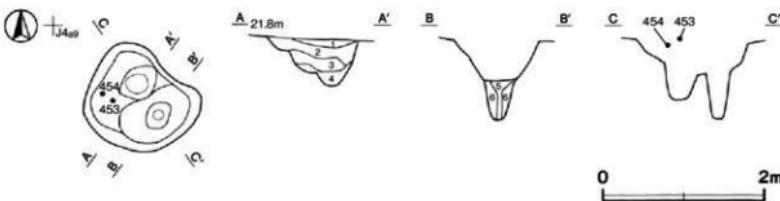
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

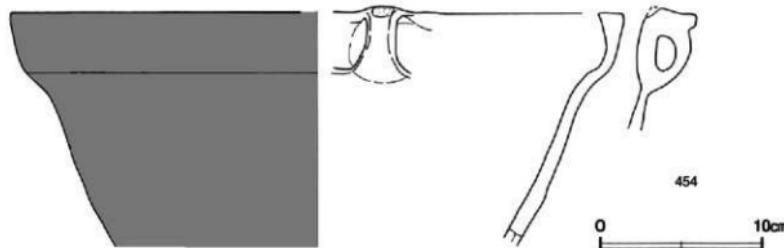
1	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	4	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	黒	褐	ロームブロック少量
3	黒	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	褐	色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師質器片8点（内耳鏡）が出土している。また、土師器片11点（壺3、甕8）、須恵器片1点（壺）も出土している。453・454は北西部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。形状から柱穴の可能性が考えられるが、建物の配列や構造を特定することはできなかった。



第281図 第3612号土坑・出土遺物実測図



第282図 第3612号土坑出土遺物実測図

第3612号土坑出土遺物観察表（第281・282図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
453	土師質土器	内耳鍋	[33.5]	17.2	[17.4]	長石・石英・紫母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳1か所残存	上層	20% 外面塗付着
454	土師質土器	内耳鍋	[35.8]	(14.8)	-	長石・石英・紫母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳1か所残存	上層	10% 外面塗付着

第3619号土坑（第283図）

位置 調査区南西部のJ4h8区。標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.12m、短軸1.14mの長方形で、長軸方向はN-10°-Eである。深さは40cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

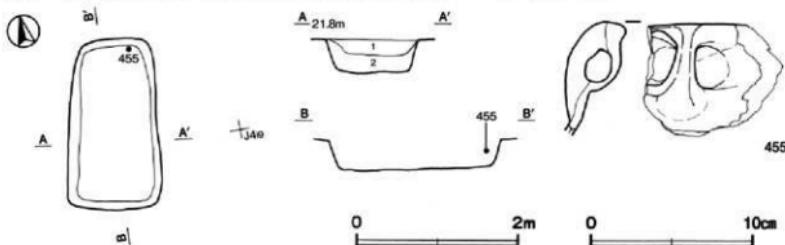
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師質土器6点（内耳鍋）が出土している。また、流れ込んだ土師器片21点（坏3、甕18）、須恵器片5点（坏4、瓶頸1）も出土している。455は北部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。性格については不明である。



第283図 第3619号土坑・出土遺物実測図

第3619号土坑出土遺物観察表（第283図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
455	土師質土器	内耳鍋	-	(6.9)	-	長石・石英・紫母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳1か所残存	中層	5% 外面塗付着

第3661号土坑（第284・285図）

位置 調査区南西部のJ 4 d9区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第281号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第281号溝に掘り込まれているため、南北軸は158mで、東西軸は181mしか確認できなかった。東西軸方向はN-78°-Eで、平面形は不定形と推定される。深さは22cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。底面の南部には、長径30cm、短径20cmの楕円形で、深さ23cmのピットが確認できた。性格は不明である。

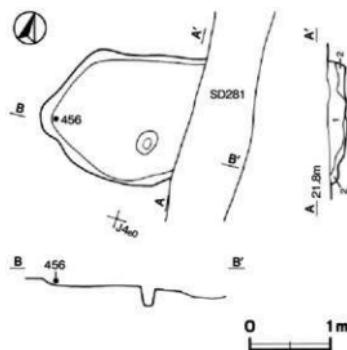
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

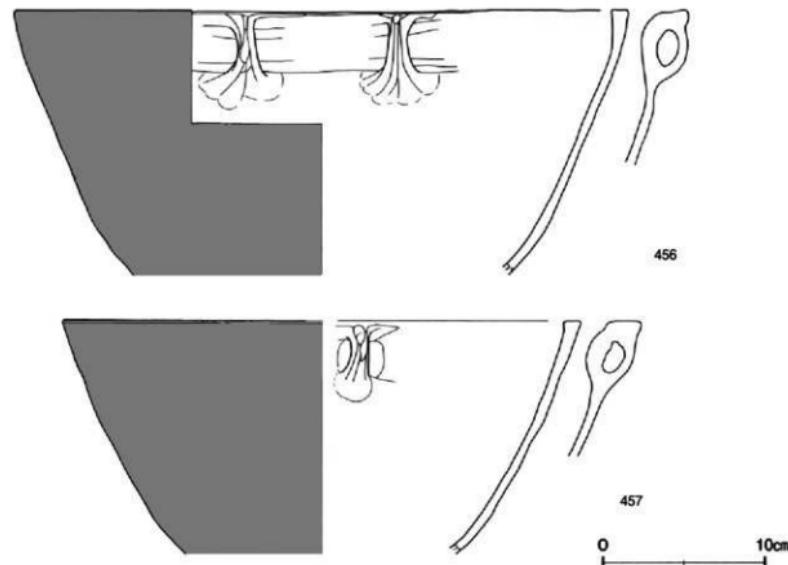
- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片8点（内耳鍋）が出土している。また、土師器片39点（壺12、甕27）、須恵器片2点（甕）も出土している。456は西壁際の覆土下層、457は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。性格については不明である。



第284図 第3661号土坑実測図



第285図 第3661号土坑出土遺物実測図

第3661号土坑出土遺物観察表（第285図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
456	土師壺 土器	内耳罐	[328]	(16.4)	-	長石・石英・ 雲母・鉄斑	明褐色	普通	口縁部外・内面横ナギ 内耳2が所残存	下層	30% 外面墨付裏
457	土師壺 土器	内耳罐	[320]	(14.4)	-	長石・石英・雲母	に赤い垂釉	普通	口縁部外・内面横ナギ 内耳1が所残存	覆土中	10% 外面墨付裏

第3995号土坑（第286図）

位置 調査区北部のG712区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径120m、短径0.88mの楕円形で、長径方向はN-53°Wである。深さは32cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

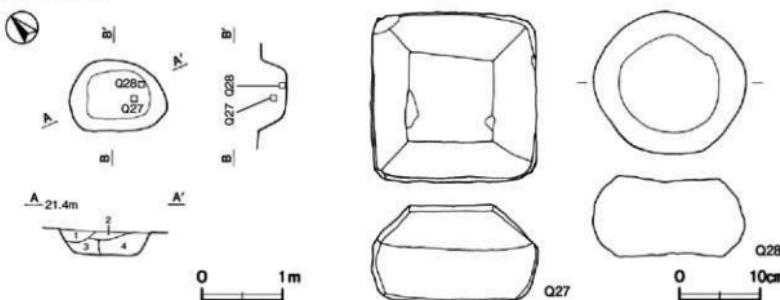
土層解説

1 黒暗褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 ローム粒子少量

3 黒褐色 ロームブロック微量
4 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 石製品2点（五輪塔）が出土している。また、土師器片3点（壺）、須恵器片1点（壺）も出土している。Q28は東部の底面、Q27は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から中世と考えられる。出土遺物から墓坑との関連性が考えられるが、詳細については不明である。



第286図 第3995号土坑・出土遺物実測図

第3995号土坑出土遺物観察表（第286図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q27	五輪塔	21.2	20.6	12.0	(0.180)	花崗岩	火輪一部欠損	下層	
Q28	五輪塔	17.6	18.9	10.0	4.780	花崗岩	水輪	底面	

第5631号土坑（第287図）

位置 調査区南西部のK315区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第405号溝跡を掘り込み、第398号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径1.56mの円形である。深さは40cmで、底面は皿状であり、壁は緩やかに傾斜している。

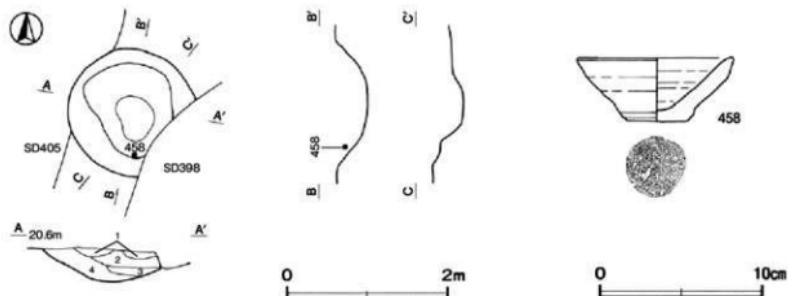
覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
2 灰褐色 ロームブロック微量。燒土粒子・炭化粒子微量
3 黑褐色 ロームブロック少量
4 黑褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 21 点（小皿 1、内耳鉢 19、擂鉢 1）が出土している。また、縄文土器片 1 点（深鉢）、土師器片 11 点（壺 6、甕 5）も出土している。458 は南部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第 287 図 第 5631 号土坑・出土遺物実測図

第 5631 号土坑出土遺物観察表（第 287 図）

番号	性別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
458	土師質土器	小皿	95	39	38	長石・石英	灰青褐色	普通	クロナデ 底部削鉗系切り後ヘナダ	中層	90%

第 5637 号土坑（第 288・289 図）

位置 調査区南西部の L 3 d5 区、標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 404 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.04 m、短径 0.88 m の楕円形で、長径方向は N - 70° - E である。深さは 48cm で、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

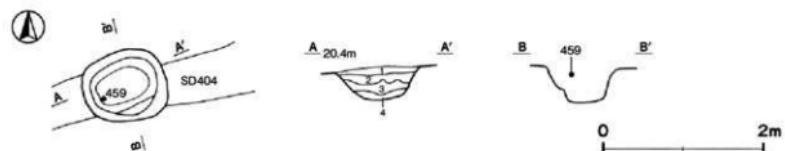
覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

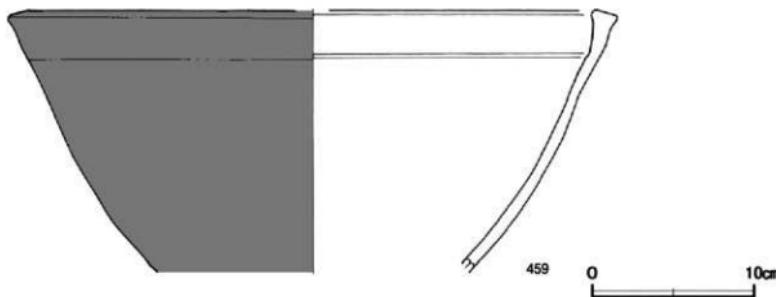
- 1 黒褐色 ローム粒子微量、粘土ブロック・焼土粒子微量
2 黑褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
3 灰褐色 ロームブロック少量
4 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（鍋）が出土している。また、須恵器片 1 点（蓋）も出土している。459 は南西部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 15 世紀後半から 16 世紀前半と考えられる。性格は不明である。



第 288 図 第 5637 号土坑実測図



第289図 第5637号土坑出土遺物実測図

第5637号土坑出土遺物観察表（第289図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
459	土師質土器	總	[350]	(16.2)	—	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部外・内面擦痕ナデ 体部外・内面ナデ	上層	30% 外縁環状

第5670号土坑（第290図）

位置 調査区南西部のL3c5区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.74m、短径0.68mの円形である。深さは72cmで、底面は平坦であり、壁は直立して立ち上がっている。

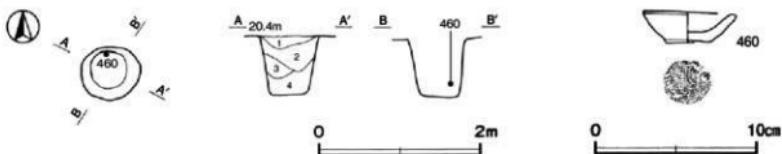
覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子微量	3 黒褐色	燒土粒子微量
2 黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・燒土粒子微量	4 黒褐色	粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片6点（小皿1、擂鉢5）が出土している。また、須恵器片1点（蓋）も出土している。460は北部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第290図 第5670号土坑・出土遺物実測図

第5670号土坑出土遺物観察表（第290図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
460	土師質土器	小皿	5.6	2.0	2.8	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	褐	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	下層	90% PL67

第 5672 号土坑（第 291 図）

位置 調査区南西部の L 3 c8 区、標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 5673 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.19 m の円形である。深さは 26 cm で、底面は平坦であり、壁は緩やかに傾斜している。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

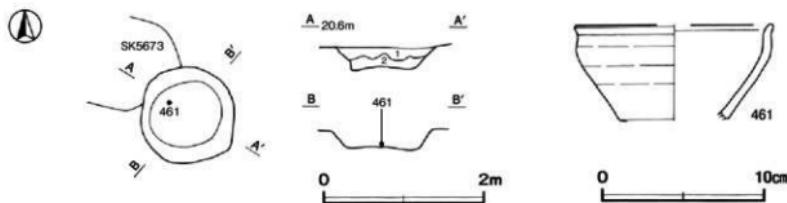
1 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 陶器片 1 点（天目茶碗）が出土している。また、土師器片 4 点（壺 1、甕 3）も出土している。

461 は中央部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 16 世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第 291 図 第 5672 号土坑・出土遺物実測図

第 5672 号土坑出土遺物観察表（第 291 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
461	陶器	天目茶碗	[122]	(59)	-	精良 鉄輪	黒褐色	良好	外・内面鉄輪 底部周辺露胎	底面	10%

第 5687 号土坑（第 292・293 図）

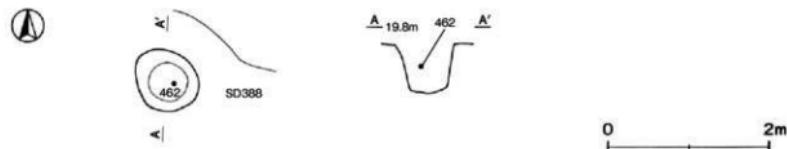
位置 調査区南西部の L 3 c4 区、標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 388 号溝に掘り込まれている。

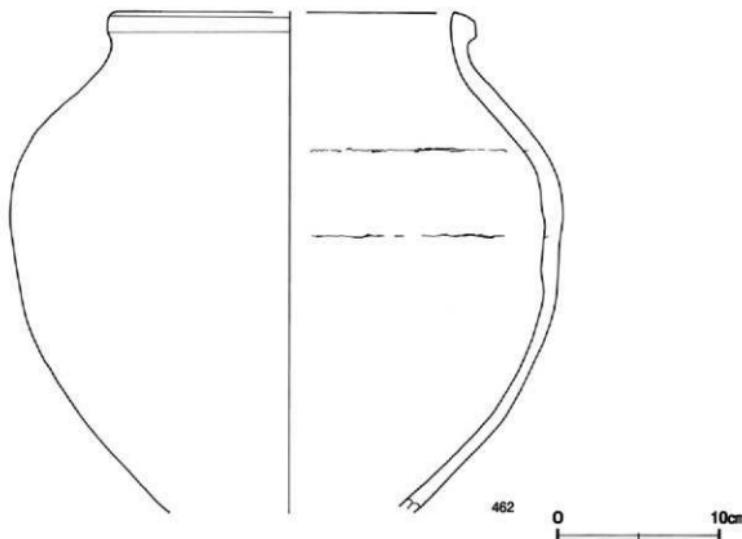
規模と形状 長径 0.88 m、短径 0.74 m の楕円形で、長径方向は N - 52° - W である。深さは 56 cm で、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（甕）が出土している。また、須恵器片 1 点（甕）も出土している。462 は南東部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から中世中期と考えられる。性格は不明である。



第 292 図 第 5687 号土坑実測図



第293図 第5687号土坑出土遺物実測図

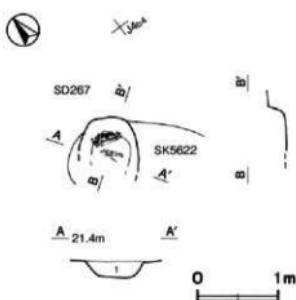
第5687号土坑出土遺物観察表（第293図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	新土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
462	土器質土器	甕	[224]	(308)	-	灰石・石英・紫母 赤鉄鉱・白鐵鉱	明赤褐色	普通	口縁部外・内面クロナナ 体部外・内面ナナ	中層	50% PL68

イ 馬骨を伴う土坑

第5618号土坑（第294図）

位置 調査区南西部のJ4 b3区。標高21mほどの平坦な台地上に位置している。



第294図 第5618号土坑実測図

重複関係 第5622号土坑、第267号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南西半部に搅乱を受けているため、北西・南東径は0.72m、北東・南西径は0.54mしか確認できなかった。北東・南西径方向はN-35°-Eで、平面形は楕円形と推定される。深さは18cmで、底面は平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることがら埋め戻されている。

土層解説
1 細 細 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 覆土上層から馬骨10点（馬歯7、頭骨3）が出土している。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため明確ではないが、重複関係や形狀などから中世以降と考えられる。性格は不明である。

第 5656 号土坑（第 295 図）

位置 調査区西部の I-4j3 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 267 号跡を掘り込んでいる。

規模と形狀 長径 1.14 m、短径 1.06 m の円形である。深さは 16 cm で、底面は皿状であり、壁は緩やかに立ち上がっていている。

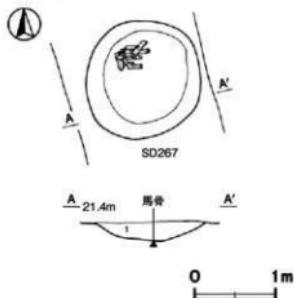
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 塗 土色 ロームブロック中量

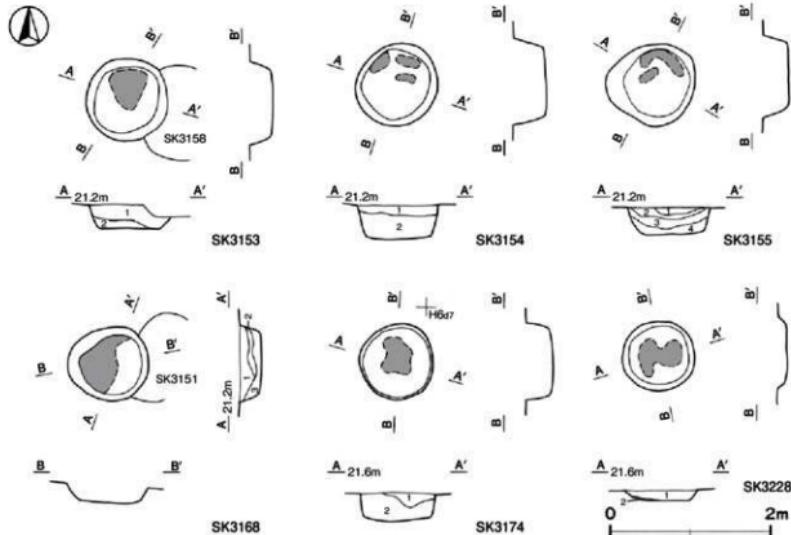
遺物出土状況 底面から馬骨片 14 点（左側の中手骨・手根骨、中足骨）が出土している。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため明確ではないが、重複関係や形狀などから中世以降と考えられる。性格は不明である。

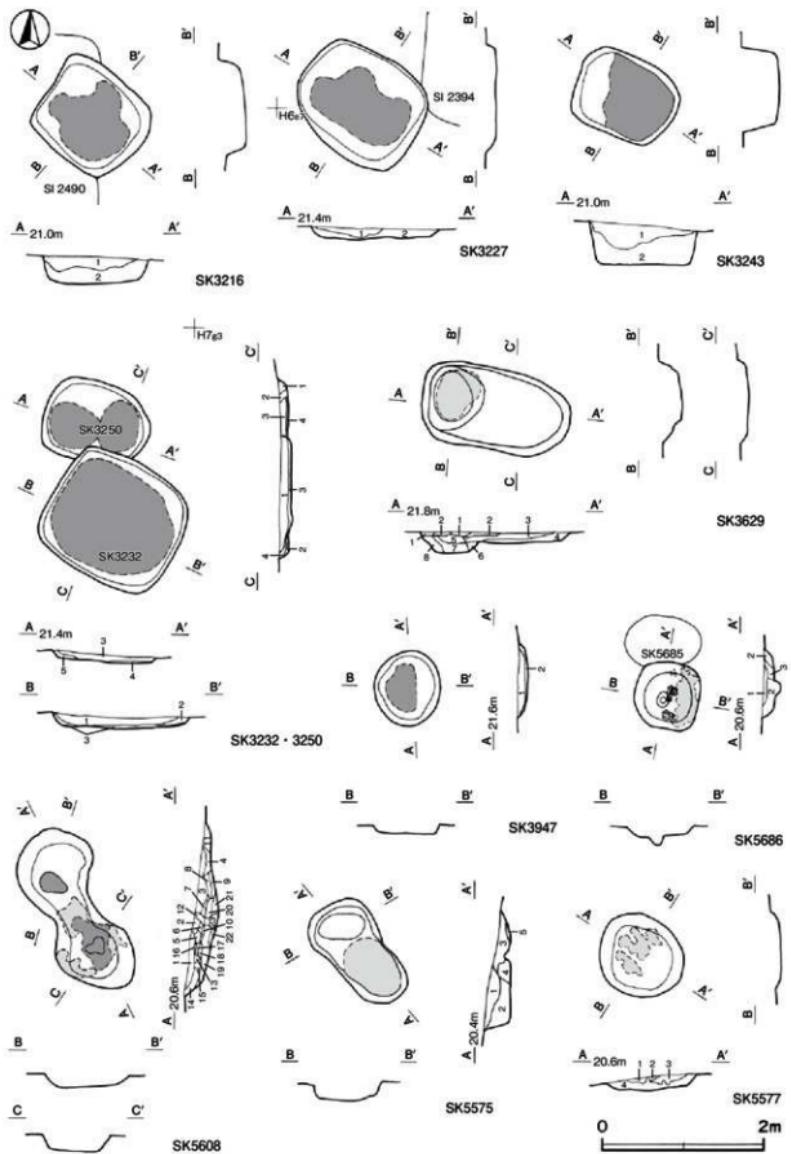


第 295 図 第 5656 号土坑実測図

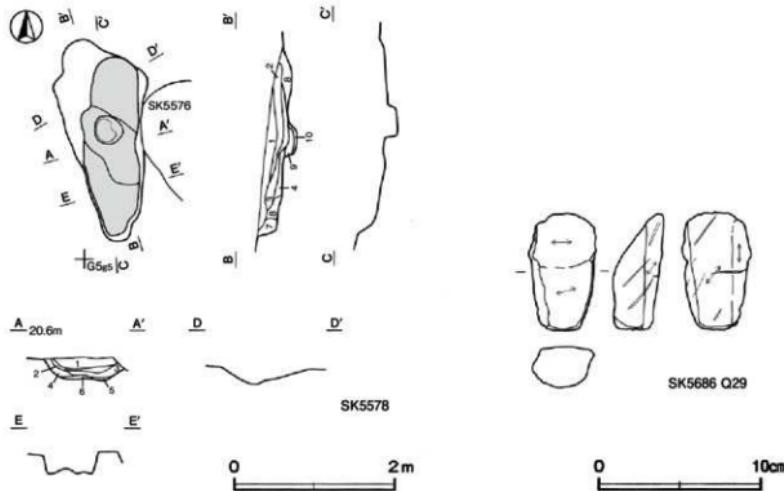
ウ 火を用いた痕跡のある土坑（第 296 ~ 298 図）



第 296 図 火を用いた痕跡のある土坑実測図（1）



第297図 火を用いた痕跡のある土坑実測図（2）



第298図 火を用いた痕跡のある土坑（3）・出土遺物実測図

第5686号土坑出土遺物観察表（第298図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 29	砥石	72	42	31	913	凝灰岩	表面3面	覆土中	PL76

第3153号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量

第3154号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第3155号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子中量

第3168号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
3 黑褐色 ロームブロック少量

第3174号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
2 褐色 ローム粒子多量

第3216号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量
2 黑褐色 ロームブロック中量

第3227号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第3228号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
2 黑褐色 炭化物中量、ローム粒子微量

第3232号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量
3 黑褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子中量

第3243号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第3250号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量
2 明褐色 ローム粒子多量
3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 黑褐色 炭化粒子多量、焼土粒子微量
5 暗褐色 ローム粒子中量

第3629号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子極微量
2 赤褐色 烧土粒子中量、炭化粒子極微量
3 極暗褐色 ロームブロック極微量
4 極暗褐色 ローム粒子少量
5 赤褐色 烧土粒子中量、炭化粒子微量、ロームブロック微量
6 暗褐色 ローム粒子微量
7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
8 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子極微量

第 5947 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

第 5575 号土坑土層解説

1 にぶい褐色 焼土ブロック多量
2 黒褐色 炭化物多量
3 暗褐色 焼土ブロック・炭化物少量
4 明赤褐色 焼土ブロック多量
5 褐色 ロームブロック少量

第 5577 号土坑土層解説

1 赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 黑褐色 炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量
4 褐色 ローム粒子中量

第 5578 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量
2 褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック少量
5 にぶい赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
6 褐色 ロームブロック微量
7 黑褐色 炭化粒子少量
8 暗褐色 ローム粒子少量
9 暗赤褐色 炭化物中量、焼土粒子少量
10 褐色 ロームブロック中量

第 5608 号土坑土層解説

1 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量
2 黑褐色 烧土粒子・炭化粒子微量
3 黑褐色 烧土粒子・炭化粒子微量（2より粘性強）
4 暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量
5 黑褐色 烧土ブロック・炭化粒子微量
6 黑褐色 炭化粒子微量
7 褐色 ロームブロック少量
8 暗赤褐色 烧土ブロック中量、炭化粒子少量
9 褐色 ローム粒子少量
10 黑褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
11 暗褐色 烧土粒子・炭化粒子微量
12 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
13 黑褐色 烧土ブロック少量
14 暗褐色 烧土粒子・炭化粒子微量
15 黑褐色 烧土ブロック・炭化粒子少量
16 明赤褐色 烧土粒子少量
17 にぶい褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
18 黑褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量
19 黑褐色 烧土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量
20 明赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量
21 褐色 烧土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
22 にぶい褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
23 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 5686 号土坑土層解説

1 黑褐色 烧土粒子中量、ロームブロック・炭化物少量
2 黑褐色 烧土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量
3 黑褐色 ロームブロック・炭化物、焼土粒子中量

表21 中世・近世土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 横		壁面	底面	覆 土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3078	F98	N - 26° - E	不定形	136 × 108	51	外傾	凹凸	人為	陶器片	本跡→SD218
3240	G79	-	円形	0.76 × 0.72	12	外傾	平坦	人為	陶器片	
3612	J469	N - 56° - W	不定形	138 × 122	94	外傾	凹凸	人為	土師質土器片	
3619	J488	N - 10° - E	長方形	212 × 114	40	外傾	平坦	自然	土師質土器片	
3661	J469	N - 28° - E	〔不定形〕	(181) × 158	22	外傾	平坦	人為	土師質土器片	本跡→SD281
3995	G762	N - 53° - W	稍円形	120 × 0.88	32	外傾	平坦	人為	五輪塔	
5631	K35	-	〔円形〕	156 × 156	40	縦斜	直立	人為	土師質土器片	SD065→本跡 SD098→
5637	L3d5	N - 70° - E	稍円形	104 × 0.88	48	外傾	平坦	人為	土師質土器片	SD404→本跡 SH510新田不明
5670	L3c5	-	円形	0.74 × 0.68	72	直立	平坦	人為	土師質土器片	
5672	L3c8	-	円形	1.19 × 1.19	26	縦斜	平坦	人為	陶器片	SK5673→本跡
5687	L3c4	N - 52° - W	稍円形	0.88 × 0.74	56	外傾	平坦	-	土師質土器片	本跡→SD388

表22 馬骨を伴う土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 横		壁面	底面	覆 土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
5618	J463	N - 35° - E	〔椭円形〕	0.72 × (0.54)	18	縦斜	平坦	人為	馬骨	SK5622→SD267→ 本跡
5656	14J3	-	円形	1.14 × 1.06	16	縦斜	直立	人為	馬骨	SD267→本跡

表23 火を用いた痕跡のある土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面図	規 模		側 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3153	G7j5	-	円形	107 × 101	30	外傾	平坦	自然	土器片、須恵器片	本跡 → SK3158
3154	G7j5	-	円形	105 × 97	40	外傾	平坦	自然	土器片、須恵器片	
3155	G7j6	-	円形	103 × 102	33	外傾	平坦	自然	土器片、須恵器片	
3168	G7j6	-	円形	100 × 92	27	外傾	平坦	自然	土器片、須恵器片	SK3151 新田不明
3174	H6g6	-	円形	992 × 91	35	直立	平坦	人為	土器片、須恵器片	
3216	H7e7	N - 50° - W	隅丸長方形	128 × 118	28	外傾	平坦	人為	土器片、須恵器片	SI2490 → 本跡
3227	H6e7	N - 54° - W	隅丸長方形	158 × 134	14	緩斜	平坦	人為		SI2394 → 本跡
3228	H6f7	-	円形	989 × 85	12	緩斜	平坦	人為	土器片	
3232	H7g2	N - 58° - W	隅丸長方形	168 × 152	12	外傾	平坦	人為	土器片、須恵器片、磁器片	SK3250 → 本跡
3243	G7i8	N - 63° - W	隅丸長方形	126 × 101	46	外傾	平坦	人為	土器片	
3250	H7g2	N - 71° - W	楕円形	132 × 100	12	緩斜	平坦	人為		本跡 → SK3232
3628	J4c6	N - 89° - W	楕円形	185 × 100	25	緩斜	平坦	人為	土器片	SI3221 新田不明
3947	H6c8	N - 4° - W	楕円形	992 × 0.80	14	緩斜	平坦	自然		
5575	G5f5	N - 35° - W	楕円形	143 × 0.75	25	外傾	平坦	人為	土器片、須恵器片	
5577	G5e6	N - 44° - W	楕円形	111 × 0.98	11	緩斜	平坦	人為		
5578	G5f5	N - 10° - W	楕円形	253 × 0.93	29	外傾	平坦	人為	土器片	本跡 → SK5576
5608	G5e6	N - 29° - W	不定形	215 × 0.49	5 ~ 13	緩斜	凹凸	人為	土器片、須恵器片	
5686	L3c8	N - 8° - E	隅丸長方形	082 × 0.80	13	緩斜	平坦	人為	磁石	SK5685 → 本跡

(8) 道路跡

当調査区からは2条の道路跡が検出されており、いずれも中世から近世にかけて機能していたと考えられる。以下、構造の特徴について記述するが、ここでは土層断面のみを掲載し、平面図は全体図に示す。

第19号道路跡（第299図、付図1・2）

位置 調査区北部のG 9f4 ~ G 9g8区、標高21mほどの平坦な台地上から斜面部中段に位置している。

重複関係 第220号溝跡を掘り込み、第219号溝に掘り込まれている。

規模と構造 G 9g8区の南東部から西方向(N - 68° - W)に直線的に延び、確認できた長さは18.62mである。規模は上幅0.4 ~ 1.6m、下幅0.2 ~ 0.8cm、深さ15cmである。断面は浅いU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|---|-----|----------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量、燒土粒子微量 | 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、燒土粒子微量 | | | |



第299図 第19号道路跡実測図

所見 時期は、重複関係から中世から近世にかけて機能していたものと考えられる。

第20号道路跡（第300図、付図1・2）

位置 調査区北部のH6g3～J7a8区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。平成16年度に北西部の長さ27.5mと南西部の32.5m、平成20年度に中央部25.6mが調査された。また、平成16年度には南西側が調査区域外（現況道路）であったため、北東側しか調査できなかった。ここでは遺存状態のよい平成20年度調査部分を中心に記述する。

重複関係 第2355・2494・2551・3030号住居跡、第5996号土坑を掘り込み、第6007号土坑に掘り込まれている。第3270号土坑、第57号ピット群とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 H6g3区から南東方向（N=46°W）にJ7a8区まで直線的に延びているが、両端とも調査区域外に延びているため、長さは85.6mしか確認できなかった。規模は上幅1.7～23m、下幅0.7～1.1m、深さ10～36cmである。I6a7区からI7g2区までの南西側では、側溝が長さ25.6mにわたって確認された。規模は上幅0.3～0.9m、下幅0.2～0.5mで、深さ15～30cmである。断面は浅いU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。北東側には側溝はなく、緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

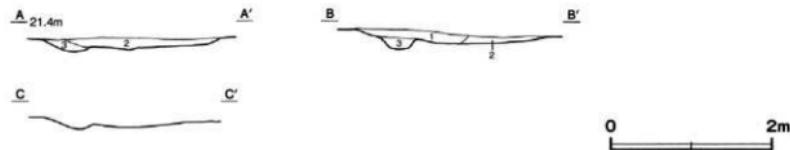
土層解説

1	褐	色	ロームブロック少量
2	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量

3 喀 岩 色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片114点（坏6、甕類108）、須恵器片13点（坏4、高台付坏1、甕類8）、陶器片1点（瓶、甕）、土製品1点（支脚）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、陶器片が常滑の甕片とみられることと重複関係から、中世から近世にかけて機能していたものと考えられる。明確な痕跡等は検出できなかったが、北東側に位置する第268号溝跡は幅約3.8mで併走していることから、本跡の側溝または土塁を挟む形で並行して機能していたことが想定できるが、詳細については不明である。



第300図 第20号道路跡実測図

表24 道路跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規 模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
19	G9g4～G9g8	N=68°W	直線	18.62	0.4～1.6	0.2～0.8	15	浅いU字状	傾斜	自然	S0220→本跡→S0219
20	H6g3～J7a8	N=46°W	直線	(85.6)	0.3～2.3	0.2～1.1	10～36	浅いU字状	傾斜	自然 土師器片、須恵器片、陶器片、土製品	S0220→本跡→S0225・254・255・303SK5996→本跡→S0320PGST 新旧不明

(9) 溝跡

第 218 号溝跡 (第 301 図、付図 1・2)

位置 調査区北東部の F 9 18 ~ G 9 g7 区、標高 19 ~ 21 m の平坦な台地上から斜面部中段に位置している。

重複関係 第 3078 号土坑、第 222・224 号溝跡を掘り込み、第 3075 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北端が調査区域外に延びているため、確認できた長さは 32.4 m である。G 9 g7 区から北北東方向 (N - 22° E) に直線的に延びている。上幅 0.90 ~ 1.50 m、下幅 0.08 ~ 0.52 m、深さ 47 ~ 52 cm で、溝底は南端部が最も高く、北端部との比高は 1.05 m である。断面形は U 字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がりついている。

覆土 4 層に分層できる。多くの層に粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

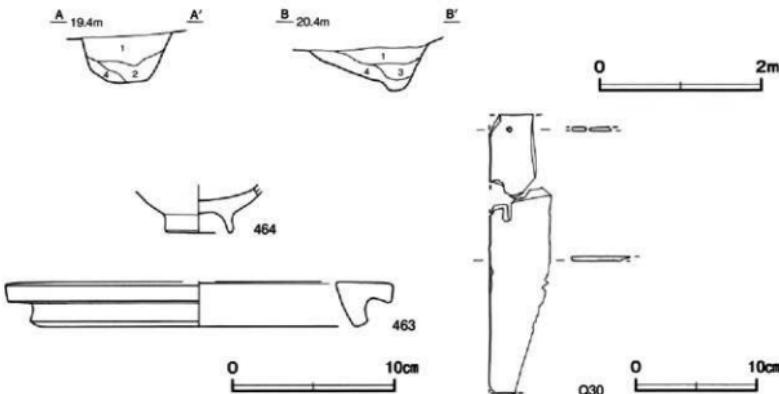
土層解説

1 細褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
2 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量

3 細褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
4 棕褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 74 点 (坏 8、鉢 1、壺 64、瓶 1)、須恵器片 7 点 (坏 1、高台付坏 1、壺 5)、土師質土器片 1 点 (五徳)、陶器片 7 点 (碗 1、鉢 6)、磁器片 4 点 (碗)、石器・石製品 2 点 (縦長剥片、石板) が出土している。463・464・Q 30 はいずれも覆土中から出土している。

所見 雨水等を北方向の谷津に排水する機能をもっていたものと推測できる。時期は、出土土器や重複関係から 17 世紀後半と考えられる。



第 301 図 第 218 号溝跡・出土遺物実測図

第 218 号溝跡出土遺物観察表 (第 301 図)

番号	種別	器種	口径	脚高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
463	土師質土器	五徳	[23.8]	2.8	[19.6]	接石・雲母	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中	10% PL68
464	陶器	瓶	-	[3.0]	3.9	緻密	にぶい黄褐色	良好	疊付無	覆土中	30% 壱面系青花

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 30	石板	[23.1]	(5.1)	0.3	(63.8)	滑石	孔 1 か所 孔径 0.3cm	覆土中	PL78

第219号溝跡（第302図、付図1・2）

位置 調査区北東部のG 9 i3～G 9 j4区、標高20～21mの平坦な台地上から斜面部上段に位置している。

重複関係 第19号道路跡、第220号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長さ20.4mで、G 9 j4区から北西方向(N=64°-W)に延び、G 9 i3区で北北東方向(N=20°-E)に屈曲して直線的に延びている。上幅0.54～1.56m、下幅0.27～0.70m、深さ22～34cmで、溝底は東端部が最も高く、コーナー部との比高は0.40m、北端部との比高は0.58mである。断面形はU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

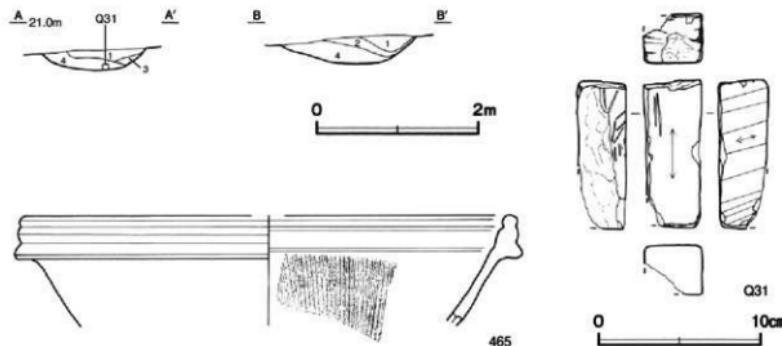
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム粒子少量	4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片129点(环3、高台付坏1、壺125)、陶器片10点(碗3、鉢6、擂鉢1)、磁器片3点(碗)、石器1点(砥石)が出土している。Q 31は北部の底面から、465は覆土中から出土している。

所見 形状から地境のための溝と考えられ、また、溝底の比高差から雨水等の排水の機能ももっていたものと推測できる。時期は、出土土器や重複関係から近世後半と考えられる。



第302図 第219号溝跡・出土遺物実測図

第219号溝跡出土遺物観察表（第302図）

番号	性別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
465	陶器	壺	[300]	(6.8)	—	長石・石英	灰褐色	普通	口縁第三段 内面擦目		覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 31	砥石	9.1	3.6	3.0	(1227)	凝灰岩	砥面2面 他は破断面	底面	PL76

第220号溝跡（第303図、付図1・2）

位置 調査区北東部のG 9 f5～I 7 j9区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2317・2326・2327・2329・2344・2352・2353号住居跡を掘り込み、第19号道路、第219号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南端が調査区外に延びているため、確認できた長さは 115.2 m である。I 7b9 区から北東方向 (N - 30° - E) に直線的に延びている。上幅 0.95 ~ 2.76 m、下幅 0.40 ~ 0.82 m、深さ 23 ~ 42 cm で、溝底は南端が最も高く、北端との比高差は 0.50 m である。断面形は、I 8b5 区から I 8h1 区までの長さ 31.5 m にわたってが浅い W 字状で、その他は浅い U 字状である。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

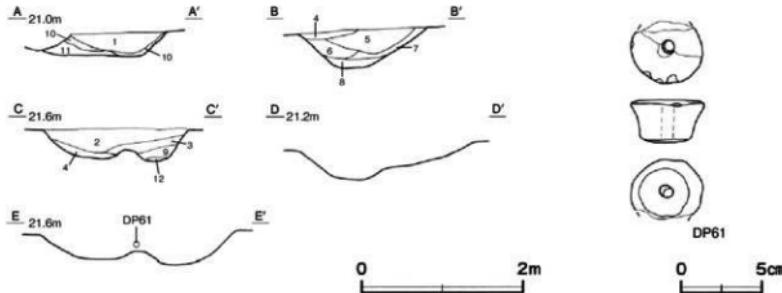
覆土 12 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量	8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
3 極暗褐色 ロームブロック微量	9 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量	10 暗褐色 ロームブロック少量
5 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量	11 黒褐色 ロームブロック微量
6 暗褐色 ローム粒子中量	12 暗褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片 2150 点 (环 425, 高台付坏 5, 壺 1720), 須恵器片 76 点 (环 31, 高台付坏 1, 壺 1, 瓶類 3, 壺 40), 陶器片 14 点 (碗), 磁器片 10 点 (碗), 土製品 2 点 (土玉, 紡錘車), 石器・石製品 2 点 (砥石, 紡錘車), 鉄製品 2 点 (不明) が覆土中から出土している。多量に出土している出土遺物は、多くの堅穴住居跡と重複しているために、埋め戻される際に混入したものと思われる。DP61 は南西部の覆土中層から出土している。

所見 東側の台地部と西側の谷部を区画するための機能を有していたものと考えられ、また、溝底の比高差から雨水等の排水の機能ももっていたものと推測できる。時期は、出土土器や時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から中世と考えられる。



第 303 図 第 220 号溝跡・出土遺物実測図

第 220 号溝跡出土遺物観察表 (第 303 図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP61	紡錘車	4.5	2.7	0.8	(35.8)	長石・石英	ナメ 一方向からの穿孔	中層	

第 224 号溝跡 (第 304 図、付図 1, 2)

位置 調査区北東部の G 9e6 ~ G 9f6 区、標高 20 m ほどの台地縁辺部上段に位置している。

重複関係 第 218 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北端を第 218 号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは 4.6 m である。G 9f6 区から北方向 (N - 4° - E) に直線的に延びている。上幅 0.97 ~ 1.16 m、下幅 0.56 ~ 0.89 m、深さ 18 cm で、溝底は

南端が最も高く、北部へ行くに従って低くなっている。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がりっている。

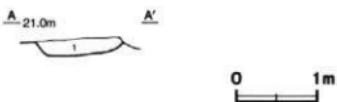
覆土 単一層である。

土層解説

1 基 地 色 ロームブロック中量

所見 雨水等を北方向の谷津に排水する機能をもつていて

たものと推測できる。時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から17世紀前半以前と考えられる。



第304図 第224号溝跡実測図

第225号溝跡 (第305図、付図1・2)

位置 調査区北東部のH7d9～H8d0区、標高20～21mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第83号方形堅穴造構、第141号井戸、第3107・3108・3111号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長さ423mで、H8d0区から西方向(N-86°W)に直線的に延びている。上幅0.49～166m、下幅0.18～0.90m、深さ10～47cmで、溝底は中央部が最も低く、東端との比高は0.98m、西端との比高は0.88mである。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1 黒 地 色 ロームブロック微量

4 基 地 色 ロームブロック少量

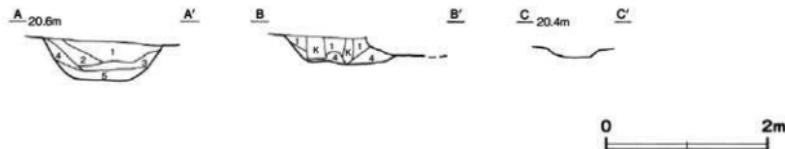
2 黒 地 色 ローム粒状微量

5 基 地 色 ロームブロック・粘土ブロック少量

3 暗 地 色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片59点(环6、甕51、瓶1、手捏土器1)、須恵器片4点(蓋1、鉢1、甕2)、陶器片2点(碗)が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 西方向に約80mの延長線上に軸を同じくする第264号溝跡が確認されており、台地を南北に区画する溝として機能していた可能性が考えられる。時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から中世前半と考えられる。



第305図 第225号溝跡実測図

第262号溝跡 (第306図、付図1・2)

位置 調査区中央部のH5h0～J5h0区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2459・2978・2981号住居跡、第343・461号掘立柱建物跡を掘り込み、第3757・5110号土坑、第267号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長さ82.6mで、J5h0区から北方向(N-2°W)に直線的に延びている。上幅0.54～150m、

下幅 0.45 ~ 1.08 m, 深さ 8 ~ 54 cm で、溝底の比高差はほとんどなく、最も高い北端部と南端部との比高は 0.08 m である。断面形は U 字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 5 層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

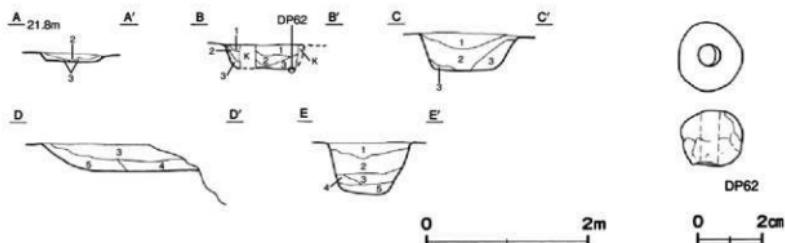
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

- 4 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 明褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 306 点（壺 86, 壺 219, 瓶 1）、須恵器片 5 点（蓋 2, 瓶 1, 瓶 2）、土製品 3 点（土玉 1, 支脚 2）が、北部と南部の覆土中から出土している。DP62 は南部の底面から出土している。

所見 台地平坦部に位置しており、溝底の比高差がほとんどないこと、延長線上にある第 225・264 号溝跡と直交していることから、土地利用ために区画する機能を有していたものと推測できる。時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から中世前半と考えられる。



第 306 図 第 262 号溝跡・出土遺物実測図

第 262 号溝跡出土遺物観察表（第 306 図）

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP62	土玉	21	17	06	56	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	底面	

第 263 号溝跡（第 307 図、付図 1・2）

位置 調査区西部の H 5c2 ~ J 4a9 区、標高 21 ~ 22 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2489・2868・2871 号住居跡、第 264 号溝跡を掘り込み、第 266・267・277 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南端を第 266 号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは 74.09 m である。J 4a9 区から北方向 (N - 16° - W) に直線的に延びている。上幅 0.60 ~ 1.50 m、下幅 0.30 ~ 1.30 m、深さ 14 ~ 19 cm で、溝底は南端部が最も高く、北端部との比高は 0.44 m である。断面形は深い U 字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 4 層に分層できる。多くの層にローム・焼土ブロックや炭化物が含まれていることから埋め戻されている。

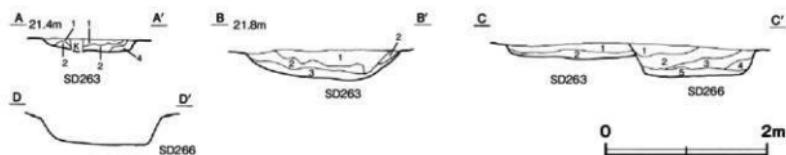
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

- 3 褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片 174 点（壺 18, 壺 156）、須恵器片 9 点（蓋 2, 壺 7）、陶器片 2 点（碗）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡の東部に中世に比定される掘立柱建物跡群があることから、台地を東西に区画する機能を有していたと推測できる。時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から中世前半と考えられる。



第307図 第263・266号溝跡実測図

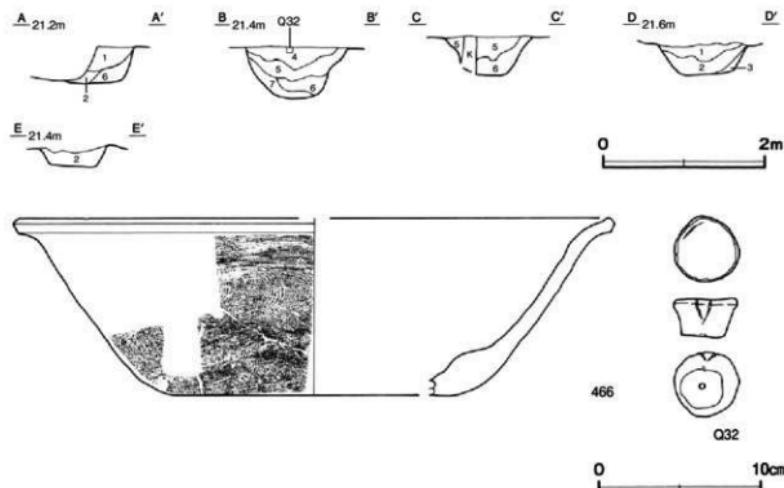
第264号溝跡（第308図、付図1・2）

位置 調査区西部のH 4f6～H 5e9区、標高21～22mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2871号住居跡を掘り込み、第149号井戸、第5606号土坑、第263号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東端が調査区域外に延びているため、確認できた長さは530mである。H 4f6区から東方向（N - 86° - E）に直線的に延びている。上幅0.50～1.40m、下幅0.18～0.60m、深さ17～37cmで、溝底は東端部が最も高く、西端部との比高は0.63mである。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。



第308図 第264号溝跡・出土遺物実測図

土層解説

1 黒	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック微量	5 黒	褐	色	ロームブロック少量、炭化物微量
2 暗	褐	色	ローム粒子微量	6 暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3 褐	色	ロームブロック微量		7 褐	色	ロームブロック少量	
4 黒	褐	色	ロームブロック少量				

遺物出土状況 土師器片 321 点（坏 41, 壺 280）、須恵器片 21 点（坏 11, 盖 7, 鉢 3）、陶器片 1 点（碗）、磁器片 1 点（碗）、石製品 1 点（紡錘車未製品）、鐵製品 2 点（釘）が出土している。土師器片と須恵器片は、北部を中心覆土中から出土している。Q 32 は西部の覆土上層から出土している。

所見 東方向に約 80 m の延長線上に軸を同じくする第 225 号溝跡が確認されており、台地を南北に区画する機能を有していた可能性が考えられる。時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から中世前半と考えられる。

第 264 号溝跡出土遺物観察表（第 308 図）

番号	種別	器種	口径	節高	底深	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
466	須恵器	鉢	[36.4]	10.9	[17.4]	瓦石・石英	灰	普通	口縁部外・内面橋ナデ、体部外側同心円状の叩き内面ナデ、体部下端ヘラ削り	覆土中	20%
Q 32	紡錘車未製品	直径	40	厚さ	0.4	重量	材質	全面研磨	穿孔未定	上層	PL78

第 266 号溝跡（第 307 図、付図 1・2）

位置 調査区西部の I 5 b2 ~ J 4 h8 区、標高 21 ~ 22 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2465・2489 号住居跡、第 263 号溝跡を掘り込み、第 3648・3649・3689 号土坑、第 267・274・277 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長さ 68.16 m で、J 4 h8 区から北方向 (N - 16° - E) には直線的に延びている。上幅 1.04 ~ 1.52 m、下幅 0.84 ~ 1.32 m、深さ 14 ~ 48 cm で、溝底は中央部が最も低く、北端部との比高は 0.12 m、南端部との比高は 0.32 m である。断面形は U 字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック微量	4 暗	褐	色	ロームブロック少量
2 暗	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 黒	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量				

遺物出土状況 土師器片 623 点（坏 104, 壺 519）、須恵器片 13 点（坏 4, 盖 1, 瓶 4, 壺 4）、土師質土器片 1 点（小皿）、陶器片 1 点（壺）、磁器片 1 点（碗）、鐵製品 1 点（不明）、鐵滓 1 点が、南部を中心に覆土中層から上層にかけて出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡の東部に中世に比定される掘立柱建物跡群があることから、台地を東西に区画する機能を有していたと推測できる。時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から中世前半と考えられる。

第 267 号溝跡（第 309・310 図、付図 1・2）

位置 調査区中央部の I 4 f3 ~ K 6 a1 区、標高 21 ~ 22 m などの平坦な台地上に位置している。

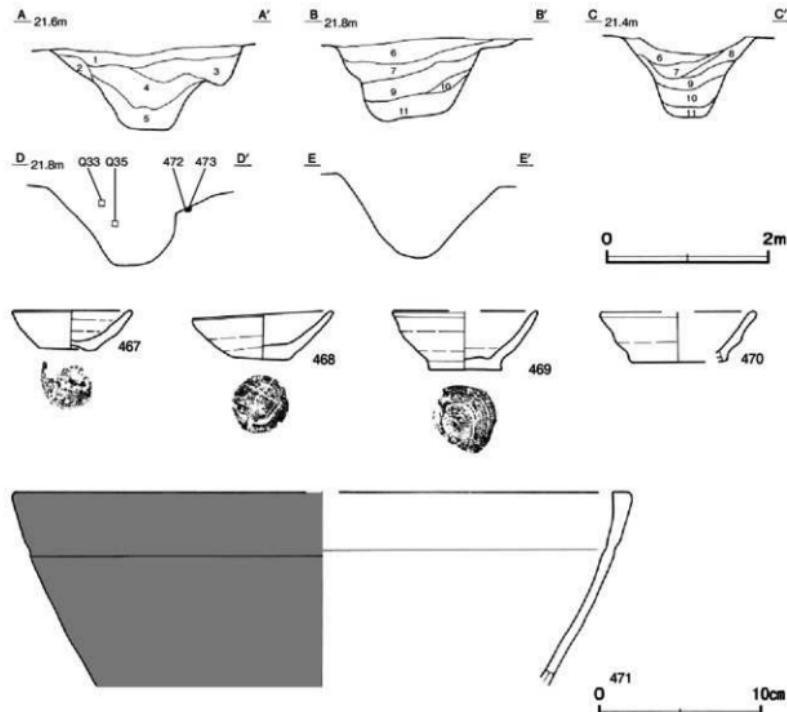
重複関係 第2481～2483・2486・2977・2979・2980・2985号住居跡、第469号掘立柱建物跡、第3292号土坑、第262・263・266・275・406B号溝跡を掘り込み、第3989・5618・5622・5656号土坑、第408号溝に掘り込まれている。第533号掘立柱建物跡、第3791号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 南東端が調査区域外に延びており、南西端を第407・408号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは148.2mほどである。J 4b3区から北方向(N-5°-W)に直線的に26.0m延び、I 4f3区では110度東へ屈曲し、直線的に94.4m延び、さらにJ 6e4区で南へは90度屈曲し、直線的に27.8m延び、K 6a1区で調査区域外に至っている。上幅1.24～2.36m、下幅0.30～0.84m、深さ94～109cmで、溝底は北部の東西端の比高差がほとんどない。東・西部ともにコーナー部が最も高く、南端との比高は0.35～0.40mである。断面形は逆台形で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 11層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

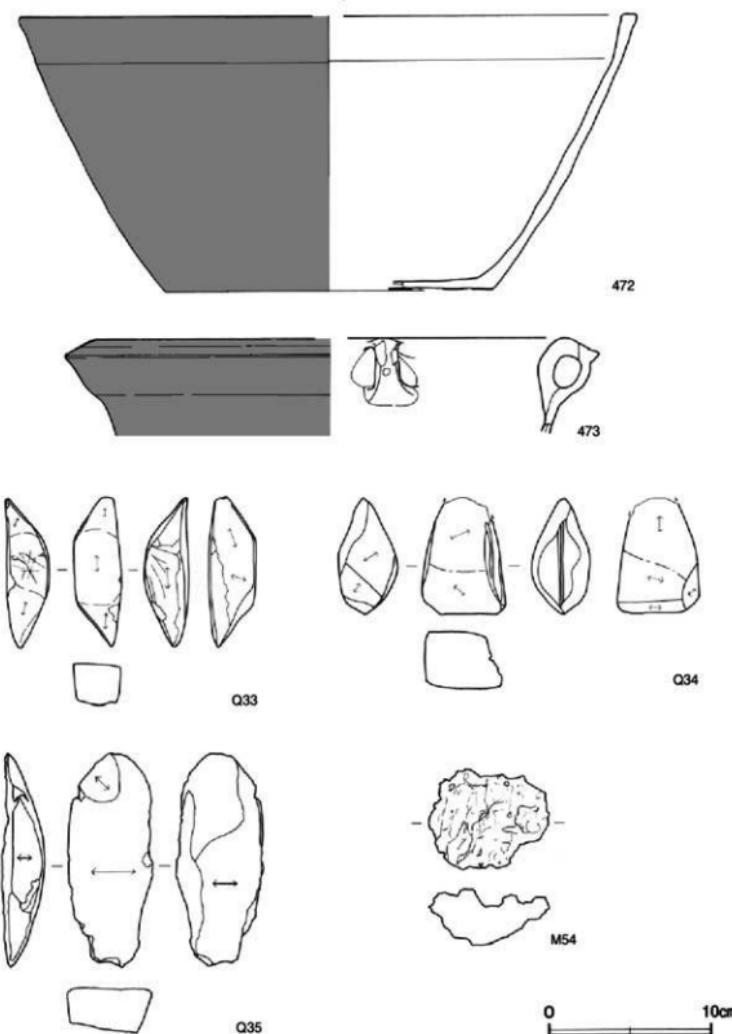
土層解説

1 黒 暗 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	7 暗 暗 色 ロームブロック・焼土粒子、炭化粒子微量
2 暗 暗 色 ロームブロック少量	8 暗 暗 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
3 黒 暗 色 ロームブロック中量	9 暗 暗 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
4 黒 暗 色 ロームブロック・焼土粒子微量	10 暗 暗 色 ローム粒子多量、焼土粒子、炭化粒子微量
5 暗 色 ロームブロック中量	11 暗 暗 色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量
6 黒 暗 色 ロームブロック・焼土粒子、炭化粒子微量	



第309図 第267号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 64 点（小皿 15、蓋 1、鍋 2、内耳鍋 41、鉢 1、擂鉢 4）、陶器片 7 点（碗 3、皿 1、鉢 1、甕 2）、石器 4 点（砥石）、鐵滓 9 点が出土している。このほかに土師器片 349 点（坏 61、高坏 6、甕 282）、須恵器片 19 点（坏 6、蓋 2、甕 11）も出土している。Q 35 は中央部の覆土中層、472・473・Q 33 は中央部の覆土上層から出土している。467～471・Q 34・M 54 は覆土中から出土している。



第 310 図 第 267 号溝跡出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器や重複関係から 15 世紀後半と考えられる。ほぼ同時期と考えられる第 527・531 号掘立柱建物跡が本跡の南側に位置していることから、これらの建物を区画する機能を有し、さらに第 408 号溝と連結し、雨水等を排水していたと推測できる。

第 267 号溝跡出土遺物観察表（第 309・310 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
467	土師質土器	小皿	72	25	34	石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	60% PL69
468	土師質土器	小皿	85	24~30	35	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	60%
469	土師質土器	小皿	[83]	36	44	長石・雲母	淡青	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	40%
470	土師質土器	小皿	(94)	31	(60)	長石・石英	にぶい黄	普通	ロクロナデ	覆土中	20%
471	土師質土器	鍋	[280]	(120)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	30% 外面墨付着
472	土師質土器	鍋	[380]	17.0	(20.5)	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	上層	30% 外面墨付着
473	土師質土器	内耳鍋	[330]	(59)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳 1 か所残存	上層	5% 外面墨付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 33	砥石	9.2	3.0	2.7	865	凝灰岩	砥面 4 面 他は破断面	上層	PL76
Q 34	砥石	(72)	5.2	3.6	(1448)	凝灰岩	砥面 4 面	覆土中	PL76
Q 35	砥石	13.2	5.2	2.7	1850	凝灰岩	砥面 3 面 他は破断面	中層	PL76

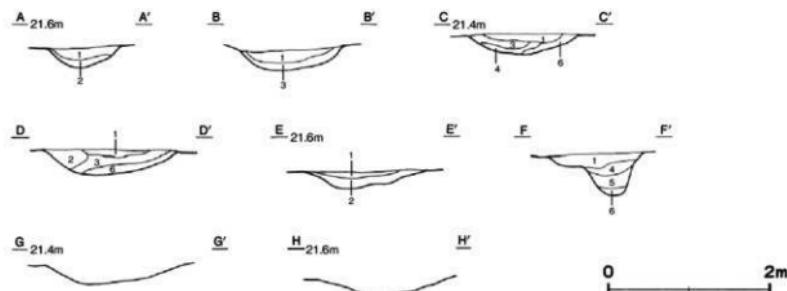
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 54	鐵鋤	7.4	6.2	3.5	174.0	鉄	着磁性有り	覆土中	

第 268 号溝跡（第 311 図、付図 1・2）

位置 調査区北部の H 6f3 ~ J 7a8 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。平成 16 年度に北西部の長さ 27.5 m と南西部の 32.5 m、平成 20 年度に中央部 25.6 m が調査された。

重複関係 第 2355・2394・2398・2399・2494・3029 号住居跡、第 537 号掘立柱建物跡、第 3264 号土坑に掘り込まれている。第 6000・6001・6004・6006・6008 号土坑、第 56・57 号ピット群とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と形状 東端が調査区域外に延びているため、確認できた長さは 85.6 m である。J 7a8 区から北西方向 (N - 44° - W) に直線的に延びている。上幅 0.47 ~ 1.80 m、下幅 0.20 ~ 1.00 m、深さ 20 ~ 52 cm で、溝底は東



第 311 図 第 268 号溝跡実測図

端部が最も高く、西端部との比高は0.13mである。断面形はU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック微量	4	褐	色	ロームブロック中量
2	暗	褐色	ロームブロック少量	5	暗	褐色	ロームブロック中量
3	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	褐	色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片327点(坏40、甕286、瓶1)、須恵器片29点(坏7、高台付坏1、蓋3、瓶2、甕16)、土師質土器片1点(鍋)、土製品1点(支脚)、鐵滓1点が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係と南西側に幅約3.8mで併走している第20号道路跡と同時に機能していたことが想定できることから、中世から近世と考えられる。また、第20号道路跡の側溝または土塁を抉む形で併走して機能していたことが想定できるが、詳細については不明である。

第274号溝跡(第312図、付図1・2)

位置 調査区西部のJ 4f5～J 4g9区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2464・2556号住居跡、第329号掘立柱建物跡、第266号溝跡を掘り込み、第170号井戸、第3644号土坑に掘り込まれている。第4955・4956号土坑とも重複するが、新旧関係は不明である。

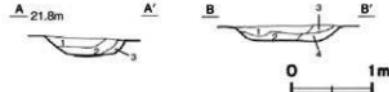
規模と形状 西端を第3644号土坑、東端を第170号井戸に掘り込まれているため、確認できた長さは16.6mである。J 4g9区から西方向(N-75°-W)に直線的に延び、第278号溝付近で途切れている。上幅0.80～0.98m、下幅0.42～0.58m、深さ17～21cmで、溝底の比高差はほとんどなく平坦である。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロック

クが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	無	暗	褐色	ロームブロック微量				
2	暗	褐色	ロームブロック微量	3	黒	褐	ローム粒子・炭化粒子微量	
3	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量	4	褐	色	ロームブロック少量
4	褐	色	ロームブロック少量					



第312図 第274号溝跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿、内耳鍋)、馬歯が出土している。また、土師器片95点(坏8、瓶1、鉢1、甕83、瓶1、手捏土器1)、須恵器片4点(甕)も出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から中世と考えられる。性格については不明である。

第275号溝跡(第313図、付図1・2)

位置 調査区西部のI 5i3～J 5a6区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2481・2483号住居跡を掘り込み、第267号溝に掘り込まれている。

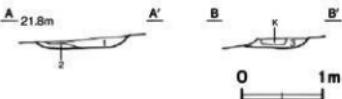
規模と形状 西端を第2481号住居跡と重複し、東端を第267号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは15.32mである。J 5a6区から西方向(N-67°-W)に直線的に延びている。上幅0.68～1.18m、下幅0.48～0.76m、深さ6～12cmで、溝底は東端部が最も高く、中央部との比高は0.05m、西端部との比高は0.05

mである。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。層厚が薄いため、堆積状況については不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量



第313図 第275号溝跡実測図

遺物出土状況 土師器片4点(环2, 梶1, 壺1), 須恵器片2点(环, 壺)が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から中世前半と考えられる。性格は不明である。

第277号溝跡(第314図、付図1・2)

位置 調査区南西部のI 4j0～I 4h4, I 4h4～J 4d4区、標高21 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2463・2555号住居跡、第263・266号溝跡を掘り込み、第76号地下式坑、第3291・3642・3669号土坑、第278号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西端を第278号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは46.63 mである。I 4j0区から西方向(N-73°W)に直線的に延び、I 4h4区ではほぼ90度に屈曲して南方向に直線的に延びている。上幅0.74～1.26 m、下幅0.26～0.83 m、深さ14～30 cmで、溝底はコーナー部が最も低く、東端部との比高は0.39 m、南端部との比高は0.16 mである。断面形は逆台形で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

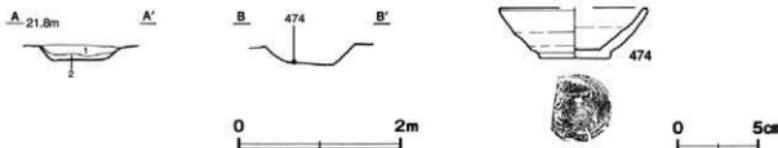
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子微量
- 2 灰褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片80点(环15, 壺65), 須恵器片8点(环4, 瓶1, 壺3), 土師質土器片23点(小皿6, 内耳鉢17), 陶器片3点(瓶1, 掘鉢2)が出土している。474は南西部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。同時期に機能していたと考えられる第267号溝跡の西コーナー部とはほぼ同様に屈曲して、幅3.1～5.1 mで併走していることから、通路を区画するための機能を有していたものと推測できる。



第314図 第277号溝跡・出土遺物実測図

第277号溝跡出土遺物観察表(第314図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	特徴ほか	出土位置	備考
474	土師質土器	小皿	[90]	30～32	43	石英	にぶい黄褐	普通	ロクロナデ	底部削鉗系切り	底面	50% PL68

第 278 号溝跡 (第 315 図、付図 1・2)

位置 調査区南西部の J 4 c4 ~ J 4 h5 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2556 号住居跡、第 5694 号土坑、第 277 号溝跡を掘り込み、第 156 号井戸、第 3636・3644 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北端を第 156 号井戸に掘り込まれ、南端は調査区域外に延びているため、確認できた長さは 18.54 m である。J 4 c4 区から北方向 ($N - 15^\circ - W$) に直線的に延び、J 4 h5 区に至っている。上幅 0.80 ~ 1.65 m、下幅 0.32 ~ 0.65 m、深さ 8 ~ 30 cm で、溝底は北端部が最も高く、南方に向かって傾斜して、中央部で 20 cm ほど一段低くなり、さらに緩やかに傾斜しながら南端部に至っている。断面形は浅い U 字形で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 3 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

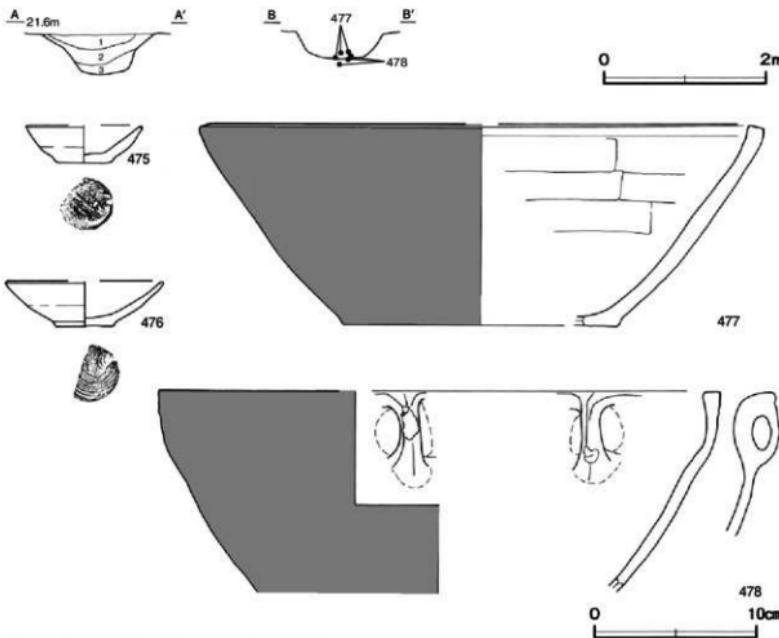
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

- 3 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片 43 点 (小皿 2、鍋 1、内耳鍋 40)、石器 1 点 (砥石) が出土している。また、土師器片 63 点 (坏 5、壺 58)、須恵器片 12 点 (坏 2、蓋 5、壺 5) も出土している。477・478 は中央部の底面から出土している。475・476 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 16 世紀前半と考えられる。性格は不明である。



第 315 図 第 278 号溝跡・出土遺物実測図

第278号溝跡出土遺物観察表（第315図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
475	土師質土器	小皿	[70]	23	33	石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り 外・内面磨滅	覆土中	60%
476	土師質土器	小皿	[95]	28	35	長石・石英・雲母	にぶい棕褐色	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り	覆土中	30%
477	土師質土器	碗	[330]	124	[170]	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面ラヌダ	底面	20% PL67 外面焼付青
478	土師質土器	内耳鍋	[348]	[124]	-	長石・雲母	にぶい棕褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳2か所残存	底面	20% PL67 外面焼付青

第388号溝跡（第316～318図、付図1・2）

位置 調査区分南西部のL3c3～L3h8区。標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第5687号土坑、第164号井戸跡、第404号溝跡を掘り込み、第5660号土坑、第405号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西端を第405号溝に掘り込まれており、東端は調査区域外に延びているため、確認できた長さは3218mである。L3c3区から東方向(N-77°W)へ直線的に4.0m延び、L3c5区では90度南へ屈曲し、直線的に12.5m延び、L3g4区でさらに90度東へ屈曲して直線的に15.5m延び、L3h8区で調査区域外に至っている。上幅1.58～3.50m、下幅0.50～1.50m、深さ44cmで、溝底は東端部が最も高く、コーナー部との比高は0.05m、北部との比高は0.10mである。断面形はU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

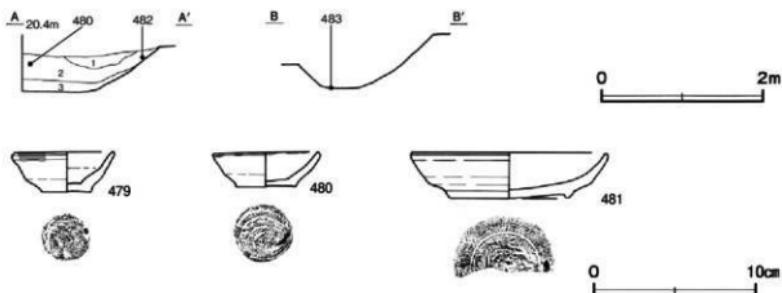
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

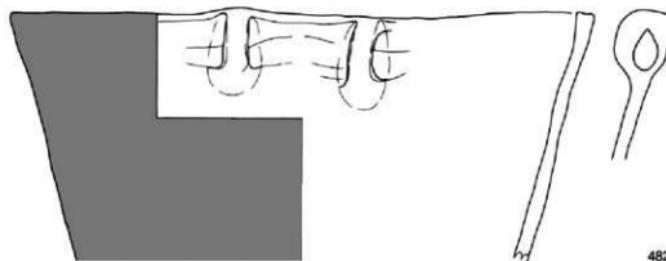
3 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片145点（小皿26、内耳鍋99、擂鉢20）、陶器片9点（碗1、皿3、不明5）、磁器片2点（小杯、不明）、石器2点（石臼、砥石）のほか、縄文土器片1点（深鉢）、土師器片85点（甕）、須恵器片15点（壺2、甕13）も出土している。483は南部の底面、480・482は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。479・481・484・485・TP4・Q36・Q37はいずれも覆土中から出土している。

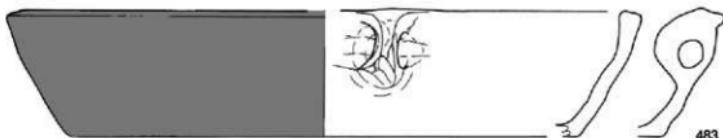
所見 規模と形状から北東部の区画と雨水等の排水の両方の機能を有していたものと推定できるが、東側が調査区域外のため、詳細は不明である。時期は、出土土器や重複関係から16世紀後半以前と考えられる。



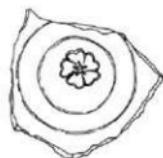
第316図 第388号溝跡・出土遺物実測図



482



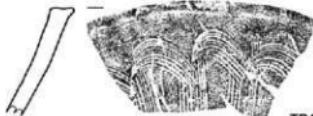
483



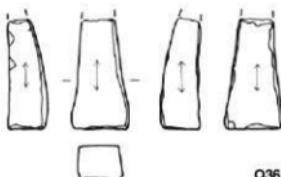
484



485



TP4



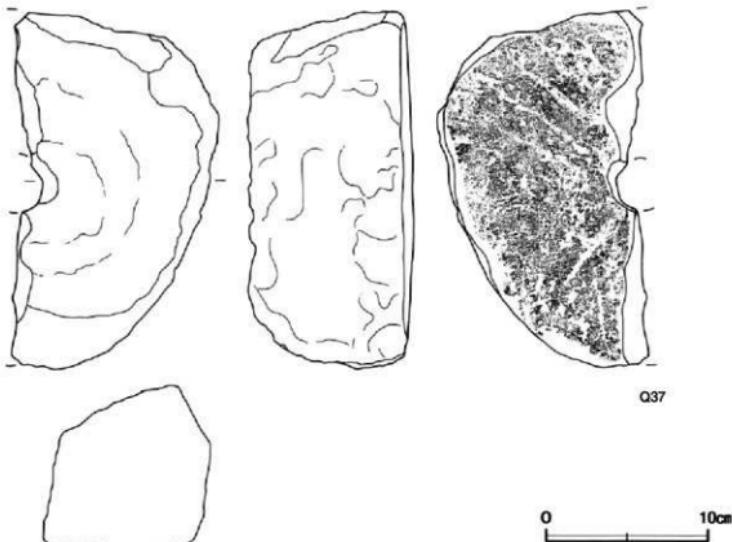
Q36

0 10cm

第317図 第388号溝跡出土遺物実測図(1)

第388号溝跡出土遺物観察表(第316~318図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
479	土器質 土器	小皿	6.2	2.5	3.0	長石・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り	覆土中	100% P149 油煙付着
480	土器質 土器	小皿	6.5	2.2	3.6	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り	上層	100% P149 油煙付着
481	陶器	皿	12.1	2.8	7.3	精良・灰釉	黄灰	良好	ロクロ成形	覆土中	50% 蓋口・美濃系
482	土器質 内耳鍋	[360]	(15.7)	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色鉱物・鐵	にぶい・黄褐	普通	口縁部外・内面撥ナデ 体部外・内面ナデ	上層	10% 外面撥付着
483	土器質 土器	内耳鍋	[370]	7.9	[31.5]	長石・石英・雲母・ 赤色鉱物・鐵	橙	普通	口縁部外・内面撥ナデ 体部外・内面ナデ	底面	10% 外面撥付着 蓋口・美濃系
484	陶器	皿	-	1.7	6.1	精良 灰釉	にぶい・黄褐	良好	ロクロ成形 底部内面花文押捺	覆土中	10% 蓋口・美濃系
485	磁器	小杯	-	(17)	2.9	精良 灰釉	灰白	良好	内面染付	覆土中	10% 蓋面系



第318図 第388号溝跡出土遺物実測図(2)

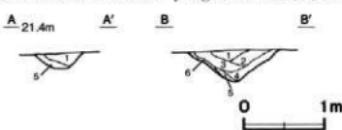
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴は	出土位置	備考
TP 4 土師質土器	器飾	長石・石英・雲母	灰褐色	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面9条1単位の擦り目	覆土中	PL72	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴
Q 36 砾石	(68)	36	24	(83.3)	34.5kg	砾石4面	覆土中 PL76

第397号溝跡(第319図、付図1・2)

位置 調査区西部のI 3j9～J 3g0区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第408号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北端が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは29.80mである。J 3g0区から北方向(N - 3° - W)に直線的に延び、I 3j9区で調査区域外に至っている。上幅0.22～1.10m、下幅0.10～0.58m、深さ20～42cmで、溝底は北部が最も高く、中央部との比高は0.15m、南端部との比高は0.04mである。断面形はV字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。



第319図 第397号溝跡実測図

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐 極色 ロームブロック少量	4 暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子少量	5 暗褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック少量	6 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片35点(坏3、高台付坏4、甕28)、須恵器片6点(坏2、甕4)、鉄滓8点が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係から16世紀前半以前と考えられるが、時期決定の根拠となる土器が出土していないため詳細は不明である。性格は不明である。

第399号溝跡 (第320・321図、付図1・2)

位置 調査区南西部のJ3i6～J4j2区、標高20～21mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第5614号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状両端とも調査区域外へ延びているため、確認できた長さは25.70mである。J4j2区から西方向(N-83°W)に直線的に延びている。上幅1.18～2.34m、下幅0.18～0.40m、深さ66～90cmで、溝底は東端部が最も高く、西端部との比高は0.23mである。断面形はV字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

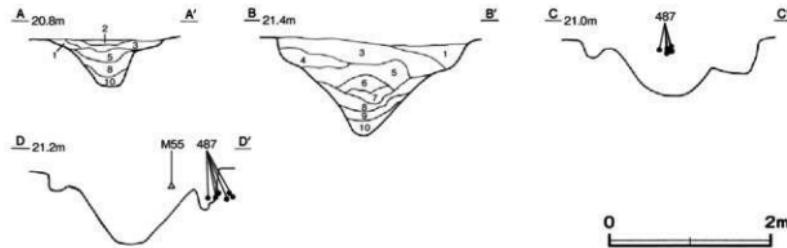
覆土 10層に分層できる。第1～7層は不規則な堆積状況を示すことから埋め戻されている。第8～10層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

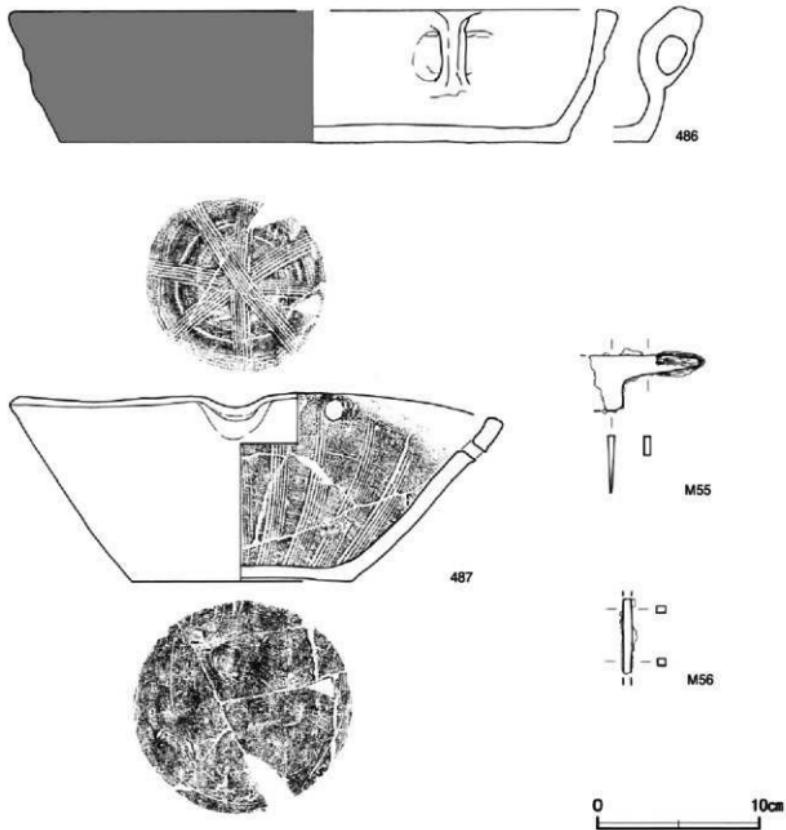
1 黒褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量	6 暗褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック、燒土粒子、炭化粒子微量	7 にぶい褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック少量	8 黒褐色 ローム粒子少量
4 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子微量	9 暗褐色 ローム粒子少量
5 黒褐色 ロームブロック、燒土粒子微量	10 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片69点(小皿10、内耳鍋56、擂鉢3)、陶器片3点(碗1、皿2)、鉄製品2点(包丁、釘)のほか、土師器片113点(坏27、高坏2、甕84)、須恵器片16点(蓋1、甕15)も出土している。487は東部の覆土中層から上層にかけて出土した破片が接合したものである。M55は東部の覆土上層、486・M56は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 規模と形状から雨水等の排水の機能を有していたものと推測できる。また、南側の第403号溝跡と幅約6m(芯々間7.4～8.5m)で併走しており、道路跡の可能性が想定されるが、硬化面等は確認されておらず、詳細について不明である。時期は、出土土器や重複関係から16世紀後半から17世紀前半と考えられる。



第320図 第399号溝跡実測図



第321図 第399号溝跡出土遺物実測図

第399号溝跡出土遺物観察表（第321図）

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	他成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
486 土器質 土器	内耳鉢	[36.2]	83	31.4	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側ナデ	底部へ 2段引	覆土中 40% 外面保有率
487 土器質 土器	縦縫	290	11.6	13.5	長石・石英・雲母 安息・小種	褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側ナデ	内面6 条1単位の揉り目	中・上層 90% PL67

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 55 鉢丁	(71)	(35)	0.4	(19.2)	鉄	刃部欠損		上層	PL80 木質付着
M 56 剪	(47)	0.6	0.4	(4.9)	鉄	両端部欠損 断面長方形		覆土中	PL81

第 402 号溝跡（第 322 図、付図 1・2）

位置 調査区南西部の K 3 e7～K 3 d9 区、標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 404 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長さは 7.88 m で、K 3 d9 区から西方向 (N - 76° - W) に直線的に延びている。上幅 0.90 ~ 1.19 m、下幅 0.36 ~ 0.70 m、深さ 32 ~ 37 cm で、溝底はほとんど比高差がなく、平坦である。断面形は U 字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 5 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

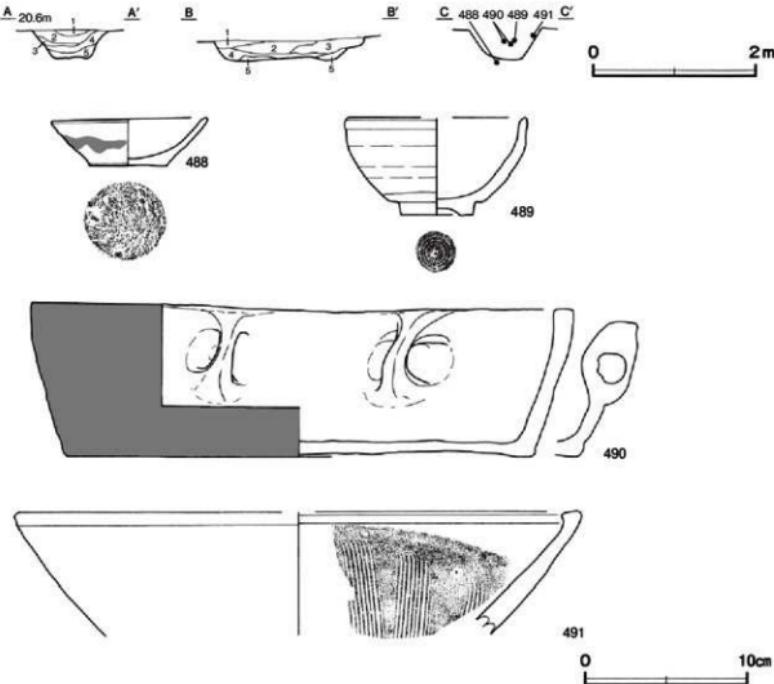
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 灰褐色 ロームブロック中量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量

- 4 黒褐色 ローム粒子中量
- 5 灰褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 34 点（小皿 1、内耳鍋 26、擂鉢 7）、陶器片 3 点（碗、擂鉢、不明）のほか、土師器片 46 点（壺 2、皿 2、蓋 1、甕 41）、須恵器片 8 点（壺 4、甕 4）も出土している。488 は中央部の底面から出土している。490 は西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。489 は西部の覆土中層、491 は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀中葉から後葉と考えられる。性格については不明である。



第 322 図 第 402 号溝跡・出土遺物実測図

第402号溝跡出土遺物観察表(第322図)

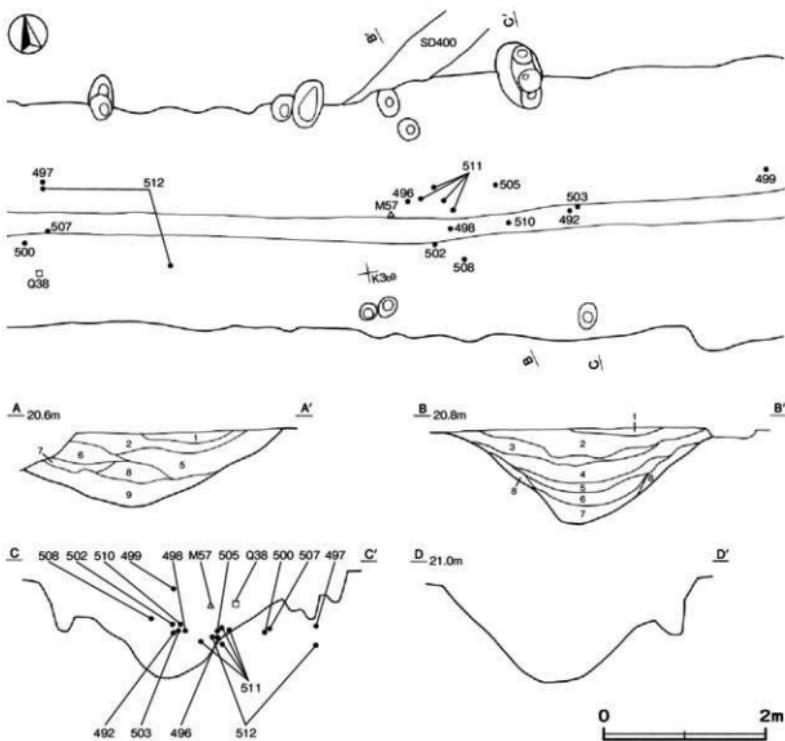
番号	種別	器種	口径	器高	底拌	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
488	土師器 土器	小皿	9.7	3.0	4.8	長石・石英 含母・赤色粒子	に赤い素地	普通	クロコナテ 底部刮軸切り後ナテ	底面	100% PL4B 油付着
489	陶器	大口茶碗	[11.0]	6.0	4.4	精良	明赤褐	良好	体部外・内面鉄輪 刈り出し高台 高台周辺露筋	中層	50% PL4C
490	土師器 土器	内耳鍋	33.4	9.5	28.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面機ナテ 体部外・内面ナテ 底部へア削り	中層	90% PL4B 外面露筋
491	陶器	擂鉢	[34.4]	(7.6)	-	長石・石英	赤灰	普通	クロコ成形 体部内面9条1単位の擂り目	上層	5% PL2

第403号溝跡(第323~325図、付図1・2)

位置 調査区南西部のJ 35 ~ K 4 b1 区、標高 20 ~ 21 m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第400・405号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南端が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは 25.44 m である。K 4 b1 区から西方向(N



第323図 第403号溝跡実図

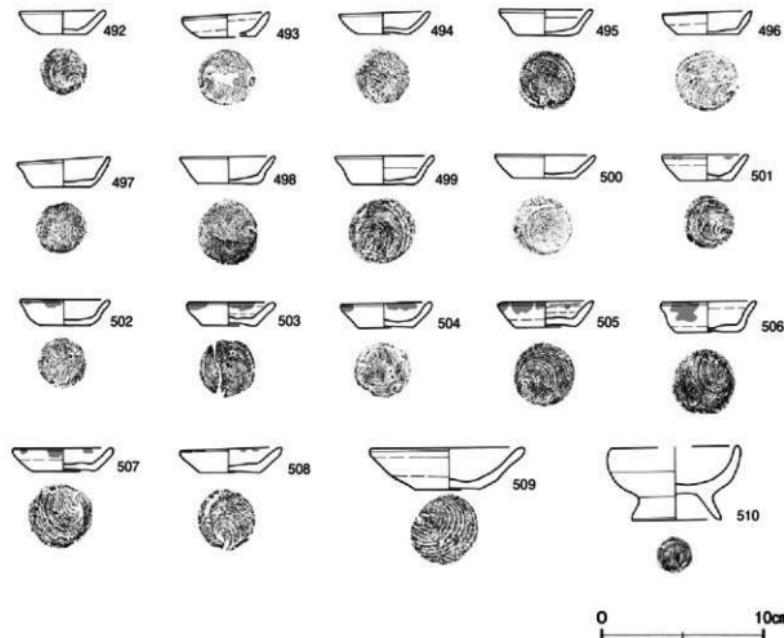
- 83° - W) に直線的に延びている。上幅 1.90 ~ 3.50 m、下幅 0.26 ~ 0.40 m、深さ 106 ~ 120cm で、溝底は東端部が最も高く、西端部との比高は 0.22 m である。断面形は U 字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 9 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

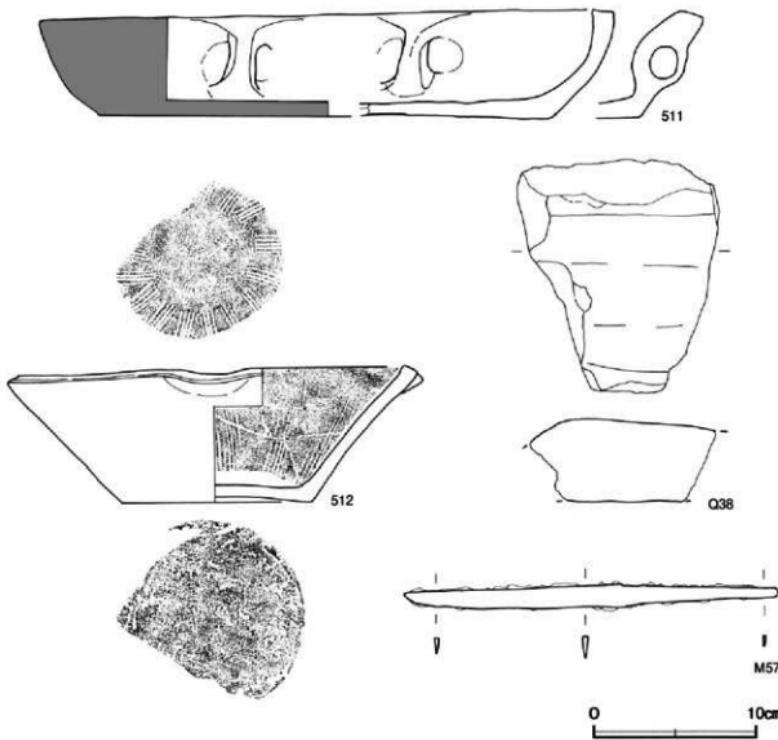
土層解説

1 細 褐 色 ローム粒子中量	6 灰 色 ローム粒子少量
2 細 褐 色 ロームブロック多量、粘土ブロック微量	7 灰 色 ローム粒子微量
3 細 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量	8 細 褐 色 ロームブロック少量
4 褐 灰 色 ロームブロック少量	9 極細 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
5 褐 灰 色 ローム粒子少量	

遺物出土状況 土師質土器片 225 点 (高台付椀 1、皿 3、小皿 28、内耳鍋 185、擂鉢 8)、陶器片 3 点 (碗 2、不明 1) のほか、土師器片 176 点 (坏 27、甕 148、瓶 1)、須恵器片 33 点 (坏 8、蓋 4、甕 21)、石器 1 点 (磨石)、鉄製品 1 点 (刀子) が、東部から中央部の覆土中層から上層にかけて出土している。492・496・498・502・503・505・508・510 は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。497・500・507 は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。511 は東部、512 は中央部の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。499・M 57 は東部、Q 38 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。493 ~ 495・501・504・506・509 はそれぞれ覆土中から出土している。



第 324 図 第 403 号溝跡出土遺物実測図 (1)



第325図 第403号溝跡出土遺物実測図(2)

所見 規模と形状から雨水等の排水の機能を有していたものと推測できる。また、南側の第399号溝跡と幅約6m(芯々間7.4~8.5m)で併走しており、道路跡の可能性が想定されるが、硬化面等は確認されておらず、詳細について不明である。時期は、出土土器から16世紀後半から17世紀前半と考えられる。

第403号溝跡出土遺物観察表(第324・325図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
492	土師質土器	小皿	5.3	1.5	2.8	長石・石英・雲母	褐	普通	ロクロナデ 底部刮軸系切り	中層	100% PL69
493	土師質土器	小皿	5.4	1.6	3.5	長石・石英・雲母	褐	普通	ロクロナデ 底部刮軸系切り後ヘラナデ	覆土中	90% PL69
494	土師質土器	小皿	5.6	1.4	3.3	長石・石英・雲母	褐	普通	ロクロナデ 底部刮軸系切り	覆土中	80% PL69
495	土師質土器	小皿	5.7	1.6	3.5	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	褐	普通	ロクロナデ 底部刮軸系切り	覆土中	80% PL69
496	土師質土器	小皿	5.5	1.5	3.8	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	ロクロナデ 底部刮軸系切り	中層	90% PL69
497	土師質土器	小皿	5.6	1.9	3.7	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	褐	普通	ロクロナデ 底部刮軸系切り後ナデ	中層	100% PL69
498	土師質土器	小皿	5.9	1.7	3.6	長石・石英	褐	普通	ロクロナデ 底部刮軸系切り後ナデ	中層	100% PL69

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
499	土師質土器	小皿	6.0	1.8	3.8	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り後ナデ	上層	100% PL69
500	土師質土器	小皿	6.1	1.5	3.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り	中層	100% PL69
501	土師質土器	小皿	5.3	1.6	3.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り	覆土中	100% PL69 油煙付着
502	土師質土器	小皿	5.5	1.6	3.1	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り後ナデ	中層	100% PL69 油煙付着
503	土師質土器	小皿	5.5	1.5	3.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り後ヘラナデ	中層	90% PL69
504	土師質土器	小皿	5.6	1.6	3.3	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り	覆土中	95% PL69
505	土師質土器	小皿	5.9	1.6	3.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り	中層	100% PL69 油煙付着
506	土師質土器	小皿	5.8	1.9	3.9	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り	覆土中	100% PL70 油煙付着
507	土師質土器	小皿	6.1	1.4	3.9	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り	中層	100% PL70 油煙付着
508	土師質土器	小皿	6.3	1.6	3.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り	中層	80% PL70 油煙付着
509	土師質土器	小皿	9.5	2.6	4.0	長石・石英・雲母	褐色	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り	覆土中	80% PL70
510	土師質土器	萬合台盤	[8.0]	4.5	5.4	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	ロクロナデ	中層	40% PL67
511	土師質土器	内耳皿	35.4	6.7	28.2	長石・石英・雲母・細塵	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	中層	70% PL68 外面塗付着
512	土師質土器	擂鉢	23.8	8.5	11.7	長石・石英・雲母・細塵	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面5 条1単位の盛り目	中層	60% PL67

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 38	石臼	(14.0)	(12.5)	5.2	(0.200)	雲母片岩	使用面1面	上層	

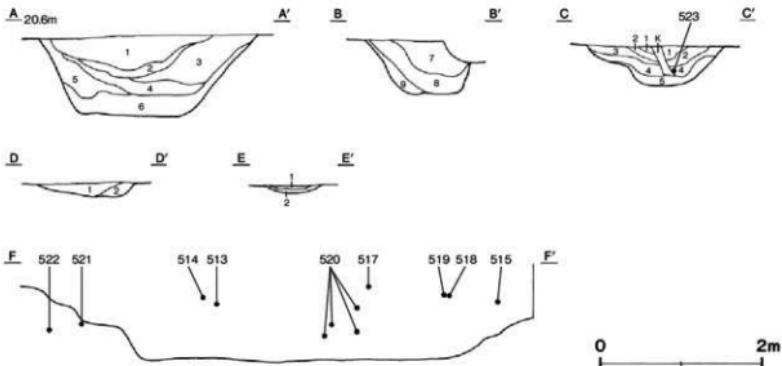
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 57	刀子	23.2	1.6	0.1-0.3	37.4	鉄	片開 断面三角形	上層	PL79

第404号溝跡（第326～328図、付図1・2）

位置 調査区南西部のK 3 e0～L 3 d5区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第5630・5638・5639・5661・5666・5667号土坑を掘り込み、第510号掘立柱建物、第153号井戸、第5626・5634・5637号土坑、第388・402号溝に掘り込まれている。第511・516・517号掘立柱建物跡、第60・61号杭列群、第49・50・52・53号ピット群とも重複するが、新旧関係は不明である。

規模と形状 北東端が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは47.30mである。L 3 d5区から北方向



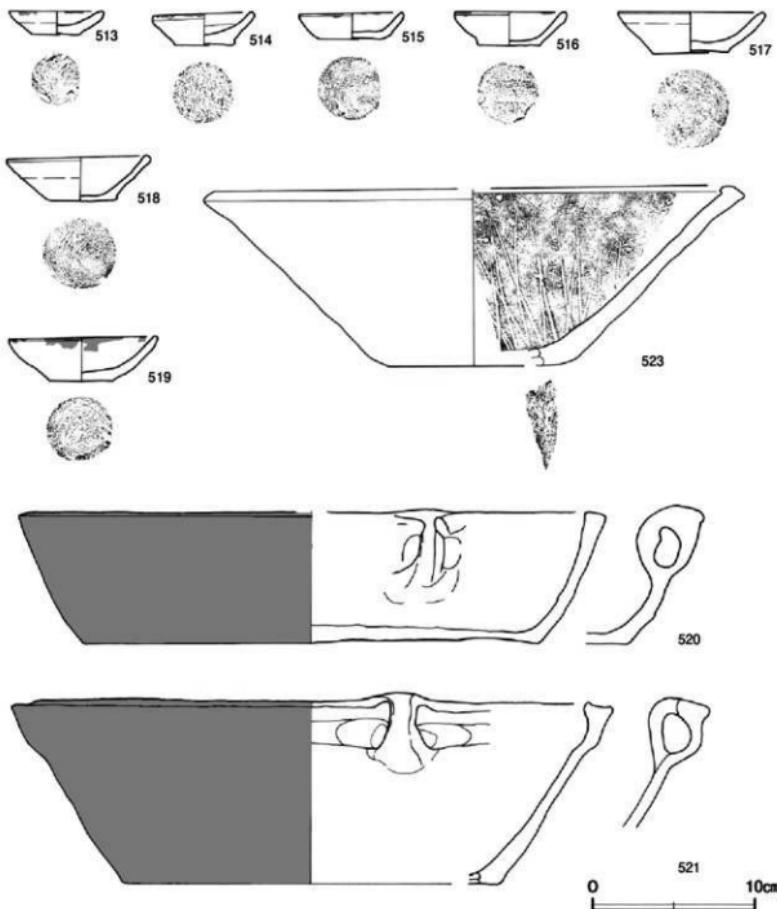
第326図 第404号溝跡実測図

(N - 15° - E)へ蛇行しながら伸び、K 3e0 区で調査区域外に至っている。上幅 0.44 ~ 3.02 m、下幅 0.20 ~ 1.43 m、深さ 16 ~ 100 cm で、溝底は南端部が最も高く、中央部との比高は 0.50 m、北端部との比高は 0.86 m である。断面形は U 字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

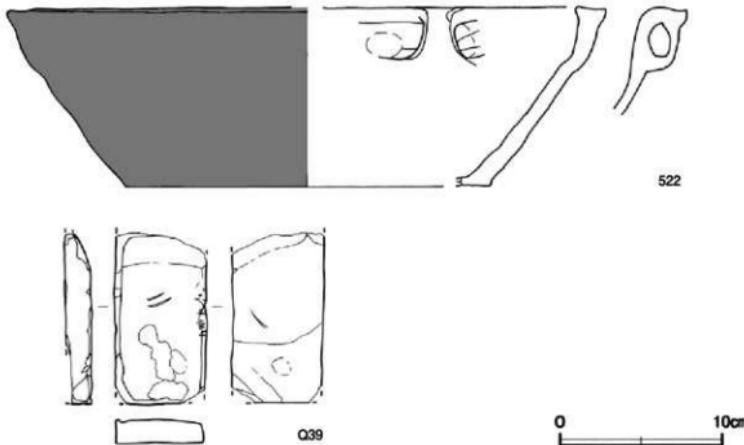
覆土 9 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	7 黒褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量	9 褐灰色	ローム粒子・粘土粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量		



第 327 図 第 404 号溝跡出土遺物実測図 (1)



第328図 第404号溝跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師質土器片 167点 (小皿 30、内耳鍋 116、擂鉢 21)、磁器片 1点 (不明)、石製品 1点 (破) のほか、土師質器 98点 (坏 5、壺 91、瓶 2)、須恵器片 28点 (坏 3、蓋 1、壺 24) が、北部の覆土中層から上層を中心に出土している。521・522は北部、523は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。520は北部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。513～515・517～519は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。516・Q39はそれぞれ覆土中層から出土している。

所見 雨水等を北東方向に排水する機能を有していたものと推測できる。時期は、出土土器や重複関係から16世紀代と考えられる。

第404号溝跡出土遺物観察表(第327・328図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
513	土師質 小皿	小皿	5.9	1.5	3.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部斜板系切り後ナデ	上層	100% PL70 油煙付着
514	土師質 小皿	小皿	6.2	2.1	3.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部斜板系切り後ナデ	上層	90% 油煙付着
515	土師質 小皿	小皿	6.6	1.7	3.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部斜板系切り後ナデ	上層	100% PL70 油煙付着
516	土師質 小皿	小皿	6.8	2.1	3.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部斜板系切り	覆土中	100% PL70 油煙付着
517	土師質 小皿	小皿	9.0	2.6	4.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部斜板系切り	上層	95% PL70
518	土師質 小皿	小皿	8.5	2.8	4.4	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	ロクロナデ 底部斜板系切り	上層	100% PL70
519	土師質 小皿	小皿	9.2	2.8	4.0	長石・石英・赤色粒子	にじみ・黄褐	普通	ロクロナデ 底部斜板系切り	上層	80% PL70 油煙付着
520	土師質 内耳鍋	[33.8]	8.5	28.0	1.5	長石・石英・細塵	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部へ2割り	中層	50% 外面部付着
521	土師質 内耳鍋	[34.0]	11.6	[23.2]	1.5	長石・石英・雲母	にじみ・橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部へ2割り	中層	20% 外面部付着
522	土師質 内耳鍋	[33.8]	8.5	[28.0]	1.5	長石・石英・細塵	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部へ2割り	中層	20% 外面部付着
523	土師質 擂鉢	[32.0]	10.9	[10.6]	1.5	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外側・内面無	中層	10%

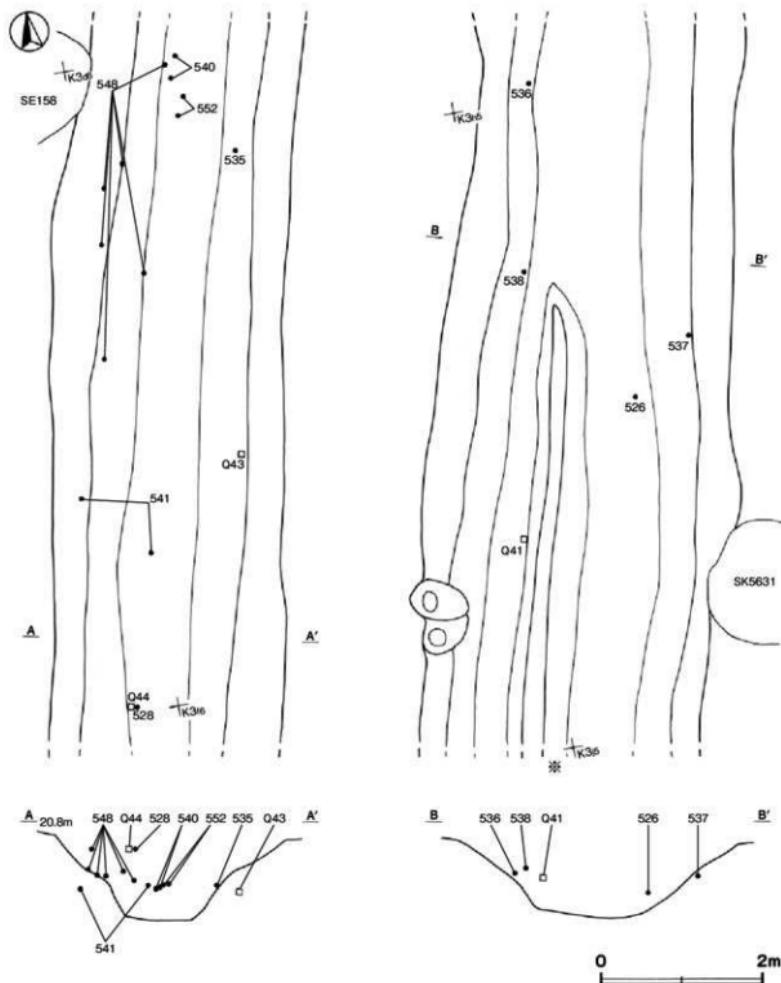
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q39	碗	(10.5)	5.7	1.6	(156.5)	泥岩	海部一部欠損 滾転有り	覆土中	PL77

第 405 号溝跡 (第 329 ~ 337 図, 付図 1・2)

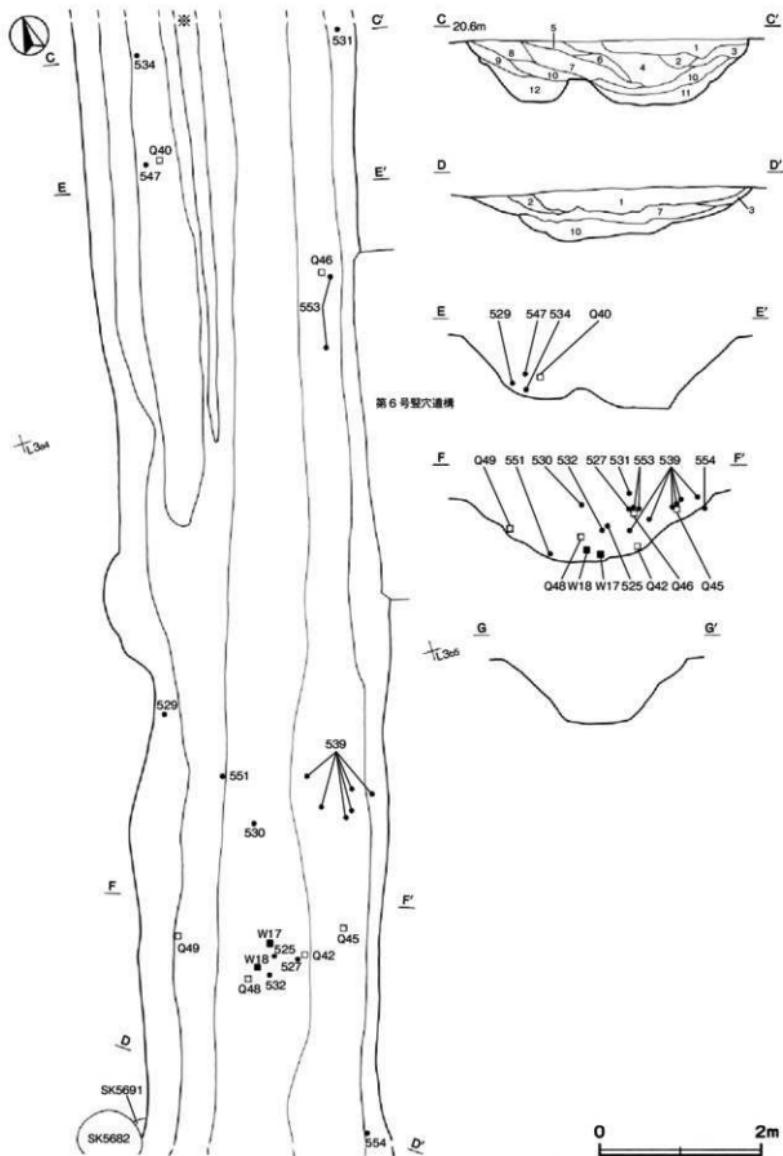
位置 調査区南西部の K 3 a7 ~ L 3 c2 区, 標高 20 ~ 21 m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 5691 号土坑, 第 388・403 号溝跡を掘り込み, 第 6 号竪穴遺構, 第 5631 号土坑, 第 54 号ピット群に掘り込まれている。第 158・163 号井戸跡, 第 5682 号土坑とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 南端が調査区域外に延びているため, 確認できた長さは 53.0 m である。K 3 a6 区から南方向 (N



第 329 図 第 405 号溝跡実測図 (1)



第330図 第405号溝跡実測図 (2)

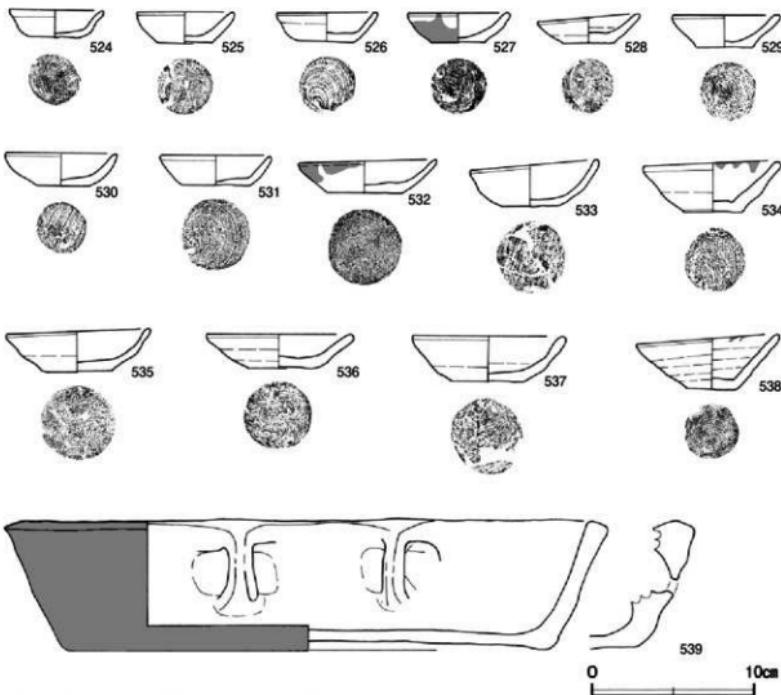
- 78° - W) へ直線的に 465 m 延び、L 3c4 区ではほぼ 90 度西へ屈曲して直線的に 6.5 m 延び、L 3c2 区で調査区域外に至っている。上幅 1.68 ~ 3.88 m、下幅 0.28 ~ 1.12 m、深さ 45 ~ 105 cm で、溝底は北東部が最も高く、南西部との比高は 0.05 m である。断面形は U 字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 12 層に分層できる。多くの層にローム・粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

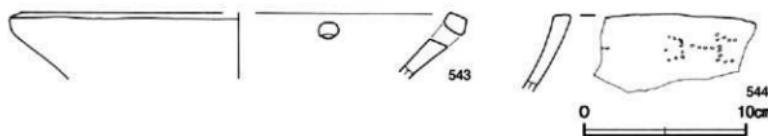
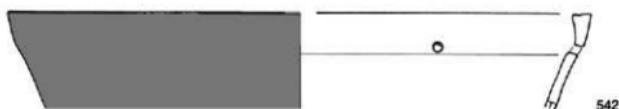
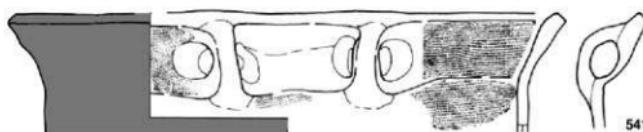
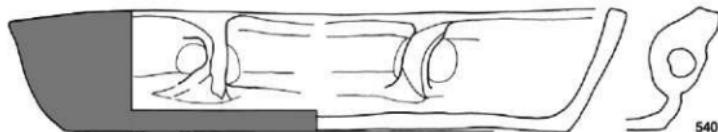
土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量	7 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量	8 黒 褐 色 ロームブロック微量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量	9 黒 褐 色 ロームブロック少量
4 斯 褐 色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量	10 黒 褐 色 ローム粒子微量
5 黒 褐 色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量	11 黒 褐 色 粘土ロームブロック微量
6 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量	12 黒 褐 色 粘土粒子微量

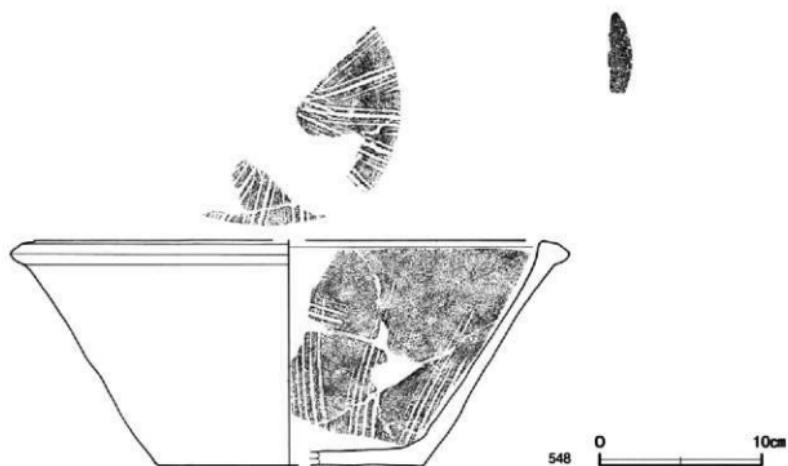
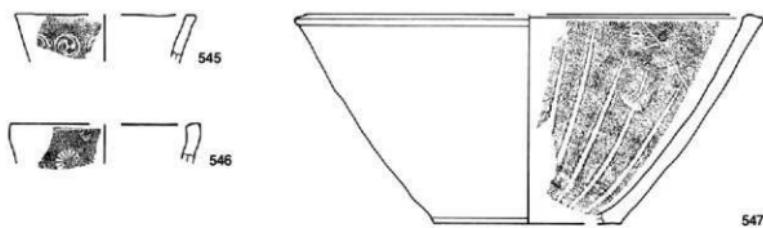
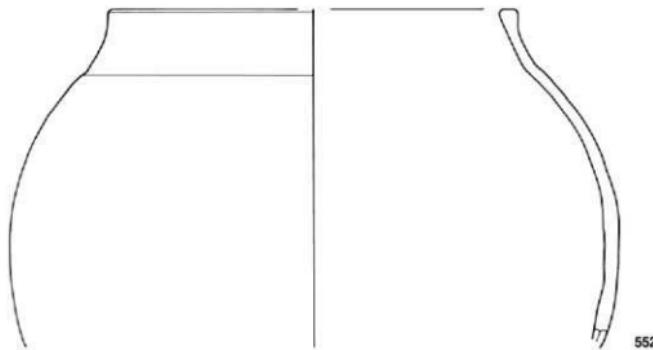
遺物出土状況 土師質土器片 962 点（小皿 110、内耳鍋 477、鍋 4、香炉 3、鉢 270、擂鉢 90、火鉢 2、甕 6）、陶器片 16 点（天目茶碗 6、小杯 1、皿 4、擂鉢 2、壺 2、甕 1）、磁器片 2 点（皿、不明）、石器・石製品 11 点（石臼 3、茶臼 1、砥石 6、宝鏡印塔 1）、木製品 2 点（曲物・板材）のほか、繩文土器片 5 点（深鉢）、土師器片 176 点（坏 44、高台付坏 3、甕 125、壺 4）、須恵器片 56 点（坏 20、高台付坏 1、鉢 33、瓶 2）が、全体的に散在した状態で出土している。529・534・547・551・Q 40・Q 42・W 17・W 18 は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。525・532・Q 48・Q 49 は南部、526・536 ~ 538・Q 41・Q 43 は中央部、535 は北部



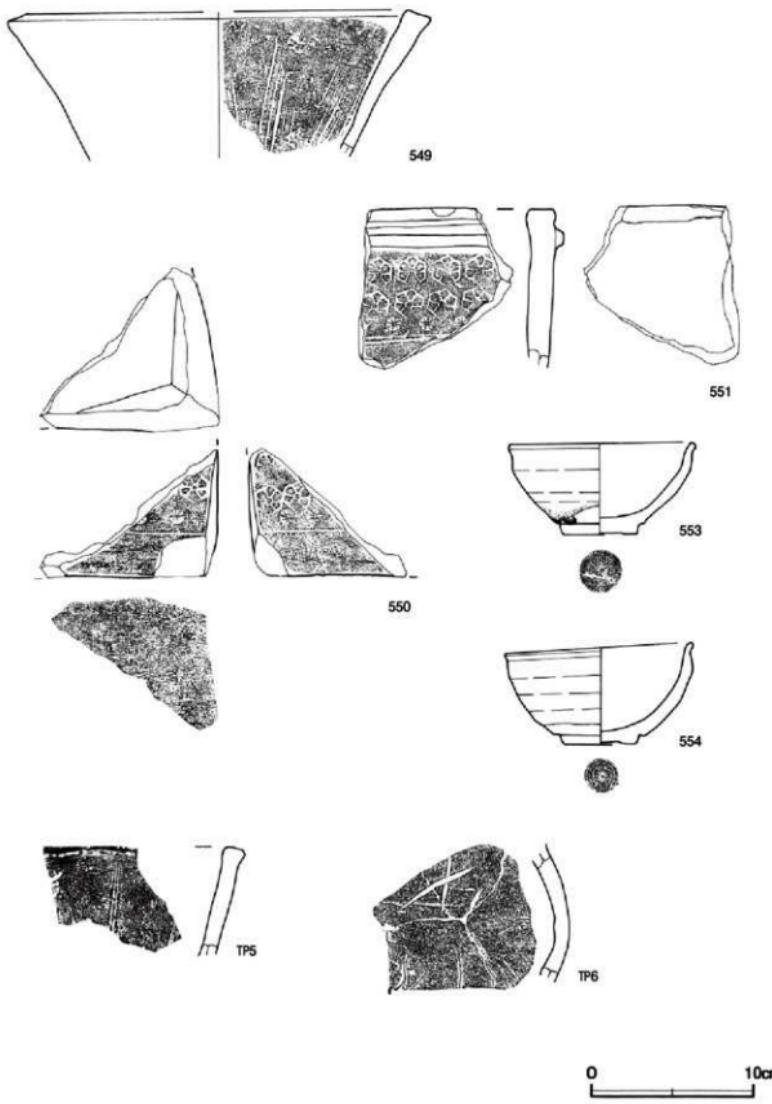
第 331 図 第 405 号溝跡出土遺物実測図 (1)



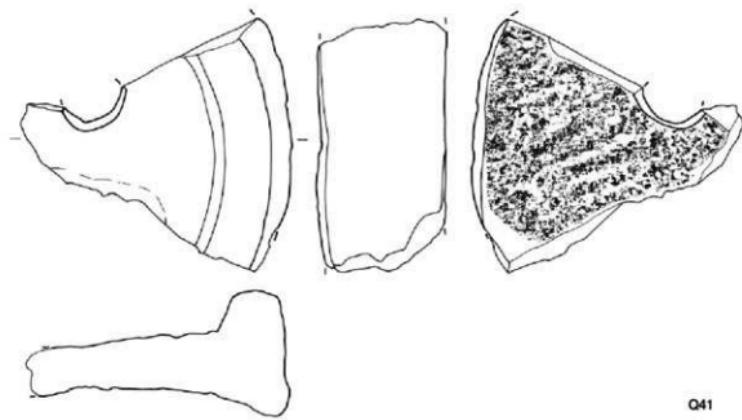
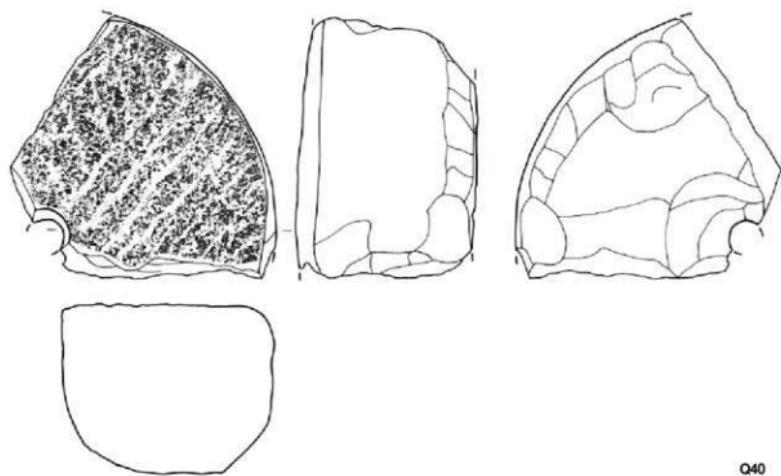
第332図 第405号溝跡出土遺物実測図(2)



第333図 第405号溝跡出土遺物実測図(3)

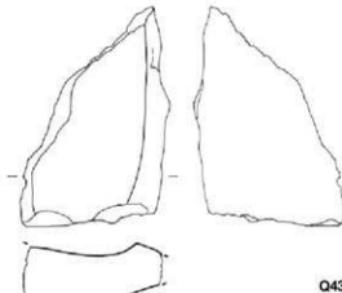
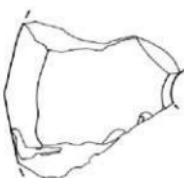
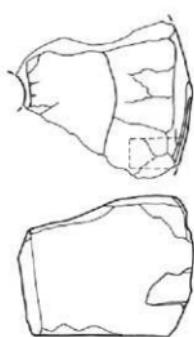


第334図 第405号溝跡出土遺物実測図(4)



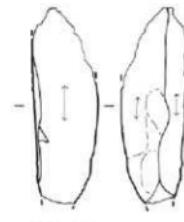
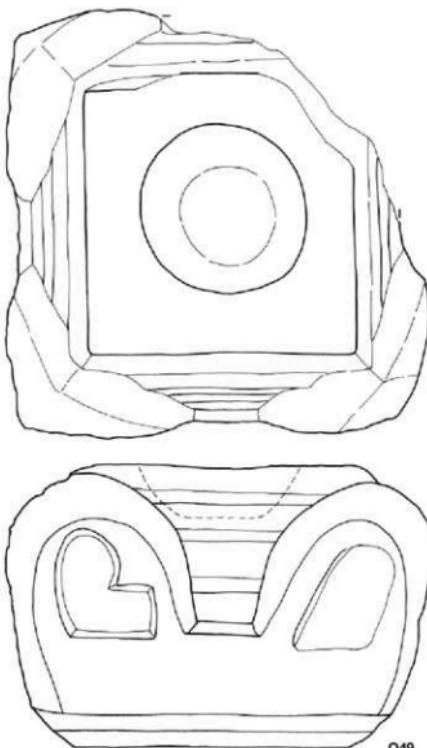
0 10cm

第335図 第405号溝跡出土遺物実測図(5)

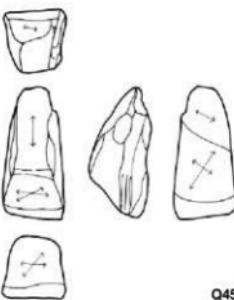


Q42

Q43



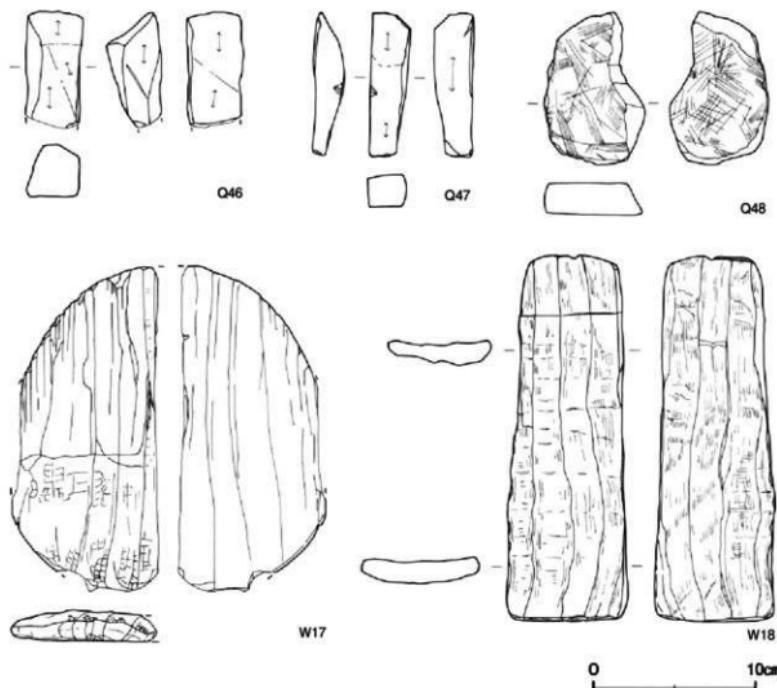
Q44



Q45

0 10cm

第336図 第405号溝跡出土遺物実測図(6)



第337図 第405号溝跡出土遺物実測図(7)

の覆土中層からそれぞれ出土している。540・541・552は北部の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。539は南部、548は北部の覆土中層から上層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。527・530・531・554・Q 45・Q 46は南部、528・Q 44は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。553は南部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。524・533・542～544・546・549・550・Q 47・TP 5・TP 6は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 比高差は少ないが、規模と形状から雨水等を排水する機能を有しており、また、南部で西方向に屈曲していることから、西側を区画するための機能を有していたものと推測できる。時期は、出土土器から16世紀後半から17世紀前半と考えられる。

第405号溝跡出土遺物観察表(第331～337図)

番号	種別	器種	口径	盤高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
524	土師質 土器	小皿	5.8	1.7	3.2	長石・石英・雲母	褐	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り後ナデ	覆土中	95% PL70
525	土師質 土器	小皿	6.0	2.0	3.5	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	褐	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り	中層	95% PL70
526	土師質 土器	小皿	6.1	1.8	3.5	長石・石英・雲母	浜裡	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り	中層	100% PL70
527	土師質 土器	小皿	6.2	1.9	3.4	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	ロクロナデ 底部削輪系切り後ナデ	上層	100% PL70 油煙付着

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
528	土師質 土器	小皿	6.4	1.8	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り	上層	100% PL70
529	土師質 土器	小皿	6.5	2.0	2.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り後ナデ	下層	100% PL71
530	土師質 土器	小皿	6.8	2.0	3.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り後ヘナナデ	上層	95% PL71
531	土師質 土器	小皿	6.7	1.8	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黃橙	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り後ナデ	上層	90% PL71
532	土師質 土器	小皿	8.5	2.1	4.6	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り後ナデ	中層	100% PL71 油煙付着
533	土師質 土器	小皿	8.0	2.9	4.2	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り後ナデ	覆土中	95% PL71
534	土師質 土器	小皿	8.4	3.2	3.7	長石・雲母	浅黃橙	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り後ナデ	下層	100% PL71 油煙付着
535	土師質 土器	小皿	8.9	2.6	4.4	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り	中層	95% PL71
536	土師質 土器	小皿	9.0	2.0	4.2	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り後ナデ	中層	100% PL71
537	土師質 土器	小皿	9.4	2.8	4.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り後ナデ	中層	80% PL71
538	土師質 土器	小皿	8.8	3.4	3.3	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	ロクロナデ 底部刮軸糸切り後ナデ	中層	100% PL71 油煙付着
539	土師質 内耳皿	内耳皿	35.4	7.9	25.6	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 内面凹凸・全体外・内面ナデ 体部 内凹部外・内面横断に孔有り 孔径0.8cm 内凹部分・体部内・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	中・上層	95% PL68 外面部付着
540	土師質 内耳皿	内耳皿	36.1	7.6	31.0	長石・石英・雲母・細繩	明赤褐色	普通	ロクロナデ 内部凹凸・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	中層	100% PL68 外面部付着
541	土師質 内耳皿	内耳皿	[33.4]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	ロクロナデ 内面横ナデ 体部外・内面ナデ 内面 内凹部外	中層	20% 外面部付着
542	土師質 内耳皿	内耳皿	[35.8]	(6.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 内面横ナデ 体部外・内面ナデ 内凹部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 孔有り 孔径0.8cm	覆土中	5% PL72 外面部付着
543	土師質 鍋	鍋	[28.4]	(4.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面ナデ 孔有り 孔径1.1cm	覆土中	5%
544	土師質 土器	鍋	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	ロクロナデ 内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	5% PL72
545	土師質 土器	香炉	[11.2]	(2.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 体部外三つ巴文押捺	覆土中	5% PL72
546	土師質 土器	香炉	[11.6]	(2.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	ロクロナデ 体部外菊花文押捺	覆土中	5% PL72
547	土師質 漆鉢	漆鉢	[27.4]	12.9	[11.6]	長石・石英・雲母	明褐色	普通	ロクロナデ 内面横ナデ 体部外面ナデ 内面 I 内凹部外の塗り目	下層	10%
548	土師質 漆鉢	漆鉢	[31.4]	13.9	[11.6]	長石・石英・雲母・細繩	橙	普通	ロクロナデ 内面横ナデ 体部外面ナデ 内面 I 内凹部外の塗り目	中・上層	40% PL67
549	土師質 漆鉢	漆鉢	[23.5]	9.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 内面横ナデ 体部外面ナデ 内面 I 内凹部外の塗り目	中・上層	5% PL67
550	土師質 火鉢	火鉢	(10.1)	7.9	(11.1)	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	外・内面ナデ 花文押捺 沈線による 内面ナデ 花文押捺 沈線による区间	覆土中	5% PL67
551	土師質 火鉢	火鉢	-	(9.8)	-	赤色粒子・細繩	橙	普通	外・内面ナデ 内面帶貼り付け 花文・菊花 文押捺 沈線による区间	下層	5%
552	土師質 土器	瓶	[25.0]	(20.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細繩	明褐色	普通	外・内面ナデ	中層	20%
553	陶器	天日茶碗	11.2	5.6	4.5	精良 鉄釉	黑褐色	良好	外・内面鉄釉 陶器割出高台	上層	80% PL86
554	陶器	天日茶碗	11.5	6.3	4.4	精良 鉄釉	黑褐色	良好	外・内面鉄釉 割り出し高台 高台割邊跡	上層	70% PL86

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP 5	土師質 土器	鍋	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	ロクロ部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	PL72
TP 6	土師質 土器	甕	長石・石英・雲母	橙	体部外・内面ナデ	覆土中	PL72 鉢番「十」

番号	器 様	往	孔徑	高さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 40	石臼 (下臼)	[28.8]	[23]	(11.0)	(3.650)	安山岩	I 単位 4 条以上の塗り目	下層	PL77
Q 41	石臼 (上臼)	[34.0]	[40]	8.0	(1.245)	安山岩	裏側 7 条の塗り目	中層	PL77
Q 42	石臼 (下臼)	[23.0]	[28]	8.7	(9.70)	安山岩	輪受け横打込残存	下層	PL77
Q 43	石臼 (下臼)	-	-	(4.0)	(4.30)	安山岩	下臼片	中層	

番号	器 様	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 44	砾石	(120)	4.0	1.5	(69.2)	凝灰岩	砾面 3 面	上層	PL76
Q 45	砾石	8.1	3.9	3.8	11.48	凝灰岩	砾面 4 面	上層	PL76
Q 46	砾石	(7.2)	3.5	3.4	(9.06)	凝灰岩	砾面 6 面	上層	PL76
Q 47	砾石	8.9	2.5	2.0	55.0	凝灰岩	砾面 3 面	覆土中	PL76
Q 48	砾石	9.5	6.2	2.0	1987	泥岩	砾面 2 面 摺痕多數	中層	PL76

番号	器 様	長さ	幅	高さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 49	宝鏡印塔	265	262	175	(17.300)	花崗岩	至部 一部欠損	中層	PL77

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
W 17	本製品	曲物	200	90	20	木	炭化範囲有り	下層	PL83
W 18	木材	板材	225	74	16	木	断面や弯曲	下層	PL83

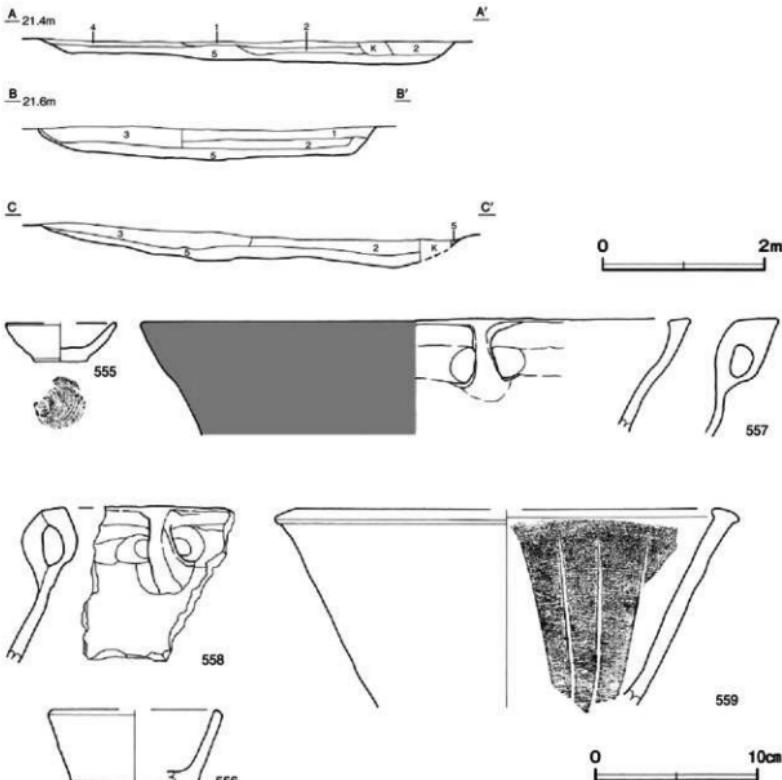
第407号溝跡（第338・339図、付図1・2）

位置 調査区分南西部のJ4b2～J4h4区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第408号溝跡を掘り込み、第5657号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南端が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは24.40mである。J4h4区から北方向(N-10°W)に直線的に延びている。幅0.35～0.52m、深さ12cmで、溝底は南端部が最も高く、北部との比高は0.18mである。断面形は浅いU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。



第338図 第407号溝跡・出土遺物実測図

土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 (極めて締まり強い) | 4 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 (極めて締まり強い) | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 土師質土器片 98 点 (小皿 1、内耳鍋 65、香炉 2、擂鉢 4、甕 26)、石器 1 点 (砥石)、鉄製品 1 点 (釘) のほか、土師器片 4 点 (甕)、須恵器片 20 点 (环 2、高台付环 1、甕 17) も出土している。558 は南部、Q 50 と M 58 は中央部の覆土中層から出土している。555 ~ 557・559 はいずれも覆土中から出土している。

所見 第 408 号溝が機能を失った後に構築されたものである。時期は、出土土器や重複関係から 17 世紀以降と考えられる。覆土の第 1・2 層が硬化していることから、雨水等の排水する溝としての機能を失った後に道路として利用されていたものと考えられる。



第 339 図 第 407 号溝跡出土遺物実測図

第 407 号溝跡出土遺物観察表 (第 338・339 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
555	土師質土器	小皿	[68]	23	32	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	ロクロナデ	底部削板系切り	覆土中	50% PL71
556	土師質土器	香炉	[102]	45	[78]	長石・石英	明褐色	普通	-	外・内面ナデ	覆土中	5%
557	土師質土器	内耳鍋	[340]	(70)	-	長石・石英	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外・内面ナデ	覆土中	5% 外面環付着
558	土師質土器	内耳鍋	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい青	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外・内面ナデ	中層	5% 外面環付着
559	土師質土器	擂鉢	[260]	(12.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側ナデ 内面 I 巻上単位の彫り目	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 50	砥石	78	40	21	563	凝灰岩	砥面 4 面 排痕有り	中層	PL76

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 58	釘	(40)	0.8	0.3~0.4	(36)	鉄	先端部欠損 表面正方形	中層	PL81

第 408 号溝跡 (第 340・341 図、付図 1・2)

位置 調査区南西部の J 3a7 ~ J 4b4 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 267・397 号溝跡を掘り込み、第 5657 号土坑、第 407 号溝に掘り込まれている。第 390・393・406A・410 号溝跡、第 5648 号土坑とも重複するが、新旧関係は不明である。

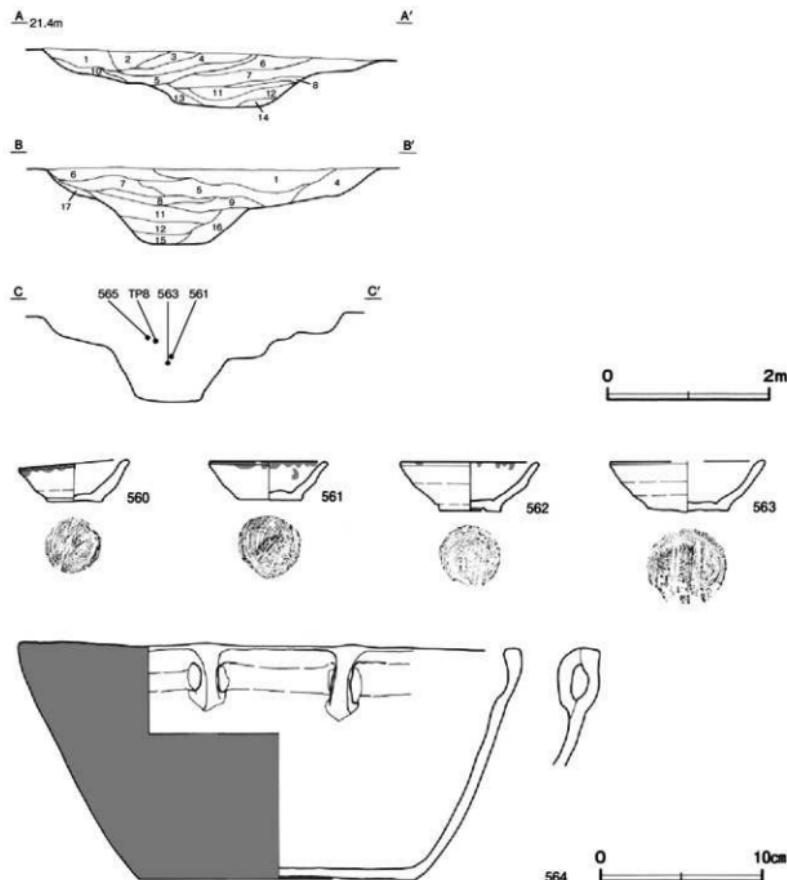
規模と形状 両端ともに調査区域外に延びており、確認できた長さは 51.0 m である。J 4i4 区から北方向 (N - 12° - W) に直線的に 28.0 m 延び、J 4b3 区ではほぼ 110 度西へ屈曲し、直線的に 23.0 m 延び、J 3a7 区で調査区域外に至っている。上幅 0.34 ~ 0.45 m、下幅 0.61 ~ 0.88 m、深さ 102 cm で、溝底は西部が最も高く、コーナー部との比高は 0.39 m、南端部との比高は 0.19 m である。断面形は箱型研磨状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 17 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

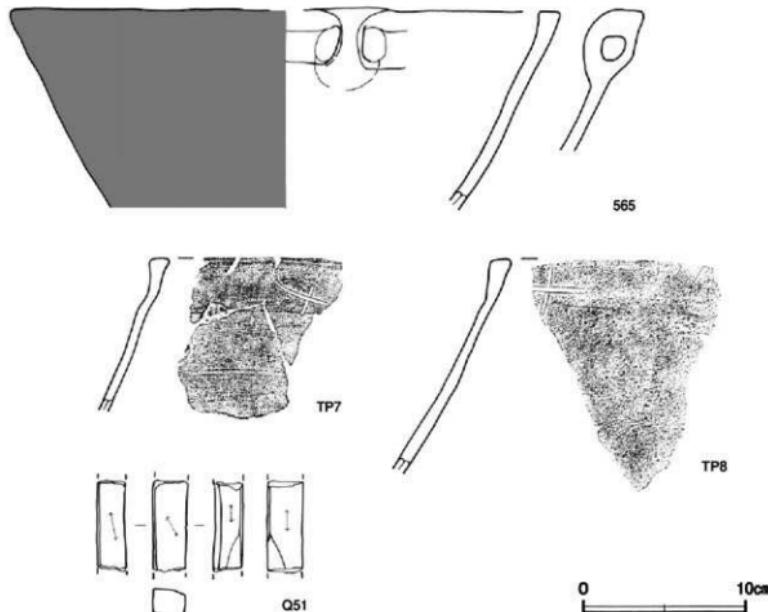
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量	10 青褐色 ロームブロック多量
2 黒褐色 ロームブロック少量	11 青褐色 ロームブロック中量
3 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 黒褐色 ロームブロック少量（鉄分含む）
4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 褐色 ロームブロック多量
5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	14 極暗褐色 ロームブロック少量（鉄分含む）
6 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	15 褐色 ロームブロック少量（鉄分含む）
7 黒褐色 ローム粒子少量	16 にじみ褐色 ロームブロック多量
8 黒褐色 ロームブロック微量	17 褐色 ロームブロック少量
9 黄褐色 ロームブロック中量	

遺物出土状況 土師質土器片 402 点（小皿 4、蓋 1、内耳鍋 397）、磁器片 1 点（碗）、石器 1 点（砥石）、馬歯のほか、土師器片 63 点（坏 13、高坏 1、甕 49）、須恵器片 14 点（坏 6、高台付坏 1、甕 7）が、主に中央



第340図 第408号溝跡・出土遺物実測図



第341図 第408号溝跡出土遺物実測図

部の覆土中層から上層にかけて出土している。561・563は中央部の覆土中層、565・TP8は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。560・562・564・TP7・Q51はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 規模と形状から南西側を区画する機能を有しており、覆土の第12・14・15層に鉄分が含まれていることから、常に水が滞留していたと考えられる。時期は、出土土器や重複関係から16世紀後半と考えられる。

第408号溝跡出土遺物観察表（第340・341図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	施 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備考
560	土師質 土器	小皿	6.8	26	3.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部斜軸系切り	覆土中	90% PL21 油煙付着
561	土師質 土器	小皿	7.2	24	3.9	長石・石英・雲母	粗	普通	ロクロナデ 底部斜軸系切り	中層	80% PL21 油煙付着
562	土師質 土器	小皿	8.5	30	3.8	長石	にぶい黄 橙	普通	ロクロナデ 底部斜軸系切り	覆土中	100% PL21 油煙付着
563	土師質 土器	小皿	[9.5]	31	5.0	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	粗	普通	ロクロナデ 底部斜軸系切り後ヘラナデ	中層	70% PL21
564	土師質 土器	内耳鍋	31.0	142	17.1	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部分・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部へ内削り 内且2か所残存	覆土中	80% PL68 外面部付着
565	土師質 土器	内耳鍋	[34.0]	(12.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部分・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 内且1か所残存	上層	20% 外面部付着

番号	種別	器種	施 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP 7	土師質 土器	鍋	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部分・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	円刃 青色↑↑ 外面部付着
TP 8	土師質 土器	鍋	長石・石英	にぶい黄橙	口縁部分・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	上層	円刃 青色↑↑ 外面部付着

番号	種 別	長さ	幅	厚さ	重 量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 51	砥石	(5.6)	22	19	(36.9)	凝灰岩	砥面4面 他は破断面	覆土中	PL26

表25 中世・近世溝跡一覽表

(10) 杭列跡

今回の調査で22列の杭列跡が検出された。このうち17列には、それぞれの位置関係から、配列に規則性があると考えられる。よって、17列については3か所の杭列群に分け、実測図と一覧表で紹介するとともに、それらの特徴について記載するものとする。その他の5列については、それぞれの関連性が認められないことから、個別に取り上げて記述し、実測図と一覧表で紹介するものとする。

ア 杭列群

第1号杭列群（第342・343図）

調査区北西部のF 6 f6～F 6 j1から、第33・34・47～50号杭列跡の6列の杭列が検出された。標高20mほどの台地緩斜面部に位置し、長さは4.23～11.20mである。列方向はN-40°～48°-Eとほぼ揃っている。柱間は0.13～1.30mとばらつきがある。柱穴は、5～28cmの深さで7～23か所が確認されている。遺物は、土師器片2点（壺）、陶器片1点（不明）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

第2号杭列群（第344図）

調査区北西部のG 5 a9～G 5 c8から、第35・36号杭列跡の2列の杭列が検出された。標高20mほどの台地緩斜面部に位置し、長さは9.54・8.92mである。列方向はいずれもN-40°-Eと揃っている。柱間は0.31～1.78mとばらつきがある。柱穴は、8～39cmの深さで12・17か所が確認されている。遺構に伴う遺物は出土していない。

第3号杭列群（第345図）

調査区西部のH 4 h9～I 4 c8から、第38～46号杭列跡の9列の杭列が検出された。標高20mほどの台地緩斜面部に位置し、長さは2.43～8.21mである。列方向はN-20°～24°-Eとほぼ揃っている。柱間は0.21～1.30mとばらつきがある。柱穴は、10～50cmの深さで5～29か所が確認されている。遺物は、土師器片41点（壺4、甕37）、須恵器片2点（不明）、陶器片2点（不明）、礫1点が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 第1～3号までの杭列は、それぞれ1m前後の幅で並列して確認されている。第1・2号杭列は、調査区の北西部に位置し、H 4 h9区から南西方向にはほぼ一直線に並び、総延長は約42mになる。また、第3号杭列は、H 4 h9区から南南西方向には一直線に並び、総延長は約21mになる。東側に位置していた建物または建物群を区画するための柵跡もしくは板塀の可能性が想定されるが、詳細については不明である。時期は、調査区中央部を東西に横切る第20号道路跡とほぼ直交していることから、同時期の中世から近世にかけて機能していたものと考えられる。

イ 杭列跡

第37号杭列跡（第346図）

位置 調査区北西部のG 5 h4区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と構造 3.80mの間に5か所のピットが確認された。列方向はN-38°-Wで、柱間は0.63～1.07mとばらつきがある。

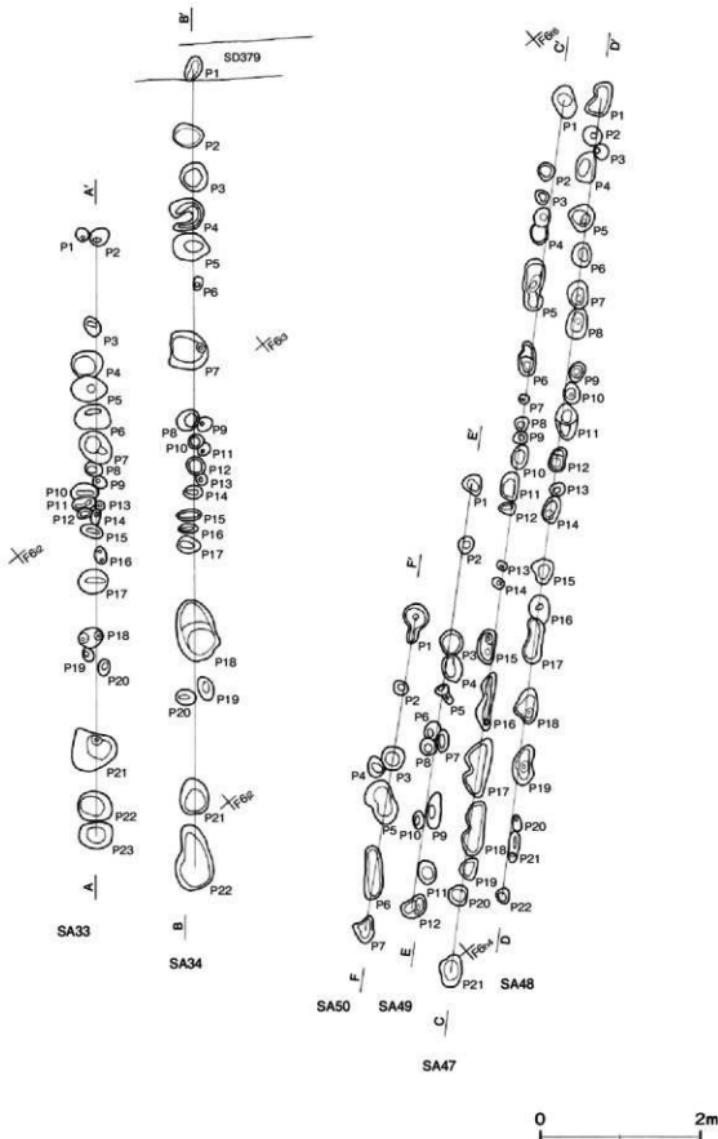
柱穴 平面形は円形または楕円形で、長径40～58cm、短径34～50cmである。深さは15～45cmで、掘方の断面形は不整U字形または不整V字形である。

土層解説

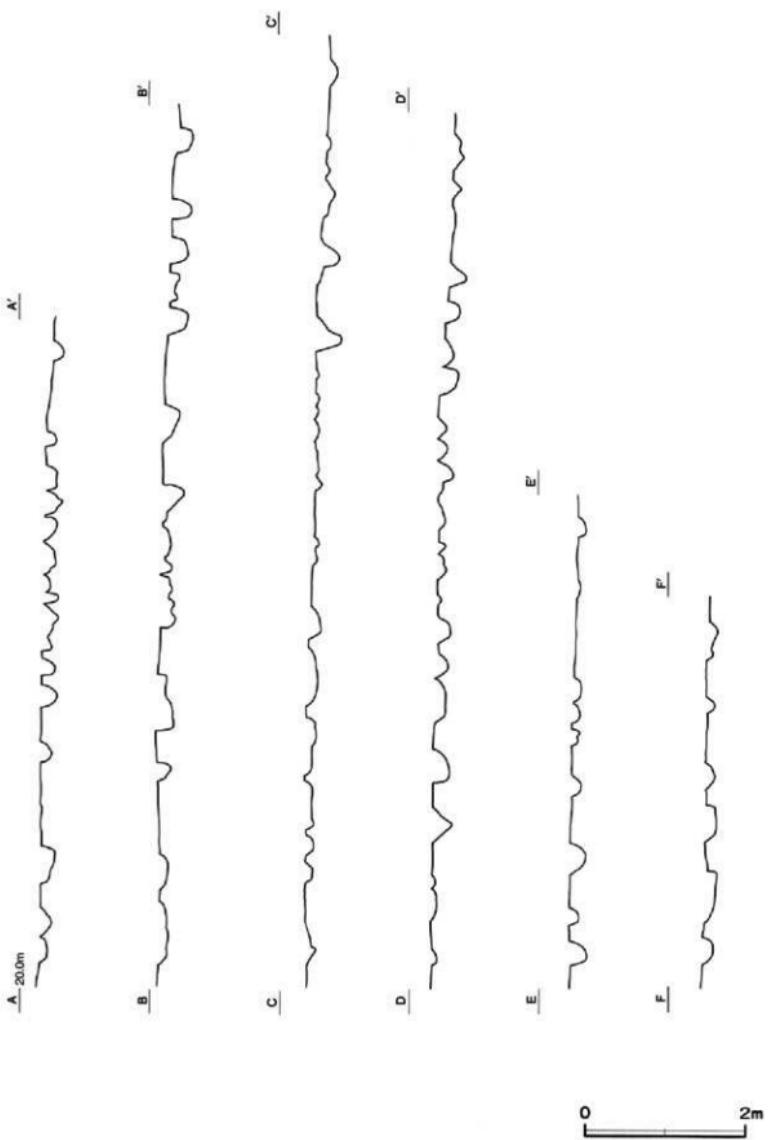
1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片4点（壺2、甕2）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

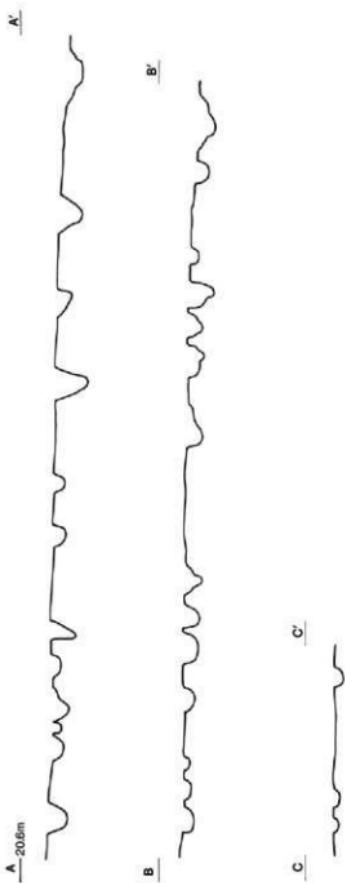
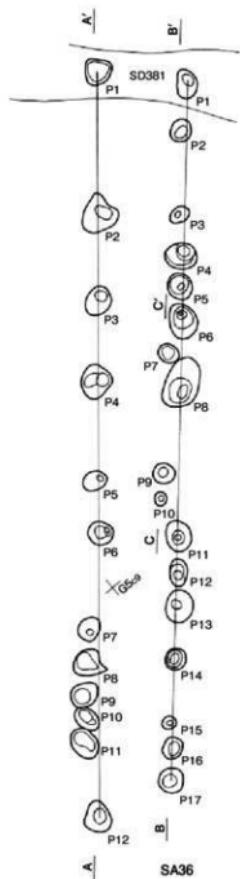
所見 時期は、出土土器から古墳時代後期と考えられる。本遺構のみ、他の杭列と列方向が大きく異なっていることから、他の杭列とは時期や性格が異なるものと想定される。



第342図 第1号杭列群実測図(1)



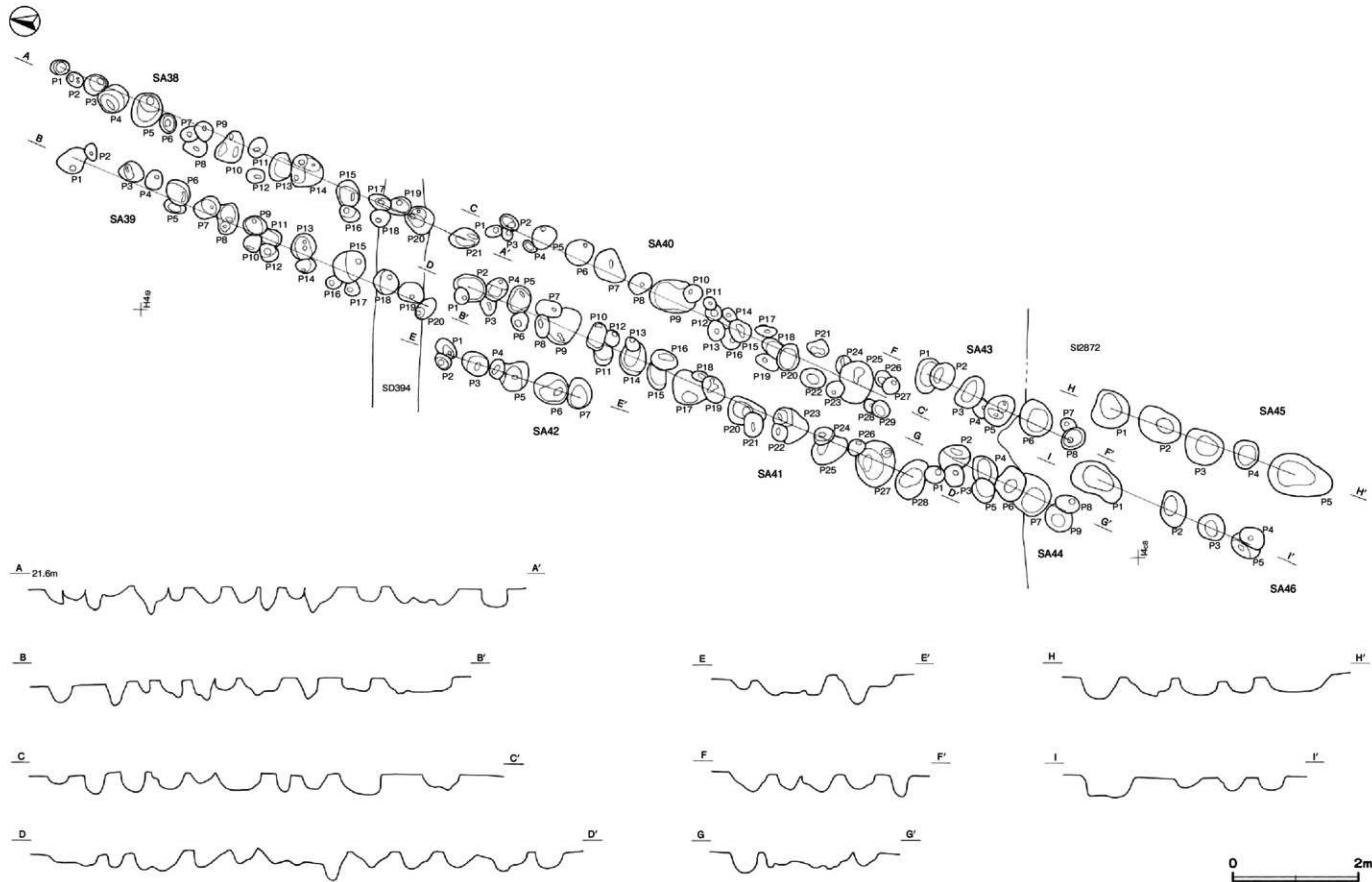
第343図 第1号杭列群実測図(2)



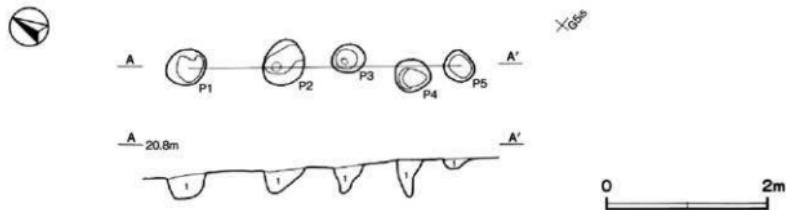
— 20.6m

0 2m

第344図 第2号杭列群実測図



第345图 第3号煤层群实测图



第346図 第37号杭列跡実測図

第55号杭列跡（第347図）

位置 調査区南西部のK3g8～K3i8区。標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と構造 887mの間に8か所のビットが確認された。列方向はN-7°-Eで、柱間は0.87～1.72mとばらつきがある。

柱穴 平面形は円形または梢円形で、長径22～46cm、短径20～32cmである。深さは18～43cmで、掘方の断面形はU字形または不定形である。

所見 時期は、根柢となる土器が出土していないため不明であるが、第1～3号杭列群の延長線上に位置していることから、杭列群と同時期の中世後半と考えられる。

第56号杭列跡（第347図）

位置 調査区南西部のK3g7～K3i7区。標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と構造 874mの間に7か所のビットが確認された。列方向はN-6°-Eで、柱間は0.84～3.25mとばらつきがある。

柱穴 平面形は円形または梢円形で、長径20～50cm、短径14～36cmである。深さは28～36cmで、掘方の断面形はU字形または不定形である。

所見 時期は、根柢となる土器が出土していないため不明であるが、第1～3号杭列群の延長線上に位置していることから、杭列群と同時期の中世後半と考えられる。

第60号杭列跡（第348図）

位置 調査区南西部のL3c5～L3d5区。標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第510号掘立柱建物跡、第52・53号ビット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 360mの間に4か所のビットが確認された。列方向はN-16°-Eで、柱間は120mとばらつきがある。

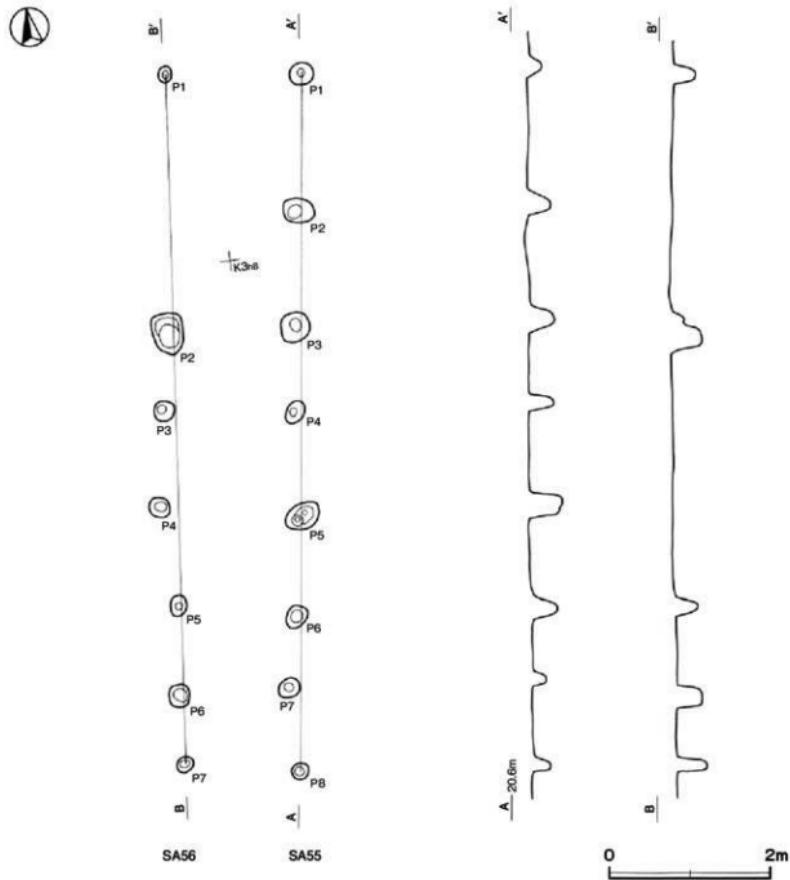
柱穴 平面形は円形または梢円形で、長径30～43cm、短径27～32cmである。深さは19～43cmで、掘方の断面形はU字形または不定形である。

土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック少量
2	褐	褐色	ローム粒子少量

3	暗	褐色	ロームブロック微量
4	棕	褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量

所見 時期は、根柢となる土器が出土していないため不明であるが、第510号掘立柱建物跡と列方向が類似していることから、中世後半から近世にかけて機能していたと考えられる。



第347図 第55・56号杭列跡実測図

第61号杭列跡（第348図）

位置 調査区南西部のL3c6～L3d5区、標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第510号掘立柱建物跡、第404号溝跡、第52・53号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 4.75mの間に5か所のピットが確認された。列方向はN-14°-Eで、柱間は0.80m～1.60mとばらつきがある。

柱穴 平面形は円形または楕円形で、長径18～43cm、短径14～32cmである。深さは13～38cmで、掘方の断面形はU字形または不定形である。

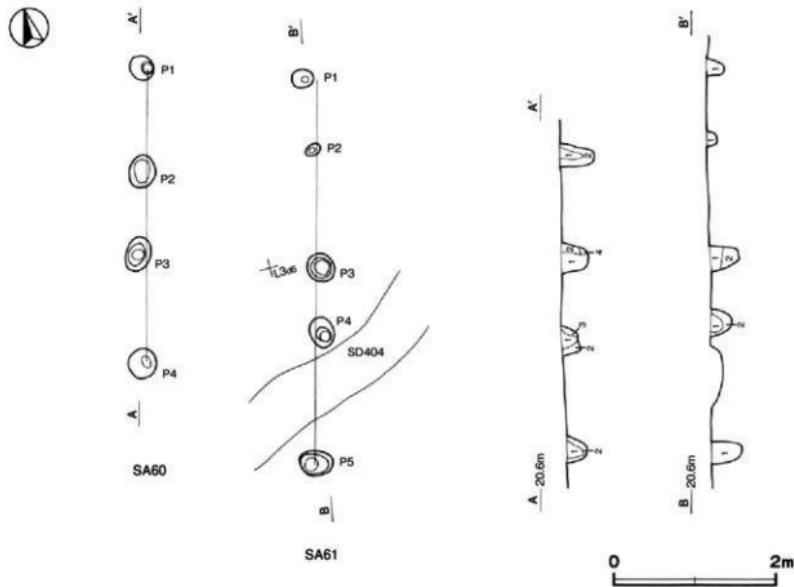
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 極褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片2点(壺、甕)が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、第510号掘立柱建物跡と方向が類似していることから、中世後半から近世にかけて機能していたと考えられる。



第348図 第60・61号杭列跡実測図

表26 中世・近世杭列跡一覧表

番号	位置	列方向	長さ(m)	柱間(m)	柱穴				備考 重複間隔(古→新)	
					柱穴数	平面形	長径(cm)	短径(cm)		
33	F6h2 ~ F6h1	N - 40° - E	8.50	0.13 ~ 1.09	23	円形・楕円形	13 ~ 60	12 ~ 45	8 ~ 21	第1号杭列群
34	F6h3 ~ F6h1	N - 40° - E	9.30	0.15 ~ 1.30	22	円形・楕円形	17 ~ 76	10 ~ 48	9 ~ 24	第1号杭列群 SD579 断面不明
35	G5e9b ~ G5e9	N - 40° - E	9.54	0.31 ~ 1.78	12	円形・楕円形、 不整楕円形	30 ~ 50	22 ~ 42	8 ~ 39	本跡 → SD381
36	G5e1 ~ G5e9	N - 40° - E	8.92	0.34 ~ 1.06	17	円形・楕円形	18 ~ 40	14 ~ 64	9 ~ 31	本跡 → SD381
37	G5b4	N - 38° - W	3.80	0.63 ~ 1.07	5	円形・楕円形	40 ~ 58	34 ~ 50	15 ~ 45	
38	H1h9 ~ H1g9	N - 23° - E	7.40	0.28 ~ 0.88	21	円形・楕円形	30 ~ 56	23 ~ 50	15 ~ 50	第3号杭列群 SD594 → 断面
39	H1h9 ~ H4g9	N - 24° - E	6.50	0.31 ~ 0.64	20	円形・楕円形	30 ~ 54	19 ~ 50	22 ~ 40	第3号杭列群 SD594 → 断面
40	H1g9 ~ H1g8	N - 20° - E	7.00	0.21 ~ 0.66	29	円形・楕円形	25 ~ 70	15 ~ 47	10 ~ 48	第3号杭列群
41	H1g9 ~ H1g8	N - 23° - E	8.21	0.30 ~ 0.54	28	円形・楕円形	23 ~ 74	22 ~ 60	12 ~ 47	第3号杭列群
42	H1g8	N - 18° - E	2.64	0.22 ~ 0.73	7	円形・楕円形	29 ~ 57	20 ~ 50	17 ~ 47	第3号杭列群

番号	位置	列方向	長さ (m)	柱間 (m)	柱穴				備考
					柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	
43	H68	N - 24° - E	2.94	0.23 ~ 0.58	8	楕円形	21 ~ 60	20 ~ 50	22 ~ 35
44	H68	N - 21° - E	2.43	0.27 ~ 0.53	9	楕円形	30 ~ 65	26 ~ 45	22 ~ 45
45	H68 - Hc8	N - 20° - E	3.97	0.64 ~ 0.93	5	楕円形	44 ~ 102	38 ~ 65	23 ~ 35
46	H68 - Hc8	N - 21° - E	3.25	0.34 ~ 1.30	5	円形・楕円形	40 ~ 84	30 ~ 40	20 ~ 28
47	F65 - F68	N - 48° - E	11.20	0.17 ~ 0.92	23	円形・楕円形・不定形	12 ~ 14	20 ~ 74	5 ~ 28
48	F65 - F68	N - 48° - E	10.20	0.21 ~ 0.83	22	円形・楕円形	17 ~ 54	17 ~ 20	5 ~ 26
49	F66 - F68	N - 48° - E	5.50	0.23 ~ 1.22	12	円形・楕円形	16 ~ 48	12 ~ 18	5 ~ 23
50	F6g4 - F6g3	N - 48° - E	4.23	0.24 ~ 0.90	7	円形・楕円形・不定形	18 ~ 66	16 ~ 20	12 ~ 15
55	K3g8 - K38	N - 7° - E	8.87	0.87 ~ 1.72	8	円形・楕円形	22 ~ 46	20 ~ 32	18 ~ 43
56	K3g7 - K37	N - 6° - E	8.74	0.84 ~ 3.25	7	円形・楕円形	20 ~ 50	14 ~ 36	28 ~ 36
60	L3k5 - L3d5	N - 16° - E	3.60	1.20	4	円形・楕円形	30 ~ 43	27 ~ 32	19 ~ 43
61	L3e6 - L3d5	N - 14° - E	4.75	0.80 ~ 1.60	5	円形・楕円形	18 ~ 43	14 ~ 32	13 ~ 38
									SB510 PG52-53 新田不明
									SB510 SD404 PG52-53 新田不明

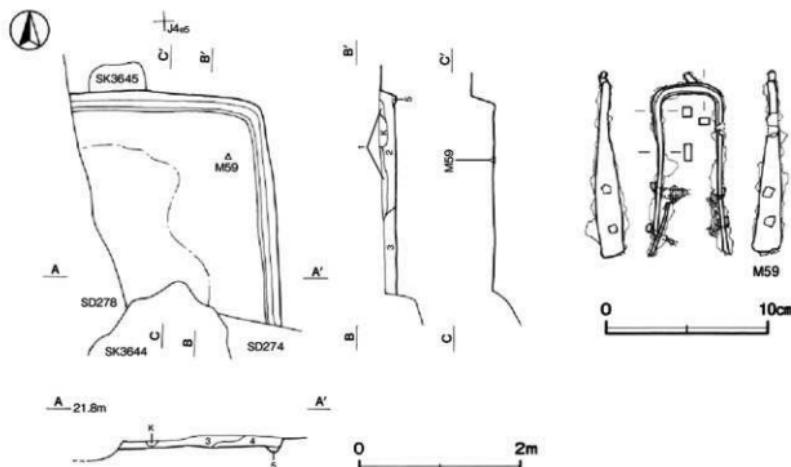
5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期が明らかでない竪穴住居跡 2 軒、掘立柱建物跡 8 棟、土坑 625 基、溝跡 34 条、ピット群 14 か所を確認した。以下、これらの遺構のうち特徴的ないくつかについて文章で記述し、それ以外の遺構については実測図と一覧表を掲載する。

(1) 竪穴住居跡

第 2556 号住居跡（第 349 図）

位置 調査区南西部の J 4 e5 区、標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 349 図 第 2556 号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第3645号土坑を掘り込み、第274・278号溝、第3644号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部を溝と土坑に掘り込まれ、西部が溝に掘り込まれているため、南北軸は2.70m、東西軸は2.35mしか確認できなかった。南北軸方向はN-0°である。壁高は13~27cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

覆土 5層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量	4 暗 褐 色 ロームブロック中量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	5 暗 褐 色 ローム粒子中量
3 黒 褐 色 ロームブロック中量	

遺物出土状況 M59が床面から出土している。

所見 時期は、重複関係から中世前半以前と考えられるが、時期決定の根拠となる土器が出土していないため詳細については不明である。

第2556号住居跡出土遺物観察表（第349図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M59	鍵道具	10.8	5.0	1.8	44.5	鉄	頭・本質一部残存	床面	PL81

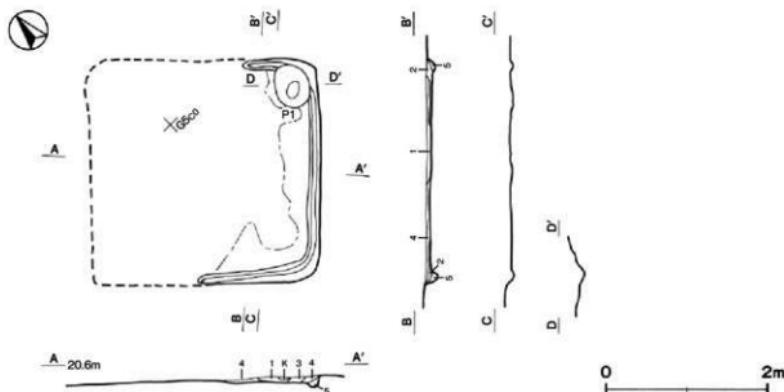
第2870号住居跡（第350図）

位置 調査区北西部のG5c0区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 上面が削平されているため、北東・南西軸は2.85mで、北西・南東軸は1.57mしか確認できなかった。隅丸方形または長方形と推定される。北東・南西軸方向はN-45°-Eである。壁高は2~7cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

ピット 深さ12cmで、性格は不明である。



第350図 第2870号住居跡実測図

覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物中量	4 棕褐色 ローム粒子少量
2 黄褐色 ロームブロック少量	5 棕褐色 ロームブロック微量
3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量	

所見 時期は、遺構の遺存状況が悪く、時期決定の根拠となる遺物が出土していないことから、時期不明である。

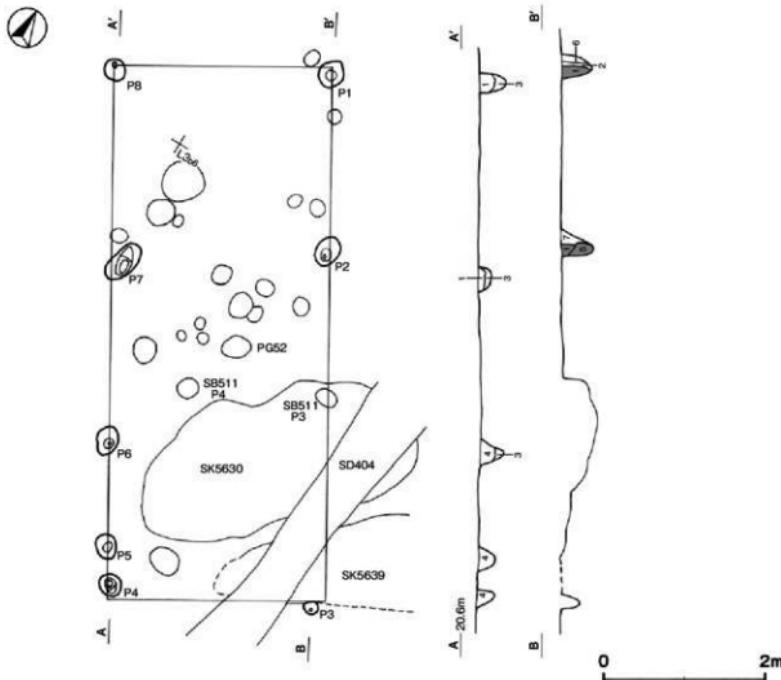
表27 その他の堅穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形 主軸方向	規 模 長軸×短軸(m)	標 高 (cm)	床面	襖溝	内 部 施 設			覆 土	主な出土遺物	備 考	
							柱穴	出入口	ビット	炉・窓			
2566	J4e5	[方形・ 長方形]	N - 0° (2.70) × (2.35)	13 - 27	平坦	(全鉢)	-	-	-	-	人為	陶製品	SK3645 → 本跡 → SK3644, SD274-278
2870	G5c0	[長方形] [品字形]	N - 45° - E (2.85) × (1.57)	2 - 7	平坦	(全鉢)	-	-	1	-	-	人為	

(2) 挖立柱建物跡

第 512 号挖立柱建物跡 (第 351 図)

位置 調査区南西部の L 3 a5 ~ L 3 c7 区、標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 351 図 第 512 号挖立柱建物跡実測図

重複関係 第5639号土坑を掘り込んでいる。第511号掘立柱建物跡、第5630号土坑、第404号溝跡、第52号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-30°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.6m、梁行2.7mで、面積は17.82m²である。柱間寸法は、桁行が東平で2.1m、西平で北妻から2.4m、2.1m、1.8mで、梁行は北妻が2.7m、南妻が2.5mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または梢円形で、長径18~53cm、短径15~28cmである。深さは21~40cmで、掘方の断面形はU字状である。柱痕・柱抜き取り痕は第1・5層が相当する。柱のあたりが、P2・P6・P8の底面で確認できる。

土層解説

1	暗灰 黄色 ロームブロック中量	5	椎崎 暗色 ロームブロック少量
2	黄 楊色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量	6	椎崎 暗色 ロームブロック微量
3	暗灰 黄色 ロームブロック・粘土ブロック中量	7	暗 楊色 ロームブロック中量
4	暗 楊色 ロームブロック少量		

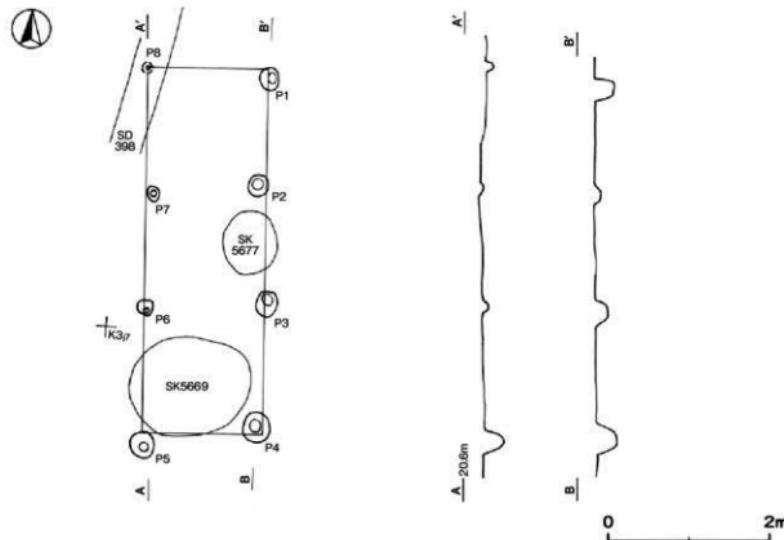
所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。

第514号掘立柱建物跡（第352図）

位置 調査区南西部のK3i7~K3j7区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第398号溝に掘り込まれている。第5669・5677号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-6°-Wの南北棟である。規模は、桁行4.5m、梁行1.5mで、面積は6.75m²である。柱間寸法は、桁行が東平で北妻から1.4m、1.4m、1.6m、西平で1.5m、1.5m、1.7mで、梁行は1.5mである。柱筋はほぼ揃っている。



第352図 第514号掘立柱建物跡実測図

柱穴 8か所。平面形は円形または椭円形で、長径 14～39cm、短径 12～32cmである。深さは 8～27cmで、掘方の断面形は逆台形またはU字状である。柱のあたりが、P 6・P 8の底面で確認できる。

所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。

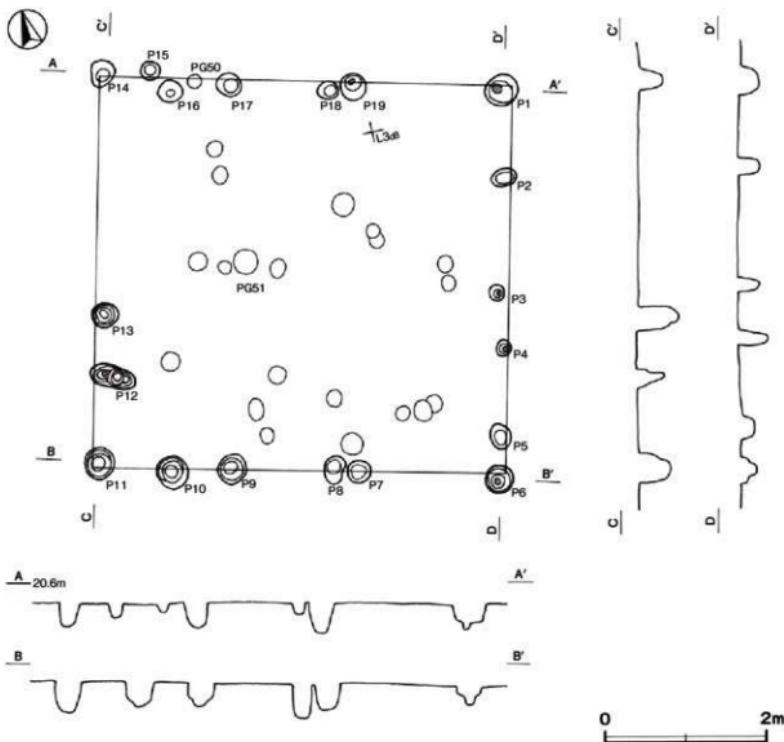
第 519 号掘立柱建物跡（第 353 図）

位置 調査区南西部の L 3 c7～L 3 e8 区、標高 20m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 50・51 号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行・梁行ともに 3 間の側柱建物跡で、桁行方向が N-75°-W の東西棟である。規模は桁行 5.1 m、梁行 4.9 m で、面積は 24.99m² である。柱間寸法は、桁行が北平で西妻から 1.6 m、1.5 m、1.8 m、南平で 1.7 m、1.3 m、2.0 m、梁行は東妻が北平から 1.1 m、2.1 m、1.7 m でばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 19か所。平面形は円形または不整椭円形で、長径 20～55cm、短径 19～25cm である。深さは 17～46cm で、



第 353 図 第 519 号掘立柱建物跡実測図

掘方の断面形はU字状である。柱のあたりが、P 1・P 3・P 4・P 6・P 12・P 19の底面で確認できる。
所見 P 7・P 8とP 18・P 19が隣接していることから、建て替えの可能性がある。時期は、時期決定の根拠となる遺物が出土していないため不明である。

第520号掘立柱建物跡（第354図）

位置 調査区南西部のK 3 f4～K 3 g4区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

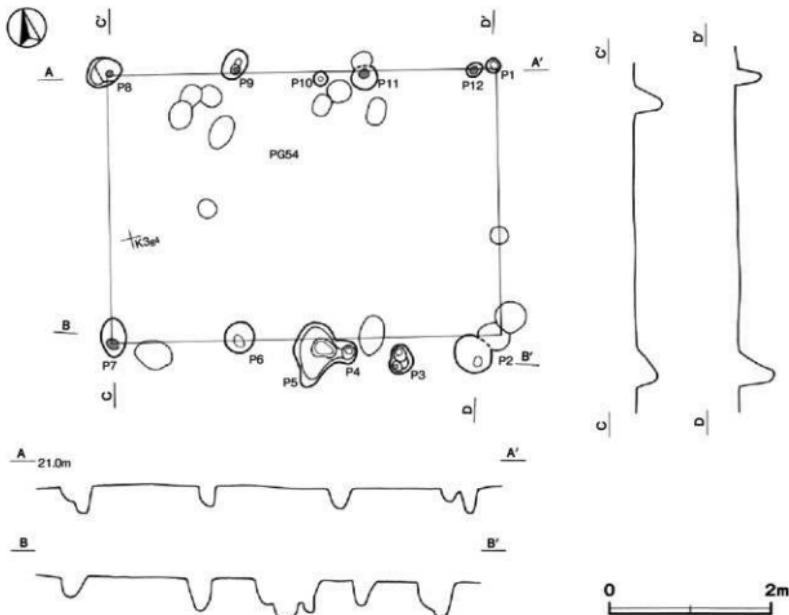
重複関係 第54号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の個柱建物跡で、桁行方向がN-74°-Wの東西棟である。規模は、桁行4.8m、梁行3.3mで、面積は15.84m²である。柱間寸法は、桁行が北平で西妻から1.6m、1.6m、1.4m、南平で1.5mで、梁行は西妻が3.3m、東妻が3.6mではらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 12か所。平面形は円形または不整規円形で、長径18～78cm、短径15～53cmである。深さは15～50cmで、掘方の断面形はU字状である。柱のあたりが、P 7～P 9・P 11・P 12の底面で確認できる。

遺物出土状況 土師器片3点（壺）、土師質土器片1点（擂鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 P 1・P 12、P 4・P 5、P 10・P 11がそれぞれ隣接していることから、建て替えの可能性がある。時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。



第354図 第520号掘立柱建物跡実測図

第 528 号掘立柱建物跡（第 355 図）

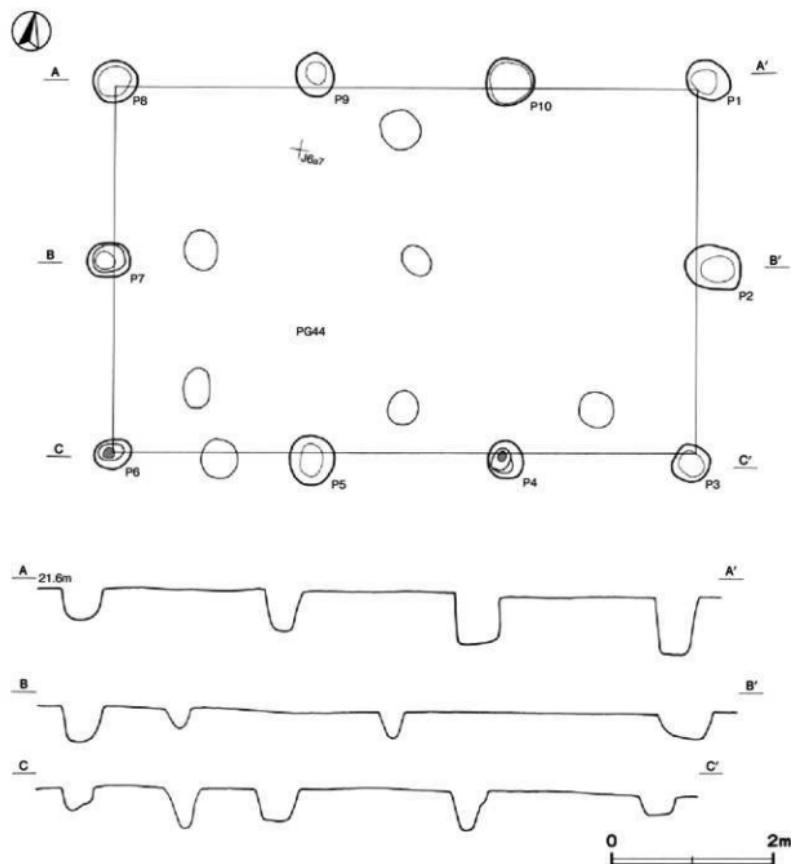
位置 調査区南部の I 6j6 ~ J 6a8 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 44 号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 2 間の個柱建物跡で、桁行方向が N - 80° - E の東西棟である。規模は、桁行 7.2 m、梁行 4.5 m で、面積は 32.4m²である。柱間寸法は、桁行は 2.4 m を基調とし、梁行は西妻が 2.1 m、2.4 m、東妻が 2.4 m でばらつきがある。柱筋はほぼ描いている。

柱穴 10 か所。平面形は円形または楕円形で、長径 43 ~ 59cm、短径 37 ~ 52cm である。深さは 26 ~ 71cm²、掘方の断面形は U 字状である。柱のあたりが、P 4・P 6 の底面で確認できる。

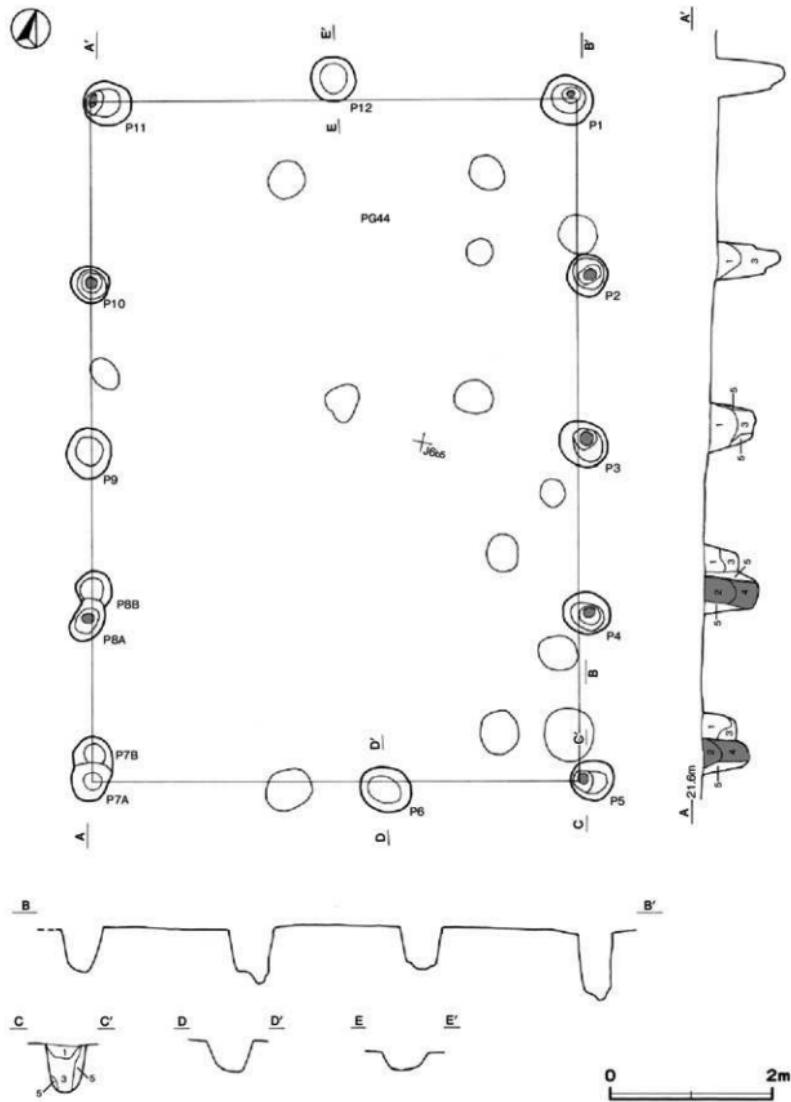
所見 時期は、遺物が出土していないため不明である。



第 355 図 第 528 号掘立柱建物跡実測図

第 529 号掘立柱建物跡（第 356 図）

位置 調査区南部の J 6a3 ~ J 6b5 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 356 図 第 529 号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第44号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-17°-Wの南北棟である。規模は、桁行8.4m、梁行6.0mで、面積は50.4m²である。柱間寸法は、桁行は2.1mを基調とし、梁行は北妻が3.0m、南妻が3.6m、2.4mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 14か所。平面形は円形または梢円形で、長径48~67cm、短径42~57cmである。深さは40~84cmで、掘方の断面形はU字状である。柱痕・柱抜き取り痕は第2・4層が相当する。柱のあたりが、P1~P5・P8A・P10・P11の底面で確認できる。

土層解説

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 黒 緑 色 ロームブロック少量 | 4 緑 緑 色 ローム粒子少量 |
| 2 緑 緑 色 ローム粒子中量 | 5 緑 緑 色 ロームブロック中量 |
| 3 緑 緑 色 ロームブロック少量 | |

所見 P7、P8で掘方が重複していることから、建て替えの可能性がある。時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。

第530号掘立柱建物跡（第357図）

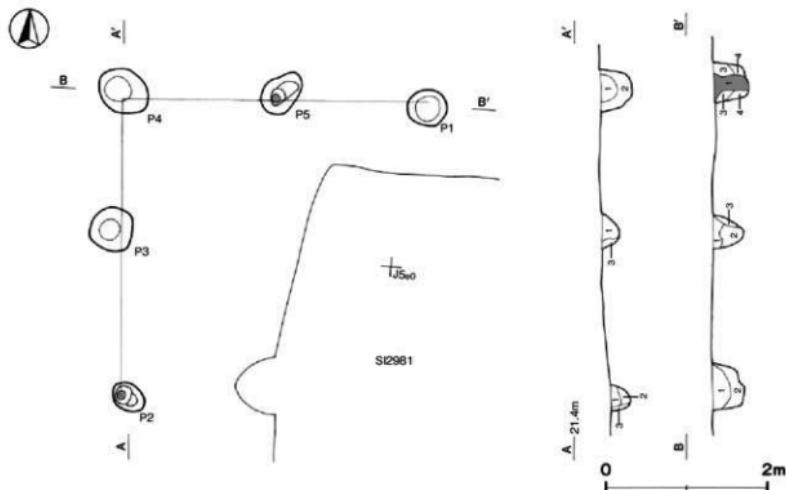
位置 調査区南西部のJ5d9~J5e9区。標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第2981号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 重複しているため、東西2間、南北2間しか確認できなかった。南北軸方向はN-2°-Wである。

柱間寸法は、1.5~2.1mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 5か所。平面形は円形または梢円形で、長径41~65cm、短径31~55cmである。深さは22~40cmで、



第357図 第530号掘立柱建物跡実測図

掘方の断面形はU字状である。柱痕・柱抜き取り痕は第1層が相当する。柱のあたりが、P2・P5の底面で確認できる。

土層解説

1 黑褐色 ローム粒子少量	3 褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック少量	4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片2点(甕)が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。

第532号掘立柱建物跡 (第358図)

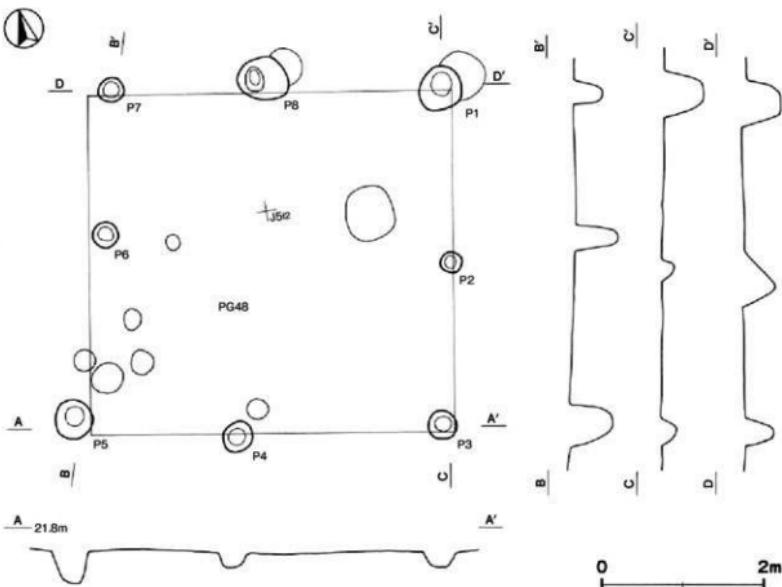
位置 調査区南西部のJ5e1～J5e2区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第48号ピット群を掘り込んでいる。

規模と構造 衍行・梁行ともに2間の側柱建物跡で、衍行方向がN-82°-Wの東西棟である。規模は衍行4.6m、梁行4.2mで、面積は19.32m²である。柱間寸法は、衍行が北平で西妻から1.8m、2.4m、南平で2.1m、2.6m。梁行は西妻が北平から1.8m、2.4m、東妻が2.1mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径28～64cm、短径23～45cmである。深さは14～52cmで、掘方の断面形はU字状である。

所見 時期は、時期決定の根拠となる遺物が出土していないため不明である。



第358図 第532号掘立柱建物跡実測図

表28 その他の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	柱行方向	柱間数	幅 梱	面積	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	備考
						柱間(m)	梁間(m)	構造	生穴数	平面形	深さ(cm)	
512	L3e5-L3e7	N - 30° - W	3 × 1	6.6 × 2.7	17.82	1.8 ~ 2.4	2.5 ~ 2.7	無柱	8	円形 精円形	21 ~ 40	SKE629 →本跡 SKE51/SKE500/SDE601 PG52 新田不明
514	K3e7-K3e2	N - 6° - W	3 × 1	4.5 × 1.5	6.75	1.4 ~ 1.7	1.5	無柱	8	円形 精円形	8 ~ 27	本跡 - S2098 S2069 - 367 新田不明
519	L3e5-L3e8	N - 75° - W	3 × 3	5.1 × 4.9	24.99	1.3 ~ 2.0	1.1 ~ 2.1	無柱	19	不整形 不整形	17 ~ 46	PG50-SL 新田不明
520	K3e1-K3e1	N - 74° - W	3 × 1	4.8 × 3.3	15.84	1.4 ~ 1.6	3.3 ~ 3.6	無柱	12	円形 不整形	15 ~ 50	土師器片、土師質土器片 PG54 新田不明
528	I6e6-I6e8	N - 80° - E	3 × 2	7.2 × 4.5	32.4	2.1	2.1 ~ 2.4	無柱	10	円形 精円形	26 ~ 71	PG44 新田不明
529	I6e3-I6e5	N - 17° - W	4 × 2	8.4 × 6.0	50.4	2.1	2.4 ~ 3.6	無柱	14	円形 精円形	40 ~ 84	PG44 新田不明
530	I6e5-I6e9	N - 2° - W (2 × 2)	(3.6 × 3.6)	-	-	1.5 ~ 2.1	-	無柱	5	円形 精円形	22 ~ 40	土師器片 SI2981 新田不明
532	I5e1-I5e2	N - 82° - W	2 × 2	4.6 × 4.2	19.32	1.8 ~ 2.6	1.8 ~ 2.4	無柱	8	円形 精円形	14 ~ 52	PG48 →本跡

(3) 土坑(付図2)

今回の調査で、性格や時期ともに不明な土坑625基を確認した。これらの土坑については、規模・形状等について一覧表を掲載し、平面図は遺構全体図に示す。

表29 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)					
3075	F9g8	N - 5° - E	楕円形	10.5 × [0.25]	52	外傾	平坦	自然		SD218 →本跡
3076	H8g0	-	円形	10.1 × 0.93	28	傾斜	平坦	-		SE2315 →本跡
3077	I9g2	N - 34° - E	長方形	3.36 × 1.43	20	傾斜	平坦	-		SE2313 →本跡
3079	I8g7	-	円形	0.45 × 0.44	18	外傾	平坦	自然	土師器片	SH81 →本跡
3080	H8g0	N - 69° - W	溝丸長方形	3.10 × 1.42	20	傾斜	平坦	-		SE2318 →本跡
3082	B8g8	N - 58° - W	長方形	2.48 × [1.06]	22	傾斜	平坦	自然	土師器片、鉄製品	SE2326 →本跡
3083	B8g5	-	円形	0.96 × 0.94	22	傾斜	圓状	自然	土師器片	SE314 新田不明
3084	B8g4	-	円形	0.45 × 0.41	38	外傾	圓状	自然		SE2321 →本跡
3086	B8g5	N - 40° - E	楕円形	1.04 × 0.85	40	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片、土師質土器片、陶製片	SE314 新田不明
3087	B8g6	N - 16° - E	不定形	[2.32] × 1.72	32	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片、陶製片	SE314 →本跡
3089	I8g1	N - 33° - E	長方形	2.39 × 0.76	58	外傾	平坦	自然		SE2334 →本跡
3090	I8g2	N - 40° - E	長方形	1.95 × 0.63	35	直立	平坦	自然	土師器片	SE2344 - SK3092 →本跡
3092	I8g2	N - 40° - E	長方形	2.78 × 0.67	61	直立	平坦	人為	土師器片	本跡 - SK3090 - 3093
3093	I8g2	N - 39° - E	長方形	1.82 × 0.76	39	直立	平坦	自然	土師器片、須恵器片、陶製片、鐵製片	SK3092 →本跡
3094	I8g8	N - 63° - E	楕円形	0.96 × 0.74	23	外傾	平坦	自然	土師器片	SE2337 →本跡
3095	I7g9	N - 1° - W	楕円形	1.17 × 0.86	16	傾斜	平坦	自然	土師器片	SE2333 →本跡
3096	I7g9	N - 2° - E	長方形	1.76 × 0.70	10	傾斜	平坦	人為	土師器片	
3097	B8g6	-	円形	0.34 × 0.34	22	外傾	平坦	自然		
3098	I8g4	-	円形	0.70 × 0.70	52	外傾	平坦	人為	土師器片、土師質土器片	SI2331 →本跡
3099	B8g9	N - 15° - W	楕円形	1.29 × 0.90	9	傾斜	平坦	自然		SI2338 →本跡
3100	B8g8	-	円形	0.26 × 0.24	46	直立	平坦	自然		SI2338 →本跡
3101	B8g9	N - 53° - E	楕円形	0.34 × 0.28	40	直立	平坦	人為		SI2338 →本跡
3102	B8g9	N - 40° - E	楕円形	0.30 × 0.24	26	外傾	平坦	自然		
3103	B8g0	-	円形	0.26 × 0.24	24	外傾	平坦	人為		SI2338 →本跡

番号	位置	長径方向	平面形	幾 條		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3104	I8g0	-	円形	0.28 × 0.27	23	外傾	平坦	人為		
3106	H8d7	N - 55° - E	楕円形	0.90 × 0.69	30	外傾	平坦	自然	土師器片	本跡 → SK3111
3107	H8d8	N - 66° - W	楕円形	0.38 × 0.33	55	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SD225 → 本跡
3108	H8d8	N - 55° - W	楕円形	1.28 × [1.09]	42	傾斜	平坦	人為		SD225 → 本跡
3109	H8d8	-	円形	0.52 × 0.48	38	外傾	平坦	人為		
3110	H9e1	-	円形	0.73 × 0.67	18	傾斜	圓状	人為		
3111	H8d7	N - 49° - E	楕円形	1.32 × 0.75	17	傾斜	平坦	自然		SK3106・SD225 → 本跡
3112	G9e7	-	円形	0.54 × 0.50	9	傾斜	平坦	自然		
3113	G9e7	-	円形	0.64 × 0.62	16	傾斜	平坦	人為		
3114	H8e7	-	円形	0.52 × [0.48]	32	外傾	平坦	自然	土師器片	
3115	H8e8	-	円形	0.59 × [0.58]	30	外傾	平坦	自然	土師器片	
3116	H9e5	-	円形	0.41 × 0.40	12	傾斜	平坦	人為	土師器片	
3117	H9e5	-	円形	0.48 × 0.46	29	外傾	圓狀	人為	土師器片	
3118	H9g6	-	円形	0.41 × 0.38	44	外傾	平坦	人為	土師器片	
3119	H9g5	N - 5° - E	楕円形	0.48 × 0.35	31	外傾	凸凹	人為		
3120	H9g5	-	円形	0.47 × 0.47	29	外傾	平坦	人為	土師器片	
3121	I9e3	N - 64° - W	楕円形	1.07 × 0.68	18	傾斜	平坦	自然		
3122	H9g6	-	円形	0.27 × 0.35	43	直立	平坦	人為	土師器片	
3123	G9g2	-	円形	0.53 × 0.52	24	傾斜	圓狀	自然	土師器片	
3124	G9e2	N - 80° - W	楕円形	0.62 × 0.56	20	外傾	平坦	自然		
3125	G9e2	-	円形	0.62 × 0.60	24	傾斜	圓狀	自然		
3126	G9e2	N - 42° - E	楕円形	0.49 × 0.43	58	直立	凸凹	人為		
3127	G9g1	-	円形	0.69 × 0.63	20	外傾	平坦	自然		
3128	G8g9	N - 15° - E	楕円形	1.08 × 0.74	32	外傾	平坦	自然	土師器片	
3129	G9e3	N - 18° - W	楕円形	0.61 × 0.54	25	傾斜	平坦	自然		
3130	G9g1	N - 15° - E	楕円形	0.85 × 0.57	16	傾斜	平坦	自然		
3131	G8i9	N - 10° - E	楕円形	0.65 × 0.55	26	傾斜	圓狀	自然		
3132	H8a8	-	円形	[0.80] × 0.75	33	外傾	平坦	自然		
3133	H8a9	-	円形	0.64 × 0.61	32	傾斜	圓狀	人為		
3134	G8i8	N - 80° - W	楕円形	0.57 × 0.47	40	外傾	圓狀	自然		
3135	G7j6	-	円形	0.68 × 0.62	30	外傾	平坦	自然		SI2280 新田不明
3136	H8b6	-	円形	1.09 × 1.05	21	傾斜	平坦	自然		
3137	G9e2	-	円形	0.24 × 0.23	38	直立	平坦	自然	土師器片、須恵器片、 土師質土器片	
3138	G9e2	N - 38° - E	楕円形	0.84 × 0.72	40	外傾	圓狀	人為	土師器片、陶器片	
3140	I8b2	N - 2° - E	楕円形	1.50 × 1.01	39	外傾	平坦	人為		
3141	G7i4	-	円形	1.18 × 1.08	7	傾斜	平坦	自然		
3142	I8a8	N - 27° - E	不整楕円形	1.90 × 0.85	57	外傾	平坦	自然		SI2347・SI2443 → 本跡
3143	I8a8	N - 43° - W	方形	1.00 × 0.95	14	傾斜	平坦	自然		SI2342・SI2443 → 本跡
3146	G7j3	N - 71° - W	楕円形	1.24 × 1.00	26	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SI2360 → 本跡
3147	G7j4	N - 72° - W	長方形	1.77 × 1.50	20	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SI2360 → 本跡
3149	H7a5	N - 43° - W	楕円形	0.49 × 0.42	27	外傾	圓狀	自然	土師器片	
3150	G7j6	-	円形	0.53 × 0.50	26	外傾	平坦	自然	土師器片	
3151	G7j6	N - 30° - E	楕円形	1.14 × 0.79	11	傾斜	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SK3168 新田不明
3152	H7a5	N - 73° - E	楕円形	0.72 × 0.58	16	傾斜	平坦	自然	土師器片	SK3171 → 本跡
3156	H6e7	-	円形	0.59 × 0.56	54	外傾	平坦	自然	土師器片	
3157	H6e7	-	円形	0.99 × 0.98	22	直立	平坦	人為	針	SI2371 → 本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3158	G755	N - 9° - E	楕円形	1.17 × 0.94	15	緩斜	平坦	自然		重複関係(古→新) SK3153 → 本跡 → SK3182
3162	G756	N - 2° - W	楕円形	2.72 × 2.38	112	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	
3163	G754	N - 47° - W	長方形	3.31 × 1.17	36	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	
3164	G764	-	円形	(0.80) × 0.72	38	外傾	平坦	-		本跡 → SD247
3166	G753	-	円形	0.46 × 0.43	40	外傾	圓状	自然	土師器片	SD2360 → 本跡
3169	G759	N - 67° - W	長方形	1.26 × (1.98)	27	緩斜	平坦	人為	土師器片	本跡 → SD229
3170	G760	-	円形	1.06 × 1.03	12	緩斜	平坦	自然		
3171	H765	N - 67° - W	橢円形	(1.43) × 1.00	12	緩斜	平坦	自然	土師器片	SK3172 → 本跡 → SK3152 → SD249
3172	H766	N - 59° - W	楕円形	2.34 × 1.02	15	緩斜	平坦	自然	土師器片、須恵器片、磁器片	SD2380 → 本跡 → SK3171 → SD249
3175	G756	N - 18° - E	楕円形	(1.12) × 0.92	54	外傾	平坦	人為		本跡 → SD229
3176	G766	N - 20° - E	楕円形	1.01 × 0.78	32	緩斜	平坦	人為		
3177	G766	N - 25° - E	楕円形	0.81 × 0.52	12	緩斜	平坦	自然		
3178	G764	N - 24° - W	長方形	2.08 × 1.04	33	緩斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片、陶器片	SK3179 → SD260 → 本跡
3179	G755	N - 47° - E	[長方形]	(1.85) × (1.40)	73	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	本跡 → SK3178 → SD260
3180	B861	N - 45° - E	楕円形	(1.16) × 0.80	38	外傾	平坦	人為		SD2356 → 本跡
3181	H762	N - 1° - E	楕円形	0.50 × 0.42	38	外傾	圓状	自然	土師器片、須恵器片	SD2365 → 本跡
3182	G756	-	円形	0.47 × 0.43	16	緩斜	圓状	自然	土師器片	SK3158 → 本跡
3183	G769	N - 48° - W	長方形	1.24 × 0.70	14	緩斜	平坦	自然		SD229 → 本跡
3184	G770	N - 37° - E	楕円形	2.77 × 1.45	15	緩斜	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SD229 → 本跡 → SK3197
3185	G758	-	円形	1.19 × 1.12	18	緩斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
3186	G758	N - 32° - W	椭円形	0.53 × 0.48	57	外傾	凸凹	人為		
3187	G759	-	円形	0.54 × 0.50	34	外傾	圓狀	自然		
3188	G759	N - 85° - E	楕円形	0.55 × 0.44	68	外傾	平坦	自然		
3189	G759	N - 82° - W	楕円形	0.50 × 0.44	14	外傾	平坦	自然		
3190	G750	N - 2° - E	楕円形	1.06 × 0.93	27	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	
3191	G759	-	円形	0.35 × 0.33	42	外傾	圓狀	自然		
3192	G759	-	円形	0.46 × 0.42	18	外傾	平坦	自然		
3193	G759	N - 15° - W	楕円形	0.68 × 0.54	12	緩斜	圓狀	自然		
3194	G758	N - 43° - E	椭丸長方形	1.14 × 0.88	14	緩斜	平坦	自然		
3195	G759	-	円形	0.90 × 0.88	13	緩斜	平坦	自然	土師器片、須恵器片	
3196	G861	N - 33° - E	長方形	3.11 × 0.75	23	緩斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
3197	G759	N - 12° - E	楕円形	0.72 × 0.64	26	緩斜	平坦	自然	土師器片	SK3184 → 本跡
3198	G759	N - 85° - W	楕円形	0.96 × 0.76	31	緩斜	平坦	人為	土師器片	本跡 → SK3199
3199	G759	N - 70° - E	楕円形	1.08 × 0.95	48	緩斜	平坦	自然	土師器片	SK3198 → 本跡
3200	G758	-	円形	0.98 × 0.98	18	外傾	平坦	自然	土師器片	SD2379 → 本跡
3201	G757	N - 10° - E	楕円形	0.98 × 0.86	19	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SD2379 → Z380 → 本跡
3202	H757	N - 54° - W	楕円形	1.16 × 0.89	14	外傾	平坦	自然	土師器片	SD2380 → 本跡
3203	H757	N - 60° - W	楕円形	1.86 × 1.26	26	緩斜	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SD2380 → 本跡
3204	H756	N - 24° - E	不要楕円形	2.27 × 0.96	10	緩斜	圓狀	自然		
3205	H756	-	円形	0.76 × 0.74	14	緩斜	圓狀	自然	土師器片、須恵器片	
3207	G758	N - 60° - W	長方形	2.58 × 1.85	18	緩斜	平坦	自然	土師器片	SD2379 → 本跡
3213	G755	N - 61° - W	[楕円形]	(1.28) × (1.07)	56	外傾	平坦	人為		本跡 → SD246
3214	H757	-	円形	0.84 × 0.80	16	緩斜	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SD2490 → 本跡
3215	H756	-	円形	1.03 × 1.01	15	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SD2382 A - 2490 → 本跡
3217	G753	-	円形	0.76 × 0.76	34	外傾	平坦	自然		
3218	G753	N - 45° - E	[楕円形]	0.88 × [0.70]	20	緩斜	圓狀	人為		本跡 → SD265

番号	位置	長径方向	平面形	幾 梱		壁 面	底 面	覆 土	主な出土 遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3219	G7e4	N - 56° - E	橢円形	1.18 × 0.92	30	板斜	平坦	自然	土師器片	
3221	G7f3	N - 32° - E	橢円形	0.44 × 0.40	18	外傾	平坦	人為		
3222	H6s3	N - 36° - E	長方形	2.68 × 0.92	23	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片、陶器片	SZ2389 → 本跡
3224	H6s3	N - 36° - W	隅丸長方形	2.26 × 1.04	19	外傾	平坦	人為	土師器片	SZ2389 → 本跡
3225	G7d5	N - 38° - E	[隅丸長方形]	(0.82) × (0.70)	34	外傾	平坦	自然		本跡 → SD246
3226	H6e5	N - 36° - E	長方形	1.72 × 0.95	32	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
3229	G7z2	N - 13° - E	橢円形	1.22 × 0.88	60	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SZ2360 → 本跡
3230	G7c3	N - 62° - W	[隅丸長方形]	(1.18) × (0.52)	77	外傾	平坦	人為	砾石	本跡 → SD247
3234	H6e9	N - 45° - E	橢円形	0.78 × 0.48	12	板斜	平坦	人為		SZ2361 → 本跡
3235	H6e9	-	円形	1.05 × 0.93	47	直立	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SZ2361・Z396・Z397 → 本跡
3226	H7b6	N - 56° - E	橢円形	0.50 × 0.44	64	外傾	圓状	自然		
3237	H6d7	N - 12° - E	隅丸長方形	1.11 × 0.68	42	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SZ2394 → 本跡
3239	G7j8	-	[円形]	(0.96) × 0.90	14	板斜	圓狀	自然	土師器片	本跡 → SD272
3241	G7j9	-	円形	0.29 × 0.28	44	外傾	平坦	自然	土師器片	
3242	G7j9	-	円形	0.34 × 0.32	64	外傾	平坦	自然		
3244	G7j9	-	円形	0.80 × 0.80	13	板斜	圓狀	人為	土師器片	
3245	G7j9	-	円形	0.30 × 0.28	36	外傾	U字状	人為	土師器片	
3246	G7j0	N - 33° - E	橢円形	(1.12) × 0.73	24	板斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片	本跡 → SD259
3247	G7j9	-	円形	0.97 × 0.92	10	板斜	平坦	自然	土師器片、須恵器片、圓柱(須恵器)	
3248	H7a8	-	円形	0.92 × 0.89	12	板斜	圓狀	自然	土師器片	
3251	H7e0	N - 21° - W	橢円形	0.98 × 0.80	56	外傾	平坦	自然		
3253	G7j7	N - 35° - E	橢円形	0.90 × 0.80	29	外傾	平坦	人為	土師器片	
3254	G7a7	N - 48° - W	橢円形	1.08 × 0.90	30	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
3255	G7a7	N - 63° - W	橢円形	1.14 × 0.86	28	板斜	凸凹	自然	土師器片、須恵器片	
3256	G8j2	-	円形	0.98 × 0.92	38	板斜	平坦	自然	土師器片	
3257	H7g2	-	円形	1.20 × 1.12	12	板斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SK3258・Z359 → 本跡
3258	H7g3	N - 42° - E	[橢円形]	1.12 × (0.87)	16	板斜	平坦	人為		→ SK3257・Z359
3259	H7g3	-	[橢円形]	0.96 × (0.69)	14	板斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SK3258 → 本跡 → SK3257
3260	H7h2	-	円形	0.78 × 0.73	20	板斜	圓狀	人為		
3261	H6d9	N - 37° - E	長方形	2.61 × 1.04	36	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SZ315 → 本跡
3262	G8e4	N - 85° - W	隅丸長方形	2.46 × 0.50	10	板斜	平坦	-		
3263	I7d6	-	円形	1.16 × 1.08	13	板斜	平坦	自然	土師器片、炭化物(穀)	SZ2351 → 本跡
3264	I7j8	N - 41° - E	長方形	5.36 × 1.22	18	板斜	平坦	人為	土師器片、陶器片	SZ368 → 本跡
3265	H6e9	-	円形	0.51 × 0.49	30	外傾	平坦	自然		SZ296・Z397 → 本跡
3267	H6s3	-	[円形]	1.06 × (0.70)	28	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SK3268 → 本跡 → SI2493
3268	H6s3	N - 30° - E	[長方形]	0.58 × (0.44)	37	外傾	凸凹	人為	土師器片	本跡 → SK3267
3269	H6j7	N - 60° - E	橢円形	0.68 × 0.48	70	外傾	平坦	自然	土師器片	SZ2551 → 本跡
3271	I8j2	-	[円形]	(0.66) × (0.59)	26	板斜	圓狀	-		SI2332・SK3272 → 本跡
3272	I8j1	-	[円形]	0.60 × (0.60)	43	外傾	圓狀	-		本跡 → SK3271
3273	H7b7	N - 62° - E	橢円形	1.11 × 0.89	20	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	
3274	H7b7	N - 16° - W	橢円形	0.74 × 0.64	18	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	
3278	J4b7	N - 42° - E	橢円形	0.69 × 0.59	76	外傾	圓狀	人為		
3279	J4c8	-	円形	0.50 × 0.46	50	外傾	平坦	自然		
3280	J4c5	N - 2° - E	隅丸長方形	1.59 × 1.15	24	板斜	平坦	自然	土師器片	
3281	J4b8	N - 11° - W	橢円形	0.78 × 0.639	35	板斜	平坦	-		SZ2552 → 本跡
3282	J4b7	-	円形	0.60 × 0.58	50	外傾	平坦	-		SZ2552・SK3272 → 本跡

番号	位置	長径方向	平面形	幾 梢		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3283	145	N - 11° - E	楕円形	0.59 × 0.50	67	外傾	圓状	自然		
3284	145	N - 14° - E	楕円形	0.58 × 0.49	43	外傾	平坦	自然		
3285	145	N - 66° - W	楕円形	0.71 × 0.59	60	外傾	平坦	自然		
3286	145	N - 33° - W	楕円形	0.67 × 0.56	40	外傾	傾斜	自然		
3287	145	-	円形	0.45 × 0.45	35	外傾	平坦	自然		
3288	145	-	円形	0.44 × 0.43	44	外傾	圓状	人為		
3289	145	-	円形	0.46 × 0.44	35	外傾	平坦	人為		
3290	145	N - 23° - E	楕円形	0.59 × 0.50	66	外傾	圓状	人為		
3291	145	N - 73° - W	楕円形	0.58 × 0.43	49	外傾	圓状	自然	SD277 → 本跡	
3293	Hd5	N - 16° - W	不整楕円形	0.86 × 0.62	18	外傾	平坦	自然		
3294	145	-	円形	0.44 × 0.41	20	傾斜 外傾	平坦	自然		
3295	145	N - 55° - W	不整楕円形	0.41 × 0.35	53	外傾	平坦	自然		
3296	145	N - 2° - E	楕円形	1.05 × 0.56	54	外傾	圓状	自然		
3297	J40	-	円形	0.55 × 0.54	40	外傾	平坦	-	SD281 → 本跡	
3298	J47	N - 20° - E	【楕円形】	(0.76) × 0.52	21	傾斜	平坦	自然	土師器片、須恵器片	本跡 → SK3658 中世・近世
3299	145	N - 39° - E	楕円形	0.36 × 0.32	29	外傾	圓状	自然		
3614	165	-	楕円形	0.59 × [0.46]	62	外傾	平坦	自然		SD2443 → 本跡
3617	J45	N - 16° - E	【長方形】	242 × (0.44)	19	外傾	平坦	自然	土師質土器片、土師器片、 須恵器片	
3620	J47	N - 1° - E	長方形	204 × 1.46	12	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SD2552 - SK3082 → 本跡
3621	J47	N - 5° - E	楕丸長方形	0.83 × 0.61	24	直立	平坦	自然		SD2448 → 本跡
3625	J45	N - 32° - W	楕円形	1.08 × (0.76)	19	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	本跡 → SK3624 中世・近世
3626	J45	N - 86° - W	楕円形	1.44 × 1.11	35	傾斜	平坦	自然	土師器片、砥石	SB321
3627	J45	N - 74° - W	楕円形	1.25 × 1.01	37	傾斜	圓状	自然		SB321
3628	J45	N - 84° - W	長方形	2.60 × 0.96	30	傾斜	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SB321
3631	J45	N - 4° - E	楕円形	1.37 × 0.98	13	傾斜	平坦	自然	鉢製品	SB321
3632	J45	-	円形	1.10 × 1.03	15	傾斜	平坦	自然	須恵器片	
3633	J45	N - 80° - W	【楕円形】	0.82 × (0.64)	11	傾斜	平坦	自然		本跡 → SK3634
3634	J45	N - 80° - W	楕円形	1.08 × 0.92	14	傾斜	平坦	自然		SK3633 - 3635 → 本跡
3635	J45	-	円形	1.08 × 1.02	19	傾斜	平坦	自然		SK3636 → 本跡 → SK3634
3636	J45	N - 86° - E	【楕円形】	(1.02) × 0.88	16	傾斜	平坦	自然		SD278 → 本跡 → SK3635
3637	J45	N - 16° - W	【楕円形】	(1.32) × 0.79	12	外傾	平坦	自然		本跡 → SK3638 - 3643
3638	J45	N - 82° - W	楕円形	1.68 × 0.90	18	外傾	圓状	自然	土師器片、須恵器片	SK3637 → 本跡
3639	J45	N - 83° - W	楕円形	2.85 × 0.93	20	傾斜	平坦	自然	土師器片	
3640	J45	N - 82° - W	楕円形	2.00 × 1.04	35	外傾 傾斜	圓状	人為	土師器片	
3641	J45	N - 6° - E	【楕丸長方形】	1.60 × (0.84)	32	外傾	平坦	-		SD2488 → 本跡
3642	J45	N - 10° - E	【楕円形】	1.69 × 1.27	37	傾斜	平坦	自然		SD2555, SD277 → 本跡
3643	J45	N - 20° - E	楕円形	1.14 × 0.89	34	外傾	平坦	自然	土師器片、磁器片	SK3637 → 本跡
3644	J45	N - 3° - E	不定形	2.11 × (1.72)	36	傾斜	圓状	人為		SD2556, SD274 → 278 → 本跡
3645	J45	N - 86° - E	【楕丸長方形】	0.72 × (0.35)	19	傾斜	圓状	人為		本跡 → SI2556
3646	J45	N - 20° - E	楕円形	0.63 × 0.54	32	外傾	圓状	自然	土師器片、須恵器片	
3647	J566	N - 5° - E	楕円形	0.89 × 0.65	74	外傾	圓状	自然		SD2486 → 本跡
3648	J45	N - 78° - W	長方形	2.49 × 1.12	42	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SD266 → 本跡
3649	J45	N - 6° - E	長方形	2.34 × 1.20	34	外傾	平坦	人為	土師器片	SD266 → 本跡
3650	J45	N - 14° - E	楕円形	2.42 × 0.83	16	傾斜	平坦	自然		
3651	J45	N - 15° - E	【楕円形】	0.98 × (0.56)	19	傾斜	圓状	自然		
3652	J45	-	円形	0.66 × 0.64	24	外傾	平坦	自然		SK3653 → 本跡

番号	位置	長径方向	平面形	幾 條		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3653	J4a7	N - 16° - E	長方形	2.32 × 1.26	22	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SK3654 → 本跡 → SK3652
3654	J4c7	N - 15° - E	[楕円形]	(0.99) × 0.90	20	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	本跡 → SK3653
3655	J4d7	N - 16° - E	楕円形	1.32 × 0.82	6	外傾	圓状	人為	土師器片、須恵器片	
3656	J4e7	N - 80° - W	[楕円形]	(1.76) × 0.81	7	外傾 傾斜	平坦	自然	土師器片	本跡 → SK3657
3657	J4e7	N - 8° - E	長方形	1.04 × 0.91	4	外傾	平坦	人為	土師器片	SK3656 → 本跡
3659	J4c9	N - 5° - E	楕円形	1.05 × 0.56	19	外傾	圓狀	自然		SD281 → 本跡
3660	J4c9	N - 67° - E	楕円形	0.70 × 0.57	40	外傾	平坦	自然		本跡 → SD281
3662	J4e9	N - 19° - E	長方形	2.12 × 0.72	14	外傾 傾斜	平坦	人為		
3663	J4g7	N - 1° - E	楕円形	1.04 × 0.68	14	傾斜	平坦	自然	土師器片	
3664	J4h8	N - 7° - E	楕円形	0.38 × 0.30	28	外傾	平坦	自然		
3665	J4h7	N - 10° - E	楕円形	0.38 × 0.31	23	外傾	平坦	自然		
3666	J4h7	N - 60° - W	楕円形	0.45 × 0.40	40	直立 外傾	平坦	自然		
3667	J4h7	N - 57° - W	楕円形	0.52 × 0.40	28	外傾	圓狀	自然		
3668	J4g5	N - 73° - W	楕円形	0.95 × 0.86	14	傾斜	平坦	自然		
3669	J4a4	N - 71° - E	不定形	0.80 × 0.62	14	外傾 傾斜	平坦	人為		SD277 → 本跡
3670	J4a4	N - 45° - W	楕円形	0.68 × 0.46	74	外傾	圓狀	自然		
3671	J4c7	N - 35° - W	楕円形	0.49 × 0.42	72	直立	圓狀	人為		
3672	H5g2	N - 69° - W	楕円形	1.55 × 0.81	16	外傾	圓狀	自然	土師器片、須恵器片	
3673	I5a1	N - 20° - E	楕円形	1.58 × 0.71	12	傾斜	平坦	人為	土師器片	
3674	I5c5	-	円形	1.04 × 1.01	24	傾斜	圓狀	人為	土師器片、須恵器片	
3675	I5d6	-	円形	1.27 × 1.17	42	傾斜	平坦	自然	土師器片	
3676	He8	N - 40° - E	楕円形	0.88 × 0.69	29	外傾	平坦	人為		SI2478 → 本跡
3677	I5g5	N - 6° - W	楕円形	0.99 × 0.82	24	外傾	圓狀	人為		SB465、SK3734 [断口不明]
3678	I5g5	-	円形	1.06 × 1.05	44	外傾	圓狀	自然	土師器片	SB465 新旧不明
3679	I5g8	-	円形	1.10 × 1.01	40	外傾	圓狀	自然	土師器片	
3680	I5g8	N - 32° - E	楕円形	0.92 × 0.76	19	外傾 傾斜	圓狀	自然		
3683	I5g8	N - 24° - W	楕円形	0.92 × 0.75	18	傾斜	圓狀	自然		
3684	I5g8	N - 27° - E	楕円形	0.82 × 0.76	16	外傾	圓狀	自然	須恵器片	
3685	J4b8	N - 14° - E	楕円形	0.58 × 0.49	42	外傾	平坦	人為		
3686	I4g9	N - 80° - E	楕円形	0.54 × 0.49	68	外傾	圓狀	人為	土師器片	
3687	I5j1	N - 24° - E	楕円形	0.66 × 0.38	30	外傾	平坦	自然		
3688	I5j1	N - 75° - W	楕円形	0.57 × 0.49	60	外傾	平坦	自然		
3689	I4g9	N - 71° - W	不整楕円形	1.66 × 0.99	49	外傾	圓狀	人為	土師器片	SD266 → 本跡
3690	I5j1	-	円形	0.87 × 0.82	22	外傾	平坦	自然		
3691	I4f7	N - 79° - W	長方形	1.51 × 1.08	20	外傾	平坦	人為	土師器片、土師質土器片、 磚文土器片	
3692	I4f6	-	円形	0.52 × 0.52	59	直立 外傾	平坦	自然		
3693	I5a8	N - 14° - E	楕円形	1.20 × 0.94	22	傾斜	圓狀	人為	土師器片	
3694	I5h5	-	円形	0.82 × 0.76	34	傾斜	平坦	自然	土師器片	
3695	I5h5	N - 81° - W	楕円形	0.99 × 0.84	41	外傾	平坦	自然	土師器片	SB465 → 本跡
3696	I5h4	-	円形	1.71 × 1.20	80	外傾	平坦	自然	土師器片	本跡 → SB465
3697	I4f5	N - 8° - E	楕円形	2.00 × 0.98	12	傾斜	平坦	自然		
3698	I5g4	-	円形	0.44 × 0.42	53	外傾	平坦	人為		
3699	H6b6	N - 43° - E	長方形	2.85 × 1.05	18	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SD258 → 本跡 → SK3700
3700	H6b6	N - 45° - E	楕円形	0.92 × 0.57	16	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SK3699 → 本跡
3701	I5g4	-	円形	0.34 × 0.32	34	外傾	平坦	自然		
3702	I6c2	N - 30° - E	楕円形	0.78 × 0.66	14	外傾	平坦	人為	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	幾 條		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3703	H6b5	-	円形	0.36 × 0.34	22	縦斜 外傾 直立 外傾	平坦	人為		
3704	I6e4	N - 66° - E	楕円形	0.98 × 0.82	48	外傾 直立 外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SB467 → 本跡
3705	H6b5	N - 7° - E	楕円形	1.01 × 0.60	25	外傾 直立 外傾	平坦	自然		SE2558 → 本跡
3706	I6e3	N - 28° - E	楕円形	0.54 × 0.46	34	外傾	平坦	人為		
3707	I6c2	N - 60° - W	楕丸長方形	1.00 × 0.58	38	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
3708	I6c3	N - 8° - E	楕円形	1.01 × 0.87	18	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片、繩文土器片	
3709	I6b6	N - 52° - E	不定形	1.06 × 0.86	16	縦斜	平坦	人為	土師器片	本跡 → SK3720
3710	I6b6	N - 49° - E	楕円形	0.46 × 0.40	26	外傾	平坦	自然	土師器片	
3711	I6d7	N - 88° - W	楕丸長方形	1.10 × 0.87	21	外傾 直立	平坦	自然	土師器片、須恵器片	
3712	I5b6	N - 28° - E	楕円形	0.40 × 0.30	45	外傾	平坦	自然		
3713	I5b6	N - 32° - E	楕円形	0.67 × 0.54	38	(外傾)	平坦	人為		
3714	J5e7	N - 8° - W	楕円形	0.53 × 0.48	42	外傾	平坦	自然		
3715	I5f7	N - 47° - W	楕円形	0.52 × 0.42	64	外傾	平坦	自然		SB468 新田不明
3716	I5b9	N - 49° - E	楕円形	0.58 × 0.40	77	直立	平坦	自然		SK327 - 343 新田不明
3717	I5b9	N - 57° - E	楕円形	0.62 × 0.55	66	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SK327 - 343 新田不明
3718	I5b9	-	円形	0.46 × 0.45	45	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SB327 - 343 新田不明
3719	I5b9	-	円形	0.60 × 0.59	62	外傾	平坦	人為		SB327 - 343 新田不明
3720	I6b6	-	円形	0.24 × 0.23	30	(縦斜)	平坦	自然		SK3709 → 本跡
3721	I6b6	N - 66° - W	楕円形	0.79 × 0.71	24	縦斜	圓状	自然	土師器片、須恵器片、繩文土器片	
3723	I5g9	-	円形	0.42 × 0.40	34	外傾	平坦	自然		
3724	I5g9	-	円形	0.46 × 0.42	48	外傾	平坦	自然		
3725	I5g9	N - 71° - W	楕円形	0.74 × 0.36	38	外傾	平坦	人為		
3726	I5g9	N - 62° - E	楕円形	0.40 × 0.36	54	外傾	平坦	自然		
3727	I5h0	N - 30° - E	楕円形	0.42 × 0.37	52	外傾	平坦	人為		
3728	I5h0	-	円形	0.42 × 0.42	28	外傾	平坦	自然		
3729	I5h0	-	円形	0.48 × 0.46	68	外傾	平坦	自然		
3730	I5h9	N - 83° - E	楕円形	0.50 × 0.40	34	外傾 縦斜	平坦	自然		
3731	I5h9	-	円形	0.46 × 0.43	24	外傾	平坦	自然		
3732	I5h8	N - 27° - W	楕円形	0.54 × 0.48	20	縦斜	平坦	自然		
3733	I5h8	-	円形	0.38 × 0.35	43	外傾 直立	平坦	自然		
3734	I5g5	-	円形	0.42 × 0.38	49	外傾	平坦	自然		SB465, SK3677 新田不明
3735	I5c6	N - 4° - W	楕円形	0.34 × 0.30	22	外傾	平坦	-		
3736	I5c6	N - 46° - E	楕円形	0.32 × 0.28	14	外傾 縦斜 直立	平坦	-		
3737	I5c7	-	円形	0.32 × 0.31	24	外傾 直立	平坦	-	土師器片	
3738	I6b8	N - 22° - E	楕円形	1.22 × 0.68	53	縦斜	平坦	人為		
3739	I6d3	-	円形	0.50 × 0.50	21	外傾 縦斜	[平坦]	自然		
3740	H6j2	-	円形	0.36 × 0.35	50	外傾	平坦	自然		
3741	H6j2	-	円形	0.55 × 0.54	52	直立	平坦	人為	土師器片	
3742	H6j2	N - 39° - W	楕円形	0.38 × 0.34	24	外傾	平坦	自然		
3743	H6j2	N - 41° - E	楕円形	0.54 × 0.48	15	外傾	平坦	自然		
3744	I6a2	-	[円形]	0.34 × (0.32)	46	外傾	平坦	人為		
3745	I6a2	-	[円形]	0.38 × (0.37)	45	直立	平坦	自然	土師器片	
3746	I6a2	N - 37° - W	楕円形	[0.34] × 0.30	58	外傾	平坦	自然		
3747	I6a1	N - 88° - E	楕円形	0.70 × 0.60	14	縦斜	平坦	自然		
3748	I6a1	N - 40° - E	楕円形	0.43 × 0.38	15	縦斜	平坦	自然		
3749	I6b1	-	円形	0.41 × 0.39	28	外傾 直立	平坦	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	幾 條		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3750	I6a1	N - 80° - E	楕円形	0.32 × 0.28	23	板斜 直立	平坦	自然		
3751	H61	-	円形	0.31 × 0.30	14	板斜	平坦	自然		
3752	H61	N - 35° - W	不整椭円形	0.64 × 0.40	54	外傾	平坦	自然		
3753	H62	-	円形	0.60 × 0.55	32	外傾	平坦	自然		
3754	H62	N - 80° - W	【楕円形】	0.38 × (0.25)	39	外傾	平坦	自然	土器片	
3755	I6a1	N - 82° - W	楕円形	(1.80) × 1.05	98	外傾	平坦	人為		本跡 → SI2459
3756	I5g9	-	円形	0.62 × 0.58	60	外傾	平坦	-		SB341 新旧不明
3757	E5b0	-	【円形】	(0.80) × (0.74)	94	外傾	平坦	人為		SD262 → 本跡
3758	I4g6	N - 49° - W	楕円形	0.44 × 0.38	44	外傾	平坦	人為		
3759	I4g6	-	円形	0.44 × 0.41	47	外傾	平坦	人為		
3760	I4g6	N - 79° - E	楕円形	0.75 × 0.60	58	外傾	平坦	人為		
3761	I6g5	N - 46° - W	【楕円形】	0.79 × (0.62)	19	外傾 板斜	平坦	人為		
3762	I6g5	N - 67° - W	楕円形	0.76 × 0.66	19	外傾	平坦	人為		
3763	I6g5	-	円形	0.40 × 0.38	42	外傾 直立 板斜	平坦	人為		
3764	I6g5	N - 28° - E	楕円形	0.84 × 0.26	19	外傾 板斜 外傾 板斜	平坦	自然		
3765	I6g5	-	円形	0.76 × 0.73	15	板斜	平坦	自然		
3766	I6g5	-	円形	0.70 × 0.65	16	板斜	平坦	自然		
3767	I4g5	N - 70° - W	不定形	1.31 × 0.68	34 - 45	外傾	平坦	人為		
3768	I4g4	N - 58° - E	不整椭円形	0.94 × 0.58	35	外傾	平坦	人為		
3769	I4g4	N - 82° - W	楕円形	0.97 × 0.55	52	外傾 板斜	平坦	人為	土器片	
3770	I4b4	N - 3° - W	楕円形	2.27 × 0.90	12	外傾 板斜	平坦	人為		本跡 → SK3771
3771	I4b4	N - 40° - W	不要椭円形	0.81 × 0.41	58	直立 板斜	平坦	人為		SK3770 → 本跡
3772	I4b4	N - 66° - E	楕円形	1.00 × 0.82	26	板斜	凸凹	人為	土器片	
3773	H61	N - 65° - E	楕円形	0.36 × 0.34	58	直立	圓状	自然		SB345 新旧不明
3774	I6e5	-	円形	0.72 × 0.68	24	板斜	平坦	自然	土器片	
3775	I6d5	-	円形	0.35 × 0.34	24	外傾 板斜	平坦	人為		SB344
3776	I6d5	-	円形	0.44 × 0.42	44	外傾	平坦	人為		SB344
3777	I6d5	-	円形	0.40 × 0.38	26	外傾	平坦	人為		SB344
3778	I6d5	N - 65° - W	楕円形	0.62 × 0.56	40	板斜	平坦	自然	土器片、須恵器片	SB344, SK3779 → 本跡
3779	I6d5	N - 1° - W	【楕円形】	(1.08) × 0.79	22	板斜	平坦	自然	土器片	SB344, 本跡 → SK3779
3780	I6d5	N - 24° - E	【楕円形】	0.72 × (0.66)	28 - 38	直立 外傾	平坦	自然	土器片	SB344, SK3779 → 本跡 → SK3781
3781	I6d5	N - 60° - W	楕円形	1.38 × 0.82	44	板斜	平坦	自然	土器片	SB344, SK3780 → 本跡
3782	I6e7	-	円形	0.42 × 0.41	35	外傾	平坦	自然	土器片	
3783	I6e7	-	円形	0.55 × 0.53	39	外傾 直立	平坦	自然	土器片、繩文土器片	
3784	I6e7	-	【円形】	(0.54) × (0.45)	57	外傾	平坦	自然	土器片、須恵器片	
3785	I6e6	-	円形	0.40 × 0.38	51	外傾	平坦	自然		
3786	I6d3	-	円形	0.76 × [0.70]	24	板斜	圓状	自然		
3787	I6d4	N - 16° - W	楕円形	0.84 × 0.76	22	板斜	圓状	人為	土器片	
3788	I6d4	-	円形	0.74 × 0.68	20	板斜	平坦	自然	土器片	
3789	J4a4	-	【円形】	1.12 × (0.26)	20	板斜	平坦	人為		
3790	J5a7	N - 61° - W	楕円形	0.44 × 0.36	66	外傾	平坦	-		SB409 新旧不明
3791	J5a6	-	円形	0.68 × 0.67	72	外傾	圓状	-		SD267 新旧不明
3792	I6e7	N - 60° - W	楕円形	0.66 × 0.51	66	外傾 直立	平坦	自然	土器片	
3793	H61	N - 12° - W	楕円形	1.36 × (0.97)	36	外傾	凸凹	人為		本跡 → SD246, SB345 3番 新旧不明
3794	H6b6	N - 87° - E	楕円形	0.87 × 0.66	10	板斜	平坦	-	土器片	SK3795 → 本跡
3795	I5g9	-	円形	0.88 × 0.86	13	板斜	平坦	自然	土器片、須恵器片	

番号	位置	長径方向	平面形	幾 條		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3997	H5b9	N - 76° - E	橢円形	0.50 × 0.38	22	外傾	皿状	自然	土師器片	
3901	H6e5	N - 63° - E	橢円形	0.96 × 0.88	16	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SK3902 → 本跡
3902	H6e5	N - 40° - E	橢円形	1.14 × 1.06	15	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SK3903 → 本跡 → SK3901
3903	H6e5	N - 60° - W	長方形	2.23 × 1.18	33	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	本跡 → SK3902
3904	H7e4	-	円形	0.98 × 0.92	12	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片	SK3905 → 本跡
3905	H7e4	N - 20° - E	【橢円形】	0.88 × (0.72)	12	外傾 鏡斜	平坦	自然		本跡 → SK3904
3906	H7f8	-	円形	0.72 × 0.72	14	外傾	平坦	自然		SK3907 → 本跡
3907	H7f8	N - 70° - E	【橢円形】	0.67 × (0.51)	13	外傾	平坦	自然	土師器片	本跡 → SK3906
3908	H7f8	N - 18° - E	橢円形	1.07 × 0.92	26	外傾	平坦	自然		本跡 → SK3909
3909	H7f8	N - 63° - E	橢円形	1.11 × 1.00	23	外傾 鏡斜	平坦	自然	土師器片	SK3908 → 本跡
3910	H7f8	N - 43° - E	橢円形	1.48 × 0.98	26	外傾	平坦	自然		SK3911 → 本跡
3911	H7f8	N - 43° - E	【橢円形】	0.74 × (0.29)	21	外傾	平坦	人為		本跡 → SK3910
3912	H7g3	N - 60° - W	橢円形	1.01 × 0.92	16	外傾	平坦	自然		
3913	H7g3	N - 70° - W	橢円形	1.27 × 0.88	5	外傾	平坦	自然	須恵器片	
3914	H7g2	-	円形	0.50 × 0.50	14	外傾	平坦	自然		
3915	H7g3	N - 2° - E	橢円形	0.44 × 0.29	22	外傾	皿状	自然		SK3916 → 本跡
3916	H7g3	-	円形	0.38 × 0.36	23	外傾	皿状	人為		本跡 → SK3915
3917	H7g3	-	円形	0.58 × 0.56	32	外傾	皿状	自然		
3918	H7g2	N - 24° - E	橢円形	0.42 × 0.38	30	外傾	平坦	自然		
3919	H7g2	N - 75° - E	橢円形	0.51 × 0.44	39	外傾	皿状	自然		
3920	H7h1	N - 6° - E	橢円形	1.08 × 0.94	19	鏡斜	平坦	自然	土師器片、須恵器片	
3921	H7f4	-	円形	0.55 × 0.52	44	外傾	平坦	自然		
3922	H7f5	N - 15° - W	橢円形	0.58 × 0.48	24	外傾	平坦	自然		
3923	H7g2	-	円形	0.34 × 0.33	22	外傾	平坦	自然		
3925	H6e3	N - 76° - W	橢円形	0.72 × 0.62	20	外傾 鏡斜	平坦	自然	土師器片、須恵器片	
3926	H6e3	-	円形	0.26 × 0.74	30	外傾	平坦	自然	土師器片	
3928	H6g8	-	円形	0.55 × 0.52	61	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
3929	H6h8	N - 25° - E	橢円形	0.56 × 0.46	61	外傾	平坦	自然		
3930	H6g7	-	円形	0.61 × 0.57	48	外傾	平坦	人為		
3931	H6g7	-	円形	0.56 × 0.525	42	外傾	平坦	自然		
3932	H6g7	-	円形	0.35 × 0.34	32	外傾	平坦	自然		
3933	H6g7	N - 24° - W	橢円形	0.44 × 0.38	46	外傾	平坦	自然	土師器片	
3934	H6g7	-	円形	0.32 × 0.30	17	直立	平坦	自然		
3935	H6g7	-	円形	0.48 × 0.48	73	直立 外傾 鏡斜 鏡斜	平坦	自然	土師器片	
3936	H6g7	N - 56° - E	橢円形	0.58 × 0.36	26	外傾 鏡斜	平坦	自然	土師器片	
3937	H6g7	-	円形	0.56 × 0.52	52	外傾	平坦	人為	土師器片	
3938	H6g7	N - 9° - W	橢円形	0.60 × 0.52	43	外傾 鏡斜	平坦	自然	土師器片	
3939	H6g7	-	円形	0.48 × 0.46	51	外傾	平坦	自然		
3940	H6g5	-	円形	0.70 × 0.70	24	外傾	平坦	人為	土師器片	
3941	H6g5	-	円形	0.34 × 0.33	11	鏡斜	平坦	自然		
3942	H6g4	-	円形	0.72 × 0.70	30	鏡斜	平坦	自然		
3943	H6g4	N - 79° - E	橢円形	0.32 × 0.29	23	外傾	平坦	自然		
3944	H6g3	-	円形	0.62 × 0.61	29	外傾	平坦	人為		
3945	H8c5	N - 60° - E	【橢円形】	(1.91) × 1.85	41	鏡斜	平坦	自然	土師器片、手捏土器、圓文土器片	本跡 → SK3946
3946	H8c5	-	円形	1.42 × 1.36	37	鏡斜 外傾	平坦	自然	土師器片、圓文土器片	SK3945 → 本跡
3948	H6g8	N - 24° - E	橢円形	0.75 × 0.56	47	直立	皿状	人為	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	幾 梱		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3949	H6c8	N - 25° - W	楕円形	0.80 × 0.60	44	直立	平坦	人為	土師器片	
3950	H6c8	N - 3° - W	楕円形	0.66 × 0.58	17	傾斜	平坦	人為	土師器片	
3951	H6c8	N - 45° - E	楕円形	0.59 × 0.39	28	外傾 傾斜	平坦	人為		
3952	H6b8	N - 42° - E	楕円形	0.62 × 0.29	63	外傾	圓状	人為		
3953	H6c8	N - 37° - E	楕丸長方形	1.41 × 1.10	27	外傾 傾斜	平坦	人為		
3954	H6c9	N - 5° - E	楕円形	1.63 × 1.17	72	外傾	平坦	人為		
3955	H6c9	-	円形	0.85 × 0.82	7	傾斜	平坦	人為		
3956	H6d8	N - 2° - E	楕円形	0.49 × 0.40	40	外傾	圓状	人為	土師器片	
3957	H6d9	-	円形	0.44 × 0.44	17	外傾	圓状	自然		
3958	H6d9	N - 30° - W	楕円形	0.64 × 0.57	16	傾斜	平坦	自然		
3959	H6d9	N - 9° - E	楕円形	0.33 × 0.27	39	内立 外傾	圓状	人為		
3960	H6e5	-	円形	0.48 × 0.47	27	外傾	圓状	人為	土師器片	
3961	H6e6	-	円形	0.43 × 0.42	20	傾斜	平坦	自然	土師器片	
3962	H6e7	-	円形	0.45 × 0.45	22	傾斜	圓状	自然	土師器片	
3963	H6e7	-	円形	0.32 × 0.32	23	外傾	平坦	自然		
3964	H6e7	-	円形	0.36 × 0.33	23	直立	平坦	人為		
3965	H7e7	-	円形	0.65 × 0.64	26	外傾	平坦	自然		
3966	H7e7	-	円形	0.31 × 0.30	28	外傾	圓状	人為		
3967	H6e7	N - 21° - W	楕円形	0.37 × 0.32	40	外傾	圓状	自然		
3968	H6e8	N - 7° - W	楕円形	0.33 × 0.28	37	外傾	圓状	自然		
3969	H6e9	N - 15° - E	楕円形	0.94 × 0.88	24	外傾 直立	平坦	人為	土師器片、頬窓器片	
3970	H7b1	N - 62° - W	楕円形	0.59 × 0.46	18	外傾	平坦	人為	頬窓器片	
3971	H6a0	N - 28° - E	楕円形	0.52 × 0.47	15	傾斜	平坦	人為	頬窓器片	
3972	G7a8	N - 72° - W	楕円形	0.87 × 0.72	18	傾斜	平坦	人為	土師器片、頬窓器片、陶器片	SE144 → 本跡
3973	I5g7	N - 1° - W	楕円形	0.45 × 0.36	51	外傾	圓状	自然		SE2472-2473- 2475 → 本跡
3974	G7b5	N - 36° - E	楕円形	0.66 × 0.56	80	外傾	圓状	-		
3975	F7f7	N - 24° - W	楕円形	1.23 × 1.04	28	傾斜	圓状	自然	土師器片、頬窓器片	SK3976 → 本跡
3976	F7f7	N - 46° - E	楕円形	1.74 × 1.16	46	傾斜 外傾	平坦	自然		本跡 → SK2975
3977	G7a8	N - 38° - W	楕円形	0.86 × 0.80	15	傾斜	平坦	自然		
3978	I8N	N - 38° - W	楕円形	0.69 × 0.54	45	外傾	平坦	自然	土師器片	
3979	I8f7	N - 26° - E	楕円形	0.69 × 0.60	31	外傾	圓状	自然		
3980	I8f6	-	円形	0.42 × 0.41	21	外傾	平坦	自然	土師器片	
3981	I8f6	-	円形	0.31 × 0.31	25	外傾	圓状	自然		
3982	I8f7	N - 39° - E	楕円形	0.46 × 0.40	22	外傾	圓状	自然		SH81 新田不明
3983	I8f7	-	円形	0.35 × 0.34	37	直立	圓状	自然		
3984	I8f8	-	円形	0.46 × 0.42	61	外傾	平坦	自然		
3985	I8N	N - 81° - E	楕円形	0.94 × 0.60	7	傾斜	平坦	人為	頬窓器片	
3986	I8N	N - 13° - E	不整形	0.64 × 0.45	65	外傾	平坦	人為	頬窓器片	
3987	I8e7	-	円形	0.54 × 0.54	50	外傾	圓状	人為	土師器片	SH81 新田不明
3988	I8f7	N - 82° - W	楕円形	0.66 × 0.48	49	外傾	平坦	人為	土師器片	
3989	J5b8	N - 47° - W	不整形	1.16 × 0.26	79	外傾	平坦	-		SK3292, SD307 → 本跡
3991	J4d6	N - 37° - W	[楕円形]	0.12 × 0.10	38	直立	平坦	人為		本跡 → SK3992
3992	J4d6	N - 37° - W	不整形	0.77 × 0.45	418	直立	凸凹	人為		SK3991 → 本跡
3993	I5g2	N - 26° - E	[楕丸長方形]	[2.76] × 0.67	16	傾斜	平坦	自然	土師器片	SK3994 → 本跡
3996	G7e9	-	円形	1.14 × 1.08	30	傾斜	圓状	人為	土師器片、頬窓器片	
4879	I5f5	-	円形	0.26 × 0.23	5	外傾	圓状	自然		SD465 新田不明

番号	位置	長径方向	平面形	幾 條		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
4880	I5g7	N - 84° - E	【橢円形】	0.36 × 0.34	31	外傾	圓状	人為		SD326 新旧不明
4955	J4g6	-	円形	0.45 × 0.44	33	外傾	平坦	自然		SD329 SD274 新旧不明
4956	J4g6	-	円形	0.33 × 0.30	37	直立	平坦	自然		SD329 下轍 SD29 SD29 新旧不明
4957	J4g7	-	円形	0.40 × 0.38	52	直立	凹凸	自然		
4958	J4g6	-	円形	0.44 × 0.41	23	外傾	凹凸	自然		
4959	J4g6	-	円形	0.33 × 0.31	59	直立	平坦	-		
4960	I5g9	N - 20° - E	不整橢円形	0.83 × 0.41	60 - 80	有段	凹凸	人為		
4961	I5g9	N - 7° - E	橢円形	0.72 × 0.62	74	直立	圓状	人為		
4962	I5g9	N - 53° - W	橢円形	0.70 × 0.54	32	外傾	平坦	人為		
4963	I5g8	-	円形	0.61 × 0.60	58	外傾	平坦	人為		
4964	I5g9	-	円形	0.50 × 0.49	37	外傾	平坦	人為		SD341 新旧不明
4965	G5g7	N - 58° - W	橢円形	0.58 × 0.49	27	外傾	圓状	自然		SD463 - 464 新旧不明
4966	I5g6	-	円形	0.47 × 0.43	32	外傾	圓状	人為		SD464 新旧不明
4967	I5d7	N - 78° - E	【橢円形】	0.36 × 0.32	18	外傾	平坦	自然		本跡 → SB464
4968	I5d7	-	円形	0.37 × 0.36	21	外傾	圓状	-		SD463 - 464 新旧不明
4969	I5d7	-	円形	0.34 × 0.32	39	外傾	V字状	-		SD463 - 464 新旧不明
4977	I5h7	-	【円形】	0.78 × [0.77]	16	外傾	平坦	人為		SD326 新旧不明
5006	I5g9	-	橢円形	0.45 × 0.36	-	-	-	-		
5007	I5g9	-	円形	0.38 × 0.35	-	-	-	-		SD461 新旧不明
5101	I5g9	-	円形	0.44 × 0.43	30	外傾	凹凸	自然		SD462 新旧不明
5102	I5d9	-	円形	0.47 × 0.46	20	外傾	平坦	人為		SD462 新旧不明
5103	I5d9	N - 75° - E	橢円形	0.54 × 0.48	31	外傾	平坦	人為		本跡 → SD462 P11
5104	I5d9	-	円形	0.47 × 0.44	19	外傾	凹凸	人為		SD462 新旧不明
5105	I5e7	-	円形	0.39 × 0.38	35	外傾	圓状	-		SD463 新旧不明
5106	I5e7	-	円形	0.27 × 0.25	15	外傾	圓状	-		SD463 新旧不明
5107	I5e7	-	円形	0.34 × 0.31	20	外傾	平坦	-		SD463 新旧不明
5108	I5e6	N - 72° - E	橢円形	0.38 × 0.31	25	外傾	圓状	-		SD463 新旧不明
5109	I5g0	N - 76° - E	橢円形	0.60 × 0.47	35	外傾	平坦	人為		SD463 新旧不明
5110	I5g0	N - 67° - E	橢円形	0.65 × 0.57	20	外傾	平坦	-		SD462 → 本跡
5197	J4c6	-	円形	0.45 × 0.45	40	外傾	凹凸	人為		SD321 新旧不明
5198	J4c6	-	円形	0.41 × 0.38	-	-	-	-		SD321 新旧不明
5199	J4c5	N - 15° - E	不整橢円形	0.46 × 0.41	40	外傾	凹凸	人為		SD321 新旧不明
5200	I5g8	N - 31° - E	橢円形	0.8 × 0.68	103	外傾	平坦	-		SD2480 → 本跡 SD468 新旧不明
5302	I5f7	-	円形	0.58 × 0.57	43	外傾	平坦	人為		本跡 → SB468
5203	J5a6	N - 16° - W	【橢円形】	[0.73] × [0.58]	90	外傾	平坦	人為		
5204	I5g6	N - 59° - W	橢円形	0.70 × 0.56	102	外傾	平坦	自然		
5215	I5g9	N - 61° - E	橢円形	0.45 × 0.41	69	垂直	平坦	自然		SD2479 → 本跡 SD328 新旧不明
5216	I5g8	-	円形	0.61 × 0.60	76	外傾	平坦	人為		SD2479 SD328 → SD329 新旧不明
5217	J5a8	N - 1° - E	円形	0.80 × 0.78	54	外傾	平坦	人為		SD329 → 本跡 SD328 → 408 新旧不明
5218	I5g8	N - 70° - E	橢円形	0.46 × 0.42	53	外傾	平坦	-		SD323 - 408 → 408 新旧不明
5569	Wg0	N - 55° - E	橢円形	1.53 × 0.89	55	外傾	圓状	人為		SD386 → 本跡 → SD377
5570	G5g8	-	円形	1.17 × 1.12	-	-	-	土器器片		
5573	G5g7	N - 24° - E	橢円形	1.10 × 0.96	52	外傾	平坦	人為	土器器片	
5574	G5g9	-	円形	1.02 × 1.00	10	外傾	平坦	人為		SD2866 → 本跡
5576	G5g5	N - 24° - W	不整橢円形	1.75 × 0.86	45	外傾	平坦	人為	土器器片	SK5578 - 5610 → 本跡
5579	H4e0	-	円形	1.35 × 1.27	40	直立	平坦	人為	土器器片	

番号	位置	長径方向	平面形	幾 條		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
5580	H46	N - 18° - E	橢円形	1.34 × 1.22	7	板斜	平坦	人為		
5581	H41	N - 15° - E	長方形	1.58 × 0.74	8	板斜	平坦	人為	土師器片	
5582	H46	N - 14° - E	長方形	1.92 × 0.74	7	板斜	平坦	人為	土師器片	
5583	H45	N - 15° - E	不整橢円形	1.32 × 0.90	14	板斜	平坦	人為		SK5584B → 本跡
5584A	H45	N - 47° - E	不整橢円形	1.30 × 0.74	8	板斜	平坦	人為		SK5584B → SK5585 → 本跡
5584B	H45	N - 75° - E	〔不定形〕	[0.88] × [0.72]	13	板斜	平坦	人為		本跡 → SK5583 + 5584A
5585	H45	N - 13° - E	〔橢円形〕	(1.97) × 0.96	18	外傾	平坦	人為		本跡 → SK5584A
5586	H45	-	円形	0.42 × 0.40	19	外傾	平坦	人為		
5587	H46	N - 12° - E	橢円形	1.74 × 0.84	9	板斜	平坦	人為	須恵器片	
5588	H46	N - 14° - E	長方形	2.00 × 0.60	6	板斜	平坦	人為		SK5589 - 5590 → 本跡
5589	H46	N - 32° - W	橢円形	0.38 × 0.30	28	板斜	圓状	人為		本跡 → SK5588
5590	H46	-	円形	0.28 × 0.28	22	板斜	圓状	人為		本跡 → SK5588
5591	H47	N - 20° - E	長方形	1.82 × 0.62	3	板斜	平坦	人為		
5592	H47	N - 16° - E	橢円形	1.92 × 0.68	5	板斜	平坦	人為		本跡 → SDX394
5593	H47	N - 17° - E	頸丸長方形	2.16 × 0.90	11	板斜	平坦	人為	土師器片	
5594	H47	N - 8° - E	不整橢円形	1.90 × 0.85	7	外傾	平坦	人為	土師器片	
5595	H46	N - 15° - E	不整橢円形	1.90 × 0.94	18	板斜	圓狀	人為	土師器片	
5596	H46	N - 22° - E	〔橢円形〕	(1.20) × 0.75	9	板斜	凹凸	人為		本跡 → SK5597
5597	H46	N - 22° - E	長方形	1.50 × 0.90	11	板斜	平坦	人為	土師器片	SK5596 → 本跡
5598	H46	N - 16° - E	橢円形	1.50 × 0.72	14	板斜	圓狀	人為		本跡 → SK5599
5599	H46	N - 4° - E	橢円形	1.86 × 0.64	7	板斜	平坦	人為		SK5598 → 本跡
5600	H46	N - 15° - E	橢円形	1.00 × 0.62	3	板斜	平坦	人為		SK3601 → 本跡
5601	H46	-	円形	0.55 × 0.50	58	板斜	圓狀	人為		本跡 → SK3600
5602	H4a8	-	円形	1.03 × 0.97	27	板斜	圓狀	人為		
5604	H40	N - 18° - E	橢円形	1.65 × 1.43	39	外傾 直立	平坦	人為	土師器片	
5605	H4e9	-	円形	1.19 × 1.09	49	内傾	平坦	人為	土師器片。須恵器片	
5606	H48	N - 40° - W	橢円形	1.00 × 0.88	46	外傾	平坦	人為	土師器片。須恵器片	SD264 → 本跡
5607	G5e6	N - 34° - E	橢円形	0.94 × 0.71	46	外傾 板斜	有段	人為		
5609	G55	N - 18° - W	不整橢円形	1.22 × 0.74	15	板斜	凹凸	人為		
5610	G55	N - 26° - W	橢円形	1.27 × 0.82	25	板斜	平坦	人為	土師器片	本跡 → SK5576
5611	G51	N - 35° - E	橢円形	1.27 × 1.14	15	板斜	平坦	人為	土師器片。須恵器片	
5612	H5a1	-	円形	0.75 × 0.70	20	板斜	圓狀	人為		
5613	H4a1	-	円形	1.10 × 1.02	20	板斜	平坦	人為		
5614	J38	N - 87° - W	橢円形	0.90 × 0.52	26	板斜	圓狀	人為		本跡 → SD399 中世±
5615	K3e9	-	円形	0.42 × 0.42	16	板斜	圓狀	人為		SK5616 → 本跡
5616	K3e9	N - 4° - W	橢円形	2.14 × 1.34	47	板斜	圓狀	人為		本跡 → SK5615
5619	H48	N - 81° - W	不整橢円形	1.25 × 1.13	24	板斜	平坦	人為	土師器片。須恵器片	
5620	H4g8	N - 21° - E	頸丸長方形	1.13 × 0.65	19	外傾 直立	平坦	人為	土師器片	
5622	J4b3	N - 32° - W	〔橢円形〕	2.08 × 1.20	34	外傾	平坦	人為	土師器片。土師質土器片	SD267 → 本跡 → SK3618 中世± 云貴±
5623	G51	-	円形	0.93 × 0.90	25	板斜	平坦	人為	土師器片	
5626	L3e7	-	円形	1.24 × 1.16	24	板斜	平坦	人為		SD404 → 本跡 SK317 新石・不明
5627	G5d7	N - 62° - W	橢円形	0.90 × 0.78	14	板斜	平坦	人為	土師器片。須恵器片	SD387 → 本跡
5628	G51	N - 36° - E	〔橢円形〕	(1.00) × (0.95)	35	外傾	平坦	人為		本跡 → SD404 SK553 SK312 俗名不明 中世±
5630	L3b6	N - 35° - E	不定形	3.39 × 1.29	50	板斜	圓狀	人為		
5632	K35	N - 0°	〔橢円形〕	[1.20] × 1.00	50	外傾	平坦	-	土師器片。土師質土器片。硬石	
5633	K37	N - 23° - E	長方形	1.49 × 1.04	7	板斜	平坦	人為	土師器片。須恵器片。罐器片	SD17 SK364 → 本跡 PG2 俗名不明

番号	位置	長径方向	平面形	幾 梱		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
5634	K37	N - 63° - W	楕円形	2.44 × 2.18	158	緩斜 外縁 板付	圓状	人為	土師器片、須恵器片、 土師質土器片、陶器片、磁器片	SDH4 → 本跡 → SK5633
5635	K35	-	円形	1.02 × 0.98	48	緩斜 外縁 板付	平坦	人為	土師質土器片、陶器片、磁器片	
5636	K36	N - 66° - W	楕円形	1.47 × 0.96	7	緩斜 外縁 板付	平坦	人為		
5638	K38	-	円形	0.82 × 0.80	9	緩斜	平坦	人為	土師質土器片	本跡 → SDH4
5639	L367	N - 51° - E	不定形	(2.88) × (0.94)	37	外縁	平坦	人為		本跡 → SB512 SDH4 中世
5641	L3a8	N - 75° - W	楕円形	1.42 × 0.63	5	緩斜	平坦	自然		
5645	J3e0	N - 4° - E	楕円形	1.35 × 0.70	8	外縁	平坦	人為		
5646	J4a1	N - 10° - E	楕円形	1.53 × 1.08	5	緩斜	平坦	人為		
5648	J4a1	N - 15° - E	【楕円形】	(1.62) × 1.10	14	緩斜	平坦	人為	土師器片	SD408 新旧不明
5649	J42	N - 19° - E	楕円形	1.89 × 1.60	20	緩斜 外縁	平坦	人為		
5650	J3e0	N - 14° - E	楕円形	1.80 × 1.20	18	緩斜	平坦	人為		
5651	J3e0	N - 4° - W	楕円形	1.85 × 1.14	20	緩斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片、 土師質土器片	SK5655 → 本跡
5654	J4d1	-	円形	0.74 × 0.74	14	緩斜	圓状	人為		SD410 → 本跡
5655	J3e0	N - 15° - W	不定形	(1.47) × 0.90	15	緩斜	凹凸	人為	須恵器片	本跡 → SK5651
5657	J4c2	-	円形	1.05 × 1.00	35	緩斜	平坦	人為	土師器片、土師質土器片	SD407 → 408 → 本跡
5659	J42	N - 8° - E	不整楕円形	1.00 × 0.67	42	外縁 緩斜	圓状	人為	土師器片、土師質土器片	SD2873 → 本跡
5660	L3e4	N - 72° - W	隅丸長方形	0.94 × 0.80	58	外縁	平坦	人為	土師質土器片	SD388 → 本跡
5661	L3d6	N - 14° - E	【楕円形】	0.80 × (0.62)	41	外縁 緩斜	圓状	人為		本跡 → SDH4 SB512 SK567 PG3 新旧不明
5662	L3b5	N - 17° - E	楕円形	1.38 × 0.45	10	緩斜	平坦	人為		
5666	L3d6	N - 60° - W	楕円形	1.08 × 0.56	62	緩斜	圓状	人為		本跡 → SDH4 SB512 SK567 PG3 新旧不明
5667	L3d6	N - 65° - W	楕円形	1.05 × 0.43	52	緩斜	圓状	人為		本跡 → SDH4 SB512 SK567 PG3 新旧不明
5669	K37	N - 54° - E	楕円形	1.50 × 1.24	40	緩斜	平坦	人為	土師質土器片	SB514 新旧不明
5673	L3b8	N - 77° - W	楕円形	1.57 × 1.13	24	外縁	圓状	人為	土師器片、土師質土器片	本跡 → SK5672
5677	K37	-	円形	0.79 × 0.71	17	外縁	平坦	自然		SB514 新旧不明
5679	L37	-	円形	1.48 × 1.46	82	外縁	平坦	人為	土師器片、土師質土器片、陶器片	
5680	L37	N - 63° - E	楕円形	2.44 × 2.22	68	緩斜	平坦	人為	土師器片、陶器片	
5681	L3b6	-	円形	0.92 × 0.84	76	外縁	平坦	人為		
5682	L3c3	N - 51° - W	楕円形	0.80 × 0.63	70	直立	平坦	人為	土師質土器片	SK5691 → 本跡 SDM05 新旧不明
5684	L3c8	N - 78° - W	楕円形	0.70 × 0.28	8	緩斜	平坦	人為	土師器片	本跡 → SK5685 中世・近世
5685	L3c8	N - 78° - W	楕円形	0.94 × 0.66	10	緩斜	平坦	自然		SK5684 → 本跡 SK5686 中世・近世
5689	J36	N - 90°	楕円形	1.00 × 0.90	78	内埋	平坦	-	土師質土器片	
5690	J37	N - 17° - W	楕円形	1.90 × 1.59	20	緩斜	平坦	-		
5691	L3c3	N - 40° - W	楕円形	1.30 × 0.70	73	外縁	平坦	-		本跡 → SK5682 SDH05 中世
5692	J4b1	N - 29° - W	不定形	1.34 × 1.20	36	緩斜	平坦	人為	土師器片	SD2873 → 本跡
5694	J4e4	N - 49° - E	楕円形	0.87 × 0.64	18	緩斜	圓状	人為	土師器片	SD278 → SD278 中世
5697	L3c6	N - 5° - E	不整楕円形	1.54 × 0.61	8	外縁	平坦	-		PG51 新旧不明
5851	K6a2	N - 70° - W	【長方形】	(2.18) × 2.08	70	外縁	緩斜	人為	土師器片、須恵器片	
5852	J50	N - 28° - W	楕円形	1.00 × 0.87	24	外縁	圓状	人為	土師器片	SD2977 → 本跡
5853	J50	N - 61° - E	楕円形	0.79 × 0.68	12	緩斜	圓状	人為	土師器片	SD2977 → 本跡
5854	J59	N - 16° - E	楕円形	1.75 × 0.75	13	緩斜	平坦	人為		SD2977 → 本跡
5857	J59	N - 21° - E	長方形	1.33 × 0.74	13	緩斜	平坦	自然	土師器片	SB531 新旧不明
5858	J56	N - 72° - W	楕円形	0.83 × 0.49	47	外縁	圓状	人為		第1号窓穴通構 → 本跡
5860	J57	N - 11° - E	楕円形	1.42 × 0.85	15	緩斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SB531 新旧不明
5861	J57	N - 20° - E	長方形	1.08 × 0.68	9	緩斜	平坦	自然	土師器片	
5863	J59	N - 64° - W	楕円形	1.01 × 0.75	12	緩斜	平坦	自然		SB531 新旧不明
5864	J62	-	円形	1.00 × 1.00	29	外縁	平坦	人為	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	幾 梱		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
5866	J5g6	-	円形	1.01 × 1.00	26	外傾	平坦	人為	土師器片	
5867	J5e4	N - 14° - W	楕円形	1.38 × 1.21	36	外傾	平坦	人為	土師器片	SE2988 → 本跡
5869	I6i4	-	円形	0.59 × 0.56	32	外傾	平坦	人為	土師器片	
5870	I6i4	N - 81° - E	楕円形	1.00 × 0.58	30	外傾	平坦	人為	土師器片	
5871	I6i4	N - 34° - W	楕円形	0.72 × 0.68	70	外傾	平坦	人為	土師器片	
5872	I6i5	-	円形	0.55 × 0.55	58	外傾	U字	人為	土師器片	
5873	I6g4	-	円形	0.50 × 0.49	78	外傾	U字	人為		SE2471 → 2474 → 本跡
5874	I6g4	-	円形	0.55 × 0.54	51	縱斜	圓状	人為		SE2474 → 本跡
5875	I6g3	-	円形	0.50 × 0.46	102	外傾	U字	人為		SE2474 → 本跡
5876	I6g3	-	円形	0.63 × 0.60	100	外傾	平坦	人為		SE2474 → 本跡
5877	I6i7	N - 29° - E	楕円形	3.04 × 2.30	68	外傾	平坦	人為		
5878	J5e7	N - 55° - E	楕円形	0.64 × 0.56	35	縱斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
5879	J5e7	N - 30° - W	楕円形	0.70 × 0.62	35	縱斜	平坦	人為	土師器片	
5880	J5e7	N - 65° - W	楕円形	0.78 × 0.60	52	外傾	平坦	人為	土師器片	
5881	J5h1	N - 13° - E	楕円形	1.03 × 0.90	23	外傾	平坦	-		
5882	J4h0	N - 86° - E	楕円形	0.70 × 0.55	39	外傾	U字	人為		
5883	J5c8	N - 63° - W	隅丸長方形	2.35 × 1.73	38	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片、土師質土器片	
5884	J5a4	-	円形	1.10 × 1.05	40	外傾	平坦	人為	土師器片	
5885	J5a4	-	円形	0.68 × 0.66	19	縱斜	圓狀	人為		
5886	I5j3	-	円形	0.99 × 0.97	25	外傾	平坦	-		
5887	J5h4	N - 70° - W	隅丸長方形	1.13 × 0.92	39	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
5890	J4d0	N - 84° - E	楕円形	0.72 × 0.62	46	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
5891	J5c4	-	円形	1.60 × 1.50	12	縱斜	平坦	-		PG44 新旧不明
5892	J5c4	N - 13° - E	楕円形	[1.52] × 1.37	12	縱斜	平坦	-	土師器片	PG44 新旧不明
5893	J5i5	N - 20° - E	長方形	1.14 × 0.70	8	縱斜	平坦	-		SI2994 → 本跡
5894	G6i3	-	円形	0.97 × 0.92	40	外傾	平坦	自然	土師器片	SI2994 → 本跡
5895	G3i0	-	円形	1.44 × 1.36	64	外傾	平坦	自然	土師器片	
5896	G6i1	-	円形	1.16 × 1.14	22	縱斜	平坦	自然	土師器片	
5898	G6i3	N - 60° - E	楕円形	1.40 × 0.68	18	外傾	平坦	自然	土師器片、須恵器片、石製品	SI2997 → 本跡
5899	H6c6	N - 57° - W	隅丸長方形	2.50 × 1.51	27	縱斜	平坦	-	土師器片、須恵器片、瓦片	
5902	G6a8	N - 38° - W	[楕円形]	(0.70) × 0.52	24	直立	平坦	人為	錢貨	SE3014 → 本跡
5903	H6a5	-	円形	0.42 × 0.40	39	外傾	圓狀	自然		SE3010 新旧不明
5904	H6a5	-	[円形]	0.75 × 0.50	55	外傾	平坦	自然		SE3010 新旧不明
5905	G6e5	N - 57° - E	長方形	(0.78) × 3.80	29	縱斜	平坦	人為		SE3020 → 本跡 SE3012 新旧不明
5906	H6a6	N - 12° - W	[楕円形]	(0.97) × (0.83)	60	外傾	圓狀	-		SE3010 → 本跡
5907	H6a6	N - 3° - W	隅丸長方形	1.03 × 0.66	42	縱斜	圓狀	人為		SE3010 → 本跡
5996	I6a0	N - 82° - W	楕円形	0.86 × 0.34	30	外傾 縱斜	平坦	自然	土師器片	本跡 → SF20
5997	I7c2	N - 38° - E	楕円形	1.36 × 0.54	14	縱斜	平坦	人為	土師器片	
5998	I7b2	N - 30° - E	楕円形	1.54 × 0.80	14	縱斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
5999	I7d1	N - 12° - W	楕円形	0.70 × 0.51	36	外傾	平坦	自然		
6000	I7d2	N - 40° - W	楕円形	(0.96) × (0.85)	74	外傾	平坦	自然		本跡 → SD268
6001	I7d1	N - 18° - W	楕円形	(0.98) × (0.88)	63	外傾	平坦	自然		本跡 → SD268
6002	I7b2	N - 12° - E	楕円形	1.02 × 0.62	36	縱斜	平坦	人為		
6003	I7b3	N - 47° - E	楕円形	1.02 × 0.77	30	縱斜	圓狀	人為		
6004	I6a0	N - 44° - W	長方形	2.0 × 0.70	48	外傾 縱斜	平坦	人為		本跡 → SD268
6005	I6d0	N - 41° - W	楕円形	1.03 × 0.77	40	縱斜	平坦	自然	土師器片、須恵器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
6006	1609	N - 83° - W	円形	0.81 × 0.74	38	平坦	板状	自然		本跡 → SD268
6007	1608	N - 18° - E	楕円形	0.60 × 0.46	18	平坦	板状	自然		SD030SF20 → 本跡
6008	1609	N - 35° - W	楕円形	0.75 × 0.42	30	平坦	板状	自然		SD029 → 本跡 → SU068

(4) 溝跡

今回の調査で、時期や性格ともに不明な溝跡34条を確認した。以下、土層断面図と土層解説、一覧表を掲載し、平面図は遺構全体図に示す。

第 221 号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 222 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子、粘土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量、壤土粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量
- 5 黑 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 6 褐 色 ロームブロック多量
- 7 に赤褐色 粘土ブロック多量

第 229 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量、壤土粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量
- 4 褐 色 ロームブロック中量
- 5 明 褐 色 ローム粒子多量

第 246 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・砂粒微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ロームブロック少量 (3より締り強い)

第 247 号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 4 黑 褐 色 ロームブロック少量

第 248 号溝跡土層解説

- 1 暗 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ローム粒子多量

第 249 号溝跡土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 5 褐 色 ローム粒子少量
- 6 褐 色 ローム粒子多量 (2より締り強い)
- 7 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 8 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 259 号溝跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量
- 3 明 褐 色 ローム粒子多量

第 260 号溝跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 261 号溝跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子少量、壤土粒子微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子微量

第 265 号溝跡土層解説

- 1 極 暗褐色 ロームブロック少量

第 269 号溝跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子・壤土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ローム粒子微量

第 270 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 271 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第 272 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第 273 号溝跡土層解説

- 1 黑 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ローム粒子多量

第 281 号溝跡土層解説

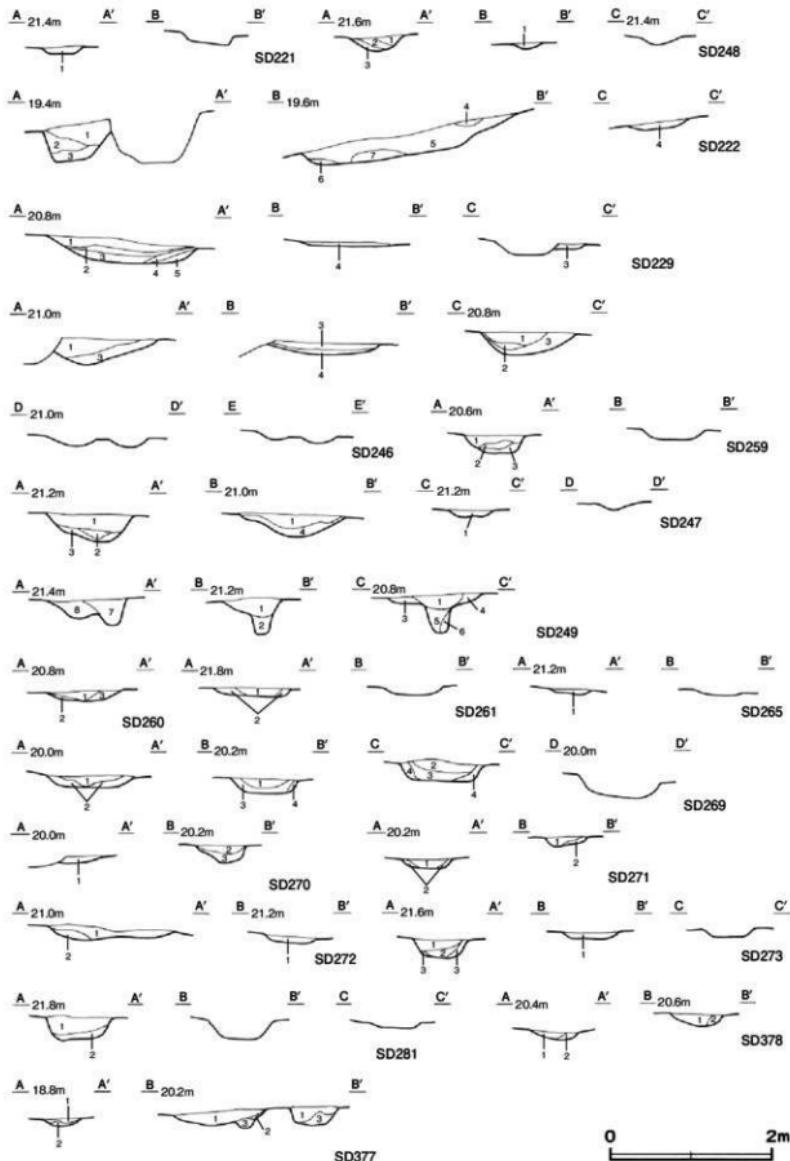
- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 377 号溝跡土層解説

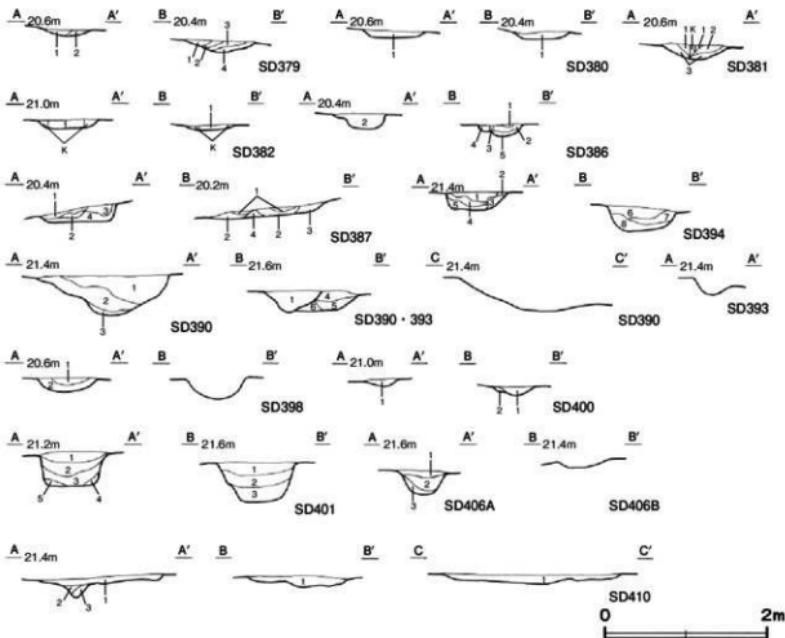
- 1 黑 褐 色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 に赤褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 378 号溝跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量



第359図 その他の溝跡実測図（1）



第360図 その他の溝跡実測図（2）

第379号溝跡土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子中量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 黑 褐色 ロームブロック微量
- 4 黑 褐色 ローム粒子微量

第380号溝跡土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量

第381号溝跡土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、燒土粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第382号溝跡土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第386号溝跡土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黑 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量（より粘性弱い）
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐 色 ロームブロック中量（よりやや弱い）

第387号溝跡土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第390号溝跡土層解説

- 1 暗 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐色 ロームブロック微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック少量
- 6 暗 褐色 ロームブロック中量

第393号溝跡土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量

第394号溝跡土層解説

- 1 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗 灰褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- 3 黑 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 4 暗 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 暗 灰褐色 ロームブロック少量
- 6 黑 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 7 黑 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 8 黑 褐色 ロームブロック少量

第 398 号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 細 帯 褐 色 ロームブロック少量

第 400 号溝跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子微量
2 細 带 褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子微量

第 401 号溝跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子微量
2 細 带 褐 色 ロームブロック少量
3 細 帶 褐 色 ローム粒子微量
4 細 帶 褐 色 ロームブロック微量
5 黑 褐 色 ロームブロック微量

第 406 A 号溝跡土層解説

- 1 細 帶 褐 色 ロームブロック中量
2 黑 褐 色 ロームブロック少量
3 褐 色 ロームブロック多量

第 410 号溝跡土層解説

- 1 細 帶 褐 色 ロームブロック中量
2 褐 色 ロームブロック少量
3 褐 色 ロームブロック多量

表 30 その他の溝跡一覧表

番号	位 置	方 向	形 状	規 模			断 面	埋 面	覆 土	主な出土遺物	備 考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						
221	G9d9～G9f9	N - 4° - E	直線	5.3	0.34 ~ 0.56	0.25 ~ 0.45	8 ~ 10	浅い U 字状	被削	自然	瓦質土器片	本跡 → SD0218 中世 a
222	F98～G96S	N - 41° - E	ほぼ直線	(18.5)	0.60 ~ 2.42	0.38 ~ 1.56	8 ~ 44	浅い U 字状	被削	自然	土器器片、須恵器片	SD257SK3169 → SD060SK3183
229	G7b5～G7e0	N - 64° - W	U 字状	[23.1]	1.05 ~ 2.13	0.75 ~ 1.40	4 ~ 28	浅い U 字状	被削	自然	土器器片、須恵器片、土師質土器	SD254-237.3-325 → SD257SK3169 → SD257SK3183
246	F7b5～G7c3	N - 60° - W	U 字状	(43.9)	0.90 ~ 1.33	0.10 ~ 0.32	8 ~ 28	浅い U 字状	被削	自然	土器器片、須恵器片、土師質土器	SD301-323.3-325 → SD302SK3183
247	G7c2～G7c3	N - 47° - E	U 字状	(20.0)	0.47 ~ 1.12	0.20 ~ 0.30	8 ~ 33	U 字状	被削	自然	土器器片、須恵器片、陶片	SD246_SK3164 → SD246_Z362 → SD246_Z362
248	G6g8～H7b1	N - 50° - W	直線	(32.1)	0.32 ~ 0.80	0.12 ~ 0.32	10 ~ 17	浅い U 字状	被削	自然	土器器片、須恵器片、陶器片	SD253-3018 → 本跡
249	G7b9～H7d1	N - 130° - E	U 字状	(55.6)	0.49 ~ 1.22	0.10 ~ 0.38	30 ~ 46	U 字状	被削	自然	土器器片、須恵器片、陶器片、細器片	SD254-237.3-229 → 238.3-239.3-325 → SD257SK3171 → SD257SK3183
259	G7b8～G7d0	N - 66° - W	直線	8.25	0.60 ~ 0.90	0.40 ~ 0.78	14 ~ 21	浅い U 字状	被削	自然	土器器片、須恵器片	SD252-3018 → 本跡
260	G7c5	N - 45° - E	直線	4.65	0.46 ~ 1.20	0.20 ~ 0.50	12	浅い U 字状	被削	自然	土器器片	SD319US029-216 → 本跡 → SK3178
261	H65～H6g1	N - 33° - E	直線	(47.4)	0.59 ~ 0.95	0.48 ~ 0.84	10 ~ 13	浅い U 字状	被削	自然	土器器片	SD2471 - 2474 → 本跡
265	G7d2～G7d3	N - 72° - W	弧状	3.73	0.51 ~ 0.62	0.29 ~ 0.37	5 ~ 10	浅い U 字状	被削	自然	土器器片、須恵器片、陶器片	SK3218 → 本跡
269	G8d4～G8l1	N - 21° - E	直線	(32.0)	0.70 ~ 1.10	0.30 ~ 0.70	12 ~ 21	逆台形	被削	自然	土器器片、須恵器片	SD2492_SK3270 → 本跡
270	G8d1～G8e3	N - 70° - W	直線	(9.11)	0.56 ~ 0.80	0.26 ~ 0.40	9 ~ 21	逆台形	被削	自然	土器器片	SD319US029-216 → 本跡 → SK3178
271	G7a8～G7c8	N - 4° - W	直線	9.10	0.48 ~ 0.70	0.29 ~ 0.46	7 ~ 11	浅い U 字状	被削	自然	土器器片	本跡 → SD269
272	G7b8～H7t7	N - 40° - E	ほぼ直線	8.15	0.46 ~ 0.80	0.35 ~ 0.60	23 ~ 30	U 字状	被削	自然	土器器片	SD2691_SK3259-329.3-329.3-329
273	H6d0～H6g8	N - 28° - E	直線	23.20	0.42 ~ 0.89	0.22 ~ 0.67	5 ~ 21	浅い U 字状	被削	自然	土器器片、須恵器片	SD2597-2497 → 2499-2553SK3316-317 → 本跡
281	J4c0～J5b3	N - 70° - W	屈曲	27.50	0.54 ~ 0.90	0.29 ~ 0.70	8 ~ 30	U 字状	被削	自然	土器器片、須恵器片	SD257SK3327_SK3360-361-362-363-364-365-366-367-368-369-369.3-370-371
377	F7d1～F7b8	N - 25° - E	直線	(22.0)	0.40 ~ 1.10	0.11 ~ 0.42	10 ~ 20	浅い U 字状	被削	自然	土器器片、須恵器片、不耐熱製品	SK5569 → 本跡
378	F6g3～G6a8	N - 45° - W	直線	(19.0)	0.44 ~ 0.78	0.12 ~ 0.32	10 ~ 16	浅い U 字状	被削	自然	土器器片	本跡 → SD3737
379	F6b3～G6c9	N - 44° - W	直線	(32.0)	0.42 ~ 0.78	0.18 ~ 0.41	8 ~ 15	U 字状	被削	自然	土器器片、須恵器片	SD304_SK3078 → SAH 須恵不明
380	F6j1～G6c6	N - 58° - W	直線	(26.60)	0.43 ~ 1.00	0.23 ~ 0.70	4 ~ 10	U 字状	被削	自然	土器器片、陶器片、磁器片、不耐熱製品	SD302 → 本跡
381	G5a9～G6c2	N - 52° - W	直線	17.53	0.46 ~ 0.90	0.23 ~ 0.46	26	浅い U 字状	被削	人骨	土器器片、須恵器片、陶器片	SA35・36 → 本跡
382	H5a2～H6d0	N - 41° - E	直線	10.86	0.43 ~ 0.70	0.23 ~ 0.48	5 ~ 10	U 字状	被削	自然	土器器片	本跡 → SK5569
386	F6g9～F6f9	N - 42° - E	直線	7.70	0.44 ~ 0.60	0.11 ~ 0.28	18 ~ 20	浅い U 字状	被削	人骨	土器器片、須恵器片、人骨	本跡 → SK5569
387	G5b8～G5d6	N - 30° - E	直線	12.72	0.53 ~ 1.56	0.10 ~ 1.14	8 ~ 21	浅い U 字状	被削	人骨	土器器片	本跡 → SK5627
390	I4b3～I4b3	N - 10° - E	直線	(44.70)	0.60 ~ 1.90	0.20 ~ 0.70	20 ~ 36	U 字状	被削	人骨	土器器片、須恵器片、土師質土器片、人骨	SD406A - 本跡 → SD393 - 408
393	H4b2～J4a2	N - 5° - W	直線	(14.50)	0.40 ~ 0.75	0.20 ~ 0.30	18	浅い U 字状	外傾	人骨	土器器片、須恵器片	SD390 → 本跡 → SD408
394	H4a4～H4g9	N - 86° - W	直線	(18.48)	0.70 ~ 0.92	0.30 ~ 0.50	22 ~ 28	U 字状	被削	自然	土器器片	SK5592 → 本跡 → SA35・36・37・38・39 → 本跡
398	K3b7～K3d6	N - 15° - E	コ字状	17.20	0.40 ~ 0.80	0.30 ~ 0.50	30	浅い U 字状	被削	自然	土器器片、土師質土器片	SD514_SK3631 → 本跡
400	J3b0～K3a9	N - 59° - E	直線	(7.36)	0.42 ~ 0.62	0.12 ~ 0.20	10	浅い U 字状	被削	自然	土器器片	SD403 → 本跡

番号	位置	方向	形状	規 模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
401	H4d～H4c	N-22°-W	直線	(10.06)	0.90～ 1.10	0.40～ 0.57	84	U字状	縦斜	自然	土師器片	
406A	H4d3～J4a3	N-5°-E	直線	(46.20)	0.50～ 0.86	0.20～ 0.50	30	U字状	縦斜	人為		SD106B→本跡 SD390SD408
406B	Hd3～I4d3	N-0°	直線	(6.30)	0.50～ 0.70	0.15～ 0.22	8	浅い U字状	縦斜	—		本跡→SD267- 406A
410	J4b1～J4e1	N-5°-E	直線	9.14	1.10～ 1.52	0.38～ 0.70	10	U字状	縦斜	人為	土師器片	本跡→SK5654, SD408

(5) ピット群

今回の調査で、時期や性格ともに不明のピット群14か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

第44号ピット群（第361図）

調査区南部のI-6d3～J-6d5区にかけての東西24m、南北24mの範囲から、60か所のピットを確認した。標高22mほどの台地平坦部に位置している。第2984号住居跡、第528・529号掘立柱建物跡、第5892号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。また、分布範囲内に第5891号土坑があるが、直接的な重複ではなく、新旧関係は不明である。平面形は長径26～73cm、短径24～70cmの円形または梢円形で、深さは7～88cmである。分布状況から建物跡は想定できない。覆土中から土師器片31点（坏14、甕17）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。

表30 第44号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位 置	形 状	規 模(cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模(cm)				
			長軸 (往)	×	短軸(往)				長軸 (往)	×	短軸(往)		
1	J6e3	円形	60	×	58	72	25	J6a5	円形	30	×	28	15
2	J6e3	梢円形	73	×	54	88	26	J6a5	梢円形	49	×	40	44
3	J6e4	梢円形	55	×	50	40	27	J6a5	梢円形	60	×	52	30
4	J6e4	円形	52	×	50	23	28	J6a6	梢円形	52	×	44	27
5	J6e4	梢円形	48	×	38	40	29	J6a6	梢円形	54	×	36	14
6	J6e4	円形	52	×	51	49	30	J6a6	円形	52	×	50	50
7	J6e5	円形	50	×	47	66	31	J6a6	梢円形	45	×	38	27
8	J6e7	円形	49	×	47	47	32	J6e7	円形	54	×	50	41
9	J6e6	梢円形	70	×	52	44	33	J6e7	梢円形	46	×	36	32
10	J6e7	円形	60	×	60	11	34	J6e7	梢円形	48	×	40	16
11	J6e7	梢円形	62	×	55	10	35	J6a8	円形	49	×	46	23
12	J6e8	円形	72	×	68	30	36	J6a8	円形	72	×	70	22
13	J6e8	梢円形	50	×	41	26	37	J6a8	円形	50	×	46	42
14	J6e9	円形	61	×	58	44	38	J6e5	梢円形	48	×	42	27
15	J6e8	梢円形	62	×	53	26	39	J6e5	梢円形	58	×	50	56
16	J6e9	円形	70	×	68	46	40	J6e5	円形	68	×	62	24
17	J6e3	梢円形	48	×	40	28	41	J6e4	梢円形	62	×	54	41
18	J6e3	梢円形	49	×	40	7	42	J6e5	円形	52	×	50	49
19	J6e4	梢円形	50	×	44	22	43	J6e5	梢円形	36	×	31	20
20	J6e4	梢円形	50	×	40	25	44	J6e6	梢円形	32	×	28	15
21	J6e5	梢円形	48	×	41	55	45	J6e4	梢円形	59	×	50	66
22	J6e5	円形	36	×	22	7	46	J6e4	円形	46	×	42	40
23	J6e5	円形	50	×	48	62	47	J6e4	円形	30	×	30	39
24	J6e5	円形	50	×	48	19	48	J6e4	円形	50	×	46	35

Ⓐ

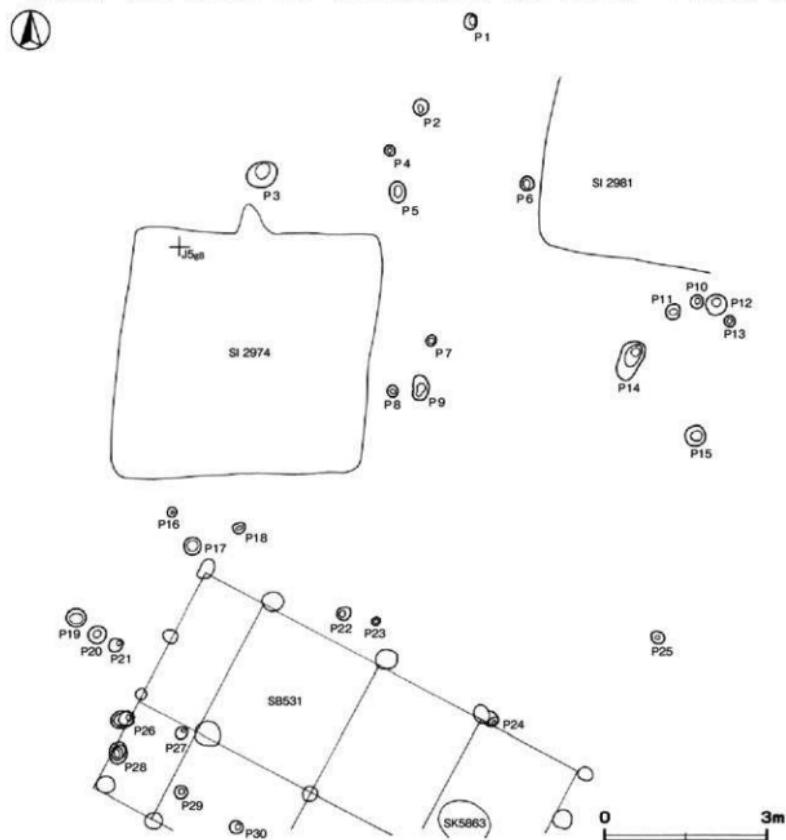


第361図 第44号ビット群実測図

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)				長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ			
49	J6c4	円形	26	×	24	19	55	J6c5	椭円形	58	×	50	58
50	J6d4	椭円形	40	×	36	40	56	J6c	円形	56	×	54	63
51	J6c4	円形	52	×	50	50	57	J6d5	椭円形	46	×	36	27
52	J6d4	椭円形	42	×	34	16	58	J6c6	円形	48	×	44	41
53	J6d4	椭円形	50	×	40	26	59	J6c6	椭円形	52	×	28	30
54	J6c5	円形	48	×	46	12	60	J6c6	椭円形	42	×	28	64

第45号ピット群（第362図）

調査区南部のJ 5e8～J 5f9区にかけての東西13m、南北17mの範囲から、30か所のピットを確認した。



第362図 第45号ピット群実測図

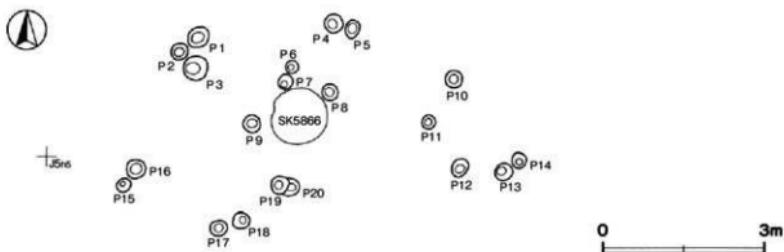
標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。P 24 が第 531 号掘立柱建物の P 12 に掘り込まれている。分布範囲内に第 2974・2981 号住居跡、第 5863 号土坑があるが、直接的な重複はなく、新旧関係は不明である。平面形は長径 18 ~ 74 cm、短径 18 ~ 44 cm の円形または梢円形で、深さは 12 ~ 62 cm である。分布状況から建物跡は想定できない。覆土中から土師器片 1 点（坏）、須恵器片 1 点（甕）、土師質土器片 1 点（内耳鍋）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。

表 31 第 45 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ					
1	J5e9	梢円形	32 × 24	27	16	J5h7	梢円形	22 × 18	16		
2	J5g9	円形	30 × 28	49	17	J5h8	梢円形	36 × 32	37		
3	J5g8	梢円形	56 × 44	38	18	J5h8	円形	26 × 24	46		
4	J5g8	円形	21 × 21	27	19	J5h7	梢円形	38 × 34	21		
5	J5g8	梢円形	41 × 18	12	20	J5h7	梢円形	36 × 30	27		
6	J5g9	円形	28 × 26	43	21	J5h7	円形	28 × 26	39		
7	J5g9	梢円形	20 × 18	29	22	J5h8	梢円形	28 × 24	34		
8	J5g8	梢円形	22 × 20	23	23	J5h8	梢円形	18 × 16	40		
9	J5g9	梢円形	48 × 28	37	24	J5g9	梢円形	31 × 20	24		
10	J5g9	円形	36 × 24	42	25	J5h9	円形	26 × 24	23		
11	J5g9	梢円形	22 × 20	44	26	J5h7	梢円形	42 × 36	18		
12	J5g9	円形	28 × 26	62	27	J5h8	円形	26 × 24	47		
13	J5g9	梢円形	20 × 18	28	28	J5h7	梢円形	41 × 32	34		
14	J5g9	梢円形	74 × 42	26	29	J5h8	円形	22 × 22	36		
15	J5g9	梢円形	32 × 28	41	30	J5h8	梢円形	29 × 26	48		

第 46 号ピット群（第 363 図）

調査区南部の J 5g5 ~ J 5h7 区にかけての東西 10 m、南北 5 m の範囲から、20 か所のピットを確認した。標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。分布範囲内に第 5866 号土坑があるが、直接的な重複はなく、新旧関係は不明である。平面形は長径 24 ~ 50 cm、短径 24 ~ 48 cm の円形または梢円形で、深さは 5 ~ 49 cm である。分布状況から建物跡は想定できない。出土遺物がなく、性格・時期ともに不明である。



第 363 図 第 46 号ピット群実測図

表32 第46号ピット群ピット計測表

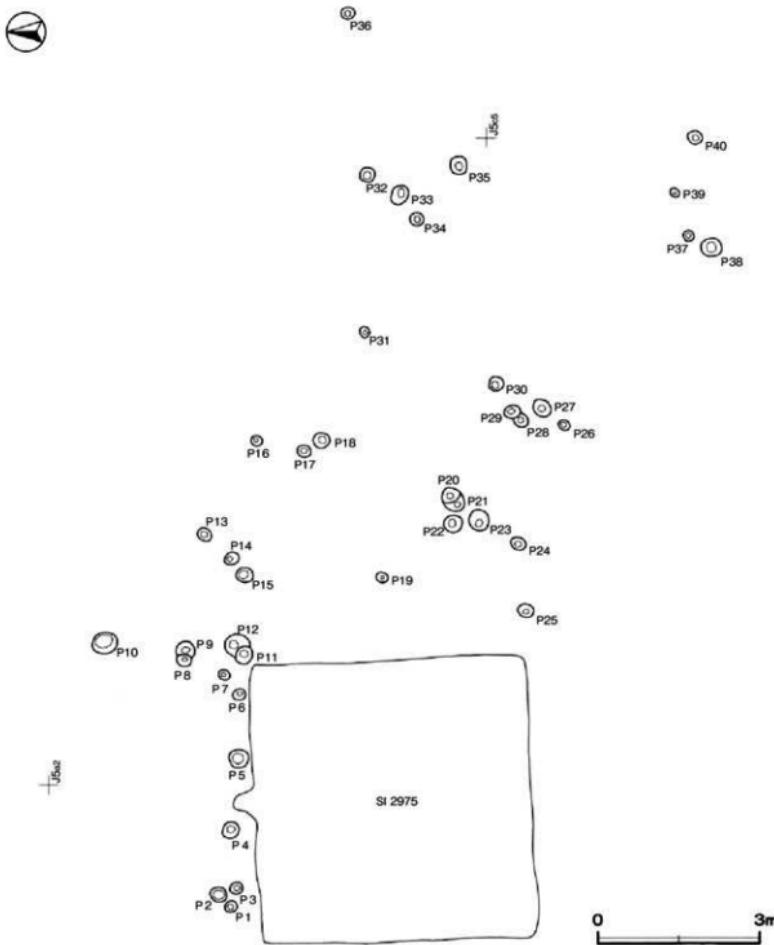
ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)	深さ					
1	J5g5	楕円形	44 × 38	24	11	J5g6	円形	36 × 26	22		
2	J5g5	楕円形	36 × 32	27	12	J5h6	楕円形	36 × 30	24		
3	J5g5	円形	50 × 48	18	13	J5h7	円形	34 × 32	38		
4	J5g6	楕円形	38 × 32	29	14	J5g7	円形	30 × 28	12		
5	J5g6	楕円形	33 × 28	14	15	J5h5	楕円形	32 × 28	24		
6	J5g6	円形	24 × 24	5	16	J5h5	円形	40 × 38	14		
7	J5g6	楕円形	31 × 28	30	17	J5h5	楕円形	38 × 30	14		
8	J5g6	楕円形	31 × 28	31	18	J5h5	円形	34 × 32	26		
9	J5g5	円形	34 × 34	17	19	J5h6	円形	36 × 34	49		
10	J5g6	楕円形	36 × 32	25	20	J5h6	[楕円形]	32 × (22)	6		

第47号ピット群（第364図）

調査区南部のJ5a1～J5d4区にかけての東西17m、南北12mの範囲から、40か所のピットを確認した。標高22mほどの台地平坦部に位置している。分布範囲内に第2975号住居跡があるが、直接的な重複ではなく、新旧関係は不明である。平面形は長径20～50cm、短径18～40cmの円形または楕円形で、深さは12～64cmである。分布状況から建物跡の想定はできない。出土遺物がなく、性格・時期ともに不明である。

表33 第47号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)	深さ					
1	J5a1	円形	22 × 22	38	21	J5a3	[楕円形]	40 × (20)	28		
2	J5a1	円形	24 × 22	28	22	J5b3	楕円形	38 × 30	34		
3	J5a1	楕円形	32 × 28	46	23	J5b3	楕円形	40 × 32	24		
4	J5a1	円形	32 × 30	27	24	J5c3	楕円形	30 × 26	18		
5	J5a2	楕円形	38 × 34	47	25	J5c2	円形	26 × 24	12		
6	J5a2	楕円形	26 × 22	17	26	J5c3	楕円形	22 × 20	14		
7	J5a2	楕円形	22 × 20	13	27	J5c3	円形	34 × 32	20		
8	J5a2	楕円形	30 × 22	32	28	J5c3	[円形]	26 × (24)	16		
9	J5a2	[楕円形]	34 × (26)	31	29	J5c3	円形	32 × 30	31		
10	J5a2	楕円形	50 × 40	64	30	J5c3	円形	30 × 28	34		
11	J5a2	楕円形	40 × 32	59	31	J5b4	楕円形	20 × 18	22		
12	J5a2	[楕円形]	40 × (26)	58	32	J5b4	円形	28 × 26	36		
13	J5a3	円形	30 × 28	24	33	J5b4	楕円形	38 × 30	38		
14	J5a3	楕円形	30 × 22	19	34	J5b4	楕円形	22 × 20	15		
15	J5a2	円形	30 × 30	32	35	J5b4	楕円形	34 × 30	18		
16	J5a3	楕円形	22 × 20	31	36	J5b5	楕円形	26 × 20	35		
17	J5b3	円形	26 × 24	37	37	J5c4	楕円形	22 × 20	30		
18	J5b3	楕円形	34 × 28	18	38	J5d4	楕円形	40 × 36	23		
19	J5b2	円形	20 × 20	20	39	J5c4	楕円形	20 × 18	15		
20	J5b3	楕円形	38 × 30	37	40	J5c4	円形	26 × 24	18		

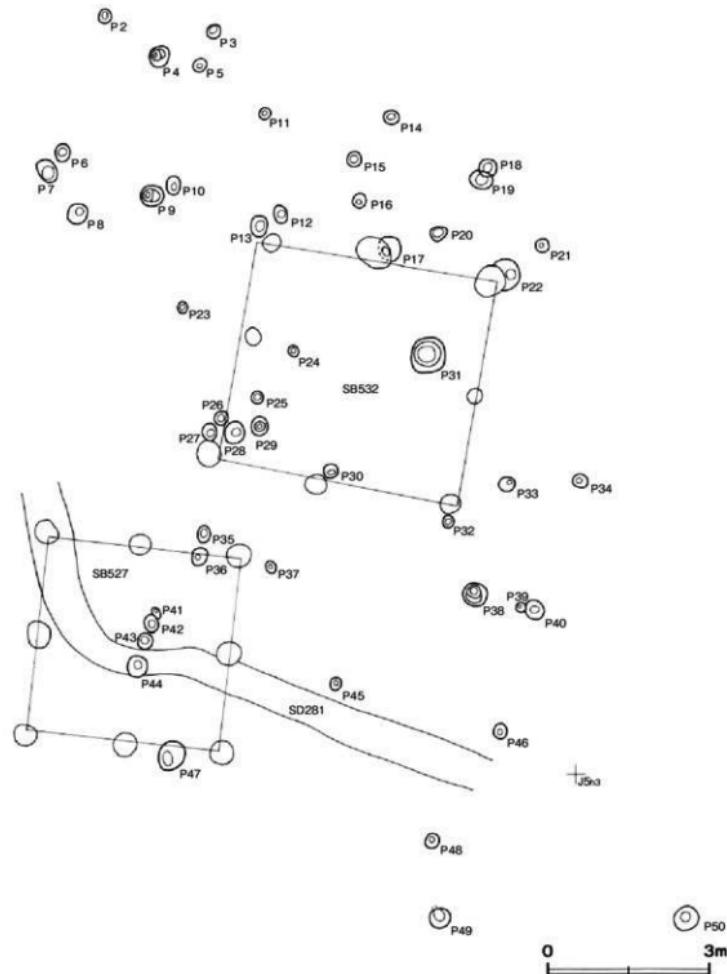


第364図 第47号ピット群実測図

第48号ピット群（第365図）

調査区南部のJ 4d0～J 5h3区にかけての東西11m、南北20mの範囲から、50か所のピットを確認した。標高22mほどの台地平坦部に位置している。P 17・P 22が第532号掘立柱建物のP 1・P 8に掘り込まれている。また、分布範囲内に第527号掘立柱建物跡、第281号溝跡があるが、直接的な重複ではなく、新旧関係は不明である。平面形は長径22～70cm、短径18～64cmの円形または梢円形で、深さは10～59cmである。

分布状況から建物跡の想定はできない。覆土中から土師器片8点（坏2、壺6）、土師質器片5点（小皿1、内耳鉢4）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。



第365図 第48号ピット群実測図

表34 第48号ピット群ピット計測表

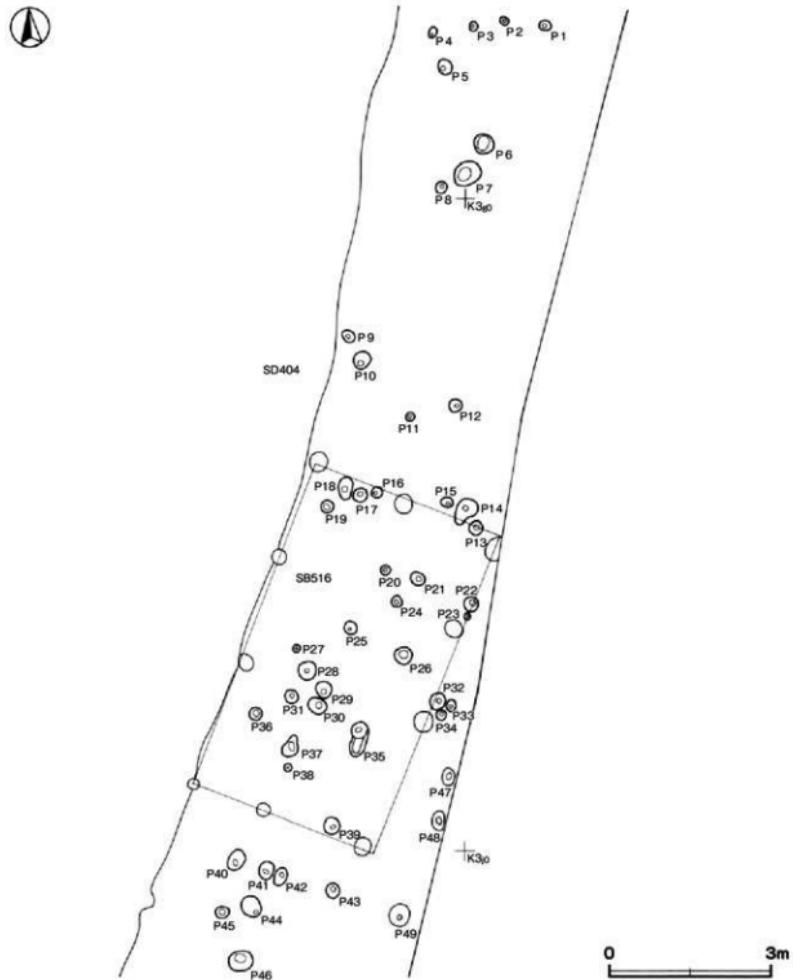
ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ					
1	J5e0	楕円形	61 × 55	37	26	J5f1	円形	32 × 30	17		
2	J5d0	円形	23 × 23	16	27	J5f1	円形	32 × 30	30		
3	J5d1	楕円形	30 × 24	13	28	J5f1	楕円形	46 × 40	45		
4	J5d1	楕円形	41 × 29	27	29	J5f1	楕円形	38 × 30	45		
5	J5d1	楕円形	30 × 21	21	30	J5f1	円形	30 × 28	25		
6	J5e0	楕円形	33 × 29	26	31	J5f2	円形	70 × 64	36		
7	J5e0	楕円形	49 × 32	24	32	J5f2	楕円形	26 × 22	18		
8	J5e0	円形	43 × 40	42	33	J5f2	楕円形	30 × 26	24		
9	J5e1	楕円形	48 × 41	33	34	J5f3	楕円形	34 × 30	38		
10	J5e1	円形	32 × 22	26	35	J5f1	楕円形	34 × 24	25		
11	J5d1	円形	22 × 21	16	36	J5f1	楕円形	38 × 30	46		
12	J5e1	楕円形	39 × 24	35	37	J5g1	楕円形	37 × 24	18		
13	J5e1	楕円形	42 × 30	28	38	J5g2	楕円形	48 × 38	30		
14	J5d2	円形	30 × 28	14	39	J5g2	楕円形	28 × 20	17		
15	J5e1	円形	30 × 30	14	40	J5g2	楕円形	40 × (32)	17		
16	J5e1	円形	30 × 28	30	41	J5g1	楕円形	28 × (18)	20		
17	J5e2	楕円形	50 × 43	28	42	J5g1	楕円形	36 × 30	39		
18	J5e2	楕円形	34 × 22	18	43	J5g1	円形	30 × 28	20		
19	J5e2	楕円形	42 × 32	17	44	J5g0	円形	42 × 40	59		
20	J5e2	楕円形	34 × 28	10	45	J5g1	楕円形	24 × 20	29		
21	J5e2	楕円形	28 × 20	28	46	J5g2	円形	28 × 26	46		
22	J5e2	〔楕円形〕	58 × (34)	26	47	J5g1	楕円形	56 × 50	17		
23	J5e1	楕円形	28 × 18	14	48	J5g2	楕円形	30 × 26	48		
24	J5f1	楕円形	22 × 20	21	49	J5h2	円形	40 × 38	51		
25	J5f1	楕円形	26 × 22	16	50	J5h3	円形	50 × 46	30		

第49号ピット群（第366図）

調査区南西部のK319～K319区にかけての東西6m、南北18mの範囲から、49か所のピットを確認した。標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。分布範囲に第516号掘立柱建物跡があるが、直接的な重複はなく、新旧関係は不明である。平面形は長径14～70cm、短径12～40cmの円形または楕円形で、深さは6～58cmである。分布状況から建物跡は想定できない。出土遺物がなく、性格・時期ともに不明である。

表35 第49号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ					
1	K3B0	楕円形	22 × 20	15	7	K3B0	楕円形	52 × 40	27		
2	K3B0	楕円形	18 × 16	6	8	K3B9	楕円形	22 × 20	25		
3	K3B0	楕円形	20 × 16	27	9	K3g9	楕円形	26 × 21	11		
4	K3B9	楕円形	24 × 18	23	10	K3g9	円形	30 × 30	47		
5	K3B9	楕円形	30 × 26	24	11	K3g9	円形	20 × 20	25		
6	K3B0	円形	40 × 38	31	12	K3g9	楕円形	26 × 22	33		



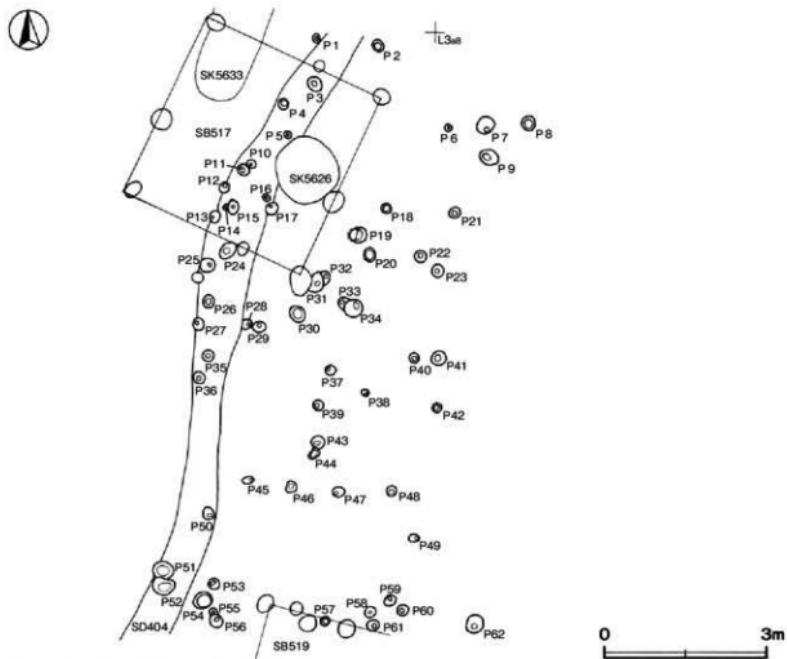
第366図 第49号ピット群実測図

ピット番号	位置	形状	規 格 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 格 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)				長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)
13	K3b0	楕円形	38 × 26	33		17	K3b0	円形	30 × 28	29	
14	K3b0	楕円形	54 × 32	44		18	K3b0	楕円形	46 × 26	34	
15	K3b0	楕円形	22 × 18	35		19	K3b0	円形	26 × 26	26	
16	K3b0	楕円形	24 × 18	29		20	K3b0	楕円形	22 × 20	11	

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)				長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ			
21	K3b9	円形	28	×	26	29	36	K3b9	円形	24	×	22	18
22	K3b0	円形	30	×	28	29	37	K3b9	椭円形	36	×	28	29
23	K3b0	椭円形	14	×	12	8	38	K3b9	円形	18	×	18	13
24	K3b9	椭円形	22	×	20	30	39	K3b9	椭円形	34	×	30	21
25	K3b9	椭円形	30	×	24	21	40	K3b8	椭円形	40	×	32	32
26	K3b9	円形	34	×	32	31	41	K3b9	椭円形	34	×	30	30
27	K3b9	円形	15	×	15	0	42	K3b9	椭円形	34	×	24	34
28	K3b9	椭円形	36	×	30	27	43	K3b9	椭円形	30	×	24	25
29	K3b9	円形	32	×	30	33	44	K3b9	椭円形	42	×	34	58
30	K3b9	椭円形	40	×	30	28	45	K3b8	椭円形	28	×	24	28
31	K3b9	椭円形	30	×	26	30	46	K3b8	椭円形	46	×	34	24
32	K3b9	円形	30	×	28	37	47	K3b9	椭円形	33	×	23	32
33	K3b9	椭円形	22	×	20	22	48	K3b9	椭円形	32	×	20	22
34	K3b9	円形	20	×	20	20	49	K3b9	椭円形	43	×	39	38
35	K3b9	椭円形	70	×	18	30							

第 50 号ピット群 (第 367 図)

調査区南西部の L 3a7 ~ L 3c8 区にかけての東西 7 m, 南北 12 m の範囲から、62か所のピットを確認した。



第 367 図 第 50 号ピット群実測図

標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。P 31 と第 517 号掘立柱建物跡の P 4、第 404 号溝跡が重複しているが、新旧関係は不明である。分布範囲内に第 519 号掘立柱建物跡、第 5626 号土坑があるが、直接的な重複ではなく、新旧関係は不明である。平面形は長径 14 ~ 42cm、短径 12 ~ 34cm の円形または楕円形で、深さは 4 ~ 49cm である。分布状況から建物跡の想定はできない。覆土中から土師質器片 1 点（小皿）が出土しているが、細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。

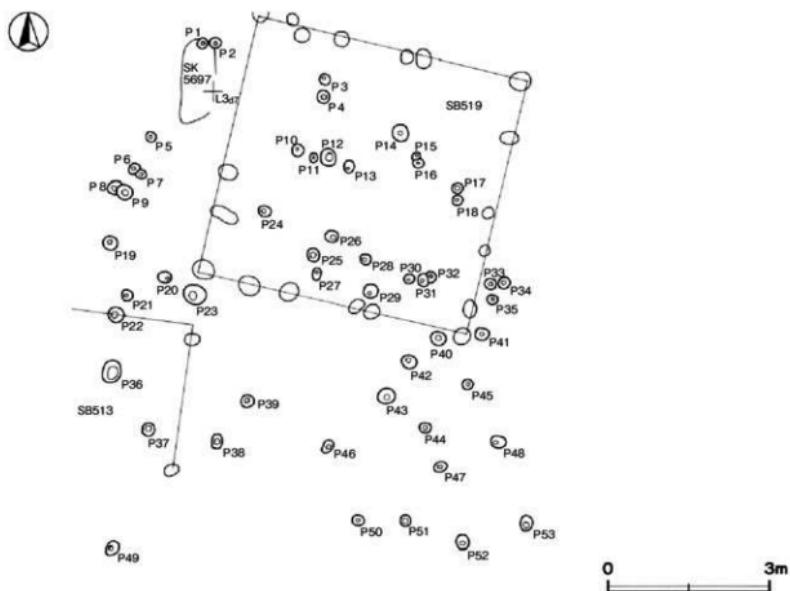
表 36 第 50 号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	規格 (cm)			ビット番号	位置	形状	規格 (cm)			
			長軸 (徑) ×	短軸 (徑)	深さ				長軸 (徑) ×	短軸 (徑)	深さ	
1	L3a7	楕円形	18	×	14	8	32	L3b7 [楕円形]	28	×	(14)	8
2	L3a7	楕円形	26	×	22	25	33	L3b7 [楕円形]	22	×	(16)	18
3	L3a7	楕円形	32	×	24	15	34	L3b7 円形	36	×	34	24
4	L3a7	楕円形	22	×	20	16	35	L3b6 円形	24	×	22	13
5	L3a7	楕円形	16	×	14	11	36	L3b6 円形	24	×	22	10
6	L3a8	楕円形	14	×	12	28	37	L3b7 円形	20	×	18	18
7	L3a8	楕円形	38	×	32	23	38	L3b7 楕円形	16	×	14	13
8	L3a8	円形	24	×	22	25	39	L3b7 楕円形	20	×	18	19
9	L3a8	楕円形	38	×	26	33	40	L3b7 楕円形	20	×	18	27
10	L3a7	楕円形	18	×	16	13	41	L3b8 円形	28	×	26	26
11	L3a7	楕円形	24	×	21	7	42	L3b8 楕円形	20	×	18	39
12	L3a7	円形	20	×	20	49	43	L3b7 円形	26	×	26	16
13	L3a6	楕円形	24	×	16	15	44	L3b7 楕円形	26	×	18	10
14	L3a7	楕円形	14	×	10	25	45	L3b7 楕円形	25	×	16	21
15	L3a7	楕円形	30	×	18	25	46	L3b7 楕円形	22	×	20	19
16	L3a7	楕円形	18	×	14	10	47	L3c7 円形	22	×	22	27
17	L3a7	楕円形	28	×	22	22	48	L3c7 楕円形	20	×	18	30
18	L3a7	円形	18	×	18	22	49	L3c7 楕円形	22	×	16	24
19	L3a7	円形	34	×	32	28	50	L3c6 楕円形	22	×	20	17
20	L3b7	楕円形	38	×	20	23	51	L3c6 楕円形	38	×	28	33
21	L3a8	楕円形	22	×	20	25	52	L3c6 楕円形	42	×	30	22
22	L3b7	円形	22	×	21	33	53	L3c6 円形	22	×	22	25
23	L3b8	楕円形	24	×	20	19	54	L3c6 楕円形	39	×	30	49
24	L3b7	楕円形	36	×	26	25	55	L3c6 [楕円形]	17	×	(10)	4
25	L3b6	円形	28	×	26	17	56	L3c6 円形	24	×	22	10
26	L3b6	楕円形	22	×	18	27	57	L3c7 楕円形	18	×	16	11
27	L3b6	円形	24	×	22	29	58	L3c7 円形	22	×	22	23
28	L3b7 [楕円形]	30	×	(18)	14	59	L3c7 円形	22	×	22	27	
29	L3b7	楕円形	26	×	20	18	60	L3c7 円形	22	×	22	25
30	L3b7	楕円形	32	×	28	28	61	L3c7 円形	26	×	24	18
31	L3b7 [楕円形]	30	×	(24)	22	62	L3c8 円形	26	×	24	33	

第 51 号ビット群 (第 368 図)

調査区南西部の L 3c6 ~ L 3d8 区にかけての東西 8 m、南北 10 m の範囲から、53か所のビットを確認した。標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。P 1・P 2 が第 5697 号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。また分布範囲内に第 513・519 号掘立柱建物跡があるが、直接的な重複ではなく、新旧関係は不明

である。平面形は長径 15 ~ 44cm、短径 14 ~ 34cm の円形または橢円形で、深さは 9 ~ 47cm である。分布状況から建物跡は想定できない。覆土中から土師質土器片 3 点（小皿 2、内耳鍋 1）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。



第368図 第51号ピット群実測図

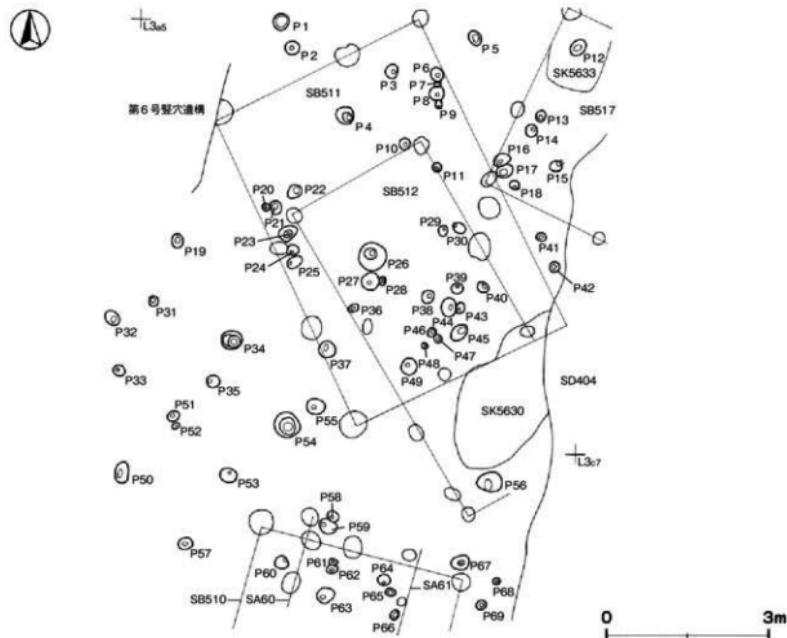
表37 第51号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)				
			長軸 (徑) ×	短軸 (徑)	深さ				長軸 (徑) ×	短軸 (徑)	深さ		
1	L3d6	橢円形	24	×	18	10	15	L3d7	円形	18	×	18	22
2	L3c7	橢円形	24	×	18	10	16	L3d7	【橢円形】	20	×	(16)	14
3	L3c7	橢円形	20	×	18	20	17	L3d8	橢円形	22	×	20	37
4	L3d7	円形	22	×	22	24	18	L3d8	橢円形	22	×	20	14
5	L3d6	橢円形	20	×	18	10	19	L3d6	橢円形	30	×	26	24
6	L3d6	【橢円形】	22	×	(18)	6	20	L3d6	橢円形	22	×	20	42
7	L3d6	橢円形	20	×	18	13	21	L3d6	橢円形	20	×	18	26
8	L3d6	【円形】	26	×	(24)	15	22	L3c6	円形	30	×	30	10
9	L3d6	橢円形	34	×	30	38	23	L3d6	橢円形	44	×	34	47
10	L3d7	橢円形	26	×	22	14	24	L3d7	橢円形	26	×	22	22
11	L3d7	円形	15	×	15	14	25	L3d7	橢円形	28	×	22	24
12	L3d7	円形	32	×	30	23	26	L3d7	円形	26	×	24	28
13	L3d7	橢円形	25	×	18	15	27	L3d7	橢円形	24	×	14	17
14	L3d7	円形	30	×	30	30	28	L3d7	橢円形	20	×	18	16

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)				長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)		
29	L3d7	円形	30	×	28	33	42	L3e7	椭円形	24	×	18	23
30	L3d7	椭円形	20	×	20	30	43	L3e7	椭円形	22	×	18	30
31	L3d7	椭円形	24	×	20	15	44	L3e7	椭円形	24	×	20	11
32	L3d8	(椭円形)	22	×	(18)	14	45	L3e8	円形	20	×	20	22
33	L3d8	椭円形	26	×	22	17	46	L3e7	椭円形	30	×	20	24
34	L3d8	椭円形	28	×	24	22	47	L3e8	円形	20	×	20	17
35	L3d8	椭円形	22	×	18	21	48	L3e8	円形	24	×	24	26
36	L3e6	椭円形	42	×	34	37	49	L3e6	椭円形	30	×	24	15
37	L3e6	円形	26	×	26	42	50	L3e7	椭円形	20	×	18	35
38	L3e7	椭円形	28	×	18	15	51	L3e7	円形	22	×	22	14
39	L3e7	椭円形	28	×	22	15	52	L3e8	椭円形	28	×	24	23
40	L3e8	円形	26	×	24	30	53	L3e8	椭円形	30	×	24	40
41	L3e8	椭円形	26	×	20	9							

第 52 号ピット群 (第 369 図)

調査区南西部の L 3a5 ~ L 3c6 区にかけての東西 10 m, 南北 12 m の範囲から 69 か所のピットを確認した。



第 369 図 第 52 号ピット群実測図

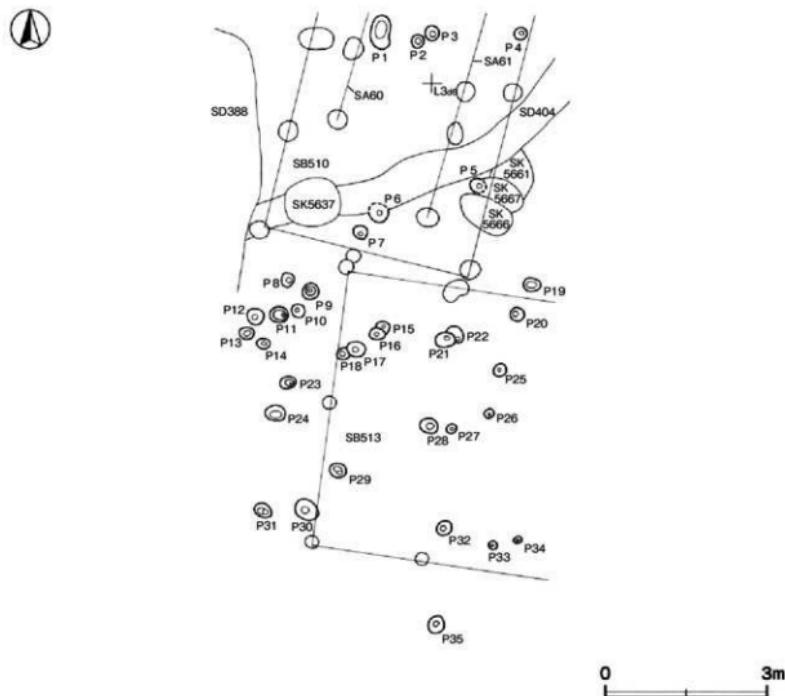
標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。P 12 が第 5633 号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。また分布範囲内に第 510 ~ 512・517 号掘立柱建物跡、第 60・61 号杭列跡、第 404 号溝跡、第 5630 号土坑があるが、直接的な重複はなく、新旧関係は不明である。平面形は長径 12 ~ 50cm、短径 8 ~ 50cm の円形または梢円形で、深さは 9 ~ 57cm である。分布状況から建物跡は想定できない。覆土中から土師器片 2 点（环甕）、土師質土器片 2 点（小皿）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。

表 38 第 52 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (往)	×	短軸 (往)				長軸 (往)	×	短軸 (往)		
1	L3a5	円形	22	×	22	27	36	L3b5	梢円形	20	×	14	20
2	L3a5	梢円形	26	×	22	26	37	L3b5	梢円形	32	×	20	37
3	L3a6	円形	24	×	22	28	38	L3b6	梢円形	28	×	24	23
4	L3a5	円形	34	×	32	55	39	L3b6	梢円形	28	×	20	34
5	L3a6	梢円形	32	×	26	30	40	L3b6	梢円形	22	×	20	21
6	L3a6	梢円形	26	×	22	42	41	L3b6	梢円形	20	×	18	28
7	L3a6	梢円形	14	×	8	20	42	L3b6	梢円形	22	×	20	23
8	L3a6	円形	30	×	28	40	43	L3b6	梢円形	20	×	16	42
9	L3a6	円形	12	×	12	19	44	L3b6	梢円形	34	×	28	43
10	L3a6	梢円形	22	×	18	23	45	L3b6	梢円形	38	×	24	22
11	L3a6	梢円形	20	×	16	27	46	L3b6	梢円形	14	×	12	23
12	L3a7	梢円形	34	×	18	23	47	L3b6	円形	14	×	14	20
13	L3a6	円形	20	×	20	24	48	L3b6	梢円形	12	×	8	15
14	L3a6	円形	24	×	22	26	49	L3b6	円形	30	×	28	35
15	L3a6	梢円形	24	×	20	57	50	L3c4	梢円形	40	×	26	26
16	L3a6	梢円形	34	×	22	38	51	L3b5	梢円形	24	×	18	14
17	L3a6	梢円形	32	×	24	51	52	L3b5	梢円形	18	×	10	14
18	L3a6	梢円形	20	×	18	21	53	L3c5	梢円形	32	×	24	34
19	L3b5	梢円形	30	×	22	20	54	L3b5	円形	50	×	46	44
20	L3a5	円形	14	×	14	22	55	L3b5	梢円形	36	×	28	39
21	L3a5	梢円形	28	×	22	23	56	L3c6	梢円形	46	×	38	51
22	L3a6	梢円形	30	×	24	26	57	L3c5	梢円形	28	×	20	16
23	L3a5	梢円形	36	×	26	31	58	L3c5	梢円形	22	×	18	35
24	L3b5	梢円形	22	×	20	19	59	L3c5	梢円形	34	×	28	45
25	L3b5	梢円形	30	×	20	27	60	L3c5	梢円形	28	×	24	37
26	L3b6	円形	50	×	50	46	61	L3c5	梢円形	16	×	12	17
27	L3b6	梢円形	36	×	30	41	62	L3c5	梢円形	20	×	14	22
28	L3b6	梢円形	18	×	12	22	63	L3c5	円形	30	×	28	26
29	L3a6	円形	20	×	20	30	64	L3c6	梢円形	24	×	20	28
30	L3a6	梢円形	22	×	20	53	65	L3c6	梢円形	20	×	16	13
31	L3b5	梢円形	20	×	18	25	66	L3c6	梢円形	20	×	12	9
32	L3b4	梢円形	32	×	26	22	67	L3c6	円形	30	×	28	31
33	L3b4	円形	20	×	20	23	68	L3c6	梢円形	14	×	12	17
34	L3b5	梢円形	40	×	32	26	69	L3c6	梢円形	20	×	18	11
35	L3b5	梢円形	28	×	22	26							

第 53 号ピット群（第 370 図）

調査区南西部の L 3c5 ~ L 3f6 区にかけての東西 6m, 南北 12m の範囲から 35 か所のピットを確認した。標高 21m ほどの台地緩斜面部に位置している。P 5 は第 5667 号土坑と、P 6 は第 404 号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。また、分布範囲内に第 510・513 号掘立柱建物跡、第 5637・5661・5666 号土坑、第 60・61 号杭列跡があるが、直接的な重複ではなく、新旧関係は不明である。平面形は長径 16 ~ 62cm、短径 14 ~ 38cm の円形または梢円形で、深さは 7 ~ 39cm である。分布状況から建物跡は想定できない。出土遺物がなく、性格・時期ともに不明である。



第 370 図 第 53 号ピット群実測図

表39 第53号ピット群ピット計測表

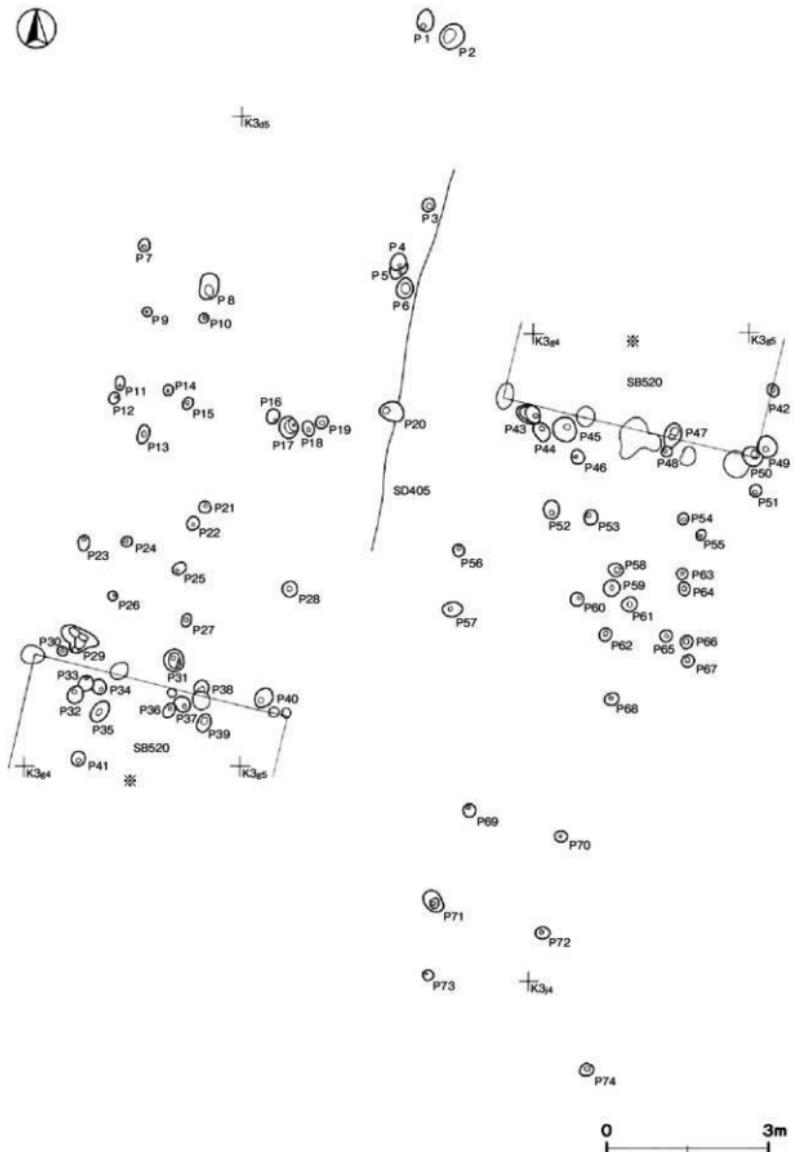
ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	×	短軸 (径)				長軸 (径)	×	短軸 (径)		
1	L3e5	楕円形	62	×	37	31	19	L3d6	楕円形	36	×	20	30
2	L3e5	楕円形	28	×	23	27	20	L3e6	円形	21	×	21	21
3	L3e5	円形	28	×	28	24	21	L3e6	円形	32	×	30	30
4	L3e6	円形	20	×	20	19	22	L3e6	楕円形	31	×	26	39
5	L3d6	楕円形	26	×	20	30	23	L3e5	楕円形	32	×	28	17
6	L3d5	円形	29	×	28	32	24	L3e5	楕円形	38	×	28	30
7	L3d5	円形	21	×	21	20	25	L3e6	円形	28	×	26	28
8	L3d5	楕円形	20	×	16	16	26	L3e6	楕円形	20	×	18	12
9	L3d5	楕円形	26	×	22	25	27	L3e6	楕円形	20	×	18	11
10	L3e5	円形	19	×	18	19	28	L3e5	楕円形	36	×	26	23
11	L3e5	楕円形	26	×	22	33	29	L3e5	楕円形	32	×	28	35
12	L3e5	円形	24	×	22	27	30	L3e5	楕円形	48	×	38	30
13	L3e5	楕円形	22	×	18	13	31	L3d6	楕円形	36	×	22	20
14	L3e5	円形	20	×	18	14	32	L3d6	円形	32	×	30	36
15	L3e5	〔楕円形〕	20	×	(16)	11	33	L3d6	円形	16	×	16	11
16	L3e5	楕円形	20	×	18	9	34	L3d6	楕円形	17	×	14	32
17	L3e5	楕円形	26	×	21	19	35	L3d6	楕円形	38	×	28	36
18	L3e5	〔楕円形〕	20	×	(17)	7							

第54号ピット群（第371図）

調査区南西部のK 3c5～K 3j4区にかけての東西8m、南北28mの範囲から74か所のピットを確認した。標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。P 20が第405号溝跡を掘り込んでいる。P 38・P 50が第520号掘立柱建物跡のP 2・P 11と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は長径16～70cm、短径16～46cmの円形または楕円形で、深さは7～50cmである。分布状況から建物跡は想定できない。覆土中から土師器片2点（甕）、須恵器片1点（甕）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。性格・時期とともに不明である。

表40 第54号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	×	短軸 (径)				長軸 (径)	×	短軸 (径)		
1	K3e5	楕円形	40	×	30	17	12	K3e4	楕円形	20	×	18	28
2	K3e5	楕円形	50	×	44	16	13	K3e4	楕円形	40	×	22	36
3	K3e5	円形	26	×	24	29	14	K3e4	楕円形	20	×	16	14
4	K3d5	円形	32	×	30	40	15	K3e4	楕円形	28	×	18	16
5	K3d5	〔楕円形〕	34	×	(18)	39	16	K3e5	楕円形	28	×	24	32
6	K3d5	楕円形	48	×	30	14	17	K3e5	楕円形	40	×	32	19
7	K3d4	楕円形	30	×	20	25	18	K3e5	楕円形	30	×	20	32
8	K3d4	楕円形	30	×	36	36	19	K3e5	円形	24	×	22	37
9	K3d4	楕円形	18	×	16	13	20	K3e5	楕円形	44	×	38	29
10	K3d4	円形	16	×	16	10	21	K3e4	楕円形	20	×	18	27
11	K3e4	楕円形	28	×	18	25	22	K3e4	楕円形	22	×	20	14



第371図 第54号ピット群実測図

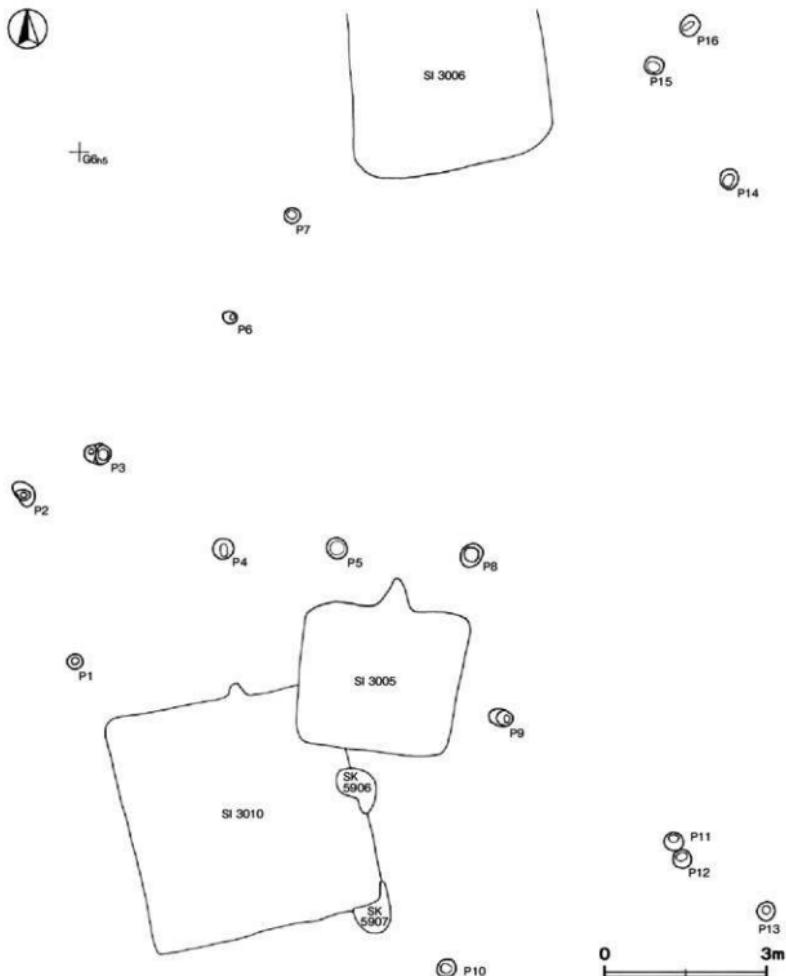
ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ					
23	K3e4	楕円形	28 × 18	28	49	K3g5	円形	40 × 40	43		
24	K3e4	楕円形	20 × 16	7	50	K3g5	(楕円形)	40 × (30)	27		
25	K3f4	楕円形	26 × 20	31	51	K3g5	円形	20 × 20	36		
26	K3f4	円形	18 × 18	21	52	K3g4	楕円形	32 × 26	28		
27	K3f4	楕円形	22 × 20	24	53	K3g4	円形	26 × 26	13		
28	K3f5	円形	24 × 24	26	54	K3g4	楕円形	22 × 20	8		
29	K3f4	楕円形	70 × 46	60	55	K3g4	円形	20 × 20	17		
30	K3f4	円形	20 × 20	17	56	K3g3	楕円形	22 × 20	16		
31	K3f4	楕円形	40 × 36	46	57	K3h3	楕円形	40 × 30	17		
32	K3f4	円形	30 × 30	19	58	K3h4	円形	26 × 24	10		
33	K3f4	楕円形	28 × 22	43	59	K3h4	円形	30 × 30	28		
34	K3f4	楕円形	30 × 24	34	60	K3h4	楕円形	22 × 20	39		
35	K3f4	楕円形	46 × 30	41	61	K3h4	円形	28 × 28	29		
36	K3f4	楕円形	28 × 22	25	62	K3h4	円形	22 × 22	37		
37	K3f4	楕円形	34 × 28	23	63	K3h4	楕円形	20 × 18	17		
38	K3f4	楕円形	28 × 18	15	64	K3h4	楕円形	22 × 20	18		
39	K3f4	楕円形	36 × 24	28	65	K3h4	円形	22 × 22	16		
40	K3f5	楕円形	40 × 30	31	66	K3h4	円形	24 × 24	20		
41	K3h4	楕円形	26 × 22	29	67	K3h4	円形	22 × 22	23		
42	K3g5	楕円形	26 × 22	22	68	K3h4	楕円形	30 × 24	43		
43	K3g5	楕円形	48 × 36	50	69	K3j3	円形	22 × 22	41		
44	K3g4	楕円形	40 × 28	34	70	K3j4	楕円形	20 × 20	26		
45	K3g4	円形	46 × 42	48	71	K3j3	楕円形	48 × 22	14		
46	K3g4	楕円形	26 × 20	30	72	K3j4	円形	26 × 24	13		
47	K3g4	楕円形	48 × 22	36	73	K3j3	楕円形	20 × 18	18		
48	K3g4	楕円形	24 × 18	21	74	K3j4	楕円形	26 × 22	12		

第 55 号ピット群 (第 372 図)

調査区北部の G 6 g7 ~ H 6 a8 区にかけての東西 14 m, 南北 18 m の範囲から、16 か所のピットを確認した。標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。分布範囲内に第 3005・3006・3010 号住居跡、第 5906・5907 号土坑があるが、直接的な重複関係ではなく、新旧関係は不明である。平面形は長径 27 ~ 50cm、短径 21 ~ 39 cm の円形または楕円形で、深さは 16 ~ 52cm である。分布状況から建物跡の想定はできない。出土遺物がなく、性格・時期ともに不明である。

表 41 第 55 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ					
1	G65	円形	29 × 28	29	9	G66	楕円形	44 × 32	48		
2	G64	楕円形	50 × 31	45	10	H6a6	円形	35 × 34	52		
3	G65	楕円形	47 × 38	34	11	H6a7	円形	35 × 34	36		
4	G65	円形	40 × 38	48	12	H6a7	円形	34 × 33	39		
5	G66	楕円形	40 × 35	36	13	H6a8	楕円形	36 × 32	49		
6	G65	楕円形	27 × 21	16	14	G66	楕円形	36 × 31	35		
7	G65	円形	30 × 30	40	15	G67	楕円形	35 × 29	50		
8	G66	楕円形	46 × 39	41	16	G67	楕円形	39 × 34	47		

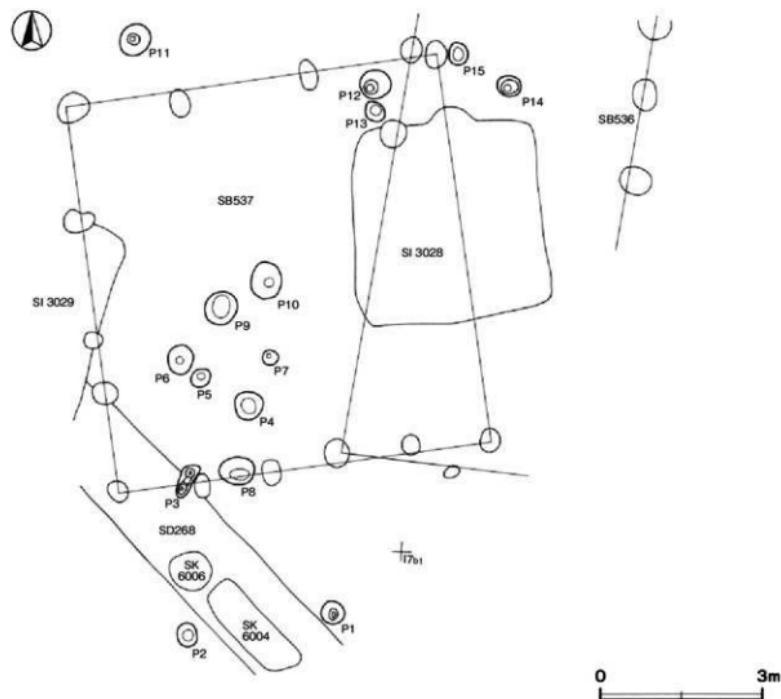


第372図 第55号ピット群実測図

第56号ピット群（第373図）

調査区中央部のH 619～I 610区にかけての東西8m、南北12mの範囲から、15か所のピットを確認した。標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。分布範囲内に第3028号住居跡、第536・537号掘立柱建物跡、第6004・6006号土坑、第268号溝跡があるが、直接的な重複関係はなく、新旧関係は不明である。平面形は

長径 30 ~ 71cm、短径 25 ~ 60cm の円形または楕円形で、深さは 18 ~ 65cm である。分布状況から建物跡の想定はできない。出土遺物がなく、性格・時期ともに不明である。



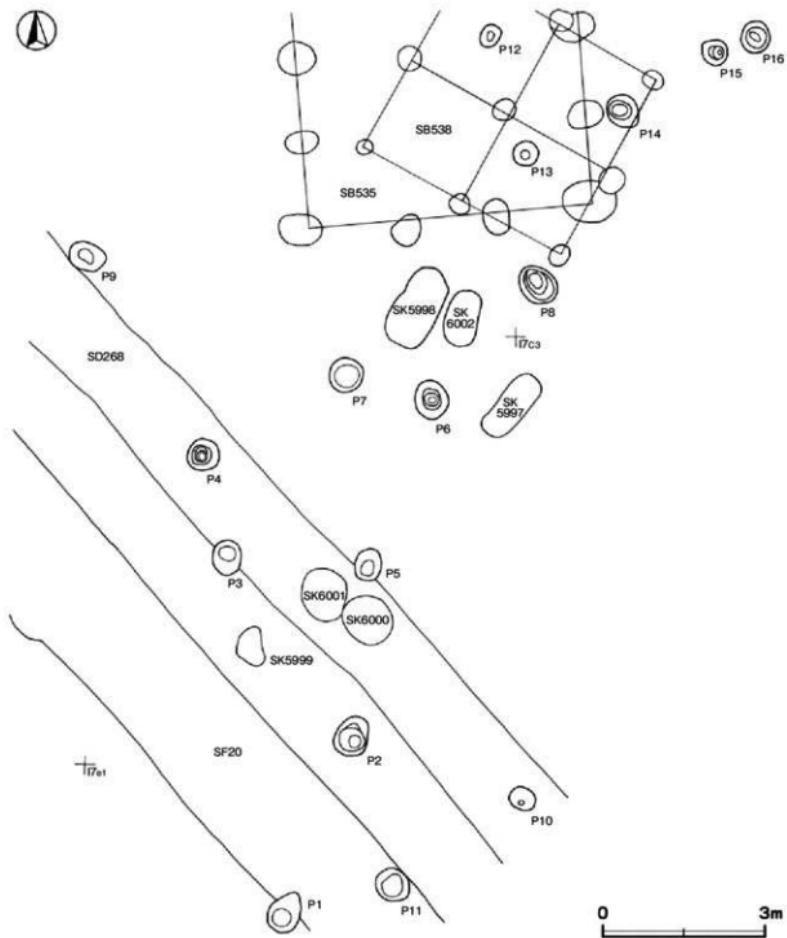
第373図 第56号ピット群実測図

表42 第56号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規格(cm)			ピット番号	位置	形状	規格(cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)	深さ					
1	16a0	円形	46 × 43	31	9	H6j0	楕円形	63 × 56	19		
2	16a0	楕円形	45 × 39	25	10	H6j0	楕円形	68 × 60	30		
3	16a9	不整楕円形	71 × 29	36	11	H6j9	楕円形	62 × 54	33		
4	16a0	円形	55 × 53	32	12	H6j0	楕円形	58 × 52	65		
5	16a0	楕円形	39 × 35	53	13	H6j0	円形	40 × 37	18		
6	16a9	楕円形	54 × 47	38	14	H7j1	楕円形	43 × 38	53		
7	16a0	楕円形	30 × 25	21	15	H7j1	楕円形	44 × 33	24		
8	16a0	楕円形	67 × 49	20							

第 57 号ピット群（第 374 図）

調査区中央部の I 7 a3 ~ I 7 e3 区にかけての東西 13 m、南北 18 m の範囲から、16か所のピットを確認した。標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。第 20 号道路跡を掘り込んでいる。また、分布範囲内に第 535・538 号掘立柱建物跡、第 5997・5998・6000 ~ 6002 号土坑、第 268 号溝跡があるが、直接的な重複関係はなく、新旧関係は不明である。平面形は長径 46 ~ 80 cm、短径 39 ~ 66 cm の円形または椭円形で、深さは 18 ~ 87 cm である。分布状況から建物跡の想定はできない。出土遺物がなく、性格・時期ともに不明である。



第 374 図 第 57 号ピット群実測図

表43 第57号ピット群ピット計測表

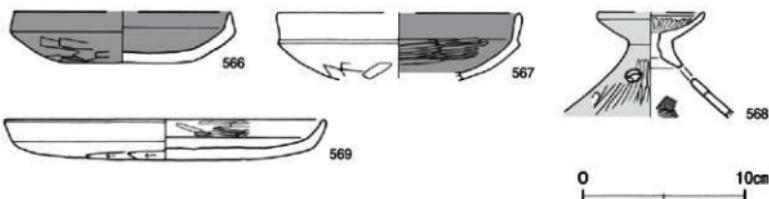
ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			
			長軸 (往)	短軸 (往)	深さ				長軸 (往)	短軸 (往)	深さ	
1	I7e1	楕円形	80	×	59	83	9	I7b1	楕円形	70	×	55
2	I7d2	楕円形	74	×	63	82	10	I7e3	楕円形	48	×	43
3	I7d1	楕円形	63	×	54	28	11	I7e2	楕円形	65	×	56
4	I7c1	円形	60	×	55	75	12	I7a2	楕円形	46	×	39
5	I7d2	楕円形	60	×	48	23	13	I7b3	円形	45	×	45
6	I7c2	楕円形	73	×	66	70	14	I7a3	楕円形	68	×	56
7	I7c2	円形	65	×	61	63	15	I7a3	楕円形	52	×	47
8	I7b3	楕円形	79	×	65	30	16	I7a4	楕円形	60	×	52

表44 その他のピット群一覧表

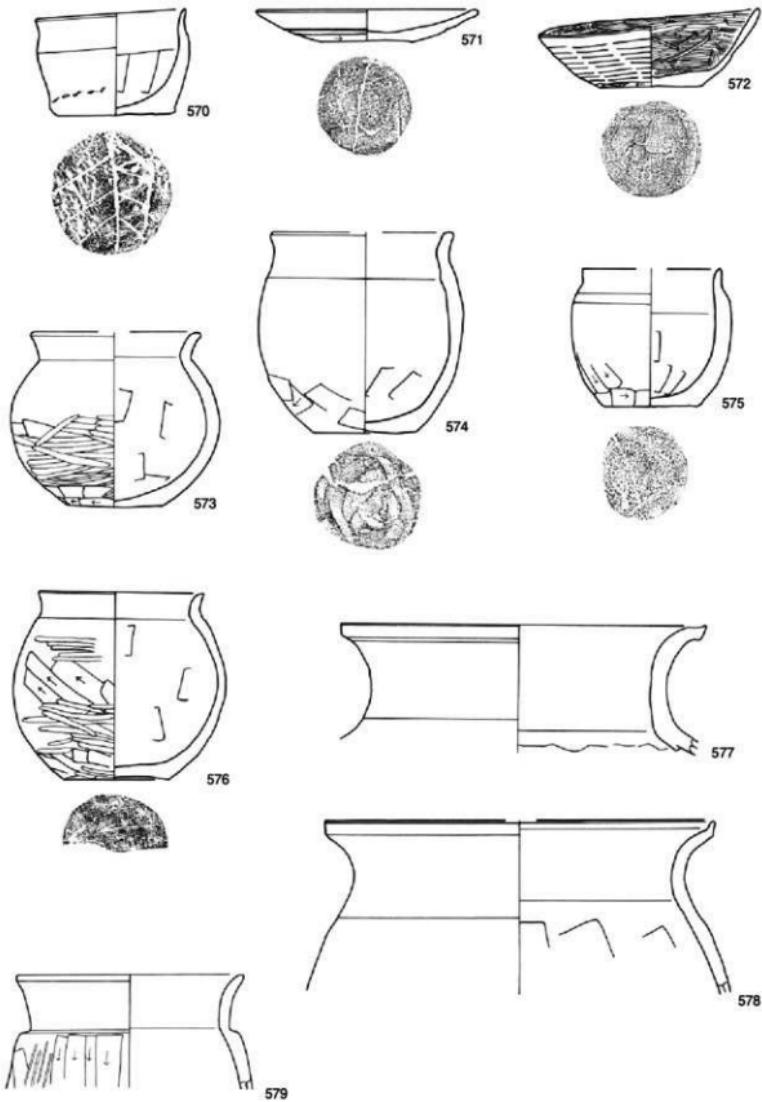
番号	位置	柱 穴				主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
		柱穴数	平面形	長径(軸)	短径(軸)		
44	I 6.13～J 6.65	60	円形・楕円形	36～73	24～70	7～88	土師器片 SH594.SH526-529.SK5891- 5892 新田不明
45	J 5.e8～J 5.29	30	円形・楕円形	18～74	18～44	12～62	土師器片・須恵器片、 土師質土器片 SH531-木棒 SH274-296 新田不明
46	J 5.g5～J 5.h7	20	円形・楕円形	24～50	24～48	5～49	SK5866 新田不明
47	J 5.a1～J 5.d4	40	円形・楕円形	20～50	18～40	12～64	SH2975 新田不明
48	J 4.d0～J 5.b3	50	円形・楕円形	22～70	18～64	10～59	土師器片・土師質土器片 SH527.SH532 新田不明
49	K 3.19～K 3.j9	49	円形・楕円形	14～70	12～40	6～58	SH516 新田不明
50	L 3.a7～L 3.c8	62	円形・楕円形	14～42	12～34	4～49	土師質土器片 SH517-519.SK5606- 5204 新田不明
51	L 3.c6～L 3.g8	53	円形・楕円形	15～44	14～34	9～47	土師質土器片 SH518-519.SK5697 新田不明
52	L 3.a5～L 3.c6	69	円形・楕円形	12～50	8～50	9～57	土師器片・土師質土器片 SH510-SH527-573.SK5636- 5635.D040.S.460-61 新田不明
53	L 3.c5～L 3.g6	35	円形・楕円形	16～62	14～38	7～39	SH510-513.SK5627- 5661-5666-5667.SD401- 5401-61 新田不明
54	K 3.c5～K 3.j4	74	円形・楕円形	16～70	16～46	7～50	土師器片・須恵器片 SH520 新田の不明
55	G 6.g7～H 6.a8	16	円形・楕円形	27～50	21～39	16～52	SH305-3006-3010 SK5906-5907 新田不明
56	H 6.i9～I 6.b0	15	円形・楕円形	30～71	25～60	18～65	SH282.SH5336-537 SD.298- SK6004-6005 新田不明
57	I 7.a3～I 7.e3	16	円形・楕円形	46～80	39～66	18～87	SF29-木棒 SH533-536.SD.297-2998- 6009-6002.SD.208 新田不明

(6) 遺構外出土遺物 (第375～381図)

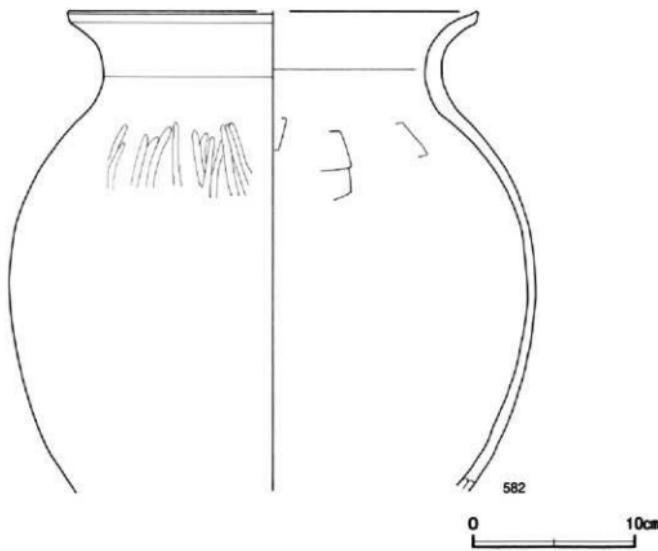
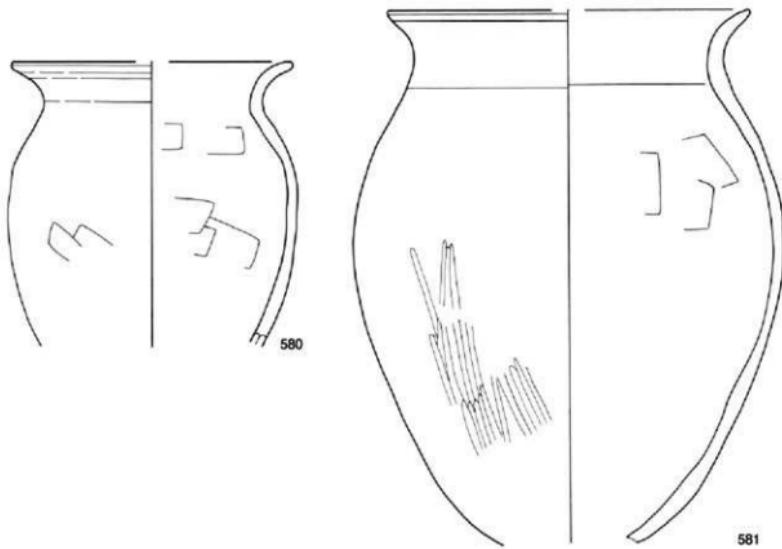
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



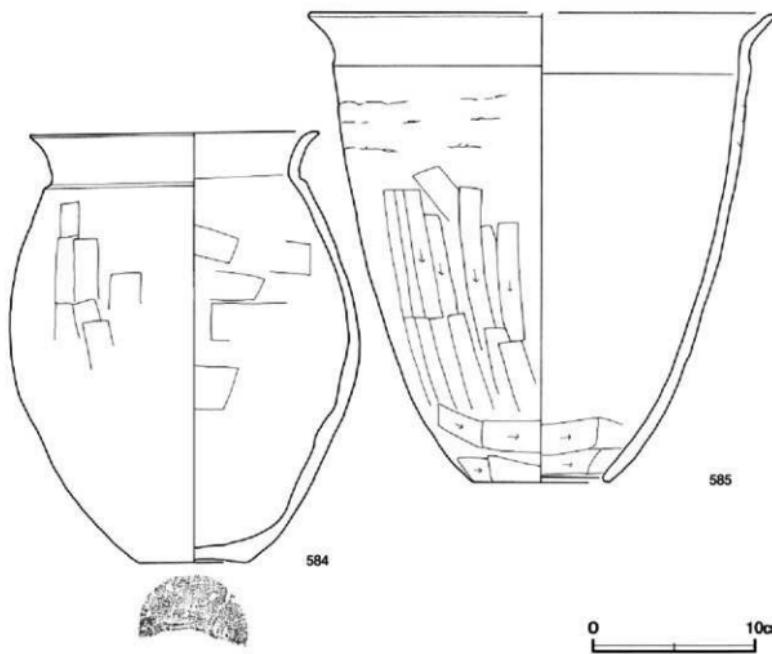
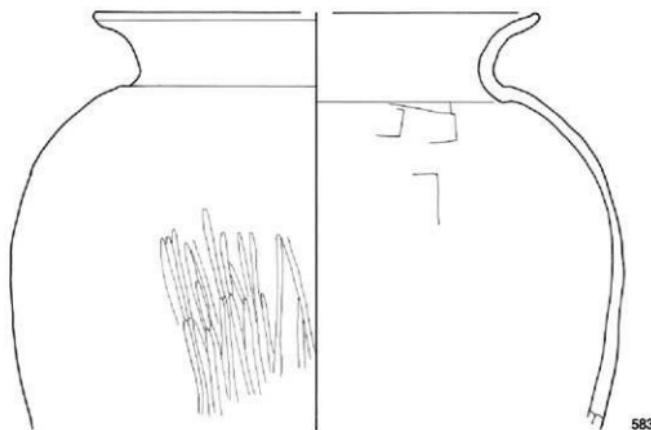
第375図 遺構外出土遺物実測図（1）



第376図 遺構外出土遺物実測図(2)

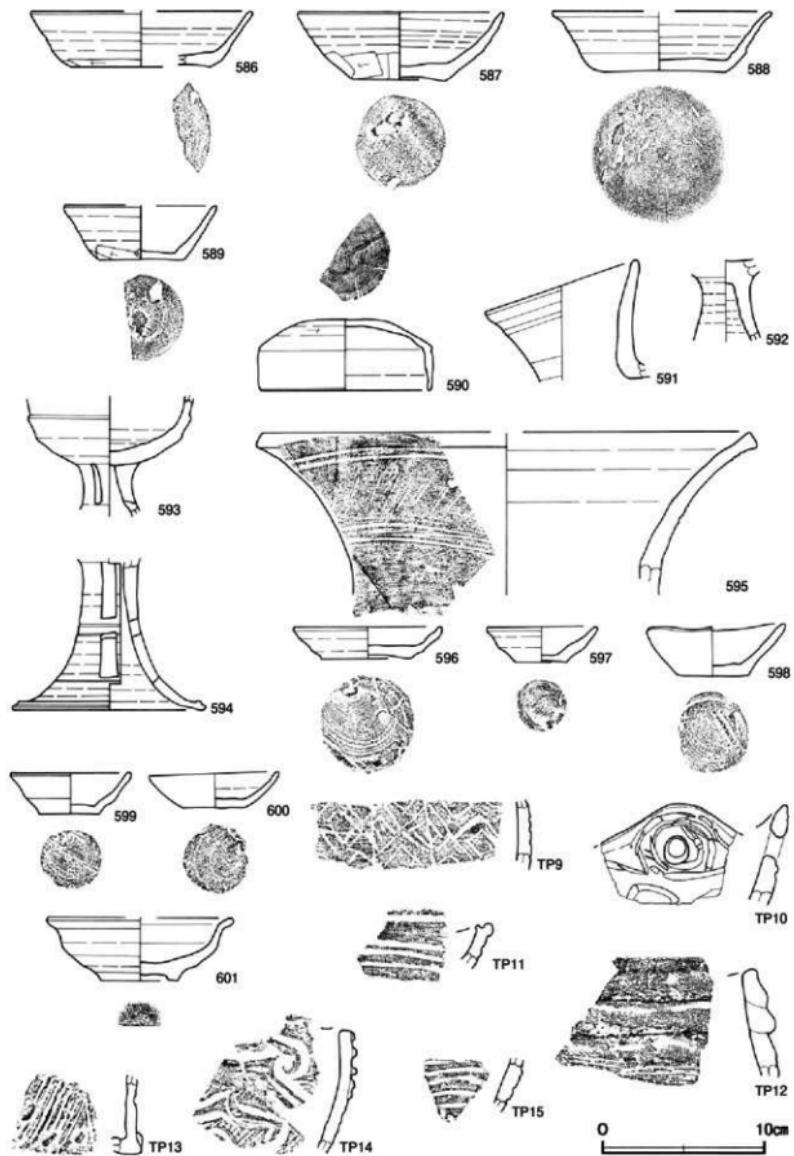


第377図 遺構外出土遺物実測図(3)

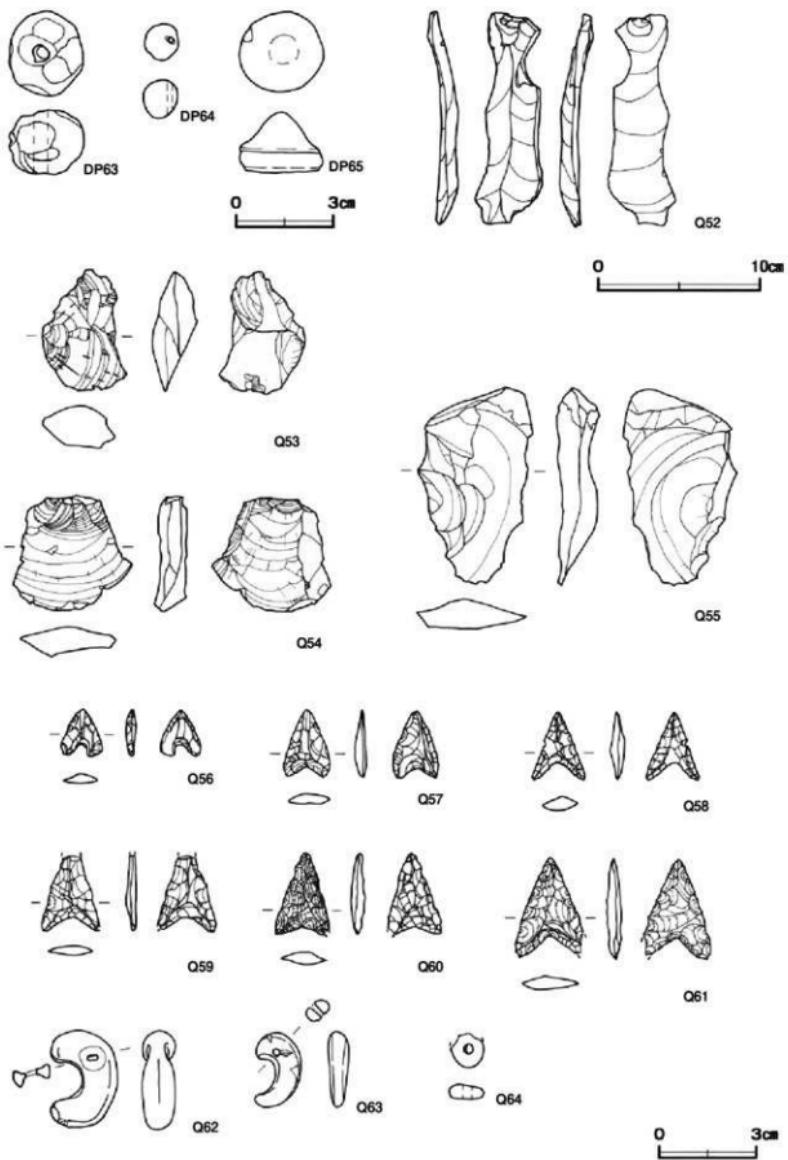


0 10cm

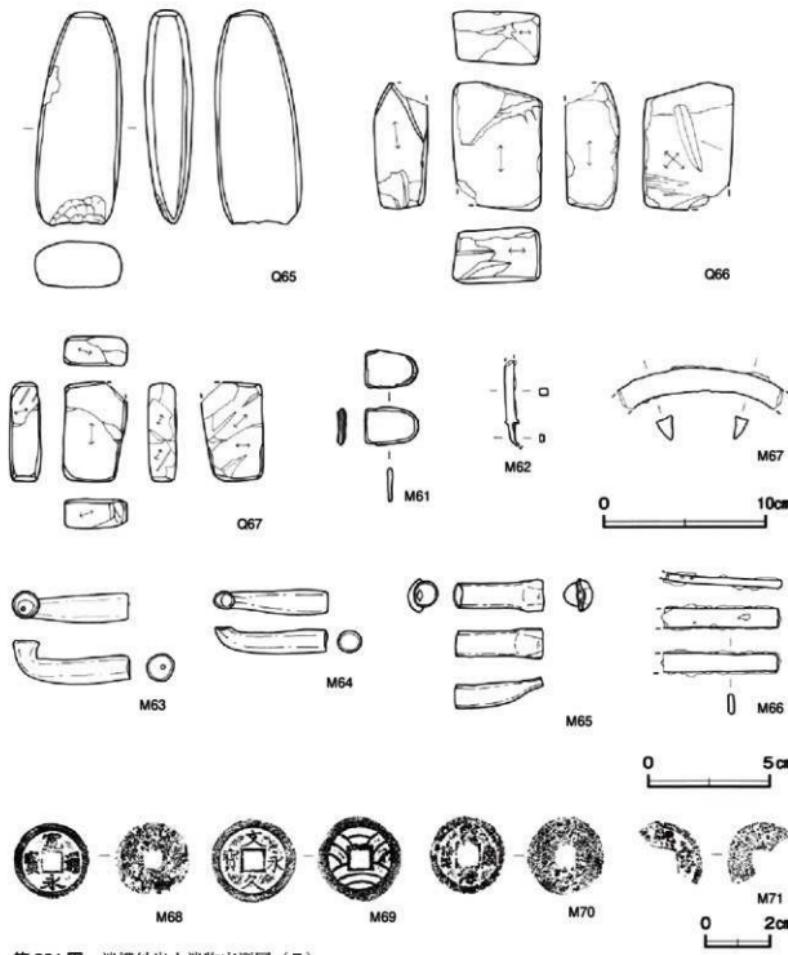
第378図 遺構外出土遺物実測図(4)



第379図 遺構外出土遺物実測図（5）



第380図 遺構外出土遺物実測図(6)



第381図 遺構外出土遺物実測図(7)

遺構外出土遺物観察表(第375~381図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
566	土師器	杯	[13.4]	3.2	-	長石・石英	褐	普通	口縁部外・内面焼け字 体部外面ヘラ削り後手捏	SD366 覆土中	30%
567	土師器	杯	[15.0]	(4.1)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面焼け字 内面ヘラ削り	SD366 覆土中	30%
568	土師器	器台	[6.6]	(6.5)	-	長石・石英、 黒色粒子	赤褐色	普通	受け部外・内面ヘラ削き 一部外面ヘラ削き	SI2366 覆土中	40%
569	土師器	皿	19.7	2.5	-	長石・石英、雲母	にぶい褐	普通	口縁部外側ロクナ字 内面ヘラ削き 体部~ 底部外面ヘラ削り後手捏 内面ナメ字	表土	80%
570	土師器	盆	9.2	6.6	7.4	長石・石英、 雲母、黑色粒子	浅黄褐	普通	口縁部外・内面ロクナ字 体部外面手捏 内面ヘラナメ字 高温木炭混	UP177 覆土中	95% PL84

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
571	土師器	瓶	13.4	20	58	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・繊維	橙	普通	ロクロナデ 体部下端回転へラ削り 底部多方向のヘラ削り	表土	90% PL84
572	土師器	杯	13.7	4.7	6.1	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	ロクロナデ 体部外端下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り 内面へラ削き	表土	100% PL84
573	土師器	小形甕	[10.0]	10.8	[6.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 体部外端下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	表土	40%
574	土師器	小形甕	[11.0]	12.4	6.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 体部外端下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	SD263 覆土中	50% PL82
575	土師器	小形甕	[8.4]	8.5	5.4~ 5.8	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 体部外端下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	SD263 覆土中	50% PL82
576	土師器	小形甕	9.9	11.7	6.4	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 体部外端下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	SD266 覆土中	70%
577	土師器	甕	22.5	(7.9)	-	長石・石英・ 雲母・繊維	にぶい橙	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ	SD263 覆土中	10%
578	土師器	甕	[24.0]	(10.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 内面へラ削き	SD266 覆土中	5%
579	土師器	甕	13.9	(7.1)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 体部外端へラ削り後ナ デーへラ削き 内面へラ削き	SD263 覆土中	20%
580	土師器	甕	[17.2]	(17.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 体部外端へラ削り後ナ デーへラ削き	SD263 覆土中	40%
581	土師器	甕	[22.3]	[32.9]	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 体部外端へラ削き	SD266 覆土中	40%
582	土師器	甕	[25.2]	(29.7)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 体部外端へラ削き	SD263 覆土中	30%
583	土師器	甕	[27.4]	(25.8)	-	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 体部外端へラ削り後ナ デーへラ削き 内面へラ削き	SD266 覆土中	30%
584	土師器	甕	17.7	26.8	6.7	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 体部外端へラ削り後ナ デーへラ削き	SD266 覆土中	60%
585	土師器	瓶	[28.6]	29.0	[8.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 体部外端へラ削り後ナ デーへラ削き	SD266 覆土中	40%
586	埴輪器	环	[13.6]	3.4	[8.6]	長石・石英・雲母	灰白	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 体部外端へラ削き	表土	20%
587	埴輪器	环	12.5	4.2	5.6	長石・石英	灰黄	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 体部外端へラ削り	表土	80%
588	埴輪器	环	[13.5]	3.7	8.1	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 体部外端へラ削り	表土	70%
589	埴輪器	环	[9.2]	3.3	5.2	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 体部外端へラ削り	表土	50%
590	埴輪器	环蓋	[10.4]	4.4	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ 体部外・内面横ナデ 体部外端へラ削り 天井部にヘラ記号「×」	表土	40%
591	埴輪器	平瓶	9.8	(8.0)	-	長石・雲母	暗灰	普通	ロクロナデ	SD261 覆土中	5% PL84
592	埴輪器	高环	-	(5.1)	-	長石・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ	表土	5%
593	埴輪器	高环	-	(7.4)	-	長石・石英	毛刈リーパーク	普通	ロクロナデ 腿部透かし 3 扇所	SD263 覆土中	40%
594	埴輪器	高环	-	(9.4)	11.6	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 腿部透かし 4 扇所	SD266 覆土中	40% PL84
595	埴輪器	甕	[30.1]	(10.0)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 腿部透かし 4 扇所 补修孔あり	表土	5%
596	土師質	小甕	9.0	20	5.7	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	表土	100% PL84
597	土師質	小甕	6.7	22	3.1	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	表土	100% PL84
598	土師質	小甕	8.7	32	4.8	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後ヘラ削り	表土	90% PL84
599	土師質	小甕	7.2	26	3.8	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	PG48 PI 覆土中	100%
600	土師質	小甕	8.1	22	3.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後ヘラ削り	PG50 PI 覆土中	50%
601	陶器	碗	[11.4]	3.9	[4.7]	精良	灰	普通	ロクロナデ 体部外・内面施釉	SE164 覆土中	50% PL86 備註 n

番号	種別	器種	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP9	圓文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	旋錐による要形文	表土	前期後業
TP10	圓文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部に文様帯	SD262 覆土中	後期初頭
TP11	圓文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面へラ磨き	SD246 覆土中	晚期中葉
TP12	圓文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部折り返し状 体部側面状工具による条綱文	SD243 覆土中	後期初頭
TP13	圓文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	集合沈錐上にボタン貼付文	表土	前期後業
TP14	圓文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	熱糞文上に隈帶・腰帶沈錐文による渦巻き文	SD245 覆土中	PL84
TP15	圓文土器	浅鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	TP11 と同一	SD246 覆土中	晚期中葉

番号	種 別	器種	長さ	厚さ	孔徑	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP63	土玉		27	22	0.5	11.3	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	SD405 覆土中	
DP64	土玉		12	11	0.15	1.42	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	表土	PL84
DP65	不明		25	18	-	8.45	長石・石英	ナデ	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 52	石刃	13.1	4.2	2.0	48.7	頁岩	縫長剥片	SI2311 覆土中	
Q 53	剥片	3.7	2.6	1.4	9.2	黒曜石	裏面に風化剥離痕	SI2997 覆土中	
Q 54	剥片	3.6	3.7	1.0	10.7	黒曜石	裏面に風化剥離痕	SK2227 覆土中	
Q 55	剥片	6.1	3.5	1.3	21.7	瑪瑙	上部に單面面	SI3014 覆土中	
Q 56	石礫	1.5	1.3	0.3	0.6	チャート	裏面に素材剥離面残す	表土	PL85
Q 57	石礫	2.1	1.4	0.3	0.9	チャート	裏面に素材剥離面残す	表土	PL85
Q 58	石礫	2.1	1.7	0.5	0.7	チャート	円孔縫	SI3002 覆土中	
Q 59	石礫	(2.3)	1.8	0.3	(1.0)	チャート	先端部欠損	SI106 覆土中	PL85
Q 60	石礫	2.5	(1.7)	0.4	(1.3)	チャート	端部一部欠損	表土	
Q 61	石礫	3.1	(2.1)	0.5	(2.0)	チャート	端部一部欠損	SI289 覆土中	
Q 62	勾玉	3.0	2.0	1.0	7.3	凝灰岩	孔径 0.3m 裏面穿孔、2回穿孔	表土	PL85
Q 63	勾玉	2.3	1.3	0.6	2.8	凝灰岩	孔径 0.15cm 裏面穿孔	SD405 覆土中	PL85
Q 65	磨製石斧	13.2	5.3	2.9	34.8	花崗岩	下端部敲打による剥離 表面に敲打痕	表土	PL85
Q 66	砥石	7.9	5.5	3.3	(23.5)	凝灰岩	砥面 6面 摩耗	表土	PL85
Q 67	砥石	6.1	(3.8)	1.8	(65.0)	砂岩	砥面 6面	表土	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 64	臼玉	1.05	0.5	0.3	(0.6)	凝灰岩	裏面穿孔	表土	PL85

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 61	鉈尾	3.3	2.3	0.5	7.4	鋼	板状 一端は半円形	SI268 覆土中	PL85
M 62	頭	(5.3)	0.9	0.4	(5.45)	鉄	断面長方形 西端部欠損	SE169 覆土中	PL85
M 63	櫛管	4.8	1.8	1.1	8.5	銅	喉首部 火薙径 1.1cm	SI3014 覆土中	PL85
M 64	櫛管	4.7	(1.1)	1.0	6.2	銅	喉首部 火薙部分欠損	SI3013 覆土中	PL85
M 65	櫛管	3.8	1.4	1.3	6.9	銅	喉口部	SI2977 覆土中	
M 66	不明	(4.8)	0.8	0.3	(7.9)	鉄	断面長方形 左端部板やかに湾曲	SI3013 覆土中	PL85
M 67	不明	(10.2)	(1.5)	0.1~1.0	(44.0)	鉄	断面三角形 板やかに湾曲	SE152 覆土中	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 68	錢貨	2.4	0.5	0.1	0.51	銅	古寛永通寶 初鋤 1636年	SI2988 覆土中	
M 69	錢貨	2.7	0.5	0.11	3.2	銅	文久永寛 初鋤 1863年 裏面に波形文様	表土	PL85
M 70	錢貨	2.5	0.5	0.12	3.3	銅	嘉慶元寛 初鋤 1094年	表土	PL85
M 71	錢貨	2.6	(0.7)	0.11	(0.7)	銅	熙寧通寶 初鋤 1068年	PG32 P1 覆土中	

第5節 ま　　と　　め

1 はじめに

鳥名熊の山遺跡は、平成7年度から調査を実施し、これまでに『茨城県教育財团文化財報告』第120・133・149・166・174・190・214・236・264・280・291・322・328集¹⁾の13冊の報告書を刊行している。今年度は、遺跡南部に位置する12区の平成20年度調査分、西部に位置する15区の平成16〔『茨城県教育財團文化財報告』第291集²⁾(以下、「第291集」と略す)で一部報告〕・18・19・20年度調査分について整理を行った。今回の報告分までの調査総面積は237.225m²である。これまでに確認した主な遺構は、住居跡2,385軒、竪穴遺構6基、掘立柱建物跡378棟、井戸跡172基、地下式坑78基、火葬土坑35基、墓坑77基、塙跡・溝跡292条、道路跡20条、水田跡2か所などである。当遺跡は、古墳時代(4世紀)から平安時代(11世紀)にかけての集落跡が中心であり、律令期の「河内郡嶋名郷」との関連が指摘されている。また、中世以降も堀や溝による区画や墓域、水田跡などが確認されており、連続と集落が営まれてきたことが窺える。各時代毎のあり方については、これまでの報告で詳細に述べられているので、ここでは今年度整理を行った12・15区について、15区においては『第291集』での整理内容と合わせて、主な時代についての事実関係を記述する。

なお、時期区分に関しては、既往の成果との整合性を保つため、『第190集』³⁾で示された土器の変遷に基づき、第1期を4世紀、第2期を5世紀、第3~5期を6世紀、第6~8期を7世紀、第9~11期を8世紀、第12~14期を9世紀、第15~18期を10~11世紀とする。

2 12区

12区は一部未調査区域と平成22・23年度調査分を除き、平成14・15年度に調査された部分については『第214・236・291集』において報告されている。本報告では、平成20年度の調査で確認された遺構について記述する。確認できた遺構は、溝跡9条、杭列跡3列、土坑19基、ピット群3か所である。

明確な時期を特定できた溝跡は、第491号溝跡の1条だけで、その他は15・16世紀以前の中世が5条、16世紀以降と考えられるものが3条である。『第291集』で報告されている第1・2号水田跡に繋がる痕跡は確認できなかったが、溝が機能していた時期は、水稻耕作が行われていたとする15世紀後半から16世紀と同時期か、またはその前後と考えられる。今回確認された溝跡は、水稻耕作に関わり機能していたものと想定される。

3 15区(表45)

(1) 古墳時代(第382~384図)

当時代の遺構は、標高20~21mの台地平坦部を中心に住居跡134軒、竪穴遺構5基、土坑3基を確認している。各時期毎の住居跡の内訳は次の通りである。

古墳時代前期の第1期は10軒の住居跡が該当する。いずれも調査区の北部からだけ確認され、それらのうち6軒が4世紀中葉と考えられる。第3008号住居跡が床面積53.9m²と最も大形で、次いで第2493号住居跡が30.3m²であり、その他の4軒は17m²前後である。また、6軒中3軒が焼失住居であり、住居焼絶に伴う儀礼的な行為が行われていたものと考えられる。第3008号住居跡から出土した炭化材は、端部

に加工痕があるみかん割り材と板状材であり、いずれもコナラ属コナラ節である（付章2参照）。4世紀後葉では北西部から床面積20m²ほどの住居跡2軒を確認しただけである。

中期の第2期は2軒の住居跡が該当し、5世紀後葉と5世紀代とする住居跡をそれぞれ1軒ずつ確認しただけである。いずれも床面積15m²ほどの小形の住居跡である。

古墳時代後期は当調査区の中心的な時期であり、6世紀中葉の第4期が13軒、6世紀後葉の第5期が48軒、7世紀前葉の第6期が41軒、7世紀中葉の第7期が22軒、7世紀後葉の第8期が2軒となっている。

第3期に該当する遺構は、当調査区で確認されておらず、東谷田川を望む東部の台地上で住居跡7軒が確認されているだけである。

第4期は、『第291集』で報告されているように、床面積が90m²を超える第2487号住居跡が調査区の中央部西寄りで確認されており、当期の中心的な役割を担った有力者層の居宅と考えられる。床面積が30m²を超える大形の住居跡は6軒確認され、第2323・2340号住居跡からは、いずれも刀子が出土しているほか、竈や貯蔵穴、出入口施設周辺の床面から多数の土師器が出土していることが既に報告されている。さらに西部に位置する第2872号住居跡からは、鉄錠3点と鎌1点も出土している。また、第2491号住居跡からは、竈の覆土中やコーナー部の覆土中から土製の勾玉2点と小玉5点、滑石製白玉1点が出土している。

第5期は、第4期と同様に床面積が90m²を超える大形の第2981号住居跡が、南部から確認されている。大形住居を核として、複数の中小の住居からなる集団構成が認められ、住居数は48軒と急激に増加している。床面積が30m²を超える大形の住居跡数も18軒となる。また、19m²以下の横長長方形の第2336号住居跡のような小形住居も見られる。主な出土遺物としては、第2572号住居跡からは、土玉15点、土製勾玉13点、鏡形模造品3点、鍔先形土製品1点が竈の東側からまとめて出土している。鍔先形土製品は、これまでの調査で6点がいずれも竈周辺から出土している。前回の報告でも第2387号住居跡の竈周辺から土製勾玉2点、土製小玉1点、土玉2点、滑石製と蛇紋岩製の臼玉各1点が出土していることが報告されていることから、竈構築や地鎮に関わる祭祀行為が推測できる。

第6期は、41軒が確認されており、第4・5期と同様に床面積が90m²を超える大形の住居跡を核として複数の中小の住居跡からなる集団構成が認められる。床面積が30m²を超える大形の住居跡数は、14軒とやや減少する。『第291集』でも北西部の7軒の住居跡から鉄器が出土しており、その高い保有率が報告されている。第5期の第2981号住居跡からも、刀子3点、鎌1点、鎌1点、小札1点が出土している。

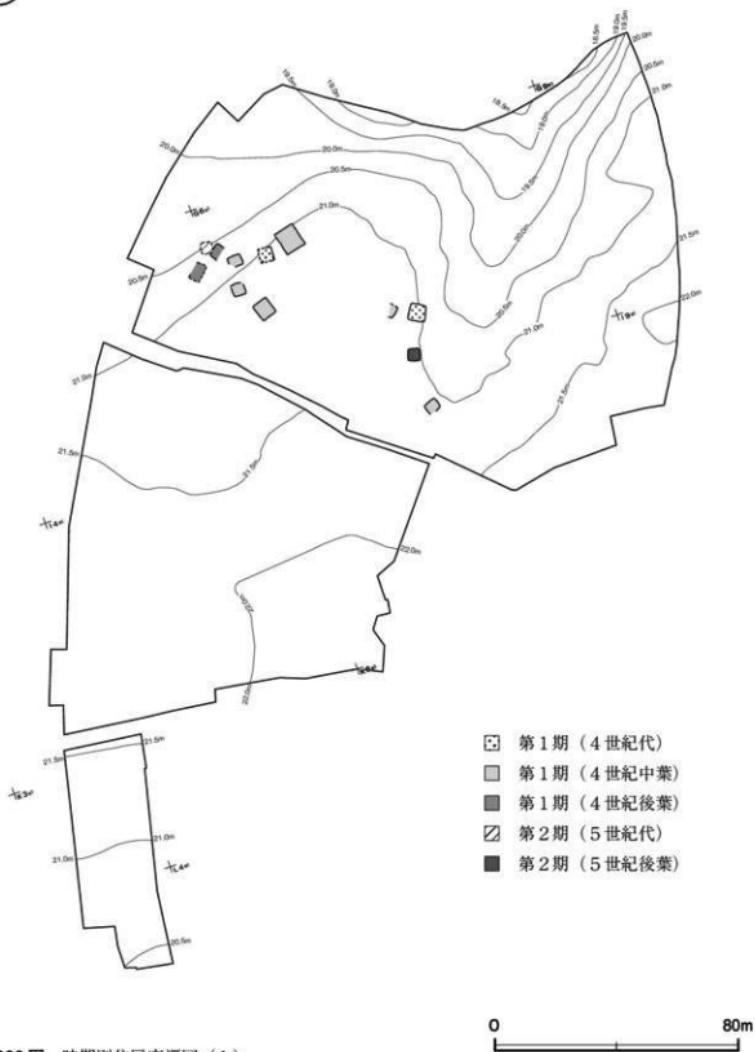
第7期は北西部、中央部、東部の3か所で、中小の住居跡からなる集団構成が認められる。出土遺物は、大形住居から耳環、刀子、鎌、釘などが出土しており、集団の有力層による鉄器の集中的な所有を示唆している。

表45 時期別住居規模一覧表

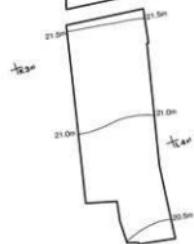
面積	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	13期	14期	15期	16期	17期	18期	総計(軒)
1～9m ²				1	1	2	2		1	1		2	2	1	1	2	1	1	18
10～19m ²	3	2		1	9	5	11	1	6	5	4	4	10	5	4				70
20～29m ²	3			3	12	10	3	1	5	1	2	1	1						42
30～39m ²	2			6	10	8	1		1										28
40～49m ²					6	4	2												12
50～59m ²	1					2	2												5
60～69m ²																			
70～79m ²																			
80～89m ²																			
90～99m ²						1	1	1											3
平均面積(m ²)	25.5	15.2	-	33.6	28.6	31.2	19.4	16.5	19.3	14.4	17.6	14.6	14.2	12.3	13.5	8.6	7.6	8.0	178

ている。

第8期は、住居跡2軒が西部で確認されているだけである。



第382図 時期別住居変遷図（1）



0 80m

第383図 時期別住居変遷図（2）



- 第6期（7世紀前葉）
- 第7期（7世紀中葉）
- 第8期（7世紀後葉）

0 80m

第384図 時期別住居変遷図（3）

(2) 奈良時代（第385図）

8世紀代は、標高21～22mの台地平坦部から堅穴住居跡30軒、掘立柱建物跡3棟が確認されている。時期別には、8世紀前葉の第9期が住居跡13軒、8世紀中葉の第10期が住居跡7軒と掘立柱建物跡2棟、8世紀後葉の第11期が住居跡10軒と掘立柱建物跡1棟となっている。住居跡は、主軸方向が真北から西へわずかに振れるものが主体である。第9～11期の住居跡と掘立柱建物跡は、調査区中央部の西寄りに分布し、北東部と南西部からは確認されていない。第9期の住居跡の規模は、床面積315m²の第2999号住居跡が最大で、床面積20～29m²が5軒、床面積10～19m²が6軒である。第10期の住居跡は、中央部の中心部に集中して確認されている。規模は、床面積20.1m²が最大で、10～19m²が5軒、9.2m²が1軒である。第11期の住居跡は、床面積24m²前後が2軒、10～19m²が4軒である。住居跡の規模は、第9期から第11期にかけて縮小化する傾向が見られる。掘立柱建物跡は、「第291集」で報告されているだけで、桁行方向が住居跡の主軸方向とはほぼ同一で、構造は3間×2間または2間×2間の偏柱建物である。出土遺物は、第317号掘立柱建物跡からは、「□達丸」と刻書された土師器壺片が出土している。

(3) 平安時代（第386・387図）

当時代の遺構は、標高21～22mの台地平坦部から住居跡40軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、墓坑2基、土坑5基が確認されている。時期別には、9世紀前葉の第12期が住居跡6軒と掘立柱建物跡1棟、第13期以降は住居跡だけが構成され、9世紀中葉の第13期が13軒、9世紀後葉の第14期が7軒、10世紀前半の第15期が5軒、10世紀後半の第16期が2軒、11世紀前半の第17期が2軒、11世紀後半の第18期が1軒となっている。第12期は、第319号掘立柱建物跡を取り囲むように6件の住居跡が確認されている。第14期には再び東部にも住居跡が出現し、第16期以降には居住域は東側へ移動し、西部では住居跡が認められなくなる。

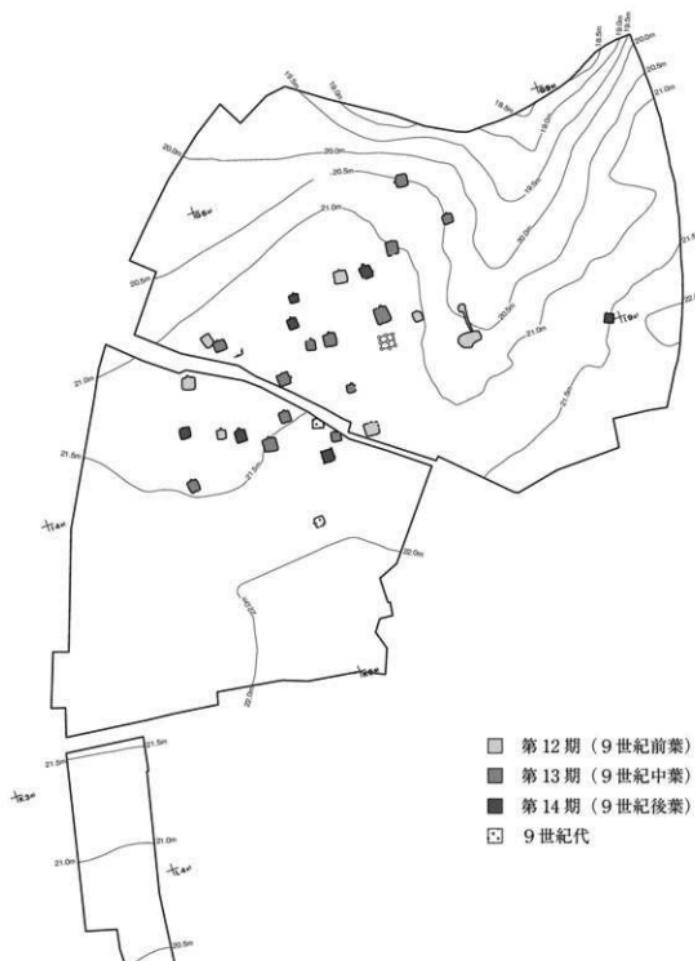
住居跡の規模は、第12期から第15期まで床面積10～19m²が中心で、第16期～第18期になると8m²前後のものだけしか認められず、さらに規模の縮小化が進んでいる。また、主軸方向は真北からわずかに東を向くようになり、第16期以降は東竈のものも見られるようになる。出土遺物は、西部の住居跡から灰釉陶器長頸瓶が出土しているほか、鉄製品や墨書き土器などが多数出土している。鉄製品は、刀子、鎌、斧、釘などで、集団が移動する第15期まで、高い保有率を維持している。また、第3028号住居跡からは、銅製の鋏具も出土している。墨書き土器は、「第291集」で報告された「大」、「大□（大土カ）」、「ナ」、「丕」、「□（万カ）・万」、「小兜」、「小口・□（方カ）」、「家」のほかに、第148号井戸跡から、「川カ」、「□家」、「塗カ房」も出土している。こうした鉄製品や墨書き土器の状況から、今回の調査区域は、集団内でも優位な立場にある集団の居住地である可能性がある。

(4) 中世・近世（第388図）

堅穴造構1基、方形堅穴造構8基、掘立柱建物跡13棟、井戸跡31基、地下式坑5基、火葬土坑2基、墓坑7基、土坑31基、道路跡2条、溝跡24条、杭列跡22列を確認している。掘立柱建物跡は、出土遺物が乏しいため、詳細な時期や性格については明確でない。しかし、その分布は、調査区の中央部から南西部にかけて、中世前半と考えられる第225号溝跡と第264号溝跡を結んだ延長線上の南側にみられる。また、この字状に確認された第267号溝跡は、第321・527・531・532号掘立柱建物跡などを含む建物群を区画していたものと考えられる。中央部には第527・532号掘立柱建物跡、その東へ約10mに第531号

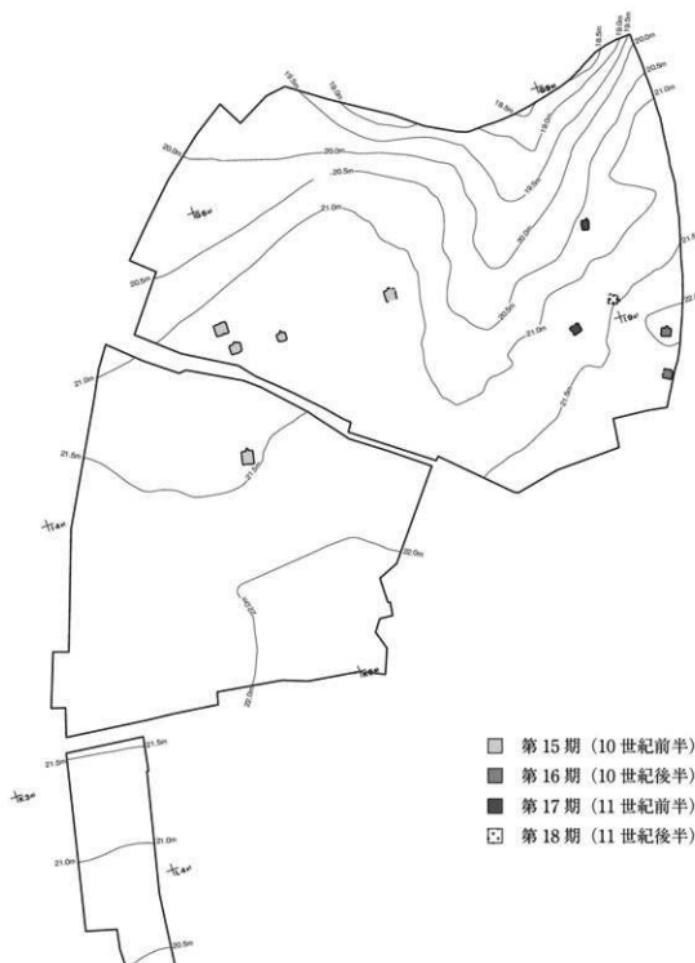


第385図 時期別住居変遷図（4）



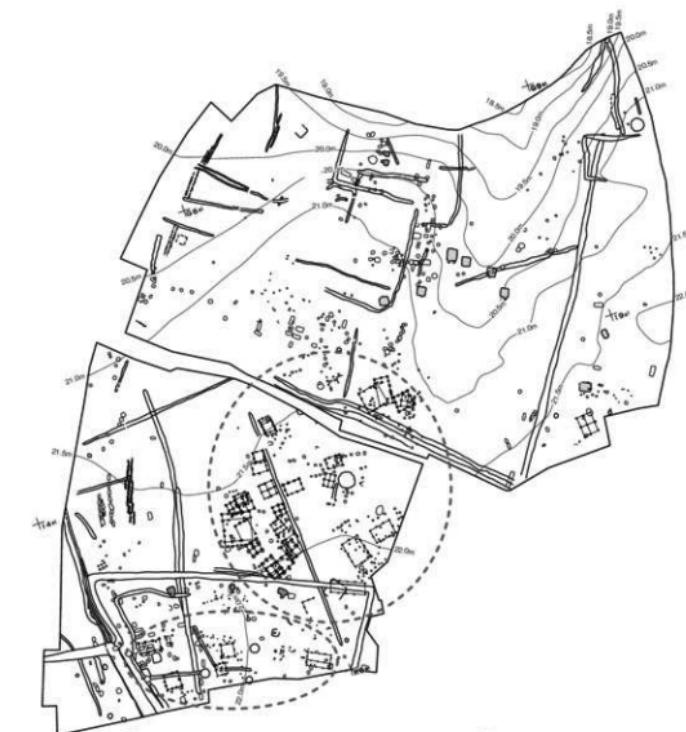
0 80m

第386図 時期別住居変遷図（5）

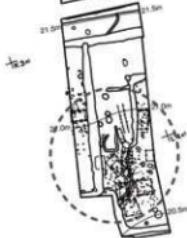


0 80m

第387図 時期別住居変遷図（6）



- 挖立柱建物群
- 方形竖穴遗構
- 地下式坑



0 80m

第388図 中世・近世の遺構配置図

掘立柱建物跡、西へ約10mに第532号掘立柱建物跡が確認されており、軸は多少ずれるものの整然と配置されている。さらに調査区の南西部では、16世紀以降に比定できる溝跡も確認されている。しかし、南西部の溝跡は、東西端とともに調査区域外に延びているため、一部が確認できただけである。出土遺物は、第403～408号溝跡から土師質土器の小皿、内耳鍋、擂鉢等が溝跡の覆土中から投棄された状態で大量に出土している。

8基の方形堅穴造構については、『第291集』で報告されているだけであるが、すべてが調査区の北東部で確認されている。第74・75号地下式坑は、北部の台地縁辺部で、火葬土坑2基と第144号井戸跡とともに、約10m四方の中で集中して確認されている。当区域は、葬送儀礼を行う区域、墓域と推察される。時期を明確にする遺物が出土していないことから、詳細は不明である。第76～78号地下式坑は、南部で東西方向に16～20mの間隔で並び、いずれも玄室が北側に確認されている。

調査区の南側約150mには「妙徳寺」が所在しており、『谷田部の歴史』⁴⁾によると永仁5年（1297）に一遍上人の弟子、一阿了向が道場として開基したものとされている。今回の調査で関連施設と考えられる建物跡や墓域などの土地利用の様子の一端を垣間見ることができたが、さらに調査区南側の様相が確認されることで、寺城の明確な様相が解明されていくものと考えられる。

3 おわりに

以上、12・15区の調査結果について述べてきたが、確認できた遺構数に多少はあるものの集落の変遷等については大きな差異を見出すことができなかった。ただし、15区では、古墳時代後期に床面積が90m²を超える超大型住居跡を核とする集団構成が3時期にわたって確認され、地縁関係による継続的な集落が営まれていたものと想定される。また、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物跡は、奈良時代で1棟、平安時代で3棟しか確認していない。このことから、当該期は居住域として利用されていたものと考えられる。さらに、中世以降については、溝や板塀などで区画された中に建物群や埋葬にかかる遺構が存在し、「妙徳寺」と関連した土地利用の一端が確認されつつある。今後の調査・整理作業の中から、中世から近世にかけて寺を中心にした土地利用の在り方が明らかにされていくものと考えられる。

註

- 1) 新井聴他「(仮称)鳥名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 熊の山遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第120集 1997年3月
- 小島敏他「(仮称)鳥名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 熊の山遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第133集 1998年3月
- 吉原作平他「(仮称)鳥名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 熊の山遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第149集 1999年3月
- 矢木倉正男他「鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 熊の山遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第166集 2000年3月
- 藤田哲也他「鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ 熊の山遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第174集 2001年3月
- 福田義弘「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」「茨城県教育財团文化財調査報告」第190集 2002年3月
- 福田義弘他「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」「茨城県教育財团文化財調査報告」第214集 2004年3月
- 松本直人他「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XI」「茨城県教育財团文化財調査報告」第236集 2005年3月

- 田中幸夫他「鳥名熊の山遺跡 烏名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XII」
『茨城県教育財团文化財調査報告』第 264 集 2006 年 3 月
- 酒井雄一他「鳥名熊の山遺跡 烏名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XII」
『茨城県教育財团文化財調査報告』第 280 集 2007 年 3 月
- 酒井雄一他「鳥名熊の山遺跡 烏名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XV」
『茨城県教育財团文化財調査報告』第 291 集 2008 年 3 月
- 早川麗司「鳥名熊の山遺跡 烏名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVI」
『茨城県教育財团文化財調査報告』第 322 集 2009 年 3 月
- 小澤重雄「鳥名熊の山遺跡 烏名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XIII」
『茨城県教育財团文化財調査報告』第 328 集 2010 年 3 月
- 2) 酒井雄一他「鳥名熊の山遺跡 烏名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XV」
『茨城県教育財团文化財調査報告』第 291 集 2008 年 3 月
- 3) 稲田義弘「熊の山遺跡 烏名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書VII」
『茨城県教育財团文化財調査報告』第 190 集 2002 年 3 月
- 4) 谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』 谷田部町教育委員会 1975 年 9 月

参考文献

- ・櫻村宣行「鉢鏡形土製模造品についての一考察」「施塙林の考古学－大竹憲治還暦記念論集』 大竹憲治先生還暦記念論文集刊行会 2011 年 11 月
- ・永井久美男『新版 中世出土銭の分類図版』 高志書院 2002 年 4 月
- ・川村満博「つくば市小泉館跡出土の非ロクロ成形かわらけについて」「研究ノート」9号 茨城県教育財团 2000 年 6 月
- ・川村満博「茨城県南部を中心に見た 12 世紀後半～15 世紀のロクロ成形かわらけについて」「研究ノート」12号 茨城県教育財团 2000 年 6 月
- ・白田 正子「茨城県における中世末から近世にかけての土師質内耳土器について」「研究ノート」7号 茨城県教育財团 1998 年 6 月
- ・狹川真一「日本の中世墓」 高志書院 2009 年 3 月
- ・畠大介『研究集会報告集4』「ムラ研究の方法－遺跡・遺物から何を読み取るか』 岩田書院 2002 年 11 月

付 章 1

島名熊の山遺跡第160号井戸跡出土木製品の樹種同定

(株)吉田生物研究所

1はじめに

島名熊の山遺跡は、つくば市島名地内に所在する遺跡である。ここでは、中世の第160号井戸跡から出土した木製品1点の樹種同定結果を報告する。

2試料

試料は茨城県つくば市島名熊の山遺跡から出土した食事具1点である。

3観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

4結果

樹種同定結果（広葉樹1種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Sect. *Prinus* Loudon syn. *Diversipilosae*, *Dentatae*)

(表1、写真1)

環孔材である。木口では大道管（～380 μm）が年輪界にそって1～3列並んで孔圈部を形成している。孔圈外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは2～3個複合して火炎状に配列している。放射組織は單列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は單穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の單列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

- ・島地謙 伊東隆夫『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版 1988年
- ・島地謙 伊東隆夫『図説木材組織』地球社 1982年
- ・伊東隆夫『日本産広葉樹材の解剖学的記載I～V』京都大学本質科学研究所 1999年
- ・北村四郎 村田源『原色日本植物図鑑木本編I・II』保育社 1979年
- ・深澤和三『樹体の解剖』海青社 1997年
- ・奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇』1985年
- ・奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇』1993年

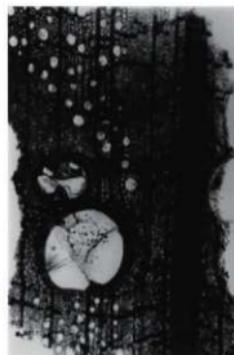
◆使用顕微鏡◆

Nikon

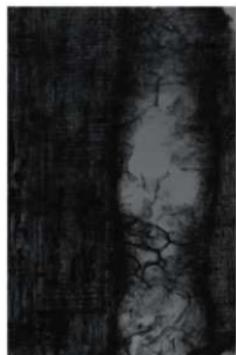
MICROFLEX UFX-DX Type 115

表1 烏名熊の山遺跡出土木製品同定結果

No.	品名	樹種
1	杓文	アナ科コナラ属コナラ属コナラ属



木口 × 40



柾目 × 40



板目 × 40

写真1 第160号井戸跡出土木製品の電子顕微鏡写真

付 章 2

島名熊の山遺跡第3008号住居跡出土炭化材の樹種同定

(株) パレオ・ラボ 藤根 久

1はじめに

島名熊の山遺跡は、つくば市島名地内に所在する遺跡である。ここでは、5世紀代の焼失住居跡出土炭化材3点の樹種同定を行った。これら炭化材は、大型で端部に加工痕のあるみかん割り材や板状の柾目材など建築材と思われる木材である。

2方法

同定は、炭化材の3方向（横断面・接線断面・放射断面）の断面を作成し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製JSM-5900LV型）で観察と写真撮影を行った。

3結果

樹種を同定した結果、いずれもコナラ属コナラ節の木材であることが判った。対象とした炭化材は大型の炭化材であることから（試料No.47が最大幅約10cm、試料No.50が最大幅約7cm）、建築部材である可能性が高く、この住居跡はコナラ属コナラ節の木材に限定して使用した可能性が考えられる。

表2 島名熊の山遺跡出土炭化材同定結果

試料 No.	遺構	備考	採取日	木取り	樹種
47	SE3008	TSK-19-15	070511	大型材（端部に加工痕、みかん割り材）	コナラ属コナラ節
50	SE3008	TSK-19-15	070516	大型の板状材（柾目材）	コナラ属コナラ節
51	SE3008	TSK-19-15	070516	不明	コナラ属コナラ節

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した。

コナラ属コナラ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 (写真2 1a-1c (No.47))

年輪の始めに大型の道管が配列し、晩材部は薄壁で孔口は角形の小型管孔が火炎状・放射方向に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、道管の穿孔は單一で、内腔にチロースがある。放射組織は単列のものと集合放射組織がある。

コナラ属コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。材は乾燥すると割れや狂いが出やすいが硬く丈夫である。

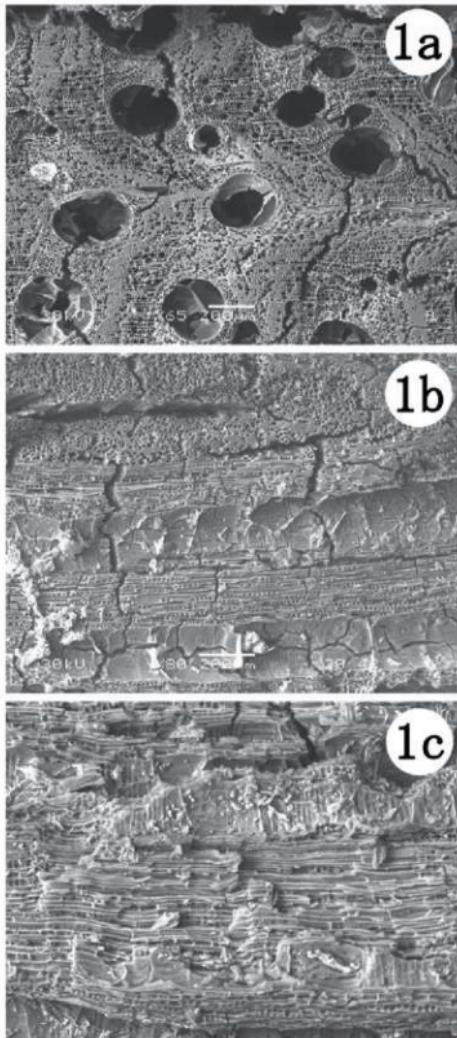


写真2 第3008号住居跡No.47 炭化材の電子顕微鏡写真

1 a コナラ節（横断面）、1 b 同（接線断面）、1 c 同（放射断面）

付 章 3

島名熊の山遺跡出土の動物遺存体について

西本 豊弘

1 はじめに

島名熊の山遺跡の中世・近世の土坑と溝跡から、人骨と馬骨が出土した。それらについての観察所見を述べる。

2 第 5856 号土坑出土の人骨

第 5856 号土坑からヒトの下顎骨 1 点と右側上腕骨 1 点が出土した。下顎骨には、本来左右の第 1・第 2 切歯・犬歯・第 2 小臼歯が食率していたとみられ、それらの歯槽部の窪みが認められた。歯そのものは失われていた。左右の第 1・2・3 大臼歯生前に歯周病により失われたと思われる。それらの歯槽部は骨により充填されていた。下顎骨体は大きいが骨の緻密質は薄く栄養不良であったと思われる。歯が前歯のみであり、十分ななんばく質が摂取できなかつたのであろう。これらの所見から老齢個体と推測される。上腕骨は、骨幹部のみであり細く華奢である。このことからおそらく女性であろう。以上の所見から、この墓には老年女性が埋葬されていたと推測される。

表3 島名熊の山遺跡出土の人骨観察表

遺構名	遺物番号	部 位	L R	残存部位	年 齡	備 考
SK5856	4	下顎骨		破片		一部下顎骨に接合
	5	下顎骨	L	歯は脱落	老年	5と6は接合
	6	下顎骨	R	歯は脱落	老年	
		頭蓋骨		破片	老年	
	7	上腕骨	R	骨幹部	老年	骨体細く、まっすぐ



2a



2b



2c

3cm

写真3 第5856号土坑出土の人骨（1右側上腕骨、2下顎骨）

3 土坑・溝跡出土のウマについて

島名熊の山遺跡のいくつかの遺構からウマの骨が出土した。それらの内容は表に示した通りである。第408号溝跡出土のウマは右側下顎歯のみであり、かなり摩耗が進んでいることから10歳以上であろう。第5618号土坑出土のウマは頭部のみである。犬歯をもつことから雄獸であり、歯根部の長さ（表では高さと記載）から推測すると7歳～8歳程度である。歯の大きさは特に大きくもなく、体高125cm程度の普通の大きさのウマであろう。第5656号土坑出土のウマは左側の中手骨と手根骨、中足骨の破片のみである。成獣であり、体高100cm余りの小型のウマであろう。

表4 島名熊の山遺跡出土のウマの骨観察表

遺構名	遺物番号	部位	L R	残存部位	年齢	備考
SD 408	12	下顎歯	R	P 3 4 M 1 2 3	壯～老	
	1	上顎歯	R	M 1	成獣	
	2	上顎歯	R	M 1 破片	N o. 1 に接合	
	3	下顎歯	R	M 3	N o. 11 に接合	
	4	上顎歯	R	M 3 破片	N o. 6 に接合	
	5	上顎歯	R	M 2		
	6	上顎歯	R	M 3		
	7	上顎歯	R	P 4		
	8	上顎歯	R	P 3		
	9	上顎歯	R	P 2		
SK 5618	10	不明		破片	胸腹部岩様部*	
	11	頸蓋骨 (上顎骨)	L R	I 1 2 3 C P 2 3 4 M 1 2 3 I 1 2 3 C		
	12	下顎骨	R	I 1 2 3 C P 2 3 4 M 1 2		
	7	中足骨		骨幹部	成獣	
SK 5656	8	橈側手根骨 手根骨?	L	一部破損 破片	成獣 成獣	
	9	中手骨	L	達位端破損	成獣	第2中手骨着着、第4中手骨一部あり

* I : 切歯 C : 大歯 P : 前臼歯 M : 後臼歯

表5 ウマの歯の計測値

遺構名	歯種	遺物番号	長さ	中央部	前幅	後幅	高さ
S D 408	右下顎歯 P 3	12	-			13.8	21.6
	右下顎歯 P 4	12	24.1		15.2	14.6	29.1
	右下顎歯 M 1	12	22.3		14.0	13.1	28.0 ±
	右下顎歯 M 2	12	23.2		12.6	12.1	38.0 ±
S K 5618	右上顎歯 P 2	9	35.9	22.3			36.9
	右上顎歯 P 3	8	36.4	25.5			40.3
	右上顎歯 P 4	7	26.3	25.4			45.8
	右上顎歯 M 1	1	23.0	24.8			41.1
	右上顎歯 M 2	5	23.7	24.0			47.9
	右上顎歯 M 3	6		21.0			50.5
	右下顎歯 P 2	12	32.4		14.1		-
	右下顎歯 P 3	12	26.4		15.7	15.0	-
	右下顎歯 P 4	12	26.2		15.6	14.7	-
	右下顎歯 M 1	12	24.0		12.5		-
	右下顎歯 M 2	12	24.1		12.6	13.0	51.4
	右下顎歯 M 3	3	29.5		13.0		60.1

※ I : 切歯 C : 大歯 P : 前臼歯 M : 後臼歯

※ 高さとは歯の咬合面から歯根基部までの長さ



写真4 第5618号土坑出土のウマ頭部（上が頭蓋骨、下が下顎骨、右側が前方）

写 真 図 版



第2572号住居跡出土土製品



12区全景（北西から）



12区 完掘状況（南西から）

PL2



第57~59号杭列跡
完 壓 状 況



第6494号土坑
遺 物 出 土 狀 況
(杭)



第6524号土坑
遺 物 出 土 狀 況



15区中央部・東部 完掘状況



15区南部 完掘状況

PL4



15区北部 完掘状况



15区中央部 完掘状况



第2368号住居跡
遺物出土状況



第2368号住居跡
竪穴掘状況



第2368号住居跡
完掘状況

PL6



第2470号住居跡
竪完掘状況



第2470号住居跡
完掘状況
(平成16年度調査)



第2470号住居跡
完掘状況
(平成18年度調査)

第2474号住居跡
遺物出土状況



第2474号住居跡
完掘状況



第2488号住居跡
遺物出土状況



PL8



第2488号 住居跡
竪 完 壕 状 況



第2488号 住居跡
完 壕 状 況



第2493号 住居跡
完 壕 状 況

第2551号住居跡
竪穴掘状況



第2551号住居跡
完掘状況



第2552号住居跡
遺物出土状況



PL10



第2552号 住居跡
竪 完 挖 状 況



第2552号 住居跡
完 挖 状 況



第2555号 住居跡
竪 完 挖 状 況

第2555号住居跡
完掘状況



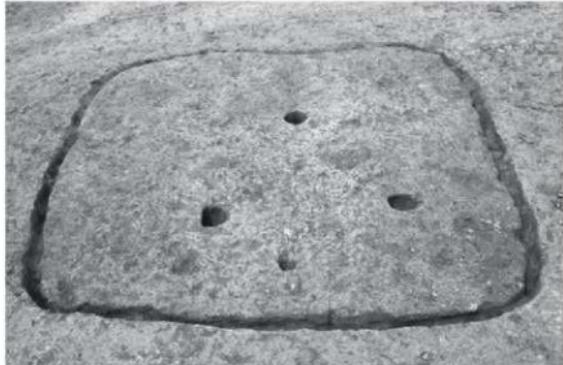
第2862号住居跡
遺物出土状況



第2862号住居跡
遺物出土状況



PL12



第2862号 住居跡
完 売 状 況



第2863号 住居跡
遺 物 出 土 状 況



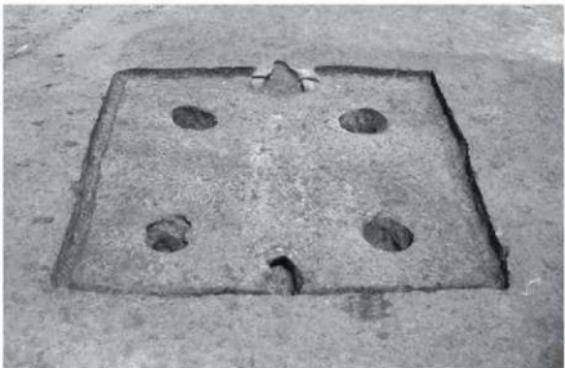
第2863号 住居跡
完 売 状 況



第2864号住居跡
完掘状況



第2867号住居跡
遺物出土状況



第2867号住居跡
完掘状況

PL14



第2873号 住居跡
遺物出土状況



第2873号 住居跡
遺物出土状況



第2873号 住居跡
完掘状況



第2973号住居跡
完掘状況



第2975号住居跡
遺物出土状況



第2975号住居跡
遺物出土状況

PL16



第2975号住居跡
完掘状況



第2976A号住居跡
完掘状況



第2977号住居跡
完掘状況



第2978号住居跡
遺物出土状況



第2978号住居跡
竪完掘状況



第2978号住居跡
完掘状況

PL18



第2979号住居跡
貯藏穴遺物出土状況



第2979号住居跡
完掘状況



第2980号住居跡
窯遺物出土状況

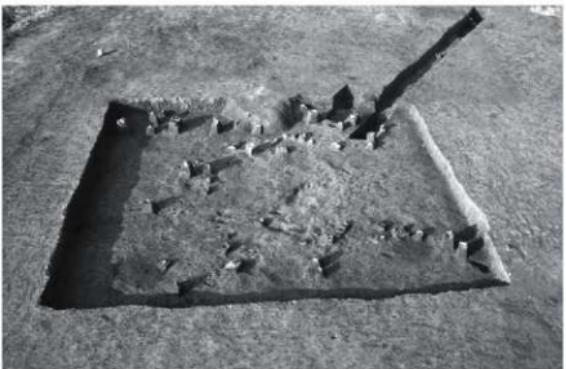
第2980号住居跡
完掘状況



第2981号住居跡
完掘状況



第2982号住居跡
遺物出土状況



PL20



第2982号 住居跡
遺物出土状況



第2982号 住居跡
完掘状況



第2983号 住居跡
遺物出土状況



第2983号住居跡
完 堀 状 況



第2984号住居跡
完 堀 状 況



第2986号住居跡
遺 物 出 土 状 況

PL22



第2986号 住居跡
竈遺物出土状況



第2986号 住居跡
完掘状況



第2989号 住居跡
竈完掘状況



第2989号住居跡
完掘状況



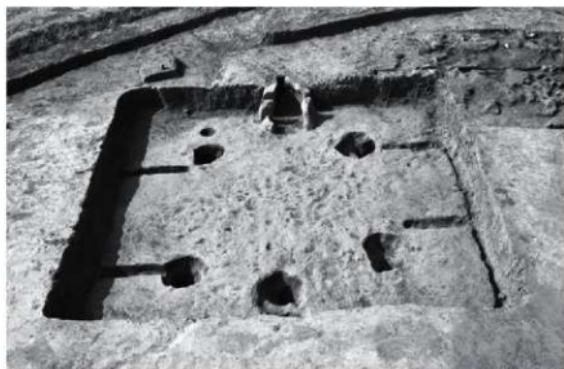
第2997号住居跡
遺物出土状況



第2997号住居跡
完掘状況



第3002号 住居跡
竪 完 挖 状 況



第3002号 住居跡
完 挖 状 況



第3003号 住居跡
遺 物 出 土 状 況



第3004号住居跡
掘方完掘状況



第3006号住居跡
遺物出土状況



第3006号住居跡
完掘状況



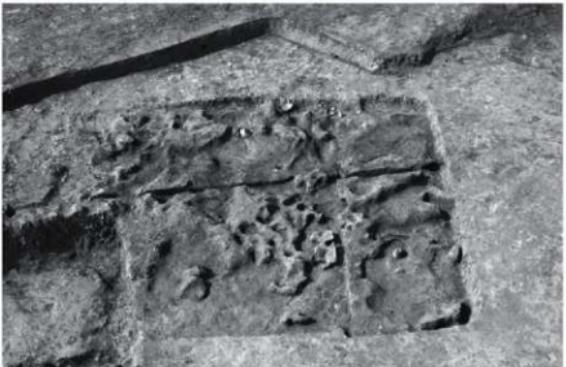
第3007号住居跡
遺物出土状況



第3007号住居跡
完掘状況



第3008号住居跡
完掘状況



第3009号住居跡
遺物出土状況



第3009号住居跡
遺物出土状況



第3009号住居跡
完掘状況

PL28



第3010号 住居跡
竪 完 挖 状 況



第3010号 住居跡
完 挖 状 況



第3011号 住居跡
遺 物 出 土 状 況



第3011号 住居跡
完 売 状 況



第3011号 住居跡
完 売 状 況



第3012号 住居跡
完 売 状 況

PL30



第3013号住居跡
遺物出土状況

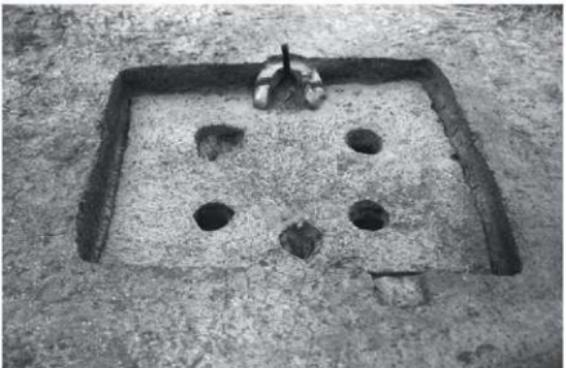


第3013号住居跡
遺物出土状況



第3013号住居跡
遺物出土状況

第3013号住居跡
完 堀 状 況



第3014号住居跡
遺 物 出 土 状 況



第3014号住居跡
完 堀 状 況



PL32



第 1 号 竖 穴 遗 槽
完 挖 状 況



第 2 号 竖 穴 遗 槽
掘 方 完 挖 状 況



第 4 号 竖 穴 遗 槽
完 挖 状 況

第2868号住居跡
遺物出土状況



第2868号住居跡
完掘状況



第2869号住居跡
完掘状況



PL34



第2869号 住居跡
掘方 完掘状況



第2974号 住居跡
遺物出土状況



第2974号 住居跡
完掘状況



第3016号住居跡
完掘状況



第3019号住居跡
遺物出土状況



第3019号住居跡
完掘状況

PL36



第2554号住居跡
窯遺物出土状況



第2554号住居跡
完掘状況



第2990号住居跡
遺物出土状況



第 2990 号 住居跡
完 堀 状 況



第 3074 号 土 坑
完 堀 状 況



第 3074 号 土 坑
完 堀 状 況

PL38



第527号据立柱建物跡
完 挖 状 況



第74号 地 下 式 坑
完 挖 状 況



第75号 地 下 式 坑
完 挖 状 況



第77号地下式坑
完掘状況



第78号地下式坑
完掘状況



第148号井戸跡
完掘状況



第150号井戸跡
完掘状況



第170号井戸跡
完掘状況



第171号井戸跡
完掘状況

第 267 号 满 跡
完 剥 状 況



第 402 号 满 距
遗 物 出 土 状 況



第 404 号 满 距
遗 物 出 土 状 況



PL42



第5618号土坑
馬骨出土状况



第3270号土坑(墓坑)
人骨出土状况



第3277号土坑(墓坑)
人骨出土状况

第3658号土坑(墓坑)
第 3278 号 土 坑
完 挖 状 況



第 3 号 杭 列 群
完 挖 状 況





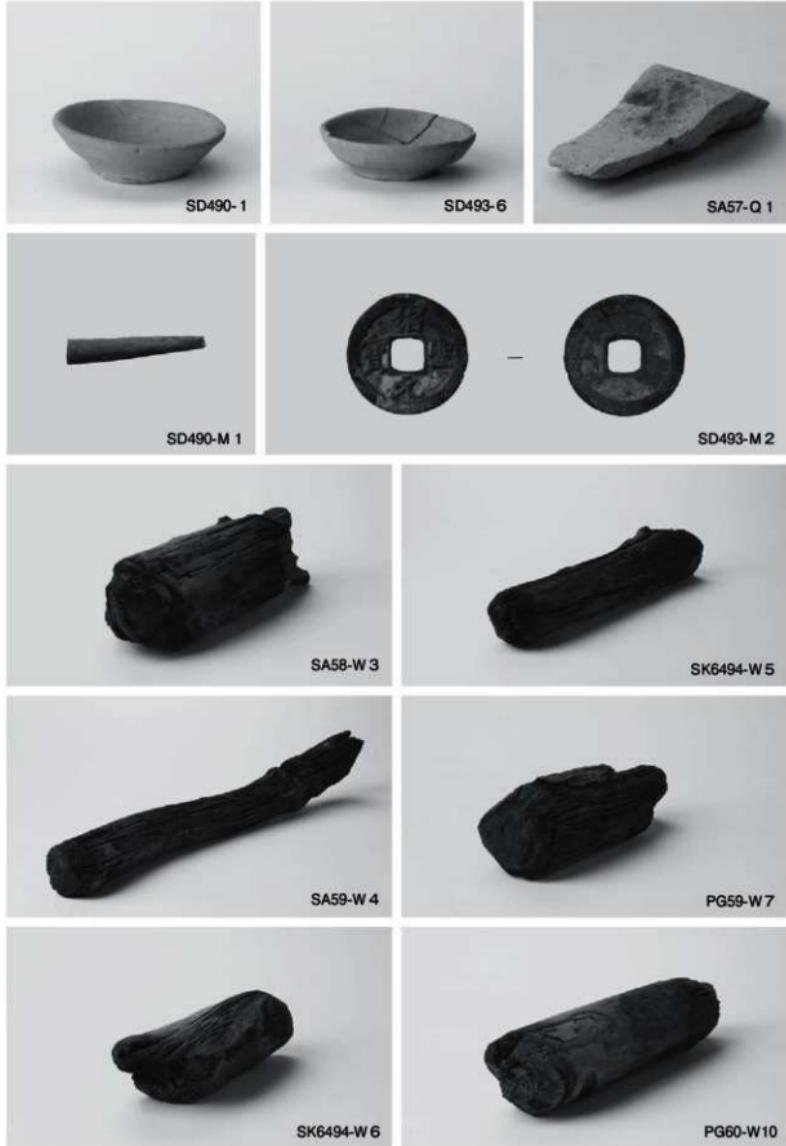
第519号据立柱建物跡
完 挖 状 況



第377・386号溝跡
完 挖 状 況



第378・379号溝跡
完 挖 状 況



12区出土土器、石器（砥石）、金属製品（煙管）、銭貨、木製品（杭）

PL46



12



W11



W12



TP2



W13



W15



W14

12区遺構外出土土器、木製品（杭、漆器片）



18



20



25



26



27

第2368号住居跡出土土器

PL48



SI 2368-24



SI 2488-47



SI 2488-52



SI 2488-48



SI 2470-37



SI 2474-39



SI 2488-46



SI 2492-61



第2368·2470·2474·2488·2492号住居跡出土土器



SI 2493-63



SI 2493-66



SI 2493-67



SI 2492-58



SI 2492-59



SI 2492-60

第2492·2493号住居跡出土土器

PL50



SI 2551-71



SI 2551-77



SI 2551-72



SI 2551-74



SI 2551-73



SI 2551-75



SI 2493-70



第2493·2551号住居跡出土土器



第2551・2559・2572・2863・2867・2873号住居跡出土土器

PL2



SI 2873-114



SI 2863-97



SI 2873-115



SI 2977-138



SI 2981-154



SI 2975-123



SI 2867-104

第2863・2867・2873・2975・2977・2981号住居跡出土土器



121



126



124



125



122



128



134







SI 2978-143



SI 2978-144



SI 2985-180



SI 2975-135

第2975·2978·2985号住居跡出土土器



SI 2982-163



SI 2987-191



SI 2983-166



SI 2986-181



SI 2982-162



SI 2986-182



SI 2985-175



SI 2983-167



SI 2982-159





第2985·2986·2987·2994号住居跡出土土器



SI 2987-194



SI 3006-219



SI 2987-192



SI 3006-220



SI 3011-245



SI 2988-197



SI 3011-246



SI 3002-211



SI 3007-224



第3011·3013号住居跡出土土器

PL60



第3011·3013号住居跡出土土器



第3002·3009·3010·3013·3014号住居跡出土土器



第3012·3013号住居跡、第3号竖穴造構出土土器



SI 2974-331



SI 2999-344



SI 3018-353



SI 2557-323



SI 2974-333



SI 2557-322



SI 2974-334

第2557・2974・2999・3018号住居跡出土土器



SK3798-421



SI 3005-382



SI 2995-380



SK3798-417



SI 3030-385



SK3798-416



SI 3030-386



SI 2558-376



SI 2554-367



SI 2558-376

第2554·2558·2995·3005·3030号住居跡，第3798号土坑出土土器



第2558号住居跡、第148号井戸跡出土土器、墨書き土器

PL66



SI 2554-361



SI 2554-362



SE148-388



SE148-407



第2554号住居跡、第148号井戸跡出土墨書き土器



SK5670-460



SD405-550



SD403-510



SD278-478



SD278-477



SD405-548



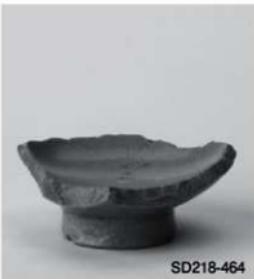
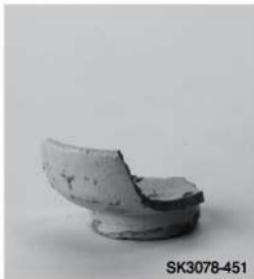
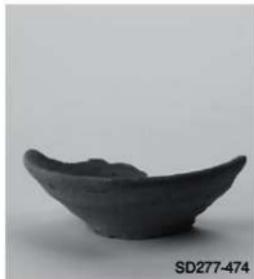
SD403-512



SD399-487

第5670号土坑、第278·399·403·405号满跡出土土器

PL68



第3078·5687号土坑，第218·277·402·403·405·408号溝跡出土土器



第267·388·402·403号溝跡出土土器

PL70



SD403-506



SD403-507



SD403-508



SD403-509



SD404-517



SD404-513



SD404-515



SD404-516



SD404-518



SD404-519



SD405-524



SD405-525



SD405-526



SD405-527



SD405-528

第403～405号溝跡出土土器



第405·407·408号溝跡出土土器



SD405-544



SD405-545



SD405-546



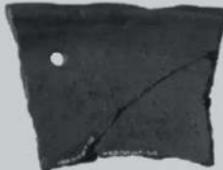
SD402-491



SD388-TP 4



SD405-TP 5



SD405-542



SI 2873-TP 3



SD405-TP 6



SD408-TP 7



SD408-TP 8



SI 2572-DP 5



SI 2572-DP 6



SI 2572-DP 7



SI 2572-DP 8



SI 2572-DP 9



SI 2572-DP10



SI 2572-DP11



SI 2572-DP12



SI 2572-DP13



SI 2572-DP14



SI 3011-DP54



SI 3012-DP55



SI 2572-DP15

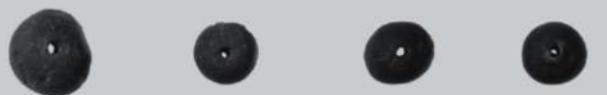


SI 2572-DP16



SI 2572-DP17

出土土製品（勾玉）



SI 2572-DP18

SI 2572-DP19

SI 2572-DP20

SI 2572-DP21



SI 2572-DP22

SI 2572-DP23

SI 2572-DP24

SI 2572-DP25



SI 2572-DP26

SI 2572-DP27

SI 2572-DP28

SI 2572-DP29



SI 2572-DP30

SI 2572-DP31

SI 2572-DP32

SI 2981-DP42



SI 2986-DP45

SI 2997-DP48

SI 2997-DP49

SI 2997-DP50

SD262-DP62



出土土製品（紡錘車、管状土錘、鑄先形土製品、鏡形模造品、支脚）



SD405-Q47



SD408-Q51



SD407-Q50



第3号豊穴遺構-Q14



SK5686-Q29



SD267-Q33



SD405-Q46



SD388-Q36



SK3626



SD405-Q44



SD267-Q34



SD405-Q45



SD405-Q48



SD267-Q35



SD219-Q31



SI 2981-Q 8



SI 2974-Q 18



SK3994-Q26

出土石器（砾石）



SI 2975-Q 6



SD404-Q39



SD405-Q42



SD405-Q41



SD388-Q37

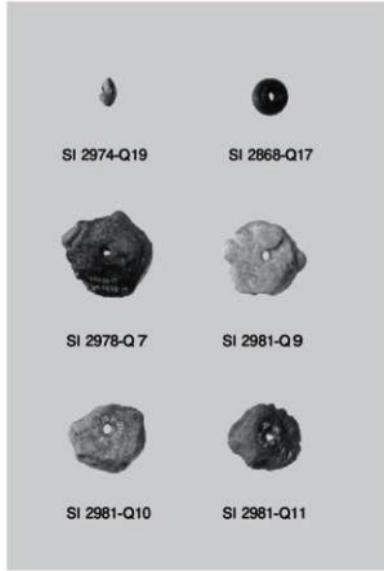


SD405-Q40

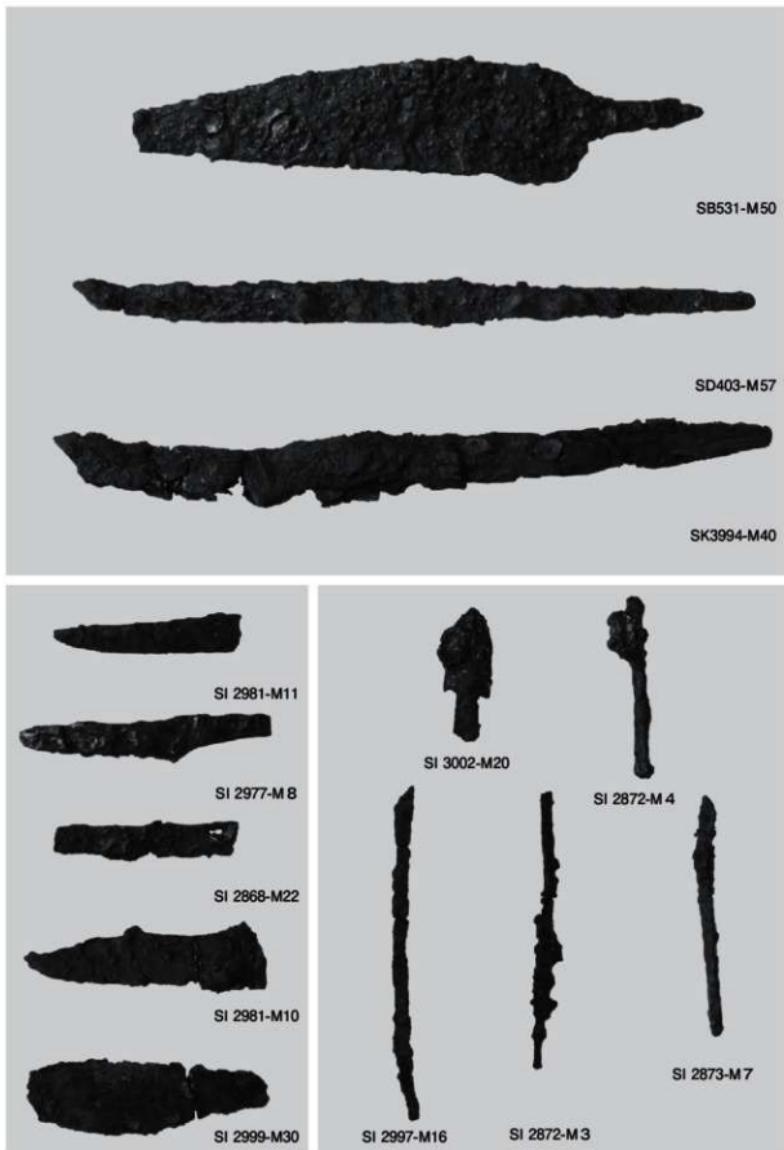


SD405-Q49

出土石器（磨石，臼），石製品（硯，寶蓋印塔）



出土石製品（小玉、臼玉、石板、砥石、紡錘車、紡錘車未製品）



出土金属製品（刀子、鐵）

PL80



SD399-M55



SI 2489-M21



SI 2868-M23



SI 2981-M13



SK3994-M39



SI 2868-M24



SI 2981-M14



SK3074-M49

出土金属製品（鎌、包丁、短剣、小札）



M41



M42



M43



M44



M45



M46

SK3074-M48



SK3074-M48



SI 2998-M37

SK3994(墓坑)



SD399-M56



SD407-M58



SI 2872-M 5



SI 2556-M59

出土金属製品（釘、門、鉸具、鎧金具）



SI 3028-M35



SI 2987-G1



SI 2868-M29



SI 2997-M19



SK3277-M51



SK5902



SK3277-M52



SK3277-M53



遺構外-574



遺構外-575

出土金属製品（鉗具、座金具カ、耳環）、銭貨、ガラス製品（臼玉）、15区遺構外出土土器



出土木製品（蓋カ、板材、杓子）

PL84



598



597



596



571



572



570



591



594

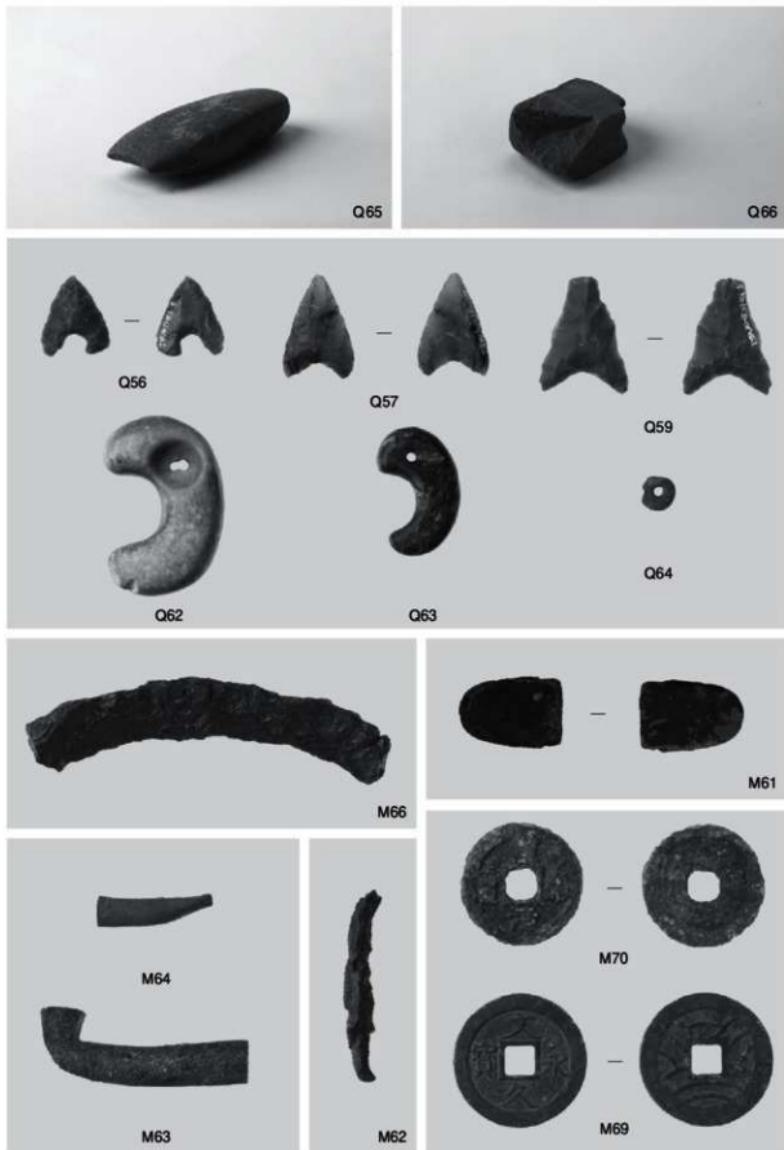


TP14



DP64

15区遺構外出土土器、土製品（土玉）



15区遺構外出土石器（砥石），石製品（勾玉，臼玉，石鑿，磨製石斧），金屬製品（煙管，鉈尾，鎌，不明鐵製品），錢貨

PL86



遺構外-601



SD388-484



SK6524-10



SD402-489



SI 2557-321



SD405-553



SD405-554

第2557号住居跡、第388・402・405号溝跡、第6524号土坑、15区遺構外出土陶器

抄 録

ふりがな	しまなくまのやまいせき							
書名	島名熊の山遺跡							
副書名	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ							
シリーズ名	茨城県教育財团文化財調査報告第360集							
著者名	仲村浩一郎・坂本勝彦・江原美奈子							
編集機関	財団法人茨城県教育財团							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2012(平成24)年3月16日							
ふりがな所取遺跡	ふりがな所在地 コード 北緯 東経 標高 調査期間 調査面積 調査原因							
島名熊の山遺跡 (12区)	茨城県つくば市島名字 香取前 1899 の1番地ほか 214 (36度 3分 46秒) 34秒 (40秒) 3分 (3分) 46秒 (28秒)	08220 1 214	36度 3分 46秒 34秒 (40秒) 3分 (3分) 46秒 (28秒)	140度 3分 31秒 140度 3分 19秒	13 ~ 14m	20080901 ~ 20081130	851 m ²	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴う事前調査
島名熊の山遺跡 (15区)	茨城県つくば市島名字 中代 1190番地ほか	08220 1 214	36度 3分 46秒 (36度 3分 58秒)	140度 3分 31秒 (140度 3分 19秒)	20 ~ 22m	20040601 ~ 20050331 20060401 ~ 20060630 20070101 ~ 20070331 20070401 ~ 20070930 20080401 ~ 20080731	18,760 m ² 7,517 m ² 1,952 m ² 2,350 m ² 323 m ²	
所取遺跡名	種別 主な時代 主な遺構 主な遺物 特記事項							
島名熊の山遺跡 (12区)	集落跡 中世 溝跡 9条 不 明 土塁 桃列跡 ピット群 19基 3列 3分野	土師質土器(小皿・内耳溝・縦鉢)、陶器(碗・皿・甕)、木製品(杭)、鉄質(鍔・環)、石製品(砥石)、陶器(香炉)、木製品(漆器・杭)	杭列跡等の柱材の基部が残存していた。					
島名熊の山遺跡 (15区)	集落跡 古墳 整穴住居跡 堅穴造構 土塁 60軒 5基 3基 堅穴住居跡 11軒 奈良 11軒 土師器、須恵器、石器、石製品(勾玉、土玉、筒形鏡等)、石器(砥石、勾玉・白玉)、金屬製品(刀子・鐵・鍔・釘・小札・鐵滓・耳環)、ガラス製品(白玉) 土師器、須恵器、石器、石製品(砥石・小玉・筒形鏡等)、金屬製品(刀子・鐵・鍔・釘・小札・座金具・鏡具) 半 安 整穴住居跡 10軒 井戸跡 1基 墓壙 2基 土塁 5基 溝跡 1条 土師器、須恵器、灰釉陶器(碗・瓶)、土製品(筒形鏡)、石器・石製品(砥石、筒形鏡)、金屬製品(短劍・刀子・鐵・鍔・釘・環状金具・門)	古墳時代の住居跡群からは提瓶や鏡頭蓋などの須恵器が相当数出土した。						
	整穴造構 掘立柱建物跡 1基 井戸跡 13基 地下式坑 31基 人葬土坑 5基 墓壙 2基 土塁 7基 直路跡 31基 溝跡 2条 杭列跡 24条 22列 不 明 整穴住居跡 2軒 掘立柱建物跡 8種 土塁 625基 溝跡 34条 ピット群 14分野	土師質土器(小皿・内耳溝・縦鉢・火鉢)、陶器(小杯・天目茶碗・碗・皿・香炉)、磁器(小杯)、石器・石製品(砥石・五輪塔・石臼・茶臼・宝鏡印塔・石板・鏡)、木製品(杓子・杭)、鐵製品(刀子)、銭貨 土師質土器(小皿・内耳溝・縦鉢)、陶器(碗・皿)、磁器(碗)、鐵製品(鎧金具)						
要約	過去の調査結果を含めると、古墳時代から平安時代にかけての整穴住居跡約2385軒、掘立柱建物跡約378棟が確認されている県内最大級の集落跡である。今年度報告の調査区は、台地の北西部と南部縁辺部で、古墳時代から平安時代の集落跡のはか、中世から近世にかけての掘立柱建物跡や区画溝が確認されている。							

印 刷 仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7
Home Premium ServicePack3
編集 Adobe InDesign CS4
図版作成 Adobe Illustrator CS4
写真調整 Adobe Photoshop CS4
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000
画面類 EPSON ES-1000G
使用Font OpenType リュウミンPro・L
写 真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
印 刷 印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財團文化財調査報告第360集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

下巻

平成24(2012)年 3月14日 印刷

平成24(2012)年 3月16日 発行

発行 財團法人茨城県教育財團

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社 あけぼの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号
TEL 029-227-5505